

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
英語 I G C 1	児玉 一嶺	1	前期	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

(2) 授業概要と目的

外国語としての英語を理解するために必要な知識の習得と訓練を行う。

- ① 外国語としての英語の文法・語彙知識、英語構文と表現の特徴
- ② Reading：パラグラフの論理構成を理解し、英文のスキミング、スキニング、精読を行う
- ③ Writing：論理構成を学び、英文のパラグラフ（1年次）、パッセージ（2年次）を書く
- ④ Speaking：公式の場において意見、情報を交換。プレゼンテーションの訓練
- ⑤ Listening：Key Sentence、Target Sentence が理解出来る

本授業では①を重点的に学ぶ。

(3) 到達目標

- ① 基礎英語の理解と使用：高等学校修了程度の文法を理解し、辞書を用いて使用できること。
- ② 自主的なボキャブラリービルディングを開始するための足掛かりを作ること。
- ③ センテンスレベルの簡単な英文が書けるようになること。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	Unit1: Be 動詞、普通動詞	be 動詞と普通動詞の違い
2	Unit2: 進行形、未来形、命令形	進行形や未来形、命令形の形を使った表現
3	Unit3: 完了形と受動態、冠詞	完了形と受動態の使い方と、冠詞の基礎的ルール
4	Unit4: 助動詞と接続詞	助動詞の役割と接続詞の使い方
5	Unit5: 疑問詞	疑問詞を使った質問による表現の広がり
6	Unit6: 分詞、5 文型、知覚動詞他	分詞を使った表現方法と、知覚動詞や使役動詞の使い方
7	Unit7: 代名詞、前置詞	代名詞の使い方と前置詞のイメージ的理解
8	Unit8: 関係詞、as と that	代名詞の理解と、as と that の意味
9	Unit9: 不定詞、動名詞	不定詞の基本と動名詞の理解
10	Unit10: 形容詞、副詞、数と量他	形容詞や副詞などの規則
11	Unit11: 仮定法、不定代名詞他	仮定法の時制的理解と不定代名詞の使い分け
12	Unit12: both、neither、either	both、neither、either の使い分け
13	Unit13: まぎらわしい単語・略語他	まぎらわしい単語や略語の確認
14	Unit14: 和製英語他	和製英語と二つ以上の意味のある単語の確認
15	Unit15: 動詞と間違えやすい語句他	動詞と間違えやすい語句の見分け方

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

演習形式でテキストに沿って進めていく。テキストに従って、高校までに学習する英文法を、掲載されている問題を一緒に解きながら確認していく。テキストには文法や基礎英語の間違いやすい点についての説明が載っているので、それらを予習してから授業に出席することが望ましい。授業の進み具合にもよるが、定期試験の他に、最低数回の小テストを実施する予定である。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験（中間・期末）50% ②授業内で行う小テスト 50%

(7) 使用書

区分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書	実践! 使って身につく基礎英文法	高橋 美津子	朝日出版社	1,760 円
参考書				

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし。

(9) オフィスアワー・その他

質問等は授業の前後で対応する。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
英語 I L R C 1	児玉 一嶺	1	後期	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

(2) 授業概要と目的

外国語としての英語を理解するために必要な知識の習得と訓練を行う。

- ① 外国語としての英語の文法・語彙知識、英語構文と表現の特徴
- ② Reading：パラグラフの論理構成を理解し、英文のスキミング、スキニング、精読を行う
- ③ Writing：論理構成を学び、英文のパラグラフ（1年次）、パッセージ（2年次）を書く
- ④ Speaking：公式の場において意見、情報を交換。プレゼンテーションの訓練
- ⑤ Listening：Key Sentence、Target Sentence が理解出来る

本授業では②、③を重点的に学ぶ。

(3) 到達目標

- ① 基礎英語の理解と使用：高等学校修了程度の文法を理解し、辞書を用いて使用できること。
- ② 自主的なボキャブラリービルディングを開始するための足掛かりを作ること。
- ③ センテンスレベルの簡単な英文が書けるようになること。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	Introduction	この教科書の使い方・名詞
2	My Favorite Place 1	好きな場所を大まかに説明する・動詞の現在形
3	My Favorite Place 2	好きな場所を詳しく説明する・接続詞
4	My Routine	日頃の習慣を説明する・順序を表す表現
5	Making Good Coffee	物を作る手順を説明する・まとめ①
6	My Last Weekend	過去の出来事を説明する・動詞の過去形
7	My Life in High School and College	出来事を時系列に説明する・時間の接続表現
8	My Ideal Room	ものや人の位置を説明する・前置詞句
9	My Field Trip	ものや人をくり返し説明する・代名詞
10	My Favorite Movie	好きなものを説明する・まとめ②
11	Mysterious Encounter	過去を詳しく説明する・いろいろな過去形
12	My Dream	未来のことを説明する・未来を表す表現
13	My Healthy Habit	具体例を説明する・具体例を示す表現
14	What Should We Do for the Environment?	意見を主張する・助動詞
15	My New Hobby	気持や考えの変化を表現する・まとめ③

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

演習形式でテキストに沿って進めていく。まず、リスニングによって英文の型をインプットした後に、ブレインストーミングによってアイデアを整理し、ペアワークを通じてエッセイの内容を準備する。最後はリスニングで聴いた英文を参考にしながらエッセイを完成させ、発表してもらう。原則として完成したエッセイは全て提出してもらい、評価の対象とする。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験（中間・期末）50% ②授業内で行う小テスト 50%

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	Easy Writing Output!	鬼頭和也 / 小倉雅明	金星堂	2,090 円
参 考 書				

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし。

(9) オフィスアワー・その他

質問等は授業の前後で対応する。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
英語 I G C 2	児玉 一嶺	1	前期	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

(2) 授業概要と目的

外国語としての英語を理解するために必要な知識の習得と訓練を行う。

- ① 外国語としての英語の文法・語彙知識、英語構文と表現の特徴
- ② Reading：パラグラフの論理構成を理解し、英文のスキミング、スキニング、精読を行う
- ③ Writing：論理構成を学び、英文のパラグラフ（1年次）、パッセージ（2年次）を書く
- ④ Speaking：公式の場において意見、情報を交換。プレゼンテーションの訓練
- ⑤ Listening：Key Sentence、Target Sentence が理解出来る

本授業では①を重点的に学ぶ。

(3) 到達目標

- ① 基礎英語の理解と使用：高等学校修了程度の文法を理解し、辞書を用いて使用できること。
- ② 自主的なボキャブラリービルディングを開始するための足掛かりを作ること。
- ③ センテンスレベルの簡単な英文が書けるようになること。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	Unit1: Be 動詞、普通動詞	be 動詞と普通動詞の違い
2	Unit2: 進行形、未来形、命令形	進行形や未来形、命令形の形を使った表現
3	Unit3: 完了形と受動態、冠詞	完了形と受動態の使い方と、冠詞の基礎的ルール
4	Unit4: 助動詞と接続詞	助動詞の役割と接続詞の使い方
5	Unit5: 疑問詞	疑問詞を使った質問による表現の広がり
6	Unit6: 分詞、5 文型、知覚動詞他	分詞を使った表現方法と、知覚動詞や使役動詞の使い方
7	Unit7: 代名詞、前置詞	代名詞の使い方と前置詞のイメージ的理解
8	Unit8: 関係詞、as と that	代名詞の理解と、as と that の意味
9	Unit9: 不定詞、動名詞	不定詞の基本と動名詞の理解
10	Unit10: 形容詞、副詞、数と量他	形容詞や副詞などの規則
11	Unit11: 仮定法、不定代名詞他	仮定法の時制的理解と不定代名詞の使い分け
12	Unit12: both、neither、either	both、neither、either の使い分け
13	Unit13: まぎらわしい単語・略語他	まぎらわしい単語や略語の確認
14	Unit14: 和製英語他	和製英語と二つ以上の意味のある単語の確認
15	Unit15: 動詞と間違えやすい語句他	動詞と間違えやすい語句の見分け方

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

演習形式でテキストに沿って進めていく。テキストに従って、高校までに学習する英文法を、掲載されている問題を一緒に解きながら確認していく。テキストには文法や基礎英語の間違いやすい点についての説明が載っているので、それらを予習してから授業に出席することが望ましい。授業の進み具合にもよるが、定期試験の他に、最低数回の小テストを実施する予定である。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験（中間・期末）50% ②授業内で行う小テスト 50%

(7) 使用書

区分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書	実践! 使って身につく基礎英文法	高橋 美津子	朝日出版社	1,760 円
参考書				

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし。

(9) オフィスアワー・その他

質問等は授業の前後で対応する。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
英語 I L R C 2	児玉 一嶺	1	後期	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

(2) 授業概要と目的

外国語としての英語を理解するために必要な知識の習得と訓練を行う。

- ① 外国語としての英語の文法・語彙知識、英語構文と表現の特徴
- ② Reading：パラグラフの論理構成を理解し、英文のスキミング、スキニング、精読を行う
- ③ Writing：論理構成を学び、英文のパラグラフ（1年次）、パッセージ（2年次）を書く
- ④ Speaking：公式の場において意見、情報を交換。プレゼンテーションの訓練
- ⑤ Listening：Key Sentence、Target Sentence が理解出来る

本授業では②、③を重点的に学ぶ。

(3) 到達目標

- ① 基礎英語の理解と使用：高等学校修了程度の文法を理解し、辞書を用いて使用できること。
- ② 自主的なボキャブラリービルディングを開始するための足掛かりを作ること。
- ③ センテンスレベルの簡単な英文が書けるようになること。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	Introduction	この教科書の使い方・名詞
2	My Favorite Place 1	好きな場所を大まかに説明する・動詞の現在形
3	My Favorite Place 2	好きな場所を詳しく説明する・接続詞
4	My Routine	日頃の習慣を説明する・順序を表す表現
5	Making Good Coffee	物を作る手順を説明する・まとめ①
6	My Last Weekend	過去の出来事を説明する・動詞の過去形
7	My Life in High School and College	出来事を時系列に説明する・時間の接続表現
8	My Ideal Room	ものや人の位置を説明する・前置詞句
9	My Field Trip	ものや人をくり返し説明する・代名詞
10	My Favorite Movie	好きなものを説明する・まとめ②
11	Mysterious Encounter	過去を詳しく説明する・いろいろな過去形
12	My Dream	未来のことを説明する・未来を表す表現
13	My Healthy Habit	具体例を説明する・具体例を示す表現
14	What Should We Do for the Environment?	意見を主張する・助動詞
15	My New Hobby	気持や考えの変化を表現する・まとめ③

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

演習形式でテキストに沿って進めていく。まず、リスニングによって英文の型をインプットした後に、ブレインストーミングによってアイデアを整理し、ペアワークを通じてエッセイの内容を準備する。最後はリスニングで聴いた英文を参考にしながらエッセイを完成させ、発表してもらう。原則として完成したエッセイは全て提出してもらい、評価の対象とする。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験（中間・期末）50% ②授業内で行う小テスト 50%

(7) 使用書

区分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書	Easy Writing Output!	鬼頭和也 / 小倉雅明	金星堂	2,090 円
参考書				

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし。

(9) オフィスアワー・その他

質問等は授業の前後で対応する。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
英語 I G C 3	日裏 亜紀	1	前期	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

(2) 授業概要と目的

外国語としての英語を理解するために必要な知識の習得と訓練を行う。

- ① 外国語としての英語の文法・語彙知識、英語構文と表現の特徴
- ② Reading：パラグラフの論理構成を理解し、英文のスキミング、スキャニング、精読を行う
- ③ Writing：論理構成を学び、英文のパラグラフ（1年次）、パッセージ（2年次）を書く
- ④ Speaking：公式の場において意見、情報を交換。プレゼンテーションの訓練
- ⑤ Listening：Key Sentence、Target Sentence が理解出来る

本授業では①を重点に学ぶ。

(3) 到達目標

- (1) 基礎的な英語を理解する：高等学校終了程度の文法を理解する。
- (2) 辞書の適切な使用方法を理解する：自発的に辞書を使用し、必要な情報を見つけ出す。
- (3) 正確な英文を書けるようになる：与えられた日本語だけでなく、自分が表現したい内容を英文で書けるようになる。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	基本文型①	第1文型、第2文型、第3文型
2	基本文型②	第4文型、第5文型、自動詞、他動詞、
3	時を表す表現	現在形、過去形、進行形、未来を表す表現、完了形
4	さまざまな助動詞	must, may, will, can, should, shall
5	態	能動態と受動態
6	不定詞	3用法、部分否定の表し方、知覚動詞と使役動詞
7	動名詞	名詞としての働き、慣用表現
8	分詞	形容詞としての働き、分詞構文
9	比較①	原級、比較級、最上級
10	比較②	as ～ as / 比較級を使ったさまざまな表現
11	関係詞①	主格、目的格、所有格
12	関係詞②	前置詞＋関係代名詞、関係代名詞の that、what の用法
13	関係詞③	関係副詞、非制限用法
14	仮定法①	仮定法過去
15	仮定法②	仮定法過去完了

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には演習形式で授業を進める。教科書の内容は高校卒業程度の英文法なので、予習を前提に授業を進めていく。そのため、テキストに書かれている例文などには事前に目を通す予習が必須である。知らない単語があれば調べておく。授業ではまず文法解説を教員が行う。そのあと受講生は演習問題を解き、答え合わせをして理解を深めていく。試験前にはそれまでの理解確認のため小テストを数回実施する。

(6) 成績評価の方法と基準

①定期試験 80% ②小テスト・授業での貢献 20% の合計点数により評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	総合英語 FACTBOOK English Grammar Standard [New Edition]	桐原書店編集部 編	桐原書店	715 円
教科書	総合英語 FACTBOOK English Grammar Standard Workbook [New Edition]	桐原書店編集部 編	桐原書店	605 円
参考書	総合英語 FACTBOOK これからの英文法 New Edition	大西泰斗 / ポール・マクベイ	桐原書店	1,870 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

アジア文化講義 A、また英語 I G C 3 と英語 I L / R C 3 は連続して履修する。

(9) オフィスアワー・その他

授業進度・内容は履修者の構成により変更される可能性がある。履修する学生は英和辞典を毎回授業に持参すること。（紙でも電子辞書でも構わない）許可された場合を除いて授業中にスマートフォンを使用することは認められない。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
英語 I L R C3	日裏 亜紀	1	後期	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

(2) 授業概要と目的

外国語としての英語を理解するために必要な知識の習得と訓練を行う。

- ① 外国語としての英語の文法・語彙知識、英語構文と表現の特徴
- ② Reading：パラグラフの論理構成を理解し、英文のスキミング、スキニング、精読を行う
- ③ Writing：論理構成を学び、英文のパラグラフ（1年次）、パッセージ（2年次）を書く
- ④ Speaking：公式の場において意見、情報を交換。プレゼンテーションの訓練
- ⑤ Listening：Key Sentence、Target Sentence が理解出来る

本授業では②、③を重点に学ぶ。

(3) 到達目標

- ① パラグラフ単位での英文ライティングの基本となるライティングのプロセスを理解する。
- ② 与えられたテーマごとに適切なトピックセンテンスを設定できるようになる。
- ③ パラグラフの体裁を整え、自らパラグラフを推敲し、最終稿を完成できるようになる。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	Pre-writing Activity	英文ライティングの基本を学ぶ
2	For Writing a Draft	英文の作り方について学ぶ
3	Revising & Editing	修正・訂正の基本を学ぶ
4	Model paragraph	Model Paragraph を読み、最終稿のイメージをつかむ
5	Brainstorming	書き始める前にブレインストーミングを行う
6	Topic Sentence	各テーマに関して適切な Topic Sentence を検討する
7	Outline	Introduction、Body、Conclusion を理解し Outline を作成する
8	Drafting	First Draft の書き方を学ぶ
9	Revising	推敲して Final Draft を作成する方法を学ぶ
10	Paragraph Writing①	家族や友達について書く（記述のパラグラフ）
11	Paragraph Writing②	自分の故郷について書く（例示のパラグラフ）
12	Paragraph Writing③	晩婚傾向について書く（原因・結果のパラグラフ）
13	Paragraph Writing④	アルバイトについて書く（意見のパラグラフ）
14	Paragraph Writing⑤	パラグラフ・ライティングの各過程の定着をはかる
15	Basics of Essay Writing	エッセイ・ライティングの基本を学ぶ

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には演習形式で授業を進めていく。テキストの各ユニットを学ぶ過程で受講生はペアワークを行う。ペアとなった受講生は相談や指摘をお互いに行しながら Paragraph Writing の作業を進めていく。さまざまなタイプの Paragraph Writing に取り組む際には、テキストに書かれているモデルパラグラフを読み、そのあとで各自ブレインストーミングを実施する。Paragraph Writing する前にはアウトラインを書き、それを適宜提出する。ただし最終原稿は必ず提出し、評価の対象となる。

(6) 成績評価と基準

- ①定期試験 70%
 - ② Class work および Paragraph Writing 30%
- の合計点数により評価する。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	Primary Course on Paragraph Writing	杉田 由仁ほか	成美堂	2,090 円
参 考 書				

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

アジア文化講義 A、また英語 I G C3 と英語 I L / R C3 は連続して履修する。

(9) オフィスアワー・その他

授業進度・内容は履修者の構成により変更される可能性がある。履修する学生は英和辞典を毎回授業に持参すること。（紙でも電子辞書でも構わない）許可された場合を除いて授業中にスマートフォンを使用することは認められない。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
英語 I G C 4	荒 哲	1	前期	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。
2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

外国語としての英語を理解するために必要な知識の習得と訓練を行う。

- ① 外国語としての英語の文法・語彙知識、英語構文と表現の特徴
 - ② Reading：パラグラフの論理構成を理解し、英文のスキミング、スキニング、精読を行う
 - ③ Writing：論理構成を学び、英文のパラグラフ（1 年次）、パッセージ（2 年次）を書く
 - ④ Speaking：公式の場において意見、情報を交換。プレゼンテーションの訓練
 - ⑤ Listening：Key Sentence、Target Sentence が理解出来る
- 本授業では①を重点に学ぶ。

(3) 到達目標

- ① 基礎的な英語を理解する。高等学校終了程度の文法を理解し応用できるようになる。
- ② 基礎的な文法力の基に、比較的複雑な英文を読解できるようになる。
- ③ 基礎的な文法力の基に、簡単な英文を書けるようになる

(4) 授業計画

		授 業 内 容
1	オリエンテーション	自己紹介など。英語を学習する意味など。
2	名詞について。	Short readings の読解学習
3	冠詞について。	Short readings の読解学習
4	代名詞について。	その 1 Short readings の読解学習
5	代名詞について。	その 2 Short readings の読解学習
6	時制について。	Short readings の読解学習
7	進行形について。	Short readings の読解学習
8	完了形	その 1 Short readings の読解学習
9	完了形	その 2 Short readings の読解学習
10	助動詞について。	その 1 Short readings の読解学習
11	助動詞について。	その 2 Short readings の読解学習
12	態について	その 1 Short readings の読解学習
13	態について	その 2 Short readings の読解学習
14	不定詞	その 1 Short readings の読解学習
15	不定詞	その 2 Short readings の読解学習

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

教科書に沿って演習形式で授業を進めていく。教科書の内容は中学校並びに高校卒業程度の英文法なので、事前学習、いわゆる予習を前提にして演習授業を行うものとする。教科書は、前半では最初に基礎的な文法の学習、後半においてはその基礎的な文法学習に連動した長文読解で構成されている。辞書を引きながら丁寧な英語学習を行うものとする。理解度確認のため小テストを行う。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験 80%、②小テスト 10%、③授業貢献度/授業内活動 10%

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	読解力につなげるコア英文法	福井慶一郎他	朝日出版	1,760 円
参 考 書				

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

英語 I LRC 4

(9) オフィスアワー・その他

原則として毎週月曜日 12 時 50 分から 13 時 50 分までとする。

「英語 IGC4」と「英語 ILRC4」は連続して履修する。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
英語 I LR C4	荒 哲	1	後期	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。
2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

外国語としての英語を理解するために必要な知識の習得と訓練を行う。

- ① 外国語としての英語の文法・語彙知識、英語構文と表現の特徴
 - ② Reading：パラグラフの論理構成を理解し、英文のスキミング、スキニング、精読を行う
 - ③ Writing：論理構成を学び、英文のパラグラフ（1 年次）、パッセージ（2 年次）を書く
 - ④ Speaking：公式の場において意見、情報を交換、プレゼンテーションの訓練
 - ⑤ Listening：Key Sentence、Target Sentence が理解出来る
- 本授業では②と⑤を重点に学ぶ。

(3) 到達目標

- ① 基礎的な英語を理解する。高等学校終了程度の文法を理解し、聞き取り能力を向上させる。
- ② 基礎的な文法力の基に、比較的複雑な英語のアクセントを把握できる。
- ③ 基礎的な文法力の基に、簡単な英語表現により会話能力を取得できる。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	分詞（1）	分詞構文の基礎的学習 その1
2	分詞（2）	分詞構文の基礎的学習 その2
3	動名詞（1）	動名詞の基礎的学習 その1
4	動名詞（2）	動名詞の基礎的学習 その2
5	形容詞・副詞	形容詞と副詞の微妙な関係を具体的英文例で学習する
6	比較（1）	比較構文の学習 その1
7	比較（2）	比較構文の学習 その2
8	前置詞	日本人にとって習得が難しい前置詞の学習
9	関係詞（1）	関係詞の基礎的学習 その1
10	関係詞（2）	関係詞の基礎的学習 その2
11	仮定法（1）	難しい仮定法について学ぶ その1
12	仮定法（2）	難しい仮定法について学ぶ その2
13	全体のまとめ 1	教科書全体で学んだことを総括する その1
14	全体のまとめ 2	教科書全体で学んだことを総括する その2
15	学習総括	小テスト学習演習

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

教科書に沿って演習形式で授業を進めていく。教科書の内容は聞き取りの訓練を中心とした演習となっているが、事前学習、いわゆる予習を前提にして演習授業を行うものとする。教科書は、前半では最初に基礎的な文法の学習、後半（1）ではその文法学習を基にしたリーディングとリスニングの演習となっている。辞書を引きながら丁寧な英語学習を行うものとする。理解度確認のため小テストを行う。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験80%、②小テスト10%、③授業貢献度/授業内活動10%

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	読解力につなげるコア英文法	福井慶一郎 他	朝日出版	1,760 円
参 考 書				

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

英語 I GC4

(9) オフィスアワー・その他

原則として毎週月曜日 12 時 50 分から 13 時 50 分までとする。

「英語 IGC4」を履修していないと履修することができない。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
英語 I G C 5	瀬尾 光平	1	前期	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

(2) 授業概要と目的

外国語としての英語を理解するために必要な知識の習得と訓練を行う。

- (1) 外国語としての英語の文法および語彙、英語構文と表現の特徴
- (2) Reading：パラグラフの論理構成を理解し、英文のスキミング、スキニング、精読を行う
- (3) Writing：論理構成を学び、英文のパラグラフ（1年次）、パッセージ（2年次）を書く
- (4) Speaking：公式の場において意見、情報を交換、プレゼンテーションの訓練
- (5) Listening：Key Sentence、Target Sentence が理解出来る

本授業では（1）および（2）を重点に学ぶ。

(3) 到達目標

- ① 基礎英語の理解と使用：高等学校修了程度の文法知識と辞書の適切な利用法を獲得する。
- ② 英文の読解に必要な語彙力を獲得する。
- ③ 言いたいことを英語で適切に表現し、抵抗なく発話する能力を獲得する。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	Teddy Bears	品詞
2	Language Patterns	文の要素
3	YouTube Star	文型
4	Just in Time	句
5	Cat Tails	節
6	Sus	文の種類
7	Have You Ever...?	接続詞
8	Detection Dogs	不定詞と動名詞
9	Wild Swimming	形式主語・形式目的語
10	Crazy Stunts	分詞
11	Survivors	分詞構文
12	Meal Kits	関係代名詞(1)
13	Florida Man	関係代名詞(2)
14	Secret Billionaire	話法
15	Fingers Crossed	ディスコースマーカー

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的に教科書にしたがって進めていく。授業中には、音読やペアワークなどを積極的に行う。各課ごとに単語・内容に関して課題を課す。授業後の復習をはじめ、わからない単語を調べておく、音声ファイルの活用して自習を行うなどの積極的な取り組みが期待される。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（50％）、② 課題（40％）、③ 授業貢献（10％）の合計によって評価する。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	Reading Palette: Red	Katsuhiko Muto and Timothy Kiggell	成美堂	2,090 円
参 考 書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

アジア文化講義A、初級・中級英語コミュニケーション、英語 I L R C 5

(9) オフィスアワー・その他

原則として、毎週月曜日 10:00～11:00 をオフィスアワーとして設定する。その他の曜日・時間については必要に応じて設定する。
「英語 1GC5」の単位修得が「英語 1LRC5」履修の要件となる。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
英語 I LR C5	瀬尾 光平	1	後期	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

(2) 授業概要と目的

外国語としての英語を理解するために必要な知識の習得と訓練を行う。

- (1) 外国語としての英語の文法および語彙、英語構文と表現の特徴
- (2) Reading：パラグラフの論理構成を理解し、英文のスキミング、スキニング、精読を行う
- (3) Writing：論理構成を学び、英文のパラグラフ（1年次）、パッセージ（2年次）を書く
- (4) Speaking：公式の場において意見、情報を交換、プレゼンテーションの訓練
- (5) Listening：Key Sentence、Target Sentence が理解出来る

本授業では（2）（3）を重点に学ぶ。

(3) 到達目標

- (1) 文法や語彙などの既習事項について、その理解と定着を深める。
- (2) パラグラフ単位での英語の作文を行う。
- (3) リーディングやライティングの活動を通じて、英文の構造についての理解を深める。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	What Is a Paragraph?	パラグラフとは何か
2	Narration	出来事を語る
3	Process	手続き・手順を説明する
4	Description of Feelings	感情を描写する
5	Description of People	人を描写する
6	Description of Places & Locations	場所を描写する
7	Definition	人物や物事を定義する
8	Comparison & Contrast	比較と対照
9	Cause & Effect	原因と結果
10	Problems & Solutions	問題と解決策
11	Your Opinion —— Agree	賛成意見を述べる
12	Your Opinion —— Disagree	反対意見を述べる
13	Data Analysis	データ分析
14	Email Writing	英文 E メール・英文レター
15	総括	学期を通してのまとめ

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的に教科書にしたがって進めていく。授業中にはパラグラフ単位の読解やセンテンス毎の作文について実践する。各課ごとにリーディング・ライティングについて課題を課す。授業後の復習をはじめ積極的な取り組みが期待される。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（50％）、② 課題（40％）、③ 授業貢献（10％）の合計によって評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	Smart Writing — Active Approach to Paragraph Writing —	Miyako Nakaya, Manabu Yoshihara and Ruth Fallon	成美堂	2,200 円
参考書	資料配布・授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

アジア文化講義A、初級・中級英語コミュニケーション、英語 I GC 5

(9) オフィスアワー・その他

原則として、毎週月曜日 10:00~11:00 をオフィスアワーとして設定する。その他の曜日・時間については必要に応じて設定する。
「英語 I GC 5」の単位修得が「英語 I LRC5」履修の前提である。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
英語 I G C 6	瀬尾 光平	1	前期	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

(2) 授業概要と目的

外国語としての英語を理解するために必要な知識の習得と訓練を行う。

- (1) 外国語としての英語の文法および語彙、英語構文と表現の特徴
- (2) Reading：パラグラフの論理構成を理解し、英文のスキミング、スキニング、精読を行う
- (3) Writing：論理構成を学び、英文のパラグラフ（1年次）、パッセージ（2年次）を書く
- (4) Speaking：公式の場において意見、情報を交換、プレゼンテーションの訓練
- (5) Listening：Key Sentence、Target Sentence が理解出来る

本授業では（1）および（2）を重点に学ぶ。

(3) 到達目標

- ① 基礎英語の理解と使用：高等学校修了程度の文法知識と辞書の適切な利用法を獲得する。
- ② 英文の読解に必要な語彙力を獲得する。
- ③ 言いたいことを英語で適切に表現し、抵抗なく発話する能力を獲得する。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	Teddy Bears	品詞
2	Language Patterns	文の要素
3	YouTube Star	文型
4	Just in Time	句
5	Cat Tails	節
6	Sus	文の種類
7	Have You Ever...?	接続詞
8	Detection Dogs	不定詞と動名詞
9	Wild Swimming	形式主語・形式目的語
10	Crazy Stunts	分詞
11	Survivors	分詞構文
12	Meal Kits	関係代名詞(1)
13	Florida Man	関係代名詞(2)
14	Secret Billionaire	話法
15	Fingers Crossed	ディスコースマーカー

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的に教科書にしたがって進めていく。授業中には、音読やペアワークなどを積極的に行う。各課ごとに単語・内容に関して課題を課す。授業後の復習をはじめ、わからない単語を調べておく、音声ファイルの活用して自習を行うなどの積極的な取り組みが期待される。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（50％）、② 課題（40％）、③ 授業貢献（10％）の合計によって評価する。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	Reading Palette: Red	Katsuhiko Muto and Timothy Kiggell	成美堂	2,090 円
参 考 書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

アジア文化講義A、初級・中級英語コミュニケーション、英語 I LRC 5

(9) オフィスアワー・その他

原則として、毎週月曜日 10:00~11:00 をオフィスアワーとして設定する。その他の曜日・時間については必要に応じて設定する。
「英語 1GC 5」の単位修得が「英語 1LRC 6」履修の要件となる。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
英語 I LR C 6	瀬尾 光平	1	後期	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

(2) 授業概要と目的

外国語としての英語を理解するために必要な知識の習得と訓練を行う。

- (1) 外国語としての英語の文法および語彙、英語構文と表現の特徴
- (2) Reading：パラグラフの論理構成を理解し、英文のスキミング、スキニング、精読を行う
- (3) Writing：論理構成を学び、英文のパラグラフ（1年次）、パッセージ（2年次）を書く
- (4) Speaking：公式の場において意見、情報を交換、プレゼンテーションの訓練
- (5) Listening：Key Sentence、Target Sentence が理解出来る

本授業では（2）（3）を重点に学ぶ。

(3) 到達目標

- (1) 文法や語彙などの既習事項について、その理解と定着を深める。
- (2) パラグラフ単位での英語の作文を行う。
- (3) リーディングやライティングの活動を通じて、英文の構造についての理解を深める。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	What Is a Paragraph?	パラグラフとは何か
2	Narration	出来事を語る
3	Process	手続き・手順を説明する
4	Description of Feelings	感情を描写する
5	Description of People	人を描写する
6	Description of Places & Locations	場所を描写する
7	Definition	人物や物事を定義する
8	Comparison & Contrast	比較と対照
9	Cause & Effect	原因と結果
10	Problems & Solutions	問題と解決策
11	Your Opinion —— Agree	賛成意見を述べる
12	Your Opinion —— Disagree	反対意見を述べる
13	Data Analysis	データ分析
14	Email Writing	英文 E メール・英文レター
15	総括	学期を通してのまとめ

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的に教科書にしたがって進めていく。授業中にはパラグラフ単位の読解やセンテンス毎の作文について実践する。各課ごとにリーディング・ライティングについて課題を課す。授業後の復習をはじめ積極的な取り組みが期待される。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（50％）、② 課題（40％）、③ 授業貢献（10％）の合計によって評価する。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	Smart Writing — Active Approach to Paragraph Writing —	Miyako Nakaya, Manabu Yoshihara and Ruth Fallon	成美堂	2,200 円
参 考 書	資料配布・授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

アジア文化講義A、初級・中級英語コミュニケーション、英語 I GC 6

(9) オフィスアワー・その他

原則として、毎週月曜日 10:00~11:00 をオフィスアワーとして設定する。その他の曜日・時間については必要に応じて設定する。
「英語 I GC 6」の単位修得が「英語 I LRC6」履修の前提である。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
英語Ⅱ C1	児玉 一嶺	2	通年	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

(2) 授業概要と目的

外国語としての英語を理解するために必要な知識の習得と訓練を行う。

- ① 外国語としての英語の文法・語彙知識、英語構文と表現の特徴
- ② Reading：パラグラフの論理構成を理解し、英文のスキミング、スキニング、精読を行う
- ③ Writing：論理構成を学び、英文のパラグラフ（1年次）、パッセージ（2年次）を書く
- ④ Speaking：公式の場において意見、情報を交換。プレゼンテーションの訓練
- ⑤ Listening：Key Sentence、Target Sentence が理解出来る

本授業では③、④、⑤を重点的に学ぶ。

(3) 到達目標

- ① 基礎的な英語を理解する。高等学校修了程度の文法を理解し、若干高度な内容の英文を理解できる。
- ② 基礎的な英語力を通して、テキストの内容を理解できる。
- ③ 基礎的な文法力を基に、聴き取りと作文能力も体得する。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	For here, or to go?	この教科書の使い方・名詞
2	How many are in your party?	好きな場所を大まかに説明する・動詞の現在形
3	I'll be right back.	レトランでの接客サービス
4	Would you like me to heat this up?	コンビニやスーパーでの接客サービス
5	Your total comes to 3,240 yen.	買い物や飲食の会計
6	第1回まとめ	小テスト
7	I'm truly sorry for the trouble.	商品やサービスへの苦情対応
8	Do you have a reservation?	ホテルや旅館での宿泊者受付
9	Wi-Fi is available in this area.	商業施設でのサービス提供や近隣情報の案内
10	I highly recommend Sakura Restaurant.	旅行者への観光案内
11	第2回まとめ	小テスト
12	Turn right at the first intersection.	道案内
13	Take the subway to Hommachi.	交通機関の利用案内や観光施設への情報提供
14	First, put money in the machine.	発売機や電化製品の使用方法の説明
15	第3回まとめ	小テスト

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

演習形式でテキストに沿って進めていく。前期では実践的な場面を想定した会話を聴き重要表現を覚えた後で、実際にペアワークを行うことで、英語による基礎的なコミュニケーション能力を確かなものとする。後期ではこちらもメール作成など実践的な場面における英作文を段階的に行うことで、ライティングの基本を身につけていく。分からない単語などは事前に調べておくことが望ましい。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験 70%、②小テスト 20%、③授業貢献 / 授業内活動 10%

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	You're Welcome! Communication with Tourists Made Easy（前期に使用）	Tae Kudo	CENGAGE Learning	2,150 円
教科書	Have Fun Writing!（後期に使用）	工藤洋路 / Dean Poland	金星堂	2,090 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

中級・上級英語コミュニケーション、アカデミックリーディング A/B、英語 I (G/LR)

(9) オフィスアワー・その他

授業進度・内容は履修者の構成により変更される可能性がある。「英語 I LR」の単位修得をしていないと履修することができない。
なお、質問等は授業の前後で対応する。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
英語Ⅱ C2	日裏 亜紀	2	通年	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

(2) 授業概要と目的

外国語としての英語を理解するために必要な知識の習得と訓練を行う。

- ① 外国語としての英語の文法・語彙知識、英語構文と表現の特徴
- ② Reading：パラグラフの論理構成を理解し、英文のスキミング、スキミング、精読を行う
- ③ Writing：論理構成を学び、英文のパラグラフ（1年次）、パッセージ（2年次）を書く
- ④ Speaking：公式の場において意見、情報を交換。プレゼンテーションの訓練
- ⑤ Listening：Key Sentence、Target Sentence が理解出来る

本授業では（3）、（4）、（5）を重点に学ぶ。

(3) 到達目標

- ① 英文構造を理解し、英文を正確に書けるようになる。
- ② 自分の興味関心のあるテーマを基に、Essay を書くにあたり適切な Topic / Thesis Statement を設定する。
- ③ Essay の体裁に則って自分の意見を英語で書く。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	パラグラフを書く準備をする	英文の基本構造を理解する
2	Paragraph Writing ①	テーマをひとつに絞って書く
3	Paragraph Writing ②	パラグラフの体裁・構成要素を理解する
4	Paragraph Writing ③	構成要素を意識してパラグラフを書く
5	Paragraph Writing ④	さまざまなパラグラフ構成法
6	エッセイを書く準備をする	英文エッセイの基本構成を理解する
7	意見を英文で書く①	身近なテーマについて書かれた英文を読み、自分の意見を考える
8	意見を英文で書く②	自分の意見を英語で書く
9	意見を英文で書く③	さまざまな意見を読み、自分の意見とその根拠を英語で書く
10	Essay Writing ①	さまざまな資料を読み、Essay のテーマを決定する
11	Essay Writing ②	Thesis Statement を決定する
12	Essay Writing ③	Essay を書き始める前に Outline を書く
13	Essay Writing ④	Outline に沿って Essay を書く
14	Essay Writing ⑤	Essay を推敲する
15	Essay Writing ⑥	バランスのとれた Essay を完成させる

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には演習形式で授業を進めていき、複数回にわたりペアまたはグループワークを行う。Paragraph Writing / Essay Writing の基本構造やテーマ設定の仕方などを授業で学習した後は、その内容の定着をはかるためにはほぼ毎回課題を出す。その提出物は評価の対象とする。Essay の作成にあたり、図書館なども活用する。各プロセスでの提出物の検討は教員だけでなく受講者も含めて行う。最終的には各自が設定したテーマで、各受講生は 500 words 前後の Essay を完成させる。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験 60% ②Thesis Writing（課題作文）30% ③授業での貢献および課題 10% の合計点数により評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	A Passage to Paragraph Writing	Koki Endo	センゲージラーニング	2,310 円
教科書	Two Sides to Every Discussion 2	Jonathan Lynch / Kotaro Shitori	成美堂	2,090 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

英語Ⅰ（G/LR）、中級・上級英語コミュニケーション、アカデミックリーディング A/B

(9) オフィスアワー・その他

授業進度・内容は履修者の構成により変更される可能性がある。シラバスを読んで授業内容を確認し、初回オリエンテーション授業に必ず出席すること。英語Ⅰ（G/LR）の単位修得をしていないと履修することができない。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
英語Ⅱ C3	松岡 昌和	2	通年	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

(2) 授業概要と目的

外国語としての英語を理解するために必要な知識の習得と訓練を行う。

- (1) 外国語としての英語の文法・語彙知識、英語構文と表現の特徴
- (2) Reading：パラグラフの論理構成を理解し、英文のスキミング、スキニング、精読を行う
- (3) Writing：論理構成を学び、英文のパラグラフ（1年次）、パッセージ（2年次）を書く
- (4) Speaking：公式の場において意見、情報を交換、プレゼンテーションの訓練
- (5) Listening：Key Sentence、Target Sentence が理解出来る

本授業では（2）（3）を重点に学ぶ。

(3) 到達目標

英語Ⅰの修得を前提に、専門課程やアカデミック／プロフェッショナルな場面で求められる英語への橋渡しを行う

- ① 論理的な英文を読むための基礎的な英語力を身につける。
- ② 英文の新聞記事を情報源として活用することができる。
- ③ 情報を的確に整理して、英語で論理的に表現することができる。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	メディアを読む	英語の新聞をどのように読むのか、ジャーナリズムと社会科学の英語
2	リーディング①	AI チャットボット出現で、大学は教育方法の見直し
3	リーディング②	ナイジェリアの学校で母語使用禁止 違反者はムチ打ちの罰
4	リーディング③	インドネシア実習生が東日本大震災被災地の漁業を支える
5	リーディング④	地熱発電が日本で進展しない理由
6	リーディング⑤	中国政府高官の多くは欧米の学校出身
7	リーディング⑥	バリ島 ロシアとウクライナからの避難民受け入れ見直し
8	リーディング⑦	コロナウイルスの起源を巡る政治的闘い
9	英文を書く	英文の書式、コンピュータで英文を書く際の注意点
10	ライティング①	Introduction ルールや構成を基礎から学習
11	ライティング②	Narrative / Descriptive Paragraph
12	ライティング③	Comparison / Contrast Paragraph
13	ライティング④	Cause / Effect Paragraph
14	ライティング⑤	Opinion Paragraph
15	ライティング⑥	Toward Writing A 300-Word Essay

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的に教科書にしたがって進めていく。また、ペアワークやディスカッションを行うことがある。各課で単語や内容に関する確認を行うので、授業後の復習をはじめ、わからない単語を調べておくなどの積極的な取り組みが期待される。ライティングでは、各自が情報収集を行って、英語で論理的な表現ができることをめざす。前後期末に試験を行う。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（70％）、② Classwork（10％）、③ 授業貢献（20％）

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	English through the News Media 2024 Edition（前期に使用）	Masami Takahashi et al.	朝日出版社	1,980 円
教 科 書	A Guide to English Academic Writing for Beginners（後期に使用）	Akira Tajino et al.	朝日出版社	1,980 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

英語コミュニケーション（初級・中級・上級）、アカデミック・リーディングA・B、英語Ⅰ（G・LR）

(9) オフィスアワー・その他

- ・原則として、毎週月曜日昼休みをオフィスアワーとして設定する。その他の曜日・時間については要連絡。
- ・「英語ⅠLR」を修得していないと、履修することができない。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
アカデミックリーディングA	日裏 亜紀	2	前期	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

(2) 授業概要と目的

現在の地球にはさまざまな問題があり、その危機的状況や影響に警鐘がならされているが、その中でも特に環境、経済、科学技術、健康などについて David Peaty が書いた Essay を読む。今日、インターネットや SNS を通じて簡単に多くの情報をわたしたちは得ることができるが、長年 Global Issues（世界規模の問題）をテーマにしてきた David Peaty のさまざまな Essay を読むことで、現代の問題を理解するために必要な Key Words を英文を精読しながら学習する。各 Essay は 1000 語以上で書かれた長めの英文ではあるが、これまでに学習してきた英文法の知識を用いれば正確にその内容を読み取れることを各受講者が実感できることだろう。しかしそのためには辞書を用いて英文に真摯に向き合う必要がある。

(3) 到達目標

- ① Global Issues（世界規模の問題）について書かれた英文を正確に読む。
- ② 時事英語を読むことで、これまでの英語学習では触れてこなかった Key Words も学習する。
- ③ 1,000～1,200 語の英文で読解力を養う。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	地球温暖化①	Goodbye, Maldives を読む
2	地球温暖化②	「さらば、モルディブ」の内容確認
3	持続可能なコミュニティ①	Sustainable Communities を読む
4	持続可能なコミュニティ②	「持続可能なコミュニティ」の内容確認
5	観光①	Dilemmas for a Responsible Tourist を読む
6	観光②	「責任ある観光客のジレンマ」の内容確認
7	生態模倣技術①	Learning from Nature を読む
8	生態模倣技術②	「自然からの学び」の内容確認
9	世界遺産①	Protecting World Heritage を読む
10	世界遺産②	「世界遺産を守れ」の内容確認
11	食糧①	No More Bananas? を読む
12	食糧②	「バナナが消える？」の内容確認
13	表現の自由①	Blowing Whistle を読む
14	表現の自由②	「警鐘を鳴らす者たち」の内容確認
15	法律	When It Is Right to Break the Law を読む

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

各ユニットは 5～6 ページで構成されているので、各ユニットを 2 回の授業で精読しながら進めていく。受講生は予習として指定されたユニットを下読みして授業に臨む。また、受講生は授業中に順番に指名されるので、指示された箇所の自分の日本語訳を発表し、その英文解釈が正確かどうか確認する。さらに音声ファイルを聞き、音読することもある。この授業では英文を正確に読むことを第一の目的とするため、これまでに学習した英文法の確認や専門用語の意味の確認などもその都度行う。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験 70%
 - ②授業内課題 30%
- の合計点数により評価する。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	Issues That Matter	David Peaty	金星堂	1,980 円
参 考 書				

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

英語 IG / ILR を履修していること。

(9) オフィスアワー・その他

初回オリエンテーション授業には必ず出席すること。授業進度・内容に変更される可能性がある。履修する学生は英和辞典を毎回授業に持参すること。（紙でも電子辞書でも構わない）許可された場合を除いて授業中にスマートフォンを使用することは認められない。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
アカデミックリーディングB	日裏 亜紀	2	後期	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

(2) 授業概要と目的

変化する世界情勢を理解するために書かれた Essay を読む。テキストは「文化」「社会」「テクノロジー」「環境」「経済」の5つのセクションに分かれている。さまざまなテーマのエッセイを英語で読むことで、受講生が世界に関する知識や関心を広げるだけでなく、毎回提示される問いに対して自分の意見を考えるきっかけになるだろう。各 Essay は 800 語程度で書かれた英文ではあるが、ある程度の長さの英文を集中して読む力を身につけていく。また各ユニットを読んだあとには確認問題や巻末問題に取り組む。定着していない単語や新たに学習する単語はきちんと辞書を用いて意味・例文を確認し、正確に英文を読むための努力を受講生は継続しなければならない。

(3) 到達目標

- ① 現在わたしたちが直面している問題や課題について書かれた英文を正確に読む。
- ② 時事英語を読むことで、これまでの英語学習では触れてこなかった Key Words も学習する。
- ③ 800 語程度のまとまった量の英文を読む集中力と読解力を養う。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	文化①	Flat Organizations: Do we need a boss? を読む
2	文化②	Culture Shock: How do we adjust to living abroad? を読む
3	文化③	Social Media: How is it changing the world? を読む
4	社会①	A Better World: Is the world getting more or less violent? を読む
5	社会②	Happiness Ratings: Should governments prioritize happiness over growth? を読む
6	社会③	Free Speech: Should there be any limits? を読む
7	テクノロジー①	Medical Technology: Should we try to live forever? を読む
8	テクノロジー②	Nanotechnology: Will tiny machines save us or destroy us? を読む
9	テクノロジー③	Robot Revolution: Which jobs are most at risk? を読む
10	環境①	Genetically Modified Food: Should we try to alter nature? を読む
11	環境②	Green Cities: Where are the world's cleanest cities? を読む
12	環境③	The Power of Fame: How can celebrities help the world? を読む
13	経済①	Social Inequality: Why is there a gap between rich and poor? を読む
14	経済②	Guns, Germs and Steel: Why is Africa poor? を読む
15	経済③	Aid and Development: Do developing countries need our help? を読む

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

各ユニットを 2 回程度の授業で進めていく。受講生は予習として指定されたユニットを下読みして授業に臨む。また、受講生は授業中に順番に指名されるので、指示された箇所の自分の日本語訳を発表し、その英文解釈が正確かどうか確認する。さらに音声ファイルを聞いて音読したり、内容確認のため小テストに取り組むこともある。この授業では 1 回でまとまった量の英文を正確に読めるようになることを目指す。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験 70%
 - ②授業内課題 30%
- の合計点数により評価する。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	Understanding Our New Challenges	Dave Rear / 杉藤久志	成美堂	2,200 円
参 考 書				

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

英語 IG / ILR を履修していること。

(9) オフィスアワー・その他

初回オリエンテーション授業には必ず出席すること。授業進度・内容は変更される可能性がある。履修する学生は英和辞典を毎回授業に持参すること。（紙でも電子辞書でも構わない） 許可された場合を除いて授業中にスマートフォンを使用することは認められない。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
ツーリズム・イングリッシュA	山田 大介	2	前期	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

(2) 授業概要と目的

日本への海外からの観光客数は年間2,000万人を超え（日本政府観光局（2023年））、コロナ感染症流行が落ち着く中、外国人観光客の訪日は復活してきている。また観光業のみならずその周辺の職業においても外国語は必要不可欠なものとなってきている。日本に往来する外国人観光客はアジア圏が多いが、彼らの多くは英語を話すことが出来るし、欧米圏からの観光客ももちろん英語が話せる。近年では、観光業に限らず、その他の業種でも英語を話す機会が多くなることから、観光・ツーリズムに関連した英語の表現や使い方を学ぶ。とりわけ、この授業では国内外の状況に合わせたテキストを使用しながら、国内外の観光・ツーリズムに関する事項を学修する。また、観光英語検定試験の受験を促し合格を目指して欲しいと考えます。本科目は基本的には卒業後にホテルなどの観光・ツーリズム系を中心とする職種に就職、または専門とし編入を希望する学生の履修が望ましい。

(3) 到達目標

- ① 観光・ツーリズムを主とする業種において、英語で対応する際の基本的な表現や説明の仕方を理解し、それらを使えるようにする。
- ② ①に関連して、各セクションのダイアログ・語彙等をマスターし、英語でコミュニケーションを円滑に行う事の出来る力をつける。
- ③ 観光英語検定の受験に挑戦し、3級以上（できれば2級以上）の合格を目指す。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	Guidance class / Introduction	ガイダンス授業（履修者の決定）・イントロダクション
2	Unit1: Travel / Transportation from the Airport to the Hotel	トラベル全般・交通手段：語彙確認
3	Unit2: Jobs and People / At a Hotel 1	仕事・ホテル1：語彙確認（含小テスト）
4	Unit3: Getting on the Plane / At a Hotel 2	飛行機に乗る・ホテル2：語彙確認（含小テスト）
5	Unit4: At the Immigration and Customs / Greeting a Guest at the Ryokan	出入国と税関審査・旅館での出迎え：語彙確認（含小テスト）
6	Unit5: At the Airport / How to use a Ryokan Bath	空港にて・旅館での風呂の使い方：語彙確認（含小テスト）
7	Unit6: Hotel / Dinner Service at the Ryokan	ホテルにて・旅館での夕食：語彙確認（含小テスト）
8	Unit7: Restaurant / Japanese Restaurant	レストランにて：語彙確認（含小テスト）
9	Unit8: Sightseeing / Gifts and Souvenirs	観光・お土産：語彙確認（含小テスト）
10	Unit9: Shopping / Bullet Train Tickets	買い物・列車の切符購入：語彙確認（含小テスト）
11	Unit10: Transportation / Sightseeing	交通手段・観光：語彙確認（含小テスト）
12	Unit11: Problems and Complaints / City Tours in Tokyo	問題と苦情・シティツアー：語彙確認（含小テスト）
13	Final Presentation①	選択した観光施設を英語で紹介するプレゼンテーション準備
14	Final Presentation②	準備したプレゼンテーション
15	Final Presentation③	準備したプレゼンテーション（履修者数により変更あり）

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業計画の内容に沿って、各回のテーマの学修項目を進めていく。語彙や言い回しは授業の最後に word list としてまとめて、次の最初に Small Quiz を行い、履修者の理解を確認する。毎回、テキストの内容から発展させたダイアログを作り、履修者はそれを練習することで理解を深める。14-15週では、選択した観光施設を外国人旅行者に説明するという設定でのプレゼンテーションを行う。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 毎回授業で行う Small Quiz（70％）、② プレゼンテーション（30％）

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	English for Tourism Basic	観光英検センター	三修社	2,000円(税抜)
参考書	授業中に指示する			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

英語 I L R の履修経験があること（修得済みであることが望ましい）。また英語を含むインバウンド旅行者の言語（中国語、韓国語等）も履修しておくのもよい。

(9) オフィスアワー・その他

オフィスアワー：授業の前後に対応する（またはメールにて対応（E-mail アドレス: d-yamada@ohtsuki.ac.jp））。20名程度の履修者数を想定。履修者希望者は履修者を決定するので1回目のガイダンス授業に必ず出席してください。ツーリズム・イングリッシュ B と継続履修を求めています。学習効果を上げるためには継続した履修をお勧めします（別のテキストを使用）。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
ツーリズム・イングリッシュB	山田 大介	2	後期	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

(2) 授業概要と目的

日本への海外からの観光客数は年間2,000万人を超え（日本政府観光局（2023年））、コロナ感染症流行が落ち着く中、外国人観光客の訪日は復活してきている。また観光業のみならずその周辺の職業においても外国語は必要不可欠なものとなってきている。日本に往来する外国人観光客はアジア圏が多いが、彼らの多くは英語を話すことが出来るし、欧米圏からの観光客ももちろん英語が話せる。近年では、観光業に限らず、その他の業種でも英語を話す機会が多くなることから、観光・ツーリズムに関連した英語の表現や使い方を学ぶ。とりわけ、この授業では国内の状況に合わせたテキストを使用しながら、日本国内の観光・ツーリズムに関する事項を学修する。また、観光英語検定試験の受験を促し合格を目指して欲しいと考えます。本科目は基本的には卒業後に観光・ツーリズム系を中心とする職種に就職、または専門とし編入を希望する学生の履修が望ましい。

(3) 到達目標

- ① 観光・ツーリズムを主とする業種において、英語で対応する際の基本的な表現や説明の仕方を理解し、それらを使えるようにする。
- ② ①に関連して、各セクションのダイアログ・語彙等をマスターし、英語でコミュニケーションを円滑に行う事の出来る力をつける。
- ③ 観光英語検定の受験に挑戦し、3級以上（できれば2級以上）の合格を目指す。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	Guidance class / Introduction	ガイダンス授業（授業内容の説明、履修者決定）・イントロダクション
2	Unit 1 : Transportation	交通案内：語彙確認（含小テスト）
3	Unit 2 : At a Check-in Counter	ホテルでのチェックイン：語彙確認（含小テスト）
4	Unit 3 : Facilities and Services	ホテル内の施設やサービス案内：語彙確認（含小テスト）
5	Unit 4 : Giving Directions	街歩きのための道案内：語彙確認（含小テスト）
6	Unit 5 : Recommending a Trip	観光スポットを勧める：語彙確認（含小テスト）
7	Unit 6 : Dining in Japan 1	日本食の紹介1：語彙確認（含小テスト）
8	Unit 7 : Dining in Japan 2	日本食の紹介2：語彙確認（含小テスト）
9	Unit 8 : Arranging a Tour	国内旅行の手配：語彙確認（含小テスト）
10	Unit 9 : Staying at a Ryokan	旅館について：語彙確認（含小テスト）
11	Unit 10 : Culture Experience in Japan 1	日本文化体験1：語彙確認（含小テスト）
12	Unit 11 : Culture Experience in Japan 2	日本文化体験2：語彙確認（含小テスト）
13	Unit 12 : Japanese Souvenirs	ショッピング：語彙確認（含小テスト）
14	Unit 13 : Dealing with Health Problems and Emergencies	けがや病気の対応：語彙確認（含小テスト）
15	Unit 14 : Dealing with Complaints and Accidents	お客様からのクレームや問い合わせへの対応（含小テスト）

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業計画の内容に沿って、各回のテーマの学修項目を進めていく。語彙や言い回しは授業の最後に word list としてまとめて、次の最初に Small Quiz を行い、履修者の理解を確認する。毎回、テキストの内容から発展させたダイアログを作り、履修者はそれを練習することで理解を深める。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 毎回の授業開始時に実施する Small Quiz [Vocabulary Quiz と Dictation Quiz]（40%）、② ダイアログ（会話）演習（20%）、③ 授業内のアクティビティ [Pre-activity と Reading Quiz]（40%）の総合評価

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書	Hospitality On The Scene	Megumi Uesugi 他	金星堂	2,200 円(税抜)
参考書	別途指示する			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

英語 I L R の履修経験があること（修得済みであることが望ましい）、ツーリズム・イングリッシュA、また英語を含むインバウンド旅行者の言語（中国語・韓国語）も履修しておくのもよい。

(9) オフィスアワー・その他

オフィスアワー：授業の前後に対応（またはメールにて対応（E-mail アドレス: d-yamada@ohtsuki.ac.jp））。20名程度の履修者数を想定。履修者希望者は履修者を決定するので1回目のガイダンス授業に必ず出席してください。ツーリズム・イングリッシュAとは必ずしも継続履修を求めています。学習効果を上げるためには継続した履修をお勧めします（別のテキストを使用）。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
初級英語コミュニケーション	ジョージ・トゥモロー	1	通年	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。
2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

日本語と英語、両言語に重要なコミュニケーションの基礎知識を習得し、適切に応用出来る様に進む。優れた英語力は特に問わないが、努力を惜しむ学生には適しない。

あらゆる状況や場面で即座の応答が出来る様なコミュニケーション能力を育成することである。①一般知識の習得、②会話による言葉の省略や変化の聞き取り、③現代口語表現の理解、④人前で色々な立場での発話、⑤異国の文化の理解、等を目標としてある。

The intent of this coursework is to introduce the student to a non-native language, primarily English, through as many different facets of viewpoints as possible in a rudimentary course.

(3) 到達目標

第二外国語である英語を日本の教育上に出会わない視点から学習し、応用の可能性に慣れていくことである。

The enrollee is expected to engender a certain amount of cognizance as regards the various aspects of Communication Theory, and then to acquire as much proficiency as possible in the application of such, especially as to the English Language. Germane to this coursework is the study of languages and any and all historical relevancy.

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	The Development of English	英語の歴史：文字や語順の発展
2	Grammatical Categories	英語の「文法範疇」
3	Phonics, Phonetics, and Syllabary	「音声学」、「音韻論」、「音節」の概要
4	Lexemes and Morphology	「語彙素」と「形態論」
5	Stress Semantics	「強調」に関する「意味論」
6	Deixis Theory	「直示」の定理
7	Pragmatics	「語用論」
8	Lexical Categories (I)	「限定詞」と「接置詞」
9	Lexical Categories (II)	「法助動詞」と「節」
10	Lexical Categories (III)	「準動詞」と「形容詞」
11	Languages	「言語」
12	Linguistics	「言語学」
13	Communication Theory	あらゆるコミュニケーション定理
14	Japanese Uniqueness	日本語に在る独自性
15	English Uniqueness	英語に在る独自性
16	English Episteme and Reasoning	英語に於ける「認識論」と「推論」

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

It is expected that one will devote at least an hour of preparation time for each and every lecture, and whatever time is necessary to qualify the content of the lectures afterwards. Homework per se is not necessitated; rather, whatever required time will be given during the lecture at regular intervals to allow for the checking of understanding.

Regular attendance and participation are mandatory and expected.

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 試験：60%；② Presentation：10%；③ Critical Analysis：30%（may be subject to change）

Attendance is mandatory.

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	The Fundamentals of English Communication	George M. Tummolo	本人	無料
参考書				

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

中級英語コミュニケーションと同時履修は不可能である。

(9) オフィスアワー・その他

By appointment only.

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
中級英語コミュニケーション	ジョージ・トゥモロー	1	通年	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。
2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

異文化に基づくコミュニケーションの知識を通じて、初級コースより深く理解し、幅広い応用の練習を行う。
初級コースより高程度であらゆる状況や場面で即座の応答が出来る様なコミュニケーション能力を育成することである。
或る程度の英語力を要求する。

- ① 一般知識の習得、② 会話による言葉の省略や変化の聞き取り、③ 現代口語表現の理解、
④ 様々な状況や立場に於ける会話の実践、⑤ 上の①～④に基づく強化学習 等である。

The intent of this coursework is to provide a fundamental framework for students to a non-native language, primarily English, through as many different facets of viewpoints as possible in an in-depth manner. The coursework will vary from the Introductory English Communication course inasmuch as the abilities and interests of the students indicate.

(3) 到達目標

第二外国語である英語を日本の教育上に出会わない視点から学習し、初級英語コミュニケーションより深く、幅広く、応用の可能性に慣れていくことである。

The enrollee is expected to engender a deeper and broader amount of cognizance as regards the various aspects of Communication Theory, and then to acquire as much proficiency as possible in the application of such, especially as to the English Language. Germane to this coursework is the study of languages and any and all historical relevancy, conducted at a higher level than as for the Introductory version.

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	The Development of English	英語の歴史上の発展
2	Grammatical Categories	英語の「文法範疇」
3	Lexical Categories	あらゆる語彙素の類
4	The Development of English Syntax	英語に於ける「統語論」の発展
5	Semantics in English	英語に於ける「意味論」
6	Pragmatics in English	英語における「語用論」
7	English Prosody	英語に於ける「韻律」の重要性
8	Sound Symbolism in English	音声言語の「音象徴」
9	Morphology in English	英語に於ける「形態論」
10	Deixis in English	英語に於ける「直示」の重要性
11	Figures of Speech in English	英語に於ける修辞技法とその応用
12	Oratory	雄弁術と詭弁者
13	Communication Theory	あらゆるコミュニケーション定理
14	Japanese and English Comparison	日本語と英語の比較
15	Reasoning and Logic in English	英語に於ける推論と理論

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

It is expected that one will devote at least two hours of preparation time for each and every lecture, and whatever time is necessary to qualify the content of the lectures afterwards. Homework per se is not necessitated; rather, whatever required time will be given during the lecture at regular intervals to allow for the checking of understanding.

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 試験：60%；② Presentation：10%；③ Critical Analysis：30%（may be subject to change）
- Regular attendance and participation are mandatory and expected.

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	The Fundamentals of English Communication	George M. Tummolo	自費出版	無料
参考書				

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

初級英語コミュニケーションと同時履修は不可能である。

(9) オフィスアワー・その他

By appointment only.

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
上級英語コミュニケーション	ジョージ・トゥモロー	2	通年	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。
2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

一年次で身に付けたコミュニケーション知識をより細かい視点から検討して、思想や「心」の正確な伝え方を活かせる機会を提供する。更に深い異文化の理解を追及する。英語力そのものよりも英語に関しての好奇心を要求する。

The intent of this course is to expand upon and further develop knowledge gleaned from earlier coursework as regards English Communication and all ramifications thereof. The focus will be much more epistemological in nature than in said earlier coursework, and will demand more in the line of inquisitiveness rather than pure ability in English.

(3) 到達目標

第二言語である英語の習得を或る程度概念上の視点から実現することである。

As a consequence of the enrollment and endeavoring in this course, the enrollee is expected to attain a certain level of proficiency in communicative technique, based upon the enhancing the breadth of knowledge as pertaining to the origin, history, nuances, and other aspects of English communication while contrasting these to the native language involved.

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	“Case” 「格」	英語での「格」の役割を日本語と比較する
2	Endonyms and Exonyms	あらゆる「内名」と「外名」について述べる
3	Double Negatives	英語に存在する俗用である「二重否定」様式について
4	The Phonetic Alphabet	「音声記号」の概念と応用
5	Color and Food Semantics	「色」や「食べ物」に関する慣用句
6	“English”	誤った英語用法について
7	Readability and Literacy	「可読性」と「識字」
8	Ambiguities in English	英語に於ける「曖昧さ」
9	Satire	「諷刺」
10	Propaganda and Doublespeak	プロパガンダと二重語
11	Phrasal Verbs vs. Phrasal Nouns	英語の「句動詞」と「句名詞」
12	Irreversible Binomials	英語の「畳語」と「不可逆二項」
13	Figures of Speech in English	英語の「修辭技法」と応用
14	Impressions	「印象」
15	Media Theory	マクルーハンの「媒体論」
16	English Poetry	英語の「詩」とその構造

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

It is expected that one will devote at least 3 hours of preparation time for each and every lecture, and whatever time is necessary to qualify the content of the lectures afterwards. Time will be given during the lecture at certain intervals to allow for assimilation of knowledge through worksheets that will ascertain cognizant awareness of the material covered. Regular attendance and participation are mandatory. Class enrollment may be restricted to about 25 students.

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 試験：60%；② Presentation：10%；③ Critical Analysis：30%（may be subject to change）

(7) 使用書

区 分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	The Social and Behavioral Aspects of the Media in Communication	George M. Tummolo		
参考書	The Fundamentals of Communication	George M. Tummolo	本人	無料

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

初級か中級英語コミュニケーションを受けた者のみが履修可能。

(9) オフィスアワー・その他

By appointment only.

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
ドイツ語 I	三谷 泰正	1	通年	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

(2) 授業概要と目的

この授業の対象として想定するのは、ドイツ語についてまったく予備知識を持たない、はじめてドイツ語を学ぶ学生諸君である。まず、ドイツ語の文字・単語を正しく音読する方法を学んだうえで、ドイツ語文法の「基礎の基礎」について約一年かけてじっくり学習してゆく。もちろん、身に着けた知識を実際にドイツ語を「読み、書き、話す」場面で応用するための練習も行っていく。これらを通じて、ドイツ語を理解・運用するうえで必要不可欠な知識の土台をしっかりと固めてもらいたいと思っている。

なお、時間が許す限り、言語としてのドイツ語、またはドイツ連邦共和国をはじめとするドイツ語圏諸国の文化、社会、歴史、現代事情などについても紹介してゆきたいと思っている。何であれ「ドイツ」に関わる事柄に興味がある学生諸君の参加を歓迎する。

(3) 到達目標

- ①ドイツ語の発音の規則を理解し、個々の単語の発音が（外来語等は別として）正確に出来る。
- ②初級文法の前半が理解出来ており、最重要の変化表（特に、冠詞類・名詞類の格変化、動詞の現在人称変化）は暗誦出来る。
- ③学習した範囲の文法を応用し、辞書なども活用して、現在時制の簡単な単文を読み取ったり、組み立てることが出来る。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	方針説明、文字と発音	ドイツ語のアルファベット、発音の規則、簡単な挨拶表現、基数詞
2	動詞（1）	不定詞と定動詞、動詞の現在人称変化、定動詞の位置
3	動詞（2）	口調上注意すべき変化、最重要不規則動詞 sein と haben
4	名詞と冠詞（1）	名詞の性・数・格、名詞の変化、定冠詞と不定冠詞の変化
5	名詞と冠詞（2）	名詞の複数形の作り方、男性弱変化名詞、疑問代名詞 wer と was
6	動詞（3）	不規則動詞の現在人称変化、動詞の命令形
7	人称代名詞	人称代名詞の格変化、非人称の es、不定代名詞 man
8	冠詞類	定冠詞類と不定冠詞類の変化
9	否定の表現	否定冠詞 kein、否定詞 nicht の位置、ja・nein・doch の用法
10	前置詞（1）	前置詞の格支配、前置詞と定冠詞の融合形
11	前置詞（2）	動詞・形容詞の前置詞支配、前置詞と人称・疑問代名詞の融合形
12	話法の助動詞	話法の助動詞の現在人称変化、いわゆる「未来」の助動詞 werden
13	複合動詞、接続詞	分離・非分離動詞、並列接続詞・従属接続詞
14	動詞（4）	動詞の三基本形、動詞の過去人称変化、現在完了形の作り方
15	まとめ、補足学習	「ドイツ語 II」への橋渡し

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

具体的な授業の進め方としては、①文法事項についての解説、②文法知識を定着すると同時に応用力をつけるための練習、③学習した文法事項が用いられているテキストの音読・訳読 — 原則的には一年を通じてこの流れを繰り返してゆく予定である。十分に予習と復習を行うこと、そして出された宿題は必ず行うことを参加者に期待する。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験（60%）②小テストおよび授業内課題（40%）

(7) 使用書

区分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書	ドイツ語ナビゲーション 3.0	前田良三・高木葉子	朝日出版社	2,750 円
参考書	プリント配布			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし。

(9) オフィスアワー・その他

参加にあたっては独和辞典が必要になる。どういうものを選ぶべきかは初回授業時に話題にする。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
ドイツ語Ⅱ	三谷 泰正	2	通年	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

(2) 授業概要と目的

この授業の対象は、「ドイツ語Ⅰ」でドイツ語の「基礎の基礎」についての学習を終えてのち、それに飽き足らず、ドイツ語初級文法学習の完遂と、自らのドイツ語運用能力のさらなる向上を目指す学生諸君である。まずは「ドイツ語Ⅰ」で習い覚えたことの簡単なおさらいからスタートし、準備万端整ってから、新しい文法事項の学習に着手する。すなわち、「過去形・完了形」から着手して、ドイツ語初級文法の締めくくりにあたる「接続法」までの文法項目の学習と応用練習に取り組んでゆく。

なお、「ドイツ語Ⅱ」では、時に教科書に基づく文法中心総合学習から離れて、現代のドイツ語メディアなどを出典とする、生きたドイツ語に触れる機会も設けてゆく予定である。

(3) 到達目標

- ①ドイツ語の発音の規則を、重要な例外事項まで含めてしっかり理解し、簡単な文章ならばスムーズに音読出来るようになる。
- ②ドイツ語初級文法の全体がしっかり見渡せる。あやふやな箇所は辞書や文法表を用いて自力で調べる力が身についている。
- ③学習した範囲の文法を応用し、辞書なども活用して、簡単な文章（複合文を含む）を読み取ったり、組み立てることが出来る。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	はじめに	方針説明、参考書等の紹介
2	「ドイツ語Ⅰ」の復習	格変化する品詞、人称変化する品詞
3	過去を表現する方法	ドイツ語の過去形と現在・過去完了形、直説法の6つの時制
4	再帰表現	再帰代名詞、再帰動詞
5	zu 不定詞	不定詞ならびに zu 不定詞の用法
6	形容詞	形容詞の3つの用法、形容詞の格変化
7	比較表現	形容詞および副詞の比較級・最上級の作り方、さまざまな比較表現
8	受動態	動作受動・状態受動、受動文の全時制
9	指示代名詞	指示代名詞の用法
10	関係文（1）	関係文とは何か、定関係代名詞 der
11	関係文（2）	不定関係代名詞 wer と was、関係副詞 wo
12	接続法（1）	接続法Ⅰ式・Ⅱ式の作り方、接続法の4つの時制
13	接続法（2）	接続法の用法（要求話法、間接話法、非現実話法、婉曲話法）
14	読解演習	簡単なドイツ語テキストの読解
15	まとめ	ドイツ語学習継続のすすめ

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

具体的な授業の進め方としては、①文法事項についての解説、②文法知識を定着すると同時に応用力をつけるための練習、③学習した文法事項が用いられているテキストの音読・訳読 — 原則的には一年を通じてこの流れを繰り返してゆく予定である。十分に予習と復習を行うこと、そして出された宿題は必ず行うことを参加者に期待する。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験（60%）②小テストおよび授業内課題（40%）

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	ドイツ語ナビゲーション 3.0	前田良三・高木葉子	朝日出版社	2,750 円
参 考 書	プリント配布			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「ドイツ語Ⅰ」の修得が参加の前提となる。

(9) オフィスアワー・その他

特になし。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
中国語Ⅰ	楊 洲・横山 昌子・王 漫	1	通年	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

(2) 授業概要と目的

この授業では、中国語を初めて学習する学生が、中国語の発音と基礎的文法事項を学ぶ。発音については、母音と子音の音の出し方や声調（四声）を繰り返し練習し、同時にローマ字による中国語発音表記法の「ピンイン」を学習する。ピンインは、学習者が中国語を音読する上で必要なものなので初級の段階でしっかり覚えてほしい。また、中国語の漢字表記法である「簡体字」も学習する。授業は、週2コマあるが、口頭練習を中心とする「会話」（月）の授業と、文法ポイントの学習を中心とする「講読」（水）の授業をそれぞれ1コマずつ行う。本授業の目的は、学生が中国語の基礎的な文法を理解し、基本的な語彙と組み合わせで表現できるようになることを目的とする。また、中国語は特に発音が重要なので、正しい発音を習得することも目的の一つである。

(3) 到達目標

- ①中国語の発音表記法であるピンインを理解し、正確な発音ができるようになる。
 ②基礎的な文法を理解し、基本的な語彙を用いて簡単な文が書けるようになる。
 ③日常的な中国語を使ってコミュニケーションができるようになる。
 レベルとしては、日本中国語検定準4級、または漢語水平考試（HSK）1級合格を目指す。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	(月)(水)授業内容について説明、導入：これから学ぶ中国語について
2	発音(1) 単母音、声調、ピンイン	(月)(水)単母音、声調の発音練習、聞き取り、ピンインについて
3	発音(2) 子音、複母音	(月)(水)子音、複母音の発音練習、聞き取り
4	発音(3) 鼻母音、軽声、声調変化	(月)(水) 軽声、声調変化の発音練習、聞き取り
5	発音(4) 発音のまとめ	(月)発音のリスニング小テスト (水)ピンインの小テスト
6	(第1課) どうぞよろしく	人称代名詞、動詞“是”、否定詞“不”、疑問詞“吗”：(月)会話 (水)講読
7	(第2課) 到着ロビーで	指示代名詞、形容詞述語文、“的”、主述述語文：(月)会話 (水)講読
8	(第3課) 明日のスケジュール	場所代名詞、動詞述語文、副詞“都”“也”、疑問詞疑問文：(月)会話 (水)講読
9	復習と応用問題(1)	(月)会話の復習と応用練習 (水)文法ポイントの復習と日中作文の小テスト
10	(第4課) 喫茶店で	助動詞“想”、動詞“喜欢”、動詞の重ね型、選択疑問文：(月)会話 (水)講読
11	(第5課) コンビニで買い物	数詞、量詞の使い方、“是”の省略、人民元の数え方：(月)会話 (水)講読
12	復習と応用練習(2)	(月)会話の復習と応用練習 (水)文法ポイントの復習と日中作文の小テスト
13	(第6課) 電子辞書がほしい	動詞“有”、反復疑問文、動詞“在”、方位詞：(月)会話 (水)講読
14	(第7課) 京劇を見る	完了の“了”、連動文、前置詞“离”：(月)会話 (水)講読
15	復習と応用練習(3)	(月)既習表現を用いた会話発表 (水)文法ポイントの復習と日中作文の小テスト

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業は、会話(月)と講読(水)に分けて行う。C1・C2のクラスは二人の教員がペアで担当し、C3のクラスは一人の教員が担当する。会話(月)の授業では、会話練習を中心に行い、正確な発音ができるようにする。講読(水)の授業では、テキストに沿って語彙と文法事項を学習する。授業では毎回新しい内容を学習するので、できるだけ毎回出席すること。授業は、学生の口頭発表、練習問題の板書での解答、教師の質問に対する中国語でのレスポンス、ペアワークを中心に進めるので、積極的に取り組んでほしい。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 授業の取り組み（授業態度、積極性、理解度など）（20％）、② 口頭試験（40％）、③ 筆記試験（40％）の合計で評価する。
 会話(月)は口頭試験、講読(水)は筆記試験を行う。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	1冊めの中国語《会話クラス》	劉穎、喜多山幸子、松田かの子	白水社	2,530 円
教 科 書	1冊めの中国語《講読クラス》	劉穎、喜多山幸子、松田かの子	白水社	2,530 円
参 考 書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「中国語Ⅱ」の基礎であり、履修後はさらに「中国語コミュニケーション」も履修できる。その他の関連科目としては、海外語学研修B、アジア文化講義Aなど。

(9) オフィスアワー・その他

質問は授業終了後、その場で受け付ける。教科書『1冊めの中国語《会話クラス》』は月曜の会話授業で、『1冊めの中国語《講読クラス》』は水曜の講読授業で使用するので2冊とも必要である。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
中国語Ⅱ	楊 洲・横山 昌子・王 漫	2	通年	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

(2) 授業概要と目的

本授業では、中国語Ⅰを修得した学生が、すでに学習した内容をベースに、日常生活における身近な話題を取り上げた教材の学習を通して、基本的な中国語の表現能力を身につける。授業は、「会話」(月)と「講読」(水)に分けて行う。会話(月)の授業では、場面ごとに行われる表現を覚え、正確な発音で発話できるようにする。また、学習した表現を用いて会話練習を行うことでコミュニケーション能力を高める。講読(水)の授業では、各テーマに基づいて書かれた文章を読解、音読し、新しい語彙や表現を学習する。一年次では、基本表現を覚えることに重点を置いたが、二年次の授業では、基本表現を用いて自分の言いたいことが中国語で表現できるように練習し、応用力を高めることに重点を置く。

(3) 到達目標

- ①中国語Ⅰで学んだ内容に加え、さらに新しい語彙、文法項目を学ぶことで中国語の基礎力が身につく。
 - ②ある程度まとまった文章の意味が理解でき、学習した文法やフレーズを使って文章が書けるようになる。
 - ③自分の考えを中国語で表現できるようになり、中国語でコミュニケーションができるようになる。
- レベルとしては、日本中国語検定4級、または漢語水平考試（HSK）2級合格を目指す。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	シラバスの確認と(月)(水)の授業内容について説明、一年次の復習
2	(第8課) ファーストフード店で昼食	変化の“了”、動詞“有”(存在)、前置詞“在”:(月)会話 (水)講読
3	(第9課) カラオケ店で	助動詞“可以”“会”“能”、直接話法と間接話法、前置詞“给”:(月)会話 (水)講読
4	復習と応用練習(1)	(月)会話の復習と応用練習 (水)文法ポイントの復習と練習問題、応用作文
5	(第10課) 万里の長城に登る	時間の言い方、経験を表す“过”、動作の回数、方向補語:(月)会話 (水)講読
6	(第11課) 診察を受ける	“有点儿”、“是…的”、比較の表現:(月)会話 (水)講読
7	復習と応用練習(2)	(月)会話の復習と応用練習 (水)文法ポイントの復習と練習問題、応用作文
8	(第12課) タクシーに乗る	“把”構文、結果補語、“从…到…”、二重目的語:(月)会話 (水)講読
9	(第13課) 修理を頼む	疑問詞“怎么”使役動詞“让”“叫”、番号の言い方:(月)会話 (水)講読
10	復習と応用練習(3)	(月)会話の復習と応用練習 (水)文法ポイントの復習と練習問題、応用作文
11	(第14課) 訪問する	様態補語、動作の進行を表す言い方:(月)会話 (水)講読
12	(第15課) 乾杯	“就要…了”、名詞の修飾、主述構造の目的語、前置詞“为”:(月)会話 (水)講読
13	復習と応用練習(4)	(月)会話の復習と応用練習 (水)文法ポイントの復習と練習問題、応用作文
14	単語、語句の組合せの復習	(月)単語のリスポンス、発音の確認(水)単語練習用プリントを使って復習
15	総まとめと応用練習	(月)既習表現を用いた会話発表 (水)文法ポイントの総復習と確認テスト

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業は、会話(月)と講読(水)に分けて行い、C1のクラスは二人の教員がペアで担当し、C2のクラスは一人の教員が担当する。会話(月)の授業では、中国語Ⅰに引き続き会話練習を行う。講読(水)の授業では、テキストに沿って中国語Ⅰの続きの文法事項を学習する。授業は、学生が練習問題を板書して解答、暗唱発表、ペアで会話発表、教師の質問に対し中国語でレスポンスするなどの方式を活用して進める。本授業では特に応用練習に時間をとるので、事前に準備し積極的に取り組んでほしい。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 授業への取り組み（授業態度、積極性、理解度など）(20%)、② 口頭試験(40%)、③ 筆記試験(40%)の合計で評価する。会話(月)は口頭試験、講読(水)は筆記試験を行う。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	1冊めの中国語《会話クラス》	劉穎、喜多山幸子、松田かの子	白水社	2,530 円
教 科 書	1冊めの中国語《講読クラス》	劉穎、喜多山幸子、松田かの子	白水社	2,530 円
参 考 書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「中国語Ⅰ」を基礎とする（履修済みであること）。「中国語コミュニケーション」も同時に履修できる。

(9) オフィスアワー・その他

質問は授業終了後、その場で受け付ける。教科書は、中国語Ⅰで使用した『1冊めの中国語《会話クラス》』と『1冊めの中国語《講読クラス》』の2冊を継続して用いる。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
中国語コミュニケーション	王 漫	2	通年	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の習得）

(2) 授業概要と目的

経済の発展及び経済のグローバル化により、日本語と中国語圏との交流が益々頻繁になっている。この授業では、中国語Ⅰを修得した学生が、すでに学習した内容をベースに、社会生活の場面における中国語でのコミュニケーション能力を養う。授業は、日常生活の場面又はビジネス場面の様々なシチュエーションを取り上げ、各学生がコミュニケーションの状況、中国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手、聞き手に配慮しながら主体的に中国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。また社内外で良い人間関係を築きスムーズに業務を行えることを目的とする。

(3) 到達目標

- ◆知識・理解： 「日常生活の場面やビジネス場面のコミュニケーションに必要な語彙や文法知識を習得する」
 - ◆態度： 「中国語を使用する場面や状況、中国語圏の文化背景、特性などを配慮し、積極的にコミュニケーションに参加できる」
 - ◆技能： 「中国ビジネスに関わる業務に従事するとき、ビジネス中国語を自由に操って自己表現ができる」
- レベルとしては、日本中国語検定4級、又は漢語水平考試(HSK)2級合格を目指す。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業内容、授業の進め方の説明
2	社内の自己紹介と挨拶	(1) 自己紹介 (2) 社内挨拶
3	応接室の対応	(3) 来客に挨拶 (4) メンバーを紹介 (5) 本題に入る
4	社内コミュニケーション	(6) 尋ねる・尋ねられる (7) 連絡する・連絡を受ける
5	仕事の手伝いを頼む	(8) 手伝いを頼む・引き受ける (9) 手伝いを申し出る・受ける (10) 依頼・申し出を断る
6	仕事の指示	(11) 仕事を指示する (①コピー ②FAX ③郵便 ④Eメール ⑤その他の実務)
7	電話でよく使う1	(12) 電話をかける・受けるときの基本トーク
8	電話でよく使う2	(13) 電話のトラブル (14) 電話を切る
9	海外出張で使うフレーズ1	(15) 空港・飛行機内 (16) 入国審査・税関を通る・両替 (16) 出迎え
10	海外出張で使うフレーズ2	(17) ホテル (18) 滞在予定の変更・取り消し・支払い方の確認
11	海外出張で使うフレーズ3	(19) 打ち合わせ (20) 工場視察・見学（自社について話す・製品をPRする）
12	海外出張で使うフレーズ4	(21) 移動・交通機関の行先を確かめる
13	海外出張で使うフレーズ5	(22) 行先を尋ねる・答える
14	海外出張で使うフレーズ6	(23) レストランに入る (24) 注文・追加注文 (25) 注文の確認・支払い
15	海外出張で使うフレーズ7	(26) 病気・不調を訴える (27) 薬局の店頭で

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

- (1) 印刷物配布、講義形式： 「各テーマの関連資料を配布し、発音、単語、文法などの予習課題を実施し、次の講義で解説を行う」
- (2) グループ学習・ディスカッション： 「ビジネス場面でのやり取りを議論し、グループ内で中国語での会話を構成する」
- (3) プレゼンテーション： 「各テーマについての会話を発表する」

(6) 成績評価の方法と基準

- ①授業貢献度（授業内の活動）（30%） ②授業での課題（発表）（30%） ③定期試験（口頭試験）（40%）

(7) 使用書

区分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書	特になし。レジュメを配布する。			
参考書	必要に応じて紹介する。			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

アジア文化講義A、中国語Ⅰ・Ⅱ

(9) オフィスアワー・その他

中国語Ⅰの修得が必須です。中国語Ⅱを履修しながら、さらに会話を中心とした訓練を望む学生のための科目である。将来、中国語圏と関わるサービス業での就職を希望する学生は特に履修を勧める。授業に中国音楽・映画の鑑賞も取り入れる。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
韓国・朝鮮語Ⅰ	李 英淑	1	通年	2

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）

(2) 授業概要と目的

韓国語Ⅰは、初めて韓国語を学ぶ学生を対象とするクラスである。

この授業で学ぶことは主に二点である。一つはハングル文字の仕組みと、発音の方法について学ぶ。

様々な発音のルールを繰り返し練習することで韓国語が正確に発音できるようにする。

もう一点は、簡単な作文練習を通じて基本的な文法の知識を身につけ、ダイアログの音読を繰り返すことにより簡単な日常会話が話せるようにする。これらを学ぶことにより次のステップ、即ち読み、書き、聞き取り、話すことの総合的能力を身につけることを目的とする。

(3) 到達目標

- ①ハングル文字を正確に読めるようにする。
- ②発音のルールを学び、様々な発音の変化を修得する。
- ③韓国語で簡単なコミュニケーションが取れることを目標とする。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ハングルとは	韓国語の特徴と文字の仕組み
2	文字と発音 ①	基本母音と基本子音を学ぶ
3	文字と発音 ②	激音、濃音、発音の変化（有声音化①）
4	文字と発音 ③	複合母音
5	文字と発音 ④	終声（パッチム）について学ぶ、有声音化②
6	参考 ①	ハングルのキーボード入力練習、辞書の引き方、鼻音化
7	参考 ②	日本語のハングル表記方法、あいさつの表現
8	文法と会話 ①	自己紹介、助詞、名詞文、連音化
9	文法と会話 ②	用言の丁寧形の作り方、用言の否定形の作り方①、濃音化
10	文法と会話 ③	漢数詞、漢数詞につく助数詞、指示語、名詞文の否定形、激音化①
11	文法と会話 ④	固有数詞、固有数詞につく助数詞、否定形の作り方②、口蓋音化
12	文法と会話 ⑤	打ち解けた丁寧形の作り方、名詞文のへヨ体、助詞のずれ①、激音化②
13	文法と会話 ⑥	過去形、願望を表す表現、弱音化①、指示語の縮約形
14	文法と会話 ⑦	尊敬形、意志や推量の表現、相手の意向を尋ねる表現
15	文法と会話 ⑧	尊敬形の過去形、目的や約束の表現、弱音化②

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

- ・基本的には教科書を使つての講義形式で授業を進めていく。
- ・授業で習った内容をストーリーミング音声聞いて会話の内容を把握し、質問に答えるようにする。
- ・確認テストや音読などを通じて文字の読み書きが早く上達できるようにする。
- ・前期の課題授業として発音のルールについての課題を課す。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験（70％） ②小テスト、授業内の活動（30％）

(7) 使用書

区分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書	ワンアクション韓国語	朴ユギョン、仲島淳子、金美順	朝日出版社	2,860 円
参考書	プリント配布			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

アジア文化講義A、韓国・朝鮮語Ⅱ

(9) オフィスアワー・その他

「韓国・朝鮮語Ⅱ」を継続して履修することが望ましい。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
韓国・朝鮮語Ⅱ	李 英淑	2	通年	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

(2) 授業概要と目的

韓国語Ⅱのクラスは一年次で学んだ基礎的な知識を基に韓国語の様々な表現を学ぶクラスである。

主に実践会話を中心に学び、テキストの本文の会話を丁寧に音読、解説し、練習問題や課題を通じて更なる文法的知識や韓国語の仕組みの理解を深めていく。

韓国語の様々な語尾変化を理解し覚えるよう指導していく。

作文の練習を通じて語彙の量を増やし、表現を広げていくことを目指す。

(3) 到達目標

- ①韓国語の読み書き、聞き取り、話すという総合的能力を身につけることを目指す。
- ②韓国語能力試験 4 級合格程度のレベルを取得する。
- ③話すことの苦手意識を無くして韓国語でコミュニケーションが取れることを目標とする。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	1 年次の復習	1 年次で学んだ基礎的文法の総まとめ
2	文法と会話 ①	相手に依頼する表現、動作の先行や理由、原因を表す表現
3	文法と会話 ②	対比や逆接を表す表現、事実の確認、婉曲的な指示を表す表現
4	文法と会話 ③	鼻音化②、現在連体形、現在進行形
5	文法と会話 ④	動作の持続を表す表現、用言の過去連体形、過去の経験の有無を表す表現、
6	文法と会話 ⑤	用言の未来連体形、意思、予定、推量の表現、
7	文法と会話 ⑥	話し手の意思や相手の意向を尋ねる表現、
8	文法と会話 ⑦	話し手の判断や推測を表す表現、仮定や条件を表す表現、話し手の意図を表す表現
9	文法と会話 ⑧	状況説明や理由などに用いられる前置き表現、可能、不可能を表す表現
10	文法と会話 ⑨	理由や根拠を表す表現、義務や必要性を表す表現
11	文法と会話 ⑩	譲歩や仮定を表す表現、許可や許容の表現、
12	文法と会話 ⑪	時間の経過を表す表現、変則用言①、大まかな判断や感嘆の表現
13	文法と会話 ⑫	変則用言②、用言の副詞化、禁止表現、不確かな計画を表す表現
14	文法と会話 ⑬	変則用言③、状態の変化を表す表現、羅列や選択を表す表現、動作の前後を表す表現
15	文法と会話 ⑭	変則用言④、決定や計画を表す表現、目的や動作の完了を表す表現

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には教科書を使つての講義形式で授業を進めていく。

授業で習った内容をストーリーミング音声聞いて会話の内容を把握し、質問に答えるようにする。

小テスト、作文の練習や簡単な会話を繰り返し練習することで語彙を増やし、会話能力を向上させる。

前期の課題授業として韓国の文化についての課題を課す

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験（70%）、授業内の活動、小テスト（30%）

(7) 使用書

区分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	ワンアクション韓国語	朴ユギョン、仲島淳子、金美順	朝日出版社	2,860 円
参 考 書	プリント配布			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

韓国・朝鮮語Ⅰ

(9) オフィスアワー・その他

「韓国・朝鮮語Ⅰ」を修得していないと履修することができない。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
フランス語 I	早川 理穂	1	通年	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

(2) 授業概要と目的

フランス語を初めて学習する者を対象に、フランス語の基本的な文法を習得し、「読む」「聞く」「書く」「話す」能力を養い、フランス語で現在、過去、未来について簡単な会話ができるようにする。正確な発音を身につけることは「話す」能力だけではなく「聞く」能力の向上にもつながるので、鏡を見ながら正確な発音ができるようにする。また、フランス語学習のための辞書やその活用方法を学ぶ。さらに、フランスの文化に関する幅広い知識を得られるようにする。

(3) 到達目標

- ①フランス語の基礎文法を習得できるようにする。
 ②フランス語実用検定4級程度の能力に到達できるようにする。
 ③フランスの文化について論じることができる。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、参考文献紹介、フランス語の文字
2	Leçon 0	フランス語のつづり字の発音
3	Leçon 1-1	名詞の性と数、冠詞（定冠詞、不定冠詞、部分冠詞）
4	Leçon 1-2	主語人称代名詞、動詞 être、動詞 avoir、バカロレアの口述筆記
5	Leçon 2	第一群規則動詞（er 動詞）、否定文、疑問文、フランスでの「質の良い生活」のために
6	Leçon 3-1	命令法、フランスのトラム
7	Leçon 3-2	第二群規則動詞（ir 動詞）、動詞 partir、疑問副詞
8	Leçon 4-1	faire/prendre/否定文における冠詞の変化（pas de）
9	Leçon 4-2	人称代名詞の強勢形、指示形容詞（ce, cette, ces）、クロード・ドビュッシー
10	Leçon 5	形容詞の位置と性・数、所有形容詞（mon, ma, mes）、理想宮
11	Leçon 6	動詞 aller と venir、近接未来と近接過去、定冠詞の縮約、フランス人の愛した日本
12	Leçon 7	比較級、最上級、疑問形容詞（quel, quelle, quels, quelles）、動詞 vouloir, pouvoir, devoir 映画の発明
13	Leçon 8	非人称構文、補語人称代名詞、日本のアニメに影響したフランス・アニメ
14	Leçon 9	中性代名詞、疑問代名詞①（qui est-ce que, qu'est-ce que, etc.）、ストライキと市庁舎
15	Leçon 10	複合過去、市民権
16	Leçon 11	関係代名詞、強調構文、指示代名詞（celui, celle, ceux, celles）、カリブ海域のフランコフォニー（フランス語圏地域）
17	Leçon 12	現在分詞、ジェロンディフ、受動態、スイス・ロマンド
18	Leçon 13	代名動詞（現在）、マグレブ地方から見た地中海
19	Leçon 14-1	代名動詞（複合過去）、所有代名詞（le mien, la mienne, etc.）
20	Leçon 14-2	疑問代名詞②（lequel, laquelle, lesquels, lesquelles、）ドイツから見た「フランス語」
21	Leçon 15-1	半過去
22	Leçon 15-2	単純未来、ヨーロッパ統合

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式の授業、発音練習、会話練習を織り交ぜて行う。随時課題を課し、提出してもらう。課題は添削や解説を行う。時間外学習としては教科書例文の音読や練習問題に取り組む。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①課題提出（40%） ②授業内の活動（30%） ③テスト（30%）

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	Apprenons les bases du français 文法と文化で学ぶ基礎フランス語	近江屋志穂、竹本研史	朝日出版社	2,530 円
参 考 書	プチ・ロワイヤル仏和辞典 第5版	倉方秀憲、東郷雄二、春木仁孝	旺文社	

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

フランス語 II

(9) オフィスアワー・その他

発音練習に使用するため、鏡を持ってくる。質問がある場合は授業前後の休み時間に受け付ける。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
フランス語Ⅱ	早川 理穂	2	通年	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

(2) 授業概要と目的

フランス語Ⅱは、一年次にフランス語Ⅰを履修し基本的なフランス語文法を習得した者を対象に、主に会話や読解の能力を更に高めることを目指す。鏡を使って口の形をチェックしながら正確な発音でフランス語を話すことを意識しながら、できるだけ口を動かすようにする。また、フランスの地理、歴史、文化に関する幅広い知識を習得していく。教科書で基本文法の確認を行いながら、プリントを適宜配布し応用力を養う。

(3) 到達目標

- ①フランス語の「読む」「聞く」「話す」「書く」能力について、実用フランス語検定3級レベルに到達できるようにする。
- ②フランス語の短い文章を、フランス語辞書を引きながら読めるようにする。
- ③フランスの地理、歴史、文化に関する基本的な知識を習得する。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	Leçon 1	空港にて
2	Leçon 2	ホテルの予約
3	Leçon 3	郵便局
4	Leçon 4	カフェで注文する
5	Leçon 5	メトロに乗る
6	Leçon 6	名所を巡る－パリの歴史
7	Leçon 7	市場にて－フランスの食文化
8	Leçon 8	レストランで注文する
9	Leçon 9	美術館にて
10	Leçon 10	ショッピング
11	Leçon 11	セーヌ河クルーズ
12	Leçon 12	オペラ座
13	シャンソン	フランスの音楽
14	フランスの地理	各地方の特色
15	フランスの歴史	フランスの言語政策

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式の解説と会話練習を行う。順番に練習の成果を発表してもらう。フランス語の短文を書く、フランスの地理、歴史、文化に関して調べる等の課題を課し、提出してもらう。文法に関する練習問題も随時課し、添削や解説を行う。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①課題提出（40%）
- ②授業内の活動（30%）
- ③テスト（30%）

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	Partir pour Paris（新はじめてのパリ－映像付き－）	大津俊克、瀧川広子、藤井宏尚	朝日出版社	2,750 円
参 考 書	プチ・ロワイヤル仏和辞典 第5版	倉方秀憲、東郷雄二、春木仁孝	旺文社	4,620 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

フランス語Ⅰ

(9) オフィスアワー・その他

発音練習のため、鏡を持ってくる。質問がある場合は授業の前後の休み時間に受け付ける。

科目名	旧科目名	教員名	年次	授業期間	単位
コミュニケーションA（対話の育成）◆	日本語A	渡邊 浩史・榎平 龍宏	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

(2) 授業概要と目的

コミュニケーション能力（対話力）の育成を目指す授業内容。コミュニケーション能力には、他者の気持ちや考えを理解する力（＝理解力／読解力）、他者に自身の思いや考えを伝える力（＝発信力／文章力）を挙げることができるだろう。「コミュニケーションA」では、特に「理解力」と「発信力」に力点を置き、双方向のコミュニケーションの充実性を図っていく。具体的には、自己紹介による「自己分析」「他者分析」の徹底化をグループ・ディスカッションによって学んでいく。また、時事問題等の教員が提示する課題を読み解いていき、その内容について議論していくなかで、コミュニケーション能力（対話力）の育成を目指す。

(3) 到達目標

- ① 話す力・聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の必要性を確認・理解する。
- ② グループ・ディスカッションにより、他人が話す内容の要点をくみ取り、分析する力を身につける。
- ③ 自分の考えを言語化し、的確に表現する力を養う。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	大学における「学び」
2	自己紹介（1）	自由討論 ―自由に自分という人間を伝える―
3	自己紹介（2）	他者と共通点を探るなかで、対話の充実性を図る①
4	自己紹介（3）	他者と共通点を探るなかで、対話の充実性を図る②
5	自己紹介（4）	「私のキーワード」を複数挙げ、説明する
6	自己紹介（5）	趣味・特技・こだわり・関心事について話す
7	選択した記事に関する議論（1）	時事問題等の話題を扱った記事を用いてのグループワーク
8	選択した記事に関する議論（2）	時事問題等の話題を扱った記事を用いてのグループワーク
9	選択した記事に関する議論（3）	時事問題等の話題を扱った記事を用いてのグループワーク
10	選択した記事に関する議論（4）	時事問題等の話題を扱った記事を用いてのグループワーク
11	選択した記事に関する議論（5）	
12	選択した記事に関する議論（6）	時事問題等の話題を扱った記事を用いてのグループワーク
13	選択した記事に関する議論（7）	時事問題等の話題を扱った記事を用いてのグループワーク
14	選択した記事に関する議論（8）	時事問題等の話題を扱った記事を用いてのグループワーク
15	まとめ	授業の総括

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業は教員による説明と、その説明を受けた学生が作業（自己紹介書作成、グループ・ディスカッション等）を行うという形式で進めていく。授業の性質上、教科書がないため、毎回の予習は必要としない。ただし、参加型のグループ活動形式で行うため、学生の積極的な参加なくしては成立しない授業である。授業方法、授業内容は学生の反応をみて変更することがある。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①授業内課題（80%）、②最終課題（20%）

(7) 使用書

区分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

(9) オフィスアワー・その他

各担当者のオフィスアワーの時間帯を確認し、その時間を相談時間とする。

科 目 名	旧 科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
コミュニケーションB（日本語文章作成法）◆	日本語B	新城 宏治	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。
2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

昨今、若者の日本語力の低下が大きな問題となりつつある。SNS やチャットの普及、読書量の低下、まとまった文章を書く経験の減少など、考えられる日本語力低下の要因はさまざまであるが、そのような若者も大学入学とともに多くの文献を読み、レポートや卒論を書かなければならず、また、大学卒業後はさまざまなビジネス文書を読み書きしなければならない。

そのような時に困らないように、本講座は日本語の文章を正しく理解し、論理的で読み手が理解しやすい文章を書けるようになることが目的である。「文章読解・作成能力検定」（公益財団法人日本漢字能力検定協会、以下「文章検」）のシラバスに準拠し、検定試験の問題を通して、日本語の読み書きの方法とスキルを具体的に学んでいく。

(3) 到達目標

前半は「文章検」の3級レベルの力を付ける。中間テストでは「文章検」の3級レベルのIPテストにより、目標の達成度合いを見る。後半は「文章検」の準2級レベルの力を付ける。修了テストでは「文章検」の準2級レベルのIPテストにより、目標の達成度合いを見る。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	読み書きの重要性	なぜ日本語の読み書きが重要なのかを考える。
2	語句	語句、類義語、多義語、慣用句、四字熟語を学ぶ（3級レベル）
3	文法	文法事項、文の組み立てを学ぶ（3級レベル）
4	表やグラフを読み取る	表やグラフの読み方を学ぶ（3級レベル）
5	段落の役割、文章構成、文章の要旨	文章の構成と読み取り方を学ぶ（3級レベル）
6	敬語、手紙を書く	敬語および手紙の書き方について学ぶ（3級レベル）
7	意見文を書く	意見文の書き方を学ぶ（3級レベル）
8	中間テスト	「文章検」の3級レベルのIPテストを受ける
9	中間テスト返却	テストの返却とフィードバック
10	語句、文法	語句、上位語と下位語、同位語、同義語について学ぶ（準2級レベル）
11	表やグラフを読み取る	やや複雑な表やグラフの読み方を学ぶ（準2級レベル）
12	段落の役割、文章構成、文章の要旨	わかりやすい文章の書き方を学ぶ（準2級レベル）
13	敬語、手紙を書く	敬語および手紙の書き方について学ぶ（準2級レベル）
14	論説文を書く①	論説文の書き方を学ぶ（準2級レベル）
15	論説文を書く②	論説文の書き方を学ぶ（準2級レベル）

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

日本語の読み方や書き方についての説明を聞き、また自ら考える。読み書き能力を実践的に伸ばすために、文章検の問題を解き、解答を確認し、講師の解説を聞いて理解を深める。毎回、授業のはじめに小テストを行うので、前回の授業で配布された出題範囲の勉強をしていく必要がある。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①中間テスト（30%）、②修了テスト（30%）、③授業参加度（30%）、④最終レポート（10%）

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書	基礎から学べる！文章力ステップ 文章検3級対応	公益財団法人 日本漢字能力検定協会	公益財団法人 日本漢字能力検定協会	770 円
教科書	基礎から学べる！文章力ステップ 文章検準2級対応	公益財団法人 日本漢字能力検定協会	公益財団法人 日本漢字能力検定協会	770 円
テスト	「文章読解・作成能力検定（文章検 IP）3級」「文章読解・作成能力検定（文章検 IP）準2級」の過去問PDFデータ	公益財団法人 日本漢字能力検定協会	公益財団法人 日本漢字能力検定協会	

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）**(9) オフィスアワー・その他**

毎週木曜日 13:00～14:00

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
海外語学研修A（英語・英国夏期語学研修）	松岡 昌和・荒 哲	1	前期集中	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。
2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

英語によるコミュニケーション能力や経済に関連した事象を、本学と提携する英国バンガー大学で開催される夏期語学研修セミナーに参加することで学習する。

本学の英語Ⅰ（G・LR）・英語Ⅱや、初級・中級英語コミュニケーションでの学修から、そして本講座を通して、実際の英語圏の生活に触れることで、更なる言語学習の機会を提供するものである。前期期間中に行う「事前研修」（週1回）と、8月末からの「現地研修」（3週間）の2部構成になっており、前者では実際の英国国内での生活に必要な知識を会得し、それをもとに後者の研修を行う。3週間で英国で生活することにより、コンテンツベースの実践的な英語力を集中的に学習する機会を提供する。また英国国内で生活することで、英国を含む英語圏の文化への理解を深め、国際的視野を養うことも目的とする。

（3）到達目標

- ① 授業内のみだけでなく英語学習の機会を積極的に利用して、自ら積極的に英語学習に取り組む。
- ② 英国国内の研修でコンテンツベースの英語学習を受講することで、物事の「違う見かた」を得る機会とする。
- ③ 現地での研修で教養的内容の学修をすることで、ウェールズを含む英国特有の文化（や経済など）を日本と比較しながら学ぶ。
- ④ 英国での滞在を通して、実践的な英語学習の機会を得て、履修者自身のより高度な言語学習の契機とする。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	本科目の概要の説明（参加の是非に問わず興味ある学生は参加）
2	事前研修（1）	派遣先への応募書類の作成など渡航に必要な手続きを行い、同時に英国での生活に備えて、英国に関する基本的な知識、および日常生活で必要となる英語についてのオリエンテーションを行う。またバンガー大学側からの事前課題にも取り組む。
3	事前研修（2）	
4	事前研修（3）	
5	事前研修（4）	
6	英国内大学での研修（1）	研修先の大学では、月曜日から金曜日まで、現地教員によるコミュニケーションの訓練を行う。土曜日は、場合によって大学主催のエクスカージョンや経済科の学生としてのプログラムが設定されている場合もある。基本的には土曜日・日曜日は各自の工夫で過ごすことになっている。
7	英国内大学での研修（2）	
8	英国内大学での研修（3）	
9	英国内大学での研修（4）	
10	英国内大学での研修（5）	
11	英国内大学での研修（6）	
12	英国内大学での研修（7）	
13	英国内大学での研修（8）	
14	英国内大学での研修（9）	
15	英国内大学での研修（10）	

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

事前研修において、渡航準備の手続きを行いながら、講義形式により研修中の授業内容や英国での生活に即した内容の授業を行う。7月上旬にはバンガー大学より事前課題が送られてくるので、この時間にて事前課題に取り組む。研修中はバンガー大学側のプログラムに即して授業に参加する。講義だけでなく様々なアクティビティが用意されている。英国国内での滞在はバンガー大学との連携を深く結んでいる家庭についてのホームステイとなる。

（6）成績評価の方法と基準

英国内大学の教員が与えた評価をもとに、担当教員が総合評価をする（100%）。評価は「認定」とする。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	別途指示			
参 考 書	別途指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

英語Ⅰ（G・LR）、英語Ⅱ、初級・中級英語コミュニケーションなど外国語の科目を積極的に履修することを求める。また英語以外の外国語の履修や欧米文化講義を事前に履修していくことで研修の際には有益だと考える。

（9）オフィスアワー・その他

履修する学年は問わないが、履修を考えている学生は必ずガイダンスでの説明会に参加し、第1回目の授業に出席すること。参加費用は各自負担となる。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
海外語学研修B（中国語・春期台湾語学研修）	松岡 昌和・荒 哲	1	後期集中	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。
2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

中国語によるコミュニケーション能力や経済に関連した事象を、本学の姉妹協定校である台湾の大学（長榮大学（台湾・台南市））で開催される語学研修セミナーに参加することで学習する。

本学の中国語の学修、そして本講座を通して実際の中華圏の生活に触れることで、更なる言語学習の機会を提供するものである。後期期間中に行う数回の「事前研修」と春期休暇中の「現地研修」（12日間前後）の2部構成になっている。

台湾で生活することにより、より実践的な中国語運用能力を集中的に学習する機会を提供する。同時に長榮大学の提供する台湾文化を学ぶプログラムに参加すること、また実際に台湾で生活することで、中華圏の文化への理解を深め、国際的視野を養うことも目的とする。本年度は春期（2月末から3月の間の12日間前後。旧正月を避け、長榮大学側との話し合いで決定）に研修を行う（参考：昨年度は3月の12日間で実施）。

（3）到達目標

- ① 授業内のみだけでなく中国語学習の機会を積極的に利用して、自ら積極的に中国語学習に取り組む。
- ② 台湾内の研修で、日本と比較しながら物事の「違う見かた」を得る機会とする。
- ③ 台湾での滞在を通して、実践的な中国語学習の機会を得て、履修者自身のより高度な言語学習の契機とする。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	本科目の概要の説明（参加の是非に問わず興味ある学生は参加）
2	事前研修（1）	派遣先への応募書類の作成など渡航に必要な手続きを行い、同時に台湾での生活に備えて、台湾に関する基本的な知識のオリエンテーションを行う（昼休みや他の指定した時間）。
3	事前研修（2）	
4	事前研修（3）	
5	事前研修（4）	
6	台湾内大学での研修（1）	研修先の大学では、月曜日から金曜日まで、現地教員によるコミュニケーションの訓練を行う。週末は大学主催のエクスカージョンや他のプログラムが設定されている。
7	台湾内大学での研修（2）	
8	台湾内大学での研修（3）	
9	台湾内大学での研修（4）	
10	台湾内大学での研修（5）	
11	台湾内大学での研修（6）	
12	台湾内大学での研修（7）	
13	台湾内大学での研修（8）	
14	台湾内大学での研修（9）	
15	台湾内大学での研修（10）	

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

事前研修において、渡航準備の手続きを行いながら、講義形式により研修中の生活に関したガイダンスを行う。研修中は長榮大学側のプログラムに即して授業に参加する。講義だけでなく様々なアクティビティが用意されている。台湾内での滞在は長榮大学キャンパス内にある学生寮（男女別棟）での生活となる。

（6）成績評価の方法と基準

長榮大学の教員が与えた評価をもとに、担当教員が総合評価をする（100%）。評価は「認定」とする。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書	別途指示			
参考書	別途指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

中国語Ⅰ、（中国語Ⅱ、中国語コミュニケーション（2年次生））、アジア文化講義A／言語と文化

中国語の科目（中国語Ⅰ・Ⅱ）は必ずしも必修ではないが、事前に多少なりとも中国語の学習経験があればよい。

（9）オフィスアワー・その他

履修する学年は問わないが、履修を考えている学生は必ずガイダンスでの説明会に参加すること。参加費用は各自負担となる。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
海外語学研修C（英語・英国夏期語学研修）	松岡 昌和・荒 哲	2	前期集中	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。
2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

英語によるコミュニケーション能力や経済に関連した事象を、本学と提携する英国バンガー大学で開催される夏期語学研修セミナーに参加することで学習する。

本学の英語Ⅰ（G・LR）・英語Ⅱや、初級・中級英語コミュニケーションでの学修から、そして本講座を通して、実際の英語圏の生活に触れることで、更なる言語学習の機会を提供するものである。前期期間中に行う「事前研修」（週1回）と、8月末からの「現地研修」（3週間）の2部構成になっており、前者では実際の英国国内での生活に必要な知識を会得し、それをもとに後者の研修を行う。3週間を英国で生活することにより、コンテンツベースの実践的な英語力を集中的に学習する機会を提供する。また英国国内で生活することで、英国を含む英語圏の文化への理解を深め、国際的視野を養うことも目的とする。

（3）到達目標

- ① 授業内のみだけでなく英語学習の機会を積極的に利用して、自ら積極的に英語学習に取り組む。
- ② 英国国内の研修でコンテンツベースの英語学習を受講することで、物事の「違う見かた」を得る機会とする。
- ③ 現地での研修で教養的内容の学修をすることで、ウェールズを含む英国特有の文化（や経済など）を日本と比較しながら学ぶ。
- ④ 英国での滞在を通して、実践的な英語学習の機会を得て、履修者自身のより高度な言語学習の契機とする。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	本科目の概要の説明（参加の是非に問わず興味ある学生は参加）
2	事前研修（1）	派遣先への応募書類の作成など渡航に必要な手続きを行い、同時に英国での生活に備えて、英国に関する基本的な知識、および日常生活で必要となる英語についてのオリエンテーションを行う。またバンガー大学側からの事前課題にも取り組む。
3	事前研修（2）	
4	事前研修（3）	
5	事前研修（4）	
6	英国内大学での研修（1）	研修先の大学では、月曜日から金曜日まで、現地教員によるコミュニケーションの訓練を行う。土曜日は、場合によって大学主催のエクスカージョンや経済科の学生としてのプログラムが設定されている場合もある。基本的には土曜日・日曜日は各自の工夫で過ごすことになっている。
7	英国内大学での研修（2）	
8	英国内大学での研修（3）	
9	英国内大学での研修（4）	
10	英国内大学での研修（5）	
11	英国内大学での研修（6）	
12	英国内大学での研修（7）	
13	英国内大学での研修（8）	
14	英国内大学での研修（9）	
15	英国内大学での研修（10）	

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

事前研修において、渡航準備の手続きを行いながら、講義形式により研修中の授業内容や英国での生活に即した内容の授業を行う。7月上旬にはバンガー大学より事前課題が送られてくるので、この時間にて事前課題に取り組む。研修中はバンガー大学側のプログラムに即して授業に参加する。講義だけでなく様々なアクティビティが用意されている。英国国内での滞在はバンガー大学との連携を深く結んでいる家庭についてのホームステイとなる。

（6）成績評価の方法と基準

英国内大学の教員が与えた評価をもとに、担当教員が総合評価をする（100%）。評価は「認定」とする。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	別途指示			
参 考 書	別途指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

英語Ⅰ（G・LR）、英語Ⅱ、初級・中級英語コミュニケーションなど外国語の科目を積極的に履修することを求める。また英語以外の外国語の履修や欧米文化論を事前に履修していくことで研修の際には有益だと考える。

（9）オフィスアワー・その他

履修する学年は問わないが、履修を考えている学生は必ずガイダンスでの説明会に参加し、第1回目の授業に出席すること。参加費用は各自負担となる。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
海外語学研修D（英語・英国冬春期 語学文化研修）	松岡 昌和・荒 哲	1	後期集中	6

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。
2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

英語によるコミュニケーション能力や経済に関連した事象を、本学と提携する英国バンガー大学で開催される語学研修セミナーに参加することで学習する。

本学の英語Ⅰ（G・LR）・英語Ⅱや、初級・中級英語コミュニケーションでの学修から、そして本講座を通して、実際の英語圏の生活に触れることで、更なる言語学習の機会を提供するものである。後期期間中に行う「事前研修」（数回）を行い、実際に1月から3月までの「現地研修」（約12週間）を行う。実際の英国内での生活に必要な知識を会得しながら、約3か月間を英国で生活することにより、コンテンツベースの実践的な英語力を集中的に学習する機会を提供する。また英国内で生活することで、英国を含む英語圏の文化への理解を深め、国際的視野を養うことも目的とする。本コースは英国バンガー大学内のファンデーションコースの一部に加わることとなる。

（3）到達目標

- ① 授業内のみだけでなく英語学習の機会を積極的に利用して、自ら積極的に英語学習に取り組む。
- ② 英国内の研修でコンテンツベースの英語学習を受講することで、物事の「違う見かた」を得る機会とする。
- ③ 現地での研修で教養的内容の学修をすることで、ウェールズを含む英国特有の文化（や経済など）を日本と比較しながら学ぶ。
- ④ 英国での滞在を通して、実践的な英語学習の機会を得て、履修者自身のより高度な言語学習の契機とする。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	本科目の概要の説明（参加の是非に問わず興味ある学生は参加。7月中旬に開催）
2	事前研修	派遣先への応募書類の作成など渡航に必要な手続きを行い、同時に英国での生活に備えて、英国に関する基本的な知識、および日常生活で必要となる英語についてのオリエンテーションを行う。またバンガー大学側からの事前課題にも取り組む。
3		
4		
5	英国バンガー大学でのコースワーク	研修先の大学では、月曜日から金曜日まで、現地教員によるコミュニケーションの訓練を行う。土曜日は、場合によって大学主催のエクスカージョンや経済科の学生としてのプログラムが設定されている場合もある。基本的には土曜日・日曜日は各自の工夫で過ごすことになっている。
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

7月までにガイダンスを開催し、9月までに各自で参加の決定をする。10月には参加手続きをするが、それまでにパスポートの準備が必要。数回の事前研修において、渡航準備の手続きを行いながら、講義形式により研修中の授業内容や英国での生活に即した内容の授業を行う。研修中はバンガー大学側のファンデーションコースのプログラムの授業に参加する。講義だけでなく様々なアクティビティが用意されている。英国内での滞在はバンガー大学との連携を深く結んでいる家庭におけるホームステイとなる。

（6）成績評価の方法と基準

英国内大学の教員が与えた評価をもとに、担当教員が総合評価をする（100%）。評価は「認定」とする。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	別途指示			
参 考 書	別途指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

英語Ⅰ（G・LR）、英語Ⅱ、初級・中級英語コミュニケーションなど外国語の科目を積極的に履修することを求める。また英語以外の外国語の履修や欧米文化講義を事前に履修していくことが研修の際に有益である。

（9）オフィスアワー・その他

履修する学年は問わないが、履修を考えている学生は必ずガイダンスでの説明会に参加する。参加を決定した場合は手続きをスムーズにするために早急にパスポートの取得を求める。1月初旬からの研修開始となるため、後期履修中の科目に関しては、出発までに各担当者との間で履修に関する相談が必要となる。参加費用は各自負担となる。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
情報リテラシー（情報を活用する技術を体験する）	深澤 克朗	1	前期	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（１）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（２）授業概要と目的

本講座は、「情報化と社会」で講義される情報技術のいくつかのテーマについて、実際にコンピュータを使い体験をすることと、また若干の文書作成や表計算ソフトウェアを用いたデータ処理や情報検索などを目的とします。文書作成や表計算などの詳しい演習は「情報処理基礎演習」にて行いますので、本講座では、基本的な作成方法を演習します。また、特にインターネット関連の暗号化やネットワーク関連知識の習得を、演習を通じて学習します。

（３）到達目標

- ①文書作成や表計算ソフトを経験し、基本的な操作を習得する。
- ②暗号理論についての詳しい知識を習得する。
- ③データをインターネットから検索・ダウンロードして、データ加工ができる能力を目的とする。

（４）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	学内システム・メールの操作	学内向け・学外向けWebページ、図書館システム、メール作成
2	コンピュータの原理・基礎	コンピュータの内部構造やデータについて（2進数、容量など）
3	文書作成（１）	Wordの基本操作
4	文書作成（２）	Wordを用いた文書作成
5	広告文書作成（１）	Publisherの使い方
6	広告文書作成（２）	Publisherを用いた広告作成
7	表計算（１）	Excelの基本操作
8	表計算（２）	基本的な関数
9	表計算（３）	表引き関数
10	統計処理	Excelを使った基本的な統計処理
11	ネットワーク	基本的なネットワークコマンドの意味と使い方
12	暗号理論（１）	共通鍵と公開鍵の体験
13	暗号理論（２）	デフィーヘルマン方式、RSAアルゴリズムについて
14	データ処理	インターネットからのデータの取り込みとExcelでの統計処理。
15	HP作成	Microsoft SWAYを用いたHP作成

（５）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

各回テーマの概要を記載した資料などを提示します。授業の冒頭にて、資料に従い説明を行い、コンピュータを用いて演習を行います。演習は提出する場合もあります。どの回の演習課題を提出するのかは、授業時に指示します。コンピュータの原理・基礎、ネットワーク、暗号理論については、「情報化と社会」にて詳しく説明がされます。

（６）成績評価の方法と基準

- ①授業の区切りに提出する課題（50％）、 ②最終課題（50％）

（７）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	オリジナル資料配布			
参 考 書	特になし			

（８）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

- （１）情報化と社会
- （２）情報処理基礎演習との関係は、Word・Excelの部分について、本講座は初歩的なものになります。

（９）オフィスアワー・その他

質問等は、授業の前後やTeamsにて対応します。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
情報処理基礎演習（Word・Excelの基礎技術）	C1 深澤 克朗、C2・C3 堤 智昭	1	前期	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

今日の社会は、いたるところでコンピュータをはじめとする情報機器が利用されている。特にワープロソフトや表計算ソフトは、在学中および編入学後の学習、そして就職後の企業や組織での仕事に常識的なスキルと位置付けられている上に、日常生活での利用も増えてきている。さらに、ネットワークを介した利用や、モバイル版のソフトも登場している。また、ファイル管理も携帯端末におけるものを含め欠かせない技術になってきている。このような背景から、本講義では、OS(Windows)の基礎的な操作、ワープロソフトの基本的な処理、データ処理（表計算ソフト）各分野について、各種アプリケーションの基本的な使い方と応用的な利用方法を学ぶ。

(3) 到達目標

- ①ワープロソフト、表計算ソフトに慣れ、基本的な利用技術を習得する。
- ②コンピュータを用いて、レポートや課題作成をスムーズに行える技術を習得する。
- ③表計算ソフトを用いて、データ処理の基本を学ぶことを目的とする。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	学内システム	学内向け・学外向けWebページ、図書館システム
2	コンピュータの原理・基礎	コンピュータの歴史、2進数、情報量、ハードウェア、ソフトウェア
3	ワープロソフト（1）	起動・終了・ファイルの保存
4	ワープロソフト（2）	文書の入力、文字フォント、書式設定
5	ワープロソフト（3）	表の作成、図形や写真の挿入など
6	ワープロソフト（4）	初歩的なビジネス文書の作成
7	ワープロソフト（5）	まとめ（ワープロ総括課題）
8	表計算ソフト（1）	起動・終了、ファイルの保存、シートとブックの概念、表の作成
9	表計算ソフト（2）	データの入力（オートフィルなど）
10	表計算ソフト（3）	関数の利用（1）絶対参照・相対参照
11	表計算ソフト（4）	関数の利用（2）基本統計関数
12	表計算ソフト（5）	関数の利用（3）論理関数
13	表計算ソフト（6）	関数の利用（4）日付関数
14	表計算ソフト（7）	関数の利用（5）検索・表引き
15	表計算ソフト（8）	グラフ作成の基礎

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

毎回プリントなどの資料に従い、演習形式で行う。授業時間内でプリント内容を理解し、課題を作成して提出する。高校等において既に経験した内容がある場合でも、より深く学べるように考慮した内容を行う。単にソフトウェアの操作をするということではなく、データをいかに処理することが最適なのかという観点で、授業を進めるものである。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①授業の区切りに提出する課題（60％）、②最終課題（40％）

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	配布資料			
参 考 書	特になし			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

情報処理応用演習

(9) オフィスアワー・その他

質問等は、授業の前後やTeamsにて対応します。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
情報処理応用演習 (Word・Excel の応用技術)	C1・C2 深澤 克朗	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

ワープロソフトでは、実践的な長文を疑似的に作成する。そこで、実践的な機能やアウトライン機能などの便利な機能を学ぶ。表計算ソフトでは身近な情報をもとに、各種関数などを利用した計算やデータ操作による表作成を行う。また統計処理の活用方法を理解した上で、データ分析や加工ができるようにする。さらにデータベース機能やフォーム機能を用いてアプリケーションを作成することを学ぶ。最後の方ではマクロ機能やVBAを使い、プログラミングを体験するものである。本講座はワープロや表計算のより実践的な使い方を習得することを目的とする。

(3) 到達目標

- ①ワープロソフトのより実践的な利用技術を習得する。
- ②表計算ソフトを用いてデータ分析の方法を学ぶ。
- ③表計算ソフトの応用的な機能を学び、アプリケーションを作成できる技術を習得する。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ワープロソフト (1)	文書作成の基礎、表作成
2	ワープロソフト (2)	段組み、ページ区切り、縦書き文書
3	ワープロソフト (3)	応用的機能 (ヘッダー、フッターなど)
4	ワープロソフト (4)	アウトライン機能の操作
5	ワープロソフト (5)	アウトライン機能による論文作成
6	表計算ソフト (1)	基本的な表の作成
7	表計算ソフト (2)	関数利用 (1) 文字列処理
8	表計算ソフト (3)	関数利用 (2) 統計関数の利用
9	表計算ソフト (4)	関数利用 (3) データベース関数
10	表計算ソフト (5)	関数利用 (4) 財務関数
11	表計算ソフト (6)	データ分析の手法
12	表計算ソフト (7)	フォーム機能
13	マクロプログラミング (1)	VBA プログラミング (1) 基本機能
14	マクロプログラミング (2)	VBA プログラミング (2) 繰り返し構造
15	マクロプログラミング (3)	VBA プログラミング (3) 分岐構造

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

毎回プリント等の資料に従い、演習形式で行う。授業時間内でプリント内容を理解し、課題を作成して提出する。提出課題に関しては、各自が実際のデータなどを検索・利用し、授業で学んだ機能を使って独自に作り上げることを目指す。ソフトウェアは道具であるので、その道具の様々な機能を理解して、内容に意味があるものを作り出す訓練を行う。卒業論文の作成などで有効に使えるようになることを望むものである。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①授業の区切りに提出する課題（60％）、 ②最終課題（40％）

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	配布資料			
参 考 書	特になし			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

情報処理基礎演習

(9) オフィスアワー・その他

質問等は、授業の前後やTeamsにて対応します。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
教養演習 ◆	C1 渡邊 浩史、C2 山岸 絵美理、C3 荒 哲、C4 川島 洋、C5 川島 洋、C6 前田 智、C7 川島 洋、C8 前田 智、C9 山口 隆太郎、C10 宮崎 理枝、C11 佐藤 茂幸	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。
2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

教養演習は、大学での学修に必要なアカデミック・スキルの理解と修得を目的とする。アカデミック・スキルとは、あるテーマについて、情報を集め読解し、分析的・論理的に考え、その考えを他者と交換したり、論文やレポートにまとめたりするための技術のことである。具体的には、1) テーマや問いの設定、2) 情報・資料の収集、3) 情報・資料の分析的・批判的な読みと情報整理、4) 分析的・論理的な思考と論の展開、5) 論の発表及びディスカッション、6) 論文の文章化などの技術である。この演習では、もともと基礎的なアカデミック・スキルを学ぶとともに、学んだスキルを使って「研究計画書」を作成する。また、この「研究計画書」の作成を通して自身の関心のありかを探り、1年次後期から所属するコースの選択につなげていく。

(3) 到達目標

- ①アカデミック・スキルがどのようなものであるかを理解し、基礎的な技術を習得する。
- ②「研究計画書」を書くことで、専門分野への関心を深め、今後の進路選択の手がかりとする。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業内容・方法について知る、アカデミック・スキルとは何かを知る
2	自分自身の理解	自分自身のプレゼンテーションを通じて、自身をより深く知る
3	情報整理の方法 (1)	情報収集、情報選択、収集した情報の整理の方法を知る
4	情報整理の方法 (2)	
5	資料収集・読解とディスカッション (1)	資料収集→読解→それに基づいたディスカッションを行う。グループワークで討論することで資料内容の理解を深めたり、発表者を決めて発表を行い、そこでの質疑応答のなかで発表内容の理解度を深めていく。
6	資料収集・読解とディスカッション (2)	
7	資料収集・読解とディスカッション (3)	
8	資料収集・読解とディスカッション (4)	
9	考察内容の発表 (1)	収集した資料をもとに、自身の関心分野について考えをまとめ、発表する。 ※この期間に必ず一度はコンサルテーション（個別指導）を受ける。
10	考察内容の発表 (2)	
11	考察内容の発表 (3)	
12	考察内容の発表 (4)	
13	「研究計画書」の作 (1)	これまでの活動を通して探ってきた自身の関心をもとに、「研究計画書」を執筆する ※この期間に必ず一度はコンサルテーション（個別指導）を受ける
14	「研究計画書」の作成 (2)	
15	「研究計画書」の作成 (3)	

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

教養演習は1年次の全員履修指定科目でクラスは希望する教員を選択し、どのクラスでも基本的には同じ授業内容を提供するが、教員により若干の進め方の違いはある。1クラス10～15名程度の小規模クラスで、クラス内でのディスカッションやグループ活動を多く行うため、積極的な参加が望まれる。また、クラス全体へのプレゼンテーションなども行うが、その際は積極的な質疑応答が望まれる。学生自らつくり上げていく授業である。授業内容や授業方法は、学生の習熟度や反応をみて変更する場合がある。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験に代わるレポート「研究計画書」（40％）、②授業内での活動、授業への貢献度、授業内課題（60％）

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	必要に応じて、授業中に示す			
参 考 書	授業中に示す			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし。

(9) オフィスアワー・その他

オフィスアワーは担当教員によって異なる。掲示板のオフィスアワー情報を参照のこと。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
特別日本語演習（留学生）◆	榎平 龍宏他	1（留学生のみ）	前期	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（１）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

（２）授業概要と目的

日本語の非母語話者が本学で授業を受け、学修に取り組む際の、言語上のサポートを目的とする授業である。授業の内容と進め方については、授業に参加する留学生の日本語レベルや希望する学修内容によって柔軟に設定する。例として、読解（スキミング、スキミング、文中の語彙や表現を学びながらの精読）や、読んだ文章の要約、300～1000字程度の意見文作成、ノートテイキングの方法、レポート作成の方法、議論やディスカッションを通じた対面コミュニケーション力養成、などが考えられる。本学の授業を受ける中での言語上の困難点を明らかにし、その解決に取り組むことを目的とする。

（３）到達目標

- ① 本学の授業を理解する受信力を身につける。
- ② 本学の授業で発言、質問をする発信力を身につける。
- ③ 本学の授業に対応でき、周囲の助けを借りながら自律的に学習が進められる総合的な日本語力を身につける。

（４）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	日本語力や学習歴、希望する学習内容を確認する
2	日本語学習(1)	学生が必要とする日本語力を、適した教材を用いて身につける
3	日本語学習(2)	
4	日本語学習(3)	
5	日本語学習(4)	
6	日本語学習(5)	
7	専門補助(1)	講義や専門の勉強に必要な語彙力や表現力をつける
8	専門補助(2)	
9	専門補助(3)	
10	専門補助(4)	
11	専門補助(5)	
12	課題作成補助(1)	課題作成に必要な語彙力や表現力をつける
13	課題作成補助(2)	
14	課題作成補助(3)	
15	課題作成補助(4)	サポートを得ながら課題を完成させる

（５）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

第一回目の授業で履修学生の日本語力や日本語学習歴、希望する学修内容を確認し、それに応じたプログラムを組む。教材は目的と日本語レベルにあったものを適宜選択し、使用する。教員は学生自身の学修のサポート役という位置づけであるため、進捗や内容に関する学生の積極的な提案や要望が望まれる。

（６）成績評価の方法と基準

- ① 授業への積極的な参加と貢献および授業内課題への取り組み（70％）、② 学習内容に応じた最終課題（30％）。

（７）使用書

区分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	授業内で適宜提示する			

（８）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

コミュニケーション A・B

（９）オフィスアワー・その他

相談については必要に応じて対応可能。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
健康論 ◆	奥野 雅久	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を習得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等履修による「自己教育力」の習得）

(2) 授業概要と目的

近年、様々な健康問題が我々のライフスタイルに大きな影を落としている。例えば、よく耳にする生活習慣病とは名だろう。生活習慣病は、日々の誤った生活習慣（栄養の過不足、バランスの悪い食生活、運動不足やストレス、喫煙など）の積み重ねによって引き起こされる病気の総称である。心疾患、脳血管疾患、糖尿病、高血圧、脂質異常症などがこれに該当するが、この心疾患や脳血管疾患等循環器疾患の原因となっているのが動脈硬化である。合併・重症化することで重篤な疾患につながり、最終的には要介護状態へと段階的に進行していく。これらは運動不足、飲酒などの不健康な生活習慣を続けた結果、メタボリックシンドロームとしての生活習慣病といて発生している。この授業では健康の概念、健康なライフスタイル、健康とストレスとの関わりや生活習慣病の予防とその対策について考える。

(3) 到達目標

生活の中で健康を維持するための人間の生理機能を理解し、改めて健康の意味を考え、将来にわたる有意義な人生を送るために自分の健康、そして社会人としての社会の健康、家庭人として家族の観光にも留意できる基礎的知識を深め、地域社会に貢献できる人間の育成。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	健康論の授業について
2	健康論の概念	健康の定義 ― 生命と健康
3	人体生理①	からだの仕組み ― 人体の特徴・細胞
4	人体生理②	からだの仕組み ― 脳・心臓
5	人体生理③	からだの仕組み ― 循環器・消火器
6	人体生理④	からだの仕組み ― 骨格・筋肉
7	健康なライフスタイル①	健康づくりと食生活
8	健康なライフスタイル②	痩身と肥満（拒食と過食）
9	健康なライフスタイル③	飲酒・喫煙と健康
10	健康なライフスタイル④	薬物乱用と健康
11	こころと身体①	メンタルヘルス ― 身体的・心的緊張の緩和
12	こころと身体②	ストレスマネジメント ― ストレスと精神障害
13	現代社会の健康問題①	成人・老年期の健康（生活習慣病と予防）
14	現代社会の健康問題②	高齢社会と介護予防
15	現代社会の健康問題③	国民健康づくり運動「健康日本21（第2次計画）」

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

健康なせいかつを将来にわたり送るために必要な知識と問題点、その対策を学ぶ。パワーポイントや視聴覚メディアを使い、からだの仕組みや健康づくり対策、こころの健康について学び、現代社会の抱える健康問題について考えていく。各種健康づくり施策取り組みを知り、成果習慣病の予防や介護予防を考えて、健康寿命の延伸につながる基礎知識を身につける。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験（80％）
- ②授業内の活動、授業での課題（20％）

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書				
参考書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

(9) オフィスアワー・その他

特になし

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
スポーツレクリエーション実習 ◆	奥野 雅久	1	後期	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を履修している（導入科目、教養実習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の習得）。

(2) 授業概要と目的

「運動習慣」とは日常生活の一部となり、継続実施している行動様式をいい、国民健康栄養調査では、「1回30分以上、週2回以上、1年以上」運動を継続している者を「運動習慣あり」としている。しかし社会はますます便利になり、健康の維持・増進に必要な運動習慣は減る一方である。そこで、このスポーツレクリエーション実習の時間を、積極的に身体活動・運動に取り組み、生涯スポーツへの取り組みと運動習慣を定着化する機会としたい。この時間では、隔週運動（バレーボール・卓球・バスケットボール・フットサル他）の実践を通し、日頃の運動不足を改善し、体力の向上と健全なる心身を育成する。

(3) 到達目標

健康を保持増進するためには日常生活において、身体活動・運動を取りこんだライフスタイルの形成が重要である。そこで、こころと身体を一つとしてとらえ、身体活動・運動についての理解と実践を通し、明るく豊かで活力ある生活を営むことのできる資質や能力を育てることを目標とする。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方について
2	バレーボール	アンダーハンド・オーバーハンドパス練習、ミニゲーム
3	〃	サーブ・レシーブ練習、ミニゲーム
4	〃	設定ルールによるリーグ戦形式のゲーム
5	卓球	フォアハンド・バックハンドストローク練習、ミニゲーム
6	〃	サーブ・レシーブ練習、ミニゲーム
7	〃	シングルス・ダブルスゲーム
8	バスケットボール	パス・ドリブルの基本練習①、ミニゲーム
9	〃	パス・ドリブルの基本練習②、ミニゲーム
10	〃	各種シュートドリブル、ミニゲーム
11	フットサル	パス・ドリブルの基本練習①、ミニゲーム
12	〃	パス・ドリブルの基本練習②、ミニゲーム
13	〃	トラップ・キック練習、ミニゲーム
14	その他のスポーツ	ソフトボールの練習、ミニゲーム
15	〃	テニスの練習、ミニゲーム

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

各種運動種目（バレーボール・卓球・バスケットボール・サッカー他）の実習を通して運動能力の向上、運動技術の習得を目指す。また、人の成長、発達を理解し人と人との関係、社会との関係を運動実習のチームプレーの中から学び、身につけておかなければならないコミュニケーション能力を培うとともに、到達目標の達成を目指す。

(6) 成績評価の方法と基準

①授業貢献度及び授業内容の活動を評価（授業の準備、振興への協力、安全確認の協力等々）

(7) 使用書

区分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書				
参考書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

(9) オフィスアワー・その他

特になし

科目名	旧科目名	教員名	年次	授業期間	単位
日本文学概説（日本近現代文学を学ぶ）	文学	渡邊 浩史	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（１）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（２）授業概要と目的

「文学とは何か」——本講義ではこのような問いについて、明治から平成にかけての近現代小説や近代詩を扱っていくなかで検討し、文学作品の読み方について学んでもらいたいと考える。具体的には、近代小説及び近代詩のなかでも、何事かに向け、情熱や悲哀をかたむける登場人物を描いた作品に焦点を絞り、そこから人間存在のありようについて考察していく。さらにこの授業では、「文学」が、人間が社会生活を送っていく際に突きつけられる矛盾や不条理に対し、どのように対処すべきなのかという「選択」する力を身につける学問であることも理解してもらうことも目的である。

（３）到達目標

- ① 「文学とは何か」を理解し、文学作品の読み方について学んでいく。
- ② それぞれの文学者の作風、各作品の叙述、構想、主題をとらえ、個々の問題意識を深め、理解できるようになる。
- ③ 文学作品の読解を通して、将来起こる自身の問題についての「選択」する力を身につける。

（４）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	はじめに	文学とは何か。
2	近代文学を読むポイント	時代背景や社会情勢と文学作品の関係
3	近代文学史（１）	明治の日本文学 ―写実主義／擬古典主義／浪漫主義／自然主義などの文学―
4	近代小説を読む（１）	田山花袋「蒲団」
5	近代文学史（２）	明治の日本文学 ―反自然主義／耽美派などの文学―
6	近代小説を読む（２）	谷崎潤一郎「刺青」
7	近代文学史（３）	大正の日本文学 ―白樺派／新現実主義／新思潮派などの文学―
8	近代小説を読む（３）	武者小路実篤「お目出たき人」
9	近代小説を読む（４）	芥川竜之介「西郷隆盛」
10	近代文学史（４）	昭和・平成の日本文学 ―プロレタリア文学／モダニズム文学／戦時下／戦後の文学―
11	近代小説を読む（５）	江戸川乱歩「人間椅子」
12	近代小説を読む（６）	葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」
13	近代小説を読む（７）	太宰治「メロイクリスマス」
14	近代小説を読む（８）	石田衣良「スローグッドバイ」
15	近代詩を読む／まとめ	中原中也・草野心平・茨木のり子などの詩／授業のまとめ

（５）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には講義形式で授業を進めていく（レジュメ使用）が、複数回にわたりペアまたはグループ活動を行う。授業では特定の教科書は使用しないが、授業内で配布する文学史に関するプリントや文学作品については、時間外学習として読んでおくことが望ましい。授業後には毎回コメントシートを使用し、近代文学史に関しての確認テストを１度行なう予定である。

（６）成績評価の方法と基準

- ① 授業内課題（６０％）、② 定期試験に代わるレポート（４０％）の合計点により評価する。

（７）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。			
参 考 書	授業内指示			

（８）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし。

（９）オフィスアワー・その他

講義に関する質問はオフィスアワーやTeamsのチャット等でも受け付ける。授業の進捗・内容は、授業の状況により若干の変更の可能性がある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
哲学（哲学の基本的問題の紹介と解説）	永野 潤	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

哲学（フィロソフィー）の語源は、「知を愛する」という意味のギリシア語である。この講義では、哲学の基本的問題について考える。ただし、哲学は、問題に答を出すことをかならずしも目的にはしていない。むしろ、問題を見つけだし、答の出ない問題について考えるその過程が哲学だ、と言える。

この講義では、さまざまな問題について「哲学的に考える」ということがどういうことか知ってもらい、その「おもしろさ」を体験してもらいたい。題材として、マンガ、映画などみなさんになじみの深いものを用いる予定である。

(3) 到達目標

- ① 哲学の基本的問題について説明できる。
- ② 「哲学的に考える」ことができる。
- ③ 柔軟に思考できる。
- ④ 論理的に思考できる。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	哲学について	哲学とは何か
2	認識について 1	認識とはどういうことか
3	認識について 2	ものそのものを認識しているのか
4	意識について 1	今夢を見ていないとどうやって証明するか
5	意識について 2	意識とはどういうことか
6	身体について 1	精神と身体はどうつながっているか
7	身体について 2	身体とはどういうことか
8	自由について 1	私が何をするか決定されているのか
9	自由について 2	自由とはどういうことか
10	自己について 1	同じとはどういうことか
11	自己について 2	自己とはどういうことか
12	他者について 1	他人の心はどうやって証明するか
13	他者について 2	隣人がゾンビではないとどうやって証明するか
14	演技について 1	演技とはどういうことか
15	演技について 2	オリジナルとコピーとはどういうことか

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

- ・パワーポイント、視聴覚メディアを使用して講義する。
- ・次回授業までに Teams(microsoft forms) を使用して授業についてのコメントを記入してもらい、フィードバックとして、次回授業の最初に主だったコメントを匿名で紹介し教員からコメントを返す。
- ・教科書の該当箇所、授業で指定する参考図書を読んで復習をすること。

(6) 成績評価の方法と基準

① レポート（70%）、② 毎回の授業コメント提出（30%）の合計点により評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	改訂版 イラストで読むキーワード哲学入門	永野潤	白澤社	1,980 円
参考書	必要に応じて紹介する。			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

倫理学

(9) オフィスアワー・その他

授業終了後、または、Teams、メールなどで対応する。
進捗状況によるスケジュールの前後や変更がありえる。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
倫理学（倫理学の基本的理論の紹介と実例による考察）	永野 潤	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（１）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（２）授業概要と目的

倫理学は、道徳哲学とも言われるが、世間で通用している善や道徳をそのまま受容するのではなく、善や道徳について哲学的に考察する学問である。この授業では、そうした倫理学の基本的考え方について講義するが、同時に、障害、安楽死、優生学、ジェンダーなどの具体的問題についてともに考えながら学ぶ。講義中に配布するプリントに沿って授業を進める。講義中に配布するプリントに沿って授業を進める。

マンガや映画などを題材に、かたくなにしない授業をめざす。

実際に自分の頭で考えながら授業に参加してほしい。

（３）到達目標

- ① さまざまな社会問題について説明できる。
- ② 偏見や先入観にとらわれず思考できる。
- ③ 創造的に思考できる。
- ④ 人権について説明できる。

（４）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	はじめに	倫理学とは何か
2	自己決定の問題 1	バイオエシックスと自己決定
3	自己決定の問題 2	パターンリズムの問題点
4	義務論と目的論 1	功利主義について
5	義務論と目的論 2	カントの倫理学について
6	創造的に考える	倫理的ジレンマの批判
7	障害と社会の問題 1	医学モデルと社会モデル
8	障害と社会の問題 2	障害者の権利獲得運動
9	安楽死・尊厳死の問題 1	安楽死と自己決定
10	安楽死・尊厳死の問題 2	社会で支えるという選択肢
11	安楽死・尊厳死の問題 3	優生学の過去と現在
12	ジェンダーの問題 1	自己決定とジェンダー
13	ジェンダーの問題 2	ジェンダーと教育
14	格差と貧困の問題 2	生存権と生活保護
15	格差と貧困の問題 2	労働者の権利の問題

（５）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

- ・パワーポイント、視聴覚メディアを使用して講義する。Teamsで指示するリンクからあらかじめ穴埋め形式のプリントをダウンロードしておくこと。毎回の授業で空欄の用語を埋めて行くことで授業への集中力を高め、内容の理解を深める。
- ・次回授業までにTeams(microsoft forms)を使用して授業についてのコメントを記入してもらい、フィードバックとして、次回授業の最初に主だったコメントを匿名で紹介し教員からコメントを返す。プリントの該当箇所、授業で指定する参考図書を読んで復習をすること。

（６）成績評価の方法と基準

- ① レポート（70%）、② 毎回の授業コメント提出（30%）の合計点により評価する。

（７）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。プリントを配布する。			
参 考 書	必要に応じて紹介する。			

（８）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

哲学

（９）オフィスアワー・その他

授業終了後、または、Teams、メールなどで対応する。
進捗状況によるスケジュールの前後や変更がありえる。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
美術史（日本の美術に親しむ）	山盛 弥生	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（１）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（２）授業概要と目的

美術作品には、それらを生み出した人々、鑑賞してきた人々、それらを現在まで伝えてきた人々など、多くの人々の様々な思いやメッセージが込められている。それらを読み解き、意味を考えることは、美術作品に対する理解を深めるだけでなく、それらを生みだし伝えてきた、過去の社会や文化についての理解を身につけることにもつながっていく。

授業では、平安時代から江戸時代までの日本の代表的な美術作品を取りあげ、作品に関する基礎的な知識を習得するとともに、作品の表現するもの（特徴、表現形式、デザインなど）について考え、その魅力を味わい、鑑賞する力を養うこと、また、美術作品が、それらを生み出し伝えてきた、時代や地域の歴史的・文化的な状況と密接に関わっていたことを理解することを目的とする。

（３）到達目標

- ① 平安時代から江戸時代までの、日本美術の大きな流れを理解し、説明できるようにする。
- ② 各時代の代表的な作品を知り、それぞれの作品の様式的な特色を説明し、論じることができるようにする。
- ③ 各作品が生み出された文化的・社会的な要因について解説し、作品を鑑賞する際に、制作背景を説明することができるようにする。

（４）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、美術史を学ぶ意味、主な美術館・博物館
2	平安時代の美術Ⅰ	仏画
3	平安時代の美術Ⅱ	絵巻 源氏物語絵巻・鳥獣人物戯画
4	平安時代の美術Ⅲ	絵巻 信貴山縁起絵巻・伴大納言絵巻
5	平安・鎌倉時代の美術	平安時代の工芸・鎌倉時代の仏画
6	鎌倉・南北朝時代の美術Ⅰ	絵巻と神道美術
7	鎌倉・南北朝時代の美術Ⅱ	肖像画と水墨画
8	室町時代の美術Ⅰ	水墨画と狩野派 狩野正信・元信 雪舟・雪村
9	室町時代の美術Ⅱ	大和絵と工芸
10	桃山時代の美術	狩野派と障壁画 狩野永徳・長谷川等伯
11	桃山・江戸時代の美術Ⅰ	狩野派と大和絵 狩野探幽・住吉具慶・土佐光起
12	桃山・江戸時代の美術Ⅱ	琳派 俵屋宗達・本阿弥光悦・尾形光琳・酒井抱一・鈴木其一
13	桃山・江戸時代の美術Ⅲ	風俗画と浮世絵
14	江戸時代の美術Ⅰ	南画と写生画 池大雅・与謝蕪村・円山応挙
15	江戸時代の美術Ⅱ	奇想の画家 伊藤若冲・曾我蕭白

（５）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業では、パワーポイントを使用して、多くの作品の画像を紹介する。拡大画像で作品の細部まで示し、作品の造形的な特徴を解説する。理解度を確認するため、授業内で小レポートを提出してもらう。授業でとりあげた作品について、大月短期大学図書館・大月市立図書館所蔵の美術全集等の大型図版を細部までよく見て、作品の造形的な特色を理解するようつとめること。参考書籍については、授業内で紹介する。また、美術作品を所蔵する博物館・美術館を訪れ、実際に作品を鑑賞するよう心がけること。

（６）成績評価の方法と基準

①定期試験に代わるレポート（40%）②授業内での小レポート（60%）の合計点数により評価する。

（７）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。			
参 考 書	授業内指示。プリント配布。			

（８）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし。

（９）オフィスアワー・その他

質問等については、授業の前後や Teams のチャットにて対応する。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
世界史（アジアにおける国境の形成）	赤城 隆治	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（１）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

２．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（２）授業概要と目的

川端康成『雪国』冒頭の＜国境の長いトンネルを＞は「コッキョウ」なのか「クニザカイ」なのか、議論があります。「コッキョウ」と読むとボーダーとしてのそれを意識しますが、小説後段にも同じ熟語がところどころで繰り返され、実はもっと厚みのあるものを描いているようです。冬の日本海の涯（はて）が暗く水平線のあたりに沈んでいるのは、「フロンティア」という涯であり、視ている自分が近寄ればその「はて」もさらに遠くに移動していきます。ボーダーとフロンティアというふたつの「さかい」概念は相まって、今日の世界を作り上げてきました。今日の「自由主義的ブロック」も「専制主義的ブロック」も、二分できるほど単純ではありません。それらもまた歴史的な形成物であり、双方が入り組みあっている現実もあります。そういう問題を扱います。

（３）到達目標

- ① フロンティアとボーダーが、それぞれどのような意味をもっていたか、またそれは歴史的に何に対応したものか考えます。
- ② そういう「さかい」の問題は、どのような人間の営みの中で形成されてきたものかイメージをもち、論理的に説明する力を身に付けます。
- ③ 近現代世界の歴史は、この「さかい」形成によって、私たちに何をもたらしているのか、具体的な例によって説明することで「認識する眼」を培うことをめざします。これらがこの講義の主眼です。

（４）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	都市国家	都市国家はcityではなく Walled State と訳されます。それはどんなものなのでしょう。
2	領域化のフロンティア	「統一帝国」というとき、その「統一」は何についていっているのでしょうか。
3	ユーラシア・アジアの地域構成	玄奘が「馬主の国」とか「象主の国」というとき、それは動物だけの問題か否か？
4	三国時代の地域性	中国はもちろん、朝鮮半島にも「三国時代」はありました。そのもった意味は？
5	中国古鏡の世界	卑弥呼時代にいたるまで、それはどんな機能を果たしたのでしょうか。
6	「冊封」と「国書」	東アジアにおける秩序形成はどのようなものだったか。遣隋使などで考えます。
7	「洋」と「海」	同じ「うみ」でも使い分けがあります。それはどういうことでしょうか。
8	モンゴル支配とボーダー	モンゴル族のユーラシア支配は「ボーダーレス」を実現したのでしょうか。
9	近世から近代へ	アヘン戦争と「海の帝国」の関係はどのような「フロンティア」拡大のか？
10	民主のフロンティア	「民主」は「専制」への対抗概念ですが、その主体は、個人？、組織（党）？
11	勢力圏というボーダー	列強による支配・収奪には植民地以外に「租借」という形式もあり、多様でした。
12	第二次大戦の欧州フロント	飢餓と寒冷こそ戦争がもたらしたものです。人々はその時代、どう生きたのでしょうか。
13	第二次世界大戦の太平洋フロント	アジアにおける前線と飢餓の広がりについてかんがえましょう
14	東西対立と戦後世界	WWⅡ後の世界は「冷戦」とその激化によって、地域に悲劇をもたらしました。
15	今日の国境、ボーダーとフロンティア	線引きとブロック化がもたらした諸問題を考えます。

（５）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業の中でいろいろな問いかけをしながら考えていきます。歴史には基礎になる事実がありますが、それが垂直に積み重なっただけでは、今の世界は出来なかったでしょう。事件には「背景」があり、出来事には原因とこれともなう影響があります。ややこしく考えるためではなく、認識をすっきりさせていくため、努力していきましょう。

（６）成績評価の方法と基準

- ①期末における試験もしくはこれに代わるレポート（80％） ②授業内レポート（20％）

（７）使用書

円	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書				
参 考 書	『日本軍兵士ーアジア太平洋戦争の現実』	吉田 裕	中央公論社（新書）	902 円

（８）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし。

（９）オフィスアワー・その他

授業の前後にはできるだけ時間の余裕を設けますので、質問などを受け付けます。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
東洋史（近現代東アジアの形成）	赤城 隆治	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

文字は日用の便利のために発明されたわけではなく、「神聖な行為」の中ではぐくまれた文化です。また、皇帝がいるから「帝国」なのではなく、カエサル（シーザー）ぐらいの時代には「我々の Empire」という言い方がありました。それは、「帝国」が大きく属州までを含む、包括性を意味していますが、一方でローマ帝国は＜収奪のシステム＞の上になりたっていました。人々を結びつける「きずな」には地縁、血縁があります。これらが、どの時代にどういう意味で機能したのか、それも考えてみたいものです。各地域には「個性」もありますが、「普遍性」もそなえています。一人ひとりの顔はちがいますが、そこにそなわっている感覚器（眼や耳）は誰にもあります。「個」と「全体」が相互に影響しあって、今日の世界、アジア社会をつくっていることに目を向けたいものです。

(3) 到達目標

- ① アジアの文明発祥からその高度化までを見渡し、今日のアジア社会に何を遺産として伝えたのか、認識します。
- ② 制度がもった意味をその外形、弊害だけで語るのはではなく、それが何を目的とし、何を実現したのか、文章で説明できる能力を身に付けていきます。
- ③ 近代世界の中で、伝統的なものと新しいものの葛藤の中、何が生まれていったのか、具体的な事例で解き明かす能力を培います。これらがこの講義の主眼です。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	文字と信仰、祭祀	古代においては、祭祀は社会の重要事項で、精魂・資材をつぎ込みました。
2	儒教と法家思想	両者あいまって、後の中国社会の重要なシステムを作っていった古代思想。
3	領域化と秦漢帝国	皇帝がいたから「帝国」なのではありません。実質、Empire の訳語です。
4	分裂か分立か	「三国時代」は「分裂」した結果でしょうか？それぞれの地域性はどうかかな。
5	唐宋時代の文書行政と科挙	まさに「文」の国ですが、紙・印刷の登場はなにをどう変えたのでしょうか。
6	遊牧騎馬とユーラシアの地域性	江上波夫氏の「騎馬民族説」の弱点はどこにあるのでしょうか？
7	モンゴル帝国、後裔としての満洲族	満洲族の長は「チンギス・ハーン」の跡を継いだ、という意識で、何がつくられたのか。
8	アヘン戦争と洋務	「洋」は、昔は「東海」と同義、しかしこの時代には「西洋」ということに。
9	清末の帝国システム再編	通信や鉄道はたんに「近代文明の利器」ではなく、統治との関連で設備されました。
10	辛亥革命と「大一統」	孫文と「反革命」袁世凱の政治観は非常に近く、孫文氏は袁を信頼していたのです。
11	近代思想の潮流	康有為・梁啓超の国体改革論や、革命論、五四運動の思想を跡付けましょう。
12	1930年代の中国	「北伐」をへての経済発展と日本による「満洲国」創設という逆説。
13	抗日戦争と国民国家	日本の侵略は＜中国「国民国家」＞の父かもしれません
14	権力闘争と党路線の混迷	中国共産党は不変かという、むしろ揺れの大きな政治主体でした。
15	現在の東アジア	複雑な様相を呈する東アジア、北東アジアの現在を考えます。

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業の中でいろいろな問いかけをしながら考えていきます。歴史には基礎になる事実がありますが、それが垂直に積み重なっただけでは、今の世界は出来なかったでしょう。事件には「背景」があり、出来事には原因とこれにともなう影響があります。ややこしく考えるためではなく、認識をすっきりさせていくため、努力していきましょう。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①期末における試験もしくはこれに代わるレポート（80％） ②授業内レポート（20％）

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書				
参考書	『日本軍兵士ーアジア太平洋戦争の現実』	吉田 裕	中央公論社（新書）	902 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし。

(9) オフィスアワー・その他

授業の前後にはできるだけ時間の余裕を設けますので、質問などを受け付けます。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
地球科学（地球の変遷と生命の進化）	笠原 茂樹	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（１）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

２．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（２）授業概要と目的

私たちの住んでいる地球は様々な岩石から構成されている。岩石は地球の誕生から現在までの地球で起こった様々な物語が記録された書物のようなものである。我々は、岩石の中に閉じ込められためられた言葉や文章を探り出すことにより、固体地球の変遷や生命の進化の様子を読み解くことができる。

ここ半世紀の間に、岩石に刻まれた、地球史におけるエポックメイキングなイベント（大事件）が次々と明らかになって来た。授業では、まず、地球を構成する約30種類の岩石、鉱物の特性と分析方法を学ぶ。次に、時代を追ってイベントの検証を行うことにより、岩石や鉱物からのデータの収集、解析方法を習得する。最後に、解明された過去の姿と現在の地球とを対比して、固体地球と生命が互いに影響し合い、46億年もの長い年月かけて現在の姿となった経緯を理解する。

また、野外実習を通して身の回りの自然と対峙し、その成り立ちについて調査、考察し、自説を導き出すことを試みる。

（３）到達目標

- ① 地球は固体地球と生命が互いに影響しあい、46億年もの長い年月かけて現在の姿となったことを説明できる。
- ② 地球の構成員の一人として自然との関わり方や、地球環境保護のあり方について論じることができる。
- ③ 地震や火山による自然災害に対して正確な予防策や冷静な対応策を採ることができる。

（４）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	宇宙の中の地球	宇宙の構造と太陽系の形成
2	冥王代の地球（１）	地球の誕生と月の形成
3	冥王代の地球（２）	海洋、大陸、大気の始まりと変遷
4	太古代の地球	生命の誕生
5	原生代の地球	全球凍結と生物進化
6	地球のダイナミクス（１）	プレートテクトニクス（地震、火山、地表の大地形の成因）
7	地球のダイナミクス（２）	ブルームテクトニクス（核から表層部への熱と物質の対流）
8	地球のダイナミクス（３）	単一のマグマから多様な火山の誕生
9	地球のダイナミクス（４）	地震や津波の発生機構と予知
10	地球のダイナミクス（５）	地震や火山による自然災害とその対策
11	地球の構造（１）	地球の多層構造を探る
12	地球の構造（２）	地殻を形成する岩石と鉱物
13	地球の構造（３）	地球表層部の物質循環と地球温暖化
14	山梨の自然と環境（１）	山梨の地質構造と鉱物資源を調べる（野外実習）
15	大月の自然と環境（２）	日本列島と大月の成り立ちを調べる（野外実習）

（５）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

配布した資料を基に、パワーポイントや視聴覚メディアを使用して講義を行う。毎回、講義に登場する岩石、鉱物、宝石などを回覧するので、実物を手に取って観察することが可能である。また、野外実習では、大月の山や、台地や、川を調査して、その成り立ちを考察し、レポートを提出する。

（６）成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（60％）、② レポート（20％）、③ 授業内課題（20％）

（７）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書				
参 考 書	授業内指示			

（８）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし。

（９）オフィスアワー・その他

特になし。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
生物学 biology (生命とは何か)	鈴木 憲仁	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

生物学は、自然科学の立場から「生命とは何か」を研究する学問分野である。原始生命の誕生から41億年、地球大変動の中で、気の遠くなるような進化の過程を経て生命は続いており、現在までに発見されている種だけで170万種以上に分化している。その生命を伝えている設計図であるDNAはどんな仕組みになっているのか。大腸菌、ミミズ、ヒト、植物などのDNAの基本構造は同じであることから生命の祖先は同じものなのか。最新科学で解明された神秘とも言える生命の見事なつくり、はたらきを理解し、生物への興味関心を掘り起こしていく。具体として私たちの身の回りに生育している植物の形・姿、生き方を通して、生命に対する親しみを喚起し、生命とは何かの解明に迫っていく。今日的課題として今私たちは新型コロナに翻弄されている。コロナウイルスとは何かを理解し、生命との関係を明らかにする。全体を通して、自然観察、実物、CGを駆使した映像等で効率良く、楽しく学んでいく。

(3) 到達目標

- ①野外観察や身近な具体物に触れながら、動植物の生き方を知ることにより生命への興味関心を高める。
- ②DNAのつくり、働きを知ることにより、日進月歩の生命科学の基礎を学び、興味関心を引き起こす。
- ③ウイルスとは何かを理解した上で、コロナウイルスとは何かを知り、コロナウイルスとヒトとの今後の関係を考えていく。
- ④生命のすばらしさ、神秘さに感動し、生命の尊さ、大切さが感じ取られ、全生命の上に君臨しているヒトの生き方を考える。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ウイルスとは？	真核生物、原核生物とウイルスの大きさ比較、ウイルスのつくり、ウイルスは生物か？
2	コロナウイルスの解明	コロナウイルスの構造と感染の仕方・予防・免疫、エイズウイルスなど
3	生物は進化しないと生きれない	地球の歴史と生命の誕生、地球大変動の中で生命は如何に生き延びたかその解明
4	学校周辺の自然観察	マツ、スギ、ヒノキ、カシノキ、ケヤキ、エノキなど具体物を知る
5	犬と猫では子はいできない	種とはなにか、種の命名、生物の分類方法、生物の多様性と共通性
6	生命の生きる戦略	花のつくり、自家受粉と他家受粉、花と昆虫の関係、性とは何か
7	落葉樹は冬に何故葉を落とす	植物分布と環境要因、水平分布と垂直分布、日本・世界の植物
8	白神産地のブナは何故世界遺産	植物群落の移り変わり、陽樹と陰樹、極相林、住んでる地域の植物相に眼を向ける
9	日本列島は世界一の森林国	雨の多い日本列島、氷河と日本列島、世界一多種の国・美しい緑・紅葉の国、
10	私たちの細胞には原始細胞が住んでいる	生命の基本単位は細胞、細胞の構造、核・ミトコンドリアとATP・葉緑体
11	バクテリアもヒトも同じ祖先	DNAの二重らせん構造、ヌクレオシド、DNAの複製、4つの塩基
12	タンパク質の合成	タンパク質合成工場リボゾーム、転写RNA、転移RNA、遺伝暗号表コドン
13	iPS細胞とは	細胞の初期化、ES細胞とは？、山中博士の研究とノーベル賞
14	ヒトの受精と誕生	生命誕生の驚異のメカニズム、子宮、卵巣、卵管、胎盤、卵子、精子、性について
15	生命とは何か、性は何故できたか？	自己保存の法則、系統保存の法則、進化の法則、進化は偶然の積み重ね、性の進化

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

- ①DVD映像、パワーポイント、授業内容のプリントを使いながら、学生たちと話し合いながら、質問をしたり、発表させたり、なるべく学生参加型の授業をしていく。
- ②自然観察や具体物（植物）などの実物を使い、比較したり、書いたりする。
- ③全ての授業にワークシートを用意し、授業内容を書きながら覚えるようにさせ、毎時間提出させ評価して次週にかえす。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①授業に対する真摯な取り組みを評価する。そのために毎時間ワークシートを作成させ提出させる。
- ②評価は毎時間のワークシート（14回×5点＝70点）と記述式の期末テスト（30点）とする。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	プリント配布			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「地球科学」—地球の歴史と生物の進化。「文化人類学」—生物とは何かは人間とは何かと重なる

(9) オフィスアワー・その他

- ①授業の1時間前から授業の準備、学生との連絡・会話をします。
- ②授業の30分前は教室で授業準備・学生との話をする。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
数学（経済学のための数学）	上西 雄太	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（１）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

２．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（２）授業概要と目的

数学は、経済学の根幹を支える重要な学問であり、この道具なくして現代の経済・社会を分析し語ることはできない。一方で、数学は理系のものとして経済を学ぶ学生に忌避されがちであるが、これは非常に勿体ない。数学を理解してこそ経済学を深く学ぶことができ、経済・社会の実態を解明し問題を解決する面白みにありつけるのだから。本講義は、その第一歩として経済学に関わる数学の入門的内容を扱う。ただし、実際に講義する内容は初回ガイダンスで皆さんの希望を聞いた上で決定する。下記の授業計画は『改訂版 経済学で出る数学』を教科書として、高校レベルから大学レベルの微分とその経済学への応用を学ぶものであるが、これはあくまで１つの案であり皆さんのレベルや希望に応じて内容を柔軟に変更する。より大学数学に寄った微分積分学の入門講義などにも変更可能である。経済学をより理解したい、あるいは純粋に数学を頑張りたいと思う学生は積極的に履修を検討して欲しい。

（３）到達目標

- ① 経済学を学ぶ上で必要とされる数学の入門的な内容を理解する。
- ② 講義内の演習問題をこなすことで、基本的かつ重要な数学の問題を解けるようする。
- ③ 数学の抽象的な考え方・プロセスを学ぶことで、論理的思考力を高める。

（４）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	講義案を複数提示、履修者の希望調査、講義方針の決定
2	1次関数	関数と変数、逆関数、市場均衡と余剰の分析による理解
3	2次関数	2次関数、平方完成、最大値と最小値
4	指数と対数（１）	指数法則、対数法則
5	指数と対数（２）、数列（１）	底の変換公式、等比数列、等差数列
6	数列（２）	数列の極限、ネイピア数、級数
7	数列（３）	漸化式（差分方程式）
8	1変数関数の微分（１）	微分の理解と導入、導関数の定義
9	1変数関数の微分（２）	n乗の微分、微分演算の線形性、合成関数の微分、逆関数の微分
10	1変数関数の微分（３）	積の微分、商の微分、指数・対数関数の微分
11	1変数関数の微分（４）	関数の増減と最大・最小、最大化・最小化問題
12	多変数関数の微分（１）	2変数関数による多変数関数の微分の理解と導入、偏導関数、偏微分
13	多変数関数の微分（２）	偏微分の計算、n変数関数による偏微分、チェインルール
14	多変数関数の微分（３）	制約なしの最適化について
15	多変数関数の微分（４）、まとめ	ラグランジュの未定乗数法、内容の復習と整理、定期試験について

（５）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式で進めていく。教科書を用いることになった場合、その内容に沿って板書で解説・補足を行う。用いない場合は、独自の講義用資料を配布しそれに従い板書を含めて解説・補足を行う。また、基本的に毎講義の最後に演習問題を解く。この演習の積み重ねにより、理解が深まることを期待する。なお、予習については基本的に不要である。むしろ、授業内容を復習し同様の問題を解く練習を重ねて欲しい。復習用の練習問題も提供する予定である。

（６）成績評価の方法と基準

- ① 定期試験 80% ② 授業内での課題 20% 詳細については、初回講義時に説明する。

（７）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	初回ガイダンス時、必要に応じて指示する。			
参 考 書	『数研講座シリーズ 大学教養 微分積分の基礎』	市原一裕 著	数研出版	2,750 円
参 考 書	『改訂版 経済学で出る数学』	尾山大輔・安田洋祐 編著	日本評論社	2,310 円

（８）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「ミクロ経済学」や「マクロ経済学」の理論を深く理解するための基礎的な数学を、本講義は提供する。また、「統計学Ⅰ/Ⅱ」の一部内容やその発展的な内容（数理統計学）、「計量経済学」などとも関係しており、関連・応用分野は広い。

（９）オフィスアワー・その他

分からなくなったら、是非とも講義中に質問して欲しい。分からないことはその場で解決するのがベストであるし、1人が疑問に思ったことは大抵複数人が疑問に思っていることなのだから。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
統計学Ⅰ（統計学によるデータの分析）	上西 雄太	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

統計学は、数字データを分析する上で基本的かつ有力なツールを提供する学問である。経済学のみならず社会科学の幅広い分野で、データを要約・説明したり、仮説を検証したり、将来を予測するために統計学が応用されており、この道具なしに専門的な学習や研究はできないと言っても過言ではない。逆に言うと、文系学生でも統計学を身に付ければ、専門性を高める上で強力な武器を手に入れたことになる。本講義は、統計学的なデータ分析の手法を習得したいと考える学生に向けた、統計学の入門講義である。Excel を用いつつ、その手法を学んでいく。前期は高校レベルの内容から始まり、記述統計の基本と確率変数・確率分布について学ぶ。「統計学Ⅱ」「計量経済学」をセットで履修しマスターできたら、各々の関心ある分野で専門的なデータ分析ができるようになるであろう。

(3) 到達目標

- ① 統計学の基本的な概念と手法を理解する。
- ② 演習問題をこなすことで、各々が問題関心のある分野について統計学的な手法を用い分析できるようにする。
- ③ 統計学の手法を用いて分析した結果を、各々の口で説明できるようにする。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	講義内容・進め方・評価などの説明
2	データの記述（1）	分布の中心を示す尺度
3	データの記述（2）	分布の散らばりを示す尺度
4	データの記述（3）	度数分布とヒストグラム
5	データの記述（4）	度数分布表からの統計量
6	確率（1）	確率の概念、場合の数に関する計算について
7	確率（2）	公理主義的な定義による確率、基本的な確率法則、独立
8	確率変数と確率分布（1）	確率変数の導入、離散型の確率変数の導入
9	確率変数と確率分布（2）	離散型の確率変数の期待値・分散・標準偏差
10	確率変数と確率分布（3）	連続型の確率変数と確率密度関数、連続型の確率変数の期待値・分散・標準偏差
11	演習	これまでの内容に関する総合演習
12	確率変数の変換	標準化、偏差値化
13	正規分布（1）	正規分布の導入
14	正規分布（2）	標準正規分布、標準正規分布の確率表
15	正規分布（3）、まとめ	正規分布に関する演習、内容の復習と整理、定期試験について

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式で進めていく。基本は教科書に沿った講義レジュメを配布し、その解説・補足を行う。必要に応じて講義の最後に演習問題を解く予定である。また、Excel を用いて実際に分析する過程を見せる。各々ノート PC を持ち込んで、模倣して分析の練習をしても良い。予習については基本的に不要である。しかし、復習と講義外演習には十分な時間を取って欲しい。演習用の練習問題は、教科書に豊富に載っている。また、教科書各章の付録にある Excel による分析の手引きを、実際に手を動かして模倣して欲しい。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験 75%
 - ② 授業内外での課題 25%
- 詳細については、初回講義時に説明する。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	『統計学基礎講義 第3版』	秋山裕 著	慶應義塾大学出版会	3,960 円
参 考 書	『はじめての統計学』	鳥居泰彦 著	日本経済新聞出版	2,456 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

後期の「統計学Ⅱ」で、この講義の続きの内容を扱う。また「経済統計学」は、本講義を補足する内容が多く含まれているのでセットで履修することを勧める。なお、本講義で身につく統計学的手法は、経済学の広い分野で応用が効く。

(9) オフィスアワー・その他

分からなくなったら、是非とも講義中に質問して欲しい。分からないことはその場で解決するのがベストであるし、1 人が疑問に思ったことは大抵複数人が疑問に思っていることなのだから。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
統計学Ⅱ（統計学によるデータの分析）	上西 雄太	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（１）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（２）授業概要と目的

統計学は、数字データを分析する上で基本的かつ有力なツールを提供する学問である。経済学のみならず社会科学の幅広い分野で、データを要約・説明したり、仮説を検証したり、将来を予測するために統計学が応用されており、この道具なしに専門的な学習や研究はできないと言っても過言ではない。逆に言うと、文系学生でも統計学を身に付ければ、専門性を高める上で強力な武器を手に入れたことになる。本講義は、統計学的なデータ分析の手法を習得したいと考える学生に向けた、統計学の入門講義である。Excel を用いつつ、その手法を学んでいく。後期は「統計学Ⅰ」の続きの内容として、統計学的な推測や仮説検定について学ぶ。「計量経済学」をセットで履修しマスターできたら、各々の関心ある分野で専門的なデータ分析ができるようになるであろう。

（３）到達目標

- ① 統計学の基本的な概念と手法を理解する。
- ② 演習問題をこなすことで、各々が問題関心のある分野について統計学的な手法を用い分析できるようにする。
- ③ 統計学の手法を用いて分析した結果を、各々の口で説明できるようにする。

（４）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	講義内容・進め方・評価などの説明
2	統計学Ⅰの復習	確率変数、確率変数の変換、正規分布などの復習
3	中心極限定理（１）	2 個の確率変数の和とその期待値・分散・標準偏差
4	中心極限定理（２）	n 個の確率変数の和とその期待値・分散・標準偏差
5	中心極限定理（３）	標本平均の分布、中心極限定理
6	信頼区間の推定（１）	点推定と区間推定について
7	信頼区間の推定（２）	中心極限定理による母平均の信頼区間の推定
8	信頼区間の推定（３）	信頼係数、信頼区間の推定の利用例、信頼区間の推定の条件と例外
9	信頼区間の推定（４）	t 分布の導入、t 分布表
10	信頼区間の推定（５）	Student の定理、t 分布と信頼区間の推定、利用例
11	演習	これまでの内容に関する総合演習
12	仮説検定（１）	仮説検定の具体例、仮説検定の流れ、統計学的な仮説の立て方と扱い
13	仮説検定（２）	第Ⅰ種・第Ⅱ種の過誤、有意水準、検定統計量、棄却域
14	仮説検定（３）	検定の実施と結論、P 値、利用例
15	仮説検定（４）、まとめ	仮説検定に関する演習、内容の復習と整理、定期試験について

（５）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式で進めていく。基本は教科書に沿った講義レジュメを配布し、その解説・補足を行う。必要に応じて講義の最後に演習問題を解く予定である。また、Excel を用いて実際に分析する過程を見せる。各々ノート PC を持ち込んで、模倣して分析の練習をしても良い。予習については基本的に不要である。しかし、復習と講義外演習には十分な時間を取って欲しい。演習用の練習問題は、教科書に豊富に載っている。また、教科書各章の付録にある Excel による分析の手引きを、実際に手を動かして模倣して欲しい。

（６）成績評価の方法と基準

- ① 定期試験 75% ② 授業内/外での課題 25% 詳細については、初回講義時に説明する。

（７）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	『統計学基礎講義 第3版』	秋山裕 著	慶應義塾大学出版会	3,960 円
参 考 書	『はじめての統計学』	鳥居泰彦 著	日本経済新聞出版	2,456 円

（８）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

内容の続きを講義する関係上、前期に「統計学Ⅰ」を履修することを強く勧める。「計量経済学」では回帰分析に関して深掘りを行うので、実証研究やデータサイエンス関係の職業に関心のある学生は是非履修して欲しい。なお、本講義で身につく統計学的手法は、経済学の広い分野で応用が効く。

（９）オフィスアワー・その他

分からなくなったら、是非とも講義中に質問して欲しい。分からないことはその場で解決するのがベストであるし、1 人が疑問に思ったことは大抵複数人が疑問に思っていることなのだから。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
心理学A（心理学で自分探し）	川島 洋	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

心理学は、「こころの科学」としてマス・メディアなどでも頻繁に取り上げられ、どこか神秘的な学問のように誤解されがちである。本講義では、とにかく誤解されやすい心理学という学問の概要を正しく学び、こころへの興味・関心・理解を深め、心理学的に自分や他者の行動を理解する力を養うことを目的とする。

科学としての心理学を正しく理解するために、心理学の基本的な理論(知覚と認知・感情・欲求・学習)や、「意識と無意識」、「アイデンティティ」などといった、心理学の基礎的用語を学ぶと共に、心理学を「自分探し」の手掛かりとして正しく使用できるよう、心理学的なものの見方・考え方(論理的思考能力・客観的分析能力)が出来るようになることを目指す。また、心理学の理論を応用した、「行動経済学」についても触れていく。

(3) 到達目標

- ①性格について学び、性格形成の要因について知り、自らの性格について客観視できるようにする。
- ②錯覚や思い込みからのミスなどを減らし、他者に対しての先入観を無くして自分として正しい行動を選択することが出来るようにする。
- ③こころの健康や社会的な行動の仕組みを科学的に学ぶことで、自分自身の心身のケアに役立てる。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	大学で心理学を学ぶということ、心理学前史。
2	知覚と認知Ⅰ	こころの世界—知覚の特性と認知のプロセス。
3	知覚と認知Ⅱ	こころの世界—知覚の特性と認知のプロセス。行動経済学について。
4	感情と情動の心理Ⅰ	情動の発生と無意識的・意識的感情について。
5	感情と情動の心理Ⅱ	情動の発生と無意識的・意識的感情について。
6	感情と情動の心理Ⅲ	情動に関わる神経伝達物質とホルモン。
7	動機と欲求Ⅰ	生理的欲求と社会的欲求。
8	動機と欲求Ⅱ	生理的欲求と社会的欲求。
9	学習と記憶の心理	学習のメカニズム、記憶のメカニズム。
10	性格分析と自己理解Ⅰ	類型論と特性論、Y G性格検査法の実習。
11	性格分析と自己理解Ⅱ	性格検査の種類と特徴、エゴグラム(交流分析)の実習。
12	性格分析と自己理解Ⅲ	血液型性格診断(類型論)の誤りと問題点。
13	ストレスと心の健康Ⅰ	うつ病の種類と症状。
14	ストレスと心の健康Ⅱ	うつ病の治療法。
15	ストレスと心の健康Ⅲ	不安障害について。

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業は講義形式で行う。毎回レジュメや資料を配付し、パワーポイントを使って授業を進めていくが、一方的に私が話すだけでなく、性格検査(心理テスト)の実習や、各自が個々の考えを表現する機会(コメントを書いてもらうなど)をできるだけ多く持ち、フィードバックとして性格検査、コメントに対する解説・回答を行う。また、「こころ」という捉えづらい事柄を理解しやすくするために映像資料も多く活用する。特に事前に予習をする必要はないが、授業で学んだことを日常生活の中で活かしていただきたい。

(6) 成績評価の方法と基準

①定期テスト（70%）、②授業貢献度／授業内の活動（20%）、③授業での課題（10%）の合計点数により評価をする。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。レジュメを配布する。			
参 考 書	スタディガイド心理学	美濃哲郎、大石史博	ナカニシヤ出版	2,160 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「心理学A」では心理学の基礎を学ぶ、そのため「心理学B」「生涯発達論」を学ぶ上での基礎ともなる。心理学をより深く広く理解したいのであれば、心理学系科目である「心理学B」「生涯発達論」を履修することを勧める。

(9) オフィスアワー・その他

- ①質問や相談については、授業の前後、あるいは Teams のチャット、メールにて随時対応する。
- ②授業進度および内容については、心理学の新たなトピックがあった場合や、学生の理解度により変更される場合がある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
心理学B（常識を問い直す）	川島 洋	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

「心理学A」では主に個人の心理に焦点を当てたが、「心理学B」では、「社会心理学」とその応用分野に焦点を当て、他者の存在（1対1の対人関係、集団、社会・文化）が、我々のこころ（思考・感情・行動）に対しどのような影響を与えているのかを学ぶ。そして、学んだ知識を自己理解、あるいは他者理解に役立てられるようになることを目標とする。

社会心理学を理解するために、社会心理学の基礎的用語、概念などを学び、身近な対人関係や現代日本社会における社会・文化事象について、発達障害・セクシュアリティの問題（男女格差、性的マイノリティー…）などの事例を通して、社会的価値観あるいは社会規範としての「常識」と「非常識」についての分析・考察を行う。また、社会心理学の応用分野である「恋愛心理学」「色彩心理学」「広告心理学」などを取り上げ、我々が日常生活を送る上で心理学がどのような関わりを持つかについて理解する。

(3) 到達目標

- ① 普段「当たり前」と思っている現代日本社会における様々な偏見や常識について再考し、自分自身のこころの成長、あるいは他者や現代社会について見直す手がかりにする。
- ② 異文化や世代による価値観の違いを知り、多様な視点で物事を捉えられるようにする。
- ③ 各自の生と性（セクシュアリティ）を尊重し、生き方を模索できるようにする。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	講義内容、方針などの紹介、社会心理学とは。
2	自己と社会心理	社会心理学の4つのレベル、私的自己意識と公的自己意識。
3	こころの理論	発達障害について（自閉症スペクトラム・ADHD）。
4	恋愛の心理学Ⅰ	対人行動と社会心理、対人魅力の心理的要因。
5	恋愛の心理学Ⅱ	対人魅力の心理的要因（相手の行動特徴）。
6	恋愛の心理学Ⅲ	対人魅力の心理的要因（非言語的身体運動）。
7	恋愛の心理学Ⅳ	対人魅力の心理的要因（自己の特性）。
8	ユング心理学	ユングによる性格分類、夢分析とは。
9	ジェンダーと社会心理Ⅰ	ジェンダーギャップ（男女格差）。
10	ジェンダーと社会心理Ⅱ	音楽史とジェンダーギャップ。
11	ジェンダーと社会心理Ⅲ	セクシュアリティの構造。性的マイノリティーについて。
12	文化と社会心理Ⅰ	場の理論、社会化と県民性。
13	文化と社会心理Ⅱ	個人主義と集団主義、日本人の価値観。
14	流行と社会心理	流行の特徴、色のイメージと心理効果。広告の心理学。
15	マイノリティーと差別	マイノリティーと差別を描いた映画を鑑賞し考察を行う。

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業は講義形式で行う。毎回レジュメや資料を配付し、パワーポイントを使って授業を進めていくが、一方的に私が話すだけではなく、性格検査（心理テスト）の実習や、各自が個々の考えを表現する機会（コメントを書いてもらうなど）をできるだけ多く持ち、フィードバックとして性格検査、コメントに対する解説・回答を行う。また、「社会心理」という捉えづらな事柄を理解しやすくするために映像資料も多く活用する。特に事前に予習をする必要はないが、授業で学んだことを日常生活の中で活かしていただきたい。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期テスト（70%）、② 授業貢献度／授業内の活動（20%）、③ 授業での課題（10%）の合計点数により評価をする。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。レジュメを配布する。			
参 考 書	図説 社会心理学入門	齊藤 勇	誠信書房	3,024 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「心理学B」を学ぶ上で「心理学A」はその基礎となる。また、「生涯発達論」は「心理学B」と関連する。心理学をより深く広く理解したいのであれば、心理学系科目である「心理学A」「生涯発達論」を履修することを勧める。

(9) オフィスアワー・その他

- ① 質問や相談については、授業の前後、あるいは Teams のチャット、メールにて随時対応する。
- ② 授業進度および内容については、心理学の新たなトピックがあった場合や、学生の理解度により変更される場合がある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
生涯発達論（こころの発達について考える）	川島 洋	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

人間のこころは生涯にわたって発達し続ける。その人間の心理的発達について、これまでの発達心理学の理論や考え方、研究成果などから学び理解する。そして、学んだ知識を自己理解、あるいは他者理解に役立てられるようになることを目標とする。

発達心理学では、人間の心理的発達過程を「乳幼児期」、「児童期」、「青年期」、「成人期」、「老年期」といった世代ごとに区分し、発達を段階的に考える。本講義では、各発達段階における発達心理学としての考え方や発達課題について、現代日本社会における社会事象や社会問題（親子関係の問題・発達障害など）、あるいは映画・アニメなど「物語」を通して理解する。特に「青年期」については、ちょうど大学生にあたる時期であり、「自分は何者なのか」という問題（アイデンティティ）が発達課題となる時期である。現時点での自分自身の発達課題をより深く理解できるよう、青年期については特に多くの時間をかけていく。

（3）到達目標

- ①人々が抱えるこころの問題について、性格や遺伝などその人が元々持っている内面的な要因と、環境など外的な要因の両面から考えることを学び、自分や他者を客観的に見るができるようにする。
- ②各発達段階の課題を理解し、今何をしなければならないのか、また、この先どのように生きてゆくのが望ましいのかを考える。
- ③発達心理学を学び、自己理解あるいは他者理解に役立てられるようにする。また、人生の意味、生き方などについて考える。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	講義内容、評価方法などについての説明。発達心理学とは何か。
2	発達段階と発達課題	フロイト、エリクソン、ハヴィガーストの発達理論。
3	乳幼児期の発達Ⅰ	母子関係の成立—アタッチメント(愛着理論)。
4	乳幼児期の発達Ⅱ	自我の芽生え、対人関係の発達。
5	児童期の発達Ⅰ	社会性の発達、大人との関係。
6	児童期の発達Ⅱ	「物語」から児童期の発達を考える。
7	青年期Ⅰ	青年期の発達課題。
8	青年期Ⅱ	青年期における変化。
9	青年期Ⅲ	「物語」から青年期の発達を考える。
10	青年期Ⅳ	アイデンティティの確立と拡散。
11	青年期Ⅴ	親密性(恋愛)の獲得。
12	成人期Ⅰ	成人期の発達課題。
13	成人期Ⅱ	親密性課題(結婚)、生殖性課題(育児)を考える。
14	成人期Ⅲ	「物語」から成人期の発達を考える(アイデンティティの問い直し)。
15	老年期の発達	死の受容、自分の生の受容。

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業は講義形式で行う。毎回レジュメや資料を配付し、パワーポイントを使って授業を進めていくが、一方的に私が話すだけではなく、性格検査(心理テスト)の実習や、各自が個々の考えを表現する機会(コメントを書いてもらうなど)をできるだけ多く持ち、フィードバックとして性格検査、コメントに対する解説・回答を行う。また、「発達」という捉えづらい事柄を理解しやすくするために映像資料も多く活用する。特に事前に予習をする必要はないが、授業で学んだことを自己理解・他者理解に活かしていただきたい。

（6）成績評価の方法と基準

- ①定期試験に代わるレポート（60%）、②授業貢献度／授業内の活動（20%）、③授業での課題（20%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。レジュメを配布する。			
参 考 書	こころの旅—発達心理学入門	山岸明子	新曜社	2,052 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「心理学 A」は「生涯発達論(発達心理学)」の基礎であり、「心理的 B」は「生涯発達論」に関連する。発達心理学をより深く広く理解したいのであれば、心理学系科目である「心理学 A」「心理学 B」を履修することを勧める。

（9）オフィスアワー・その他

- ①質問や相談については、授業の前後、あるいは Teams のチャット、メールにて随時対応する。
- ②授業進度および内容については、発達心理学の新たなトピックがあった場合や、学生の理解度により変更される場合がある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
身体論	青山 公美嘉	1	前期集中	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

私たちは普段何気なく会話をしたり、自分の意志で行動をしているが、なぜそれが出来るのか、なぜその行動が成り立つのかといった事に注意を向ける事は少ない。身体は発信器であり、受信機である。身体が様々なシグナルを受け取り、身体を動かして送り出す事でそう言った行動は成り立っている。

この講座では自ら動き考える事で、私たちが普段行っているコミュニケーションや行動をもう一度意識下に置き、自分の行動を点検してみたいと考えている。

(3) 到達目標

- ① 出身や年齢ここまでの経歴や目指す専門や興味関心などの背景が違う人達とどのように一緒に活動をしていくことが出来るようになる。
- ② 自分がどのように他者とやりとりする人間なのかを理解する。
- ③ 人と人との間にどのようなやり取りが起こるのかそれはどのように見えるのかを考え協議する。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	この授業がどのように行われていくのかを体験する。
2	自分の身体を知る	意外と知らない自分の体を探ってみる。
3	自分の身体を操る	無意識に行っている自分の行動を意識的にとらえ直す。
4	他の人と関わってみる	一対一や複数での身体的コミュニケーションを行ってみる。
5	言語で関わってみる	相手や相手との距離などで自分の話し方が変化することに気づく。
6	集団を考える	集団の中でどのようなことが起こるか体験してみる。それらの意味を考える。

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

演劇的手法を用いた活動を中心とした体験学習を中心に行う。シアターゲームと呼ばれるようなゲームやエクササイズなどペアやグループでのアクティブな活動を積極的に行っていく。授業の性質上予習は必要ない。授業時間外の学習は基本的にはないが授業内で同意できたものについては何らかの課題が出る場合もある。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 授業への貢献（50%）、② 授業内の課題（50%）。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし。			
参考書	特になし。			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「人間関係論」、「アジア文化講義 A」など他者と関わることを考える授業を受けると何らかの繋がりを見出すことができるかもしれない。

(9) オフィスアワー・その他

集中講義なので基本的に講義日の講義時間の前後30分程度在校しています。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
法学A（日本国憲法を学ぶ）	中路 喜之	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

「法学」の対象は「法」である。では、「法」と聞いて何をイメージするだろうか？ 法は、われわれが意識する・しないとにかかわらず、われわれの生活に大きく関わっている。身近なことから、国の根幹に関わることまでもが、各種の「法」によって規定されている。これから社会に出て行く準備として、自分たちを取り囲む「法」を知っておくべきである。「法」には非常に多くのものがあることを知ること、また個々の内容に加え、法とは何か、法の目的、法の解釈、法の種類なども射程範囲に含まれる。

この講義では、まず法律全体に通じる基本的な知識を学び、そのあとで学習の対象を日本の法体系の中での基礎となる「日本国憲法」にしぼり、半期で日本国憲法全体を概観する。

(3) 到達目標

- ① 法を学ぶ上での前提（六法の使い方、条文の読み方、判例とは何かなど）を習得する。
- ② 「法」についての基本的な知識を理解する。
- ③ 日本国憲法の基本的人権の内容／統治機構についての基礎知識を理解する。

これらを通して、社会の仕組みを理解し、基本的人権の重要性について論じることができるようになることを最終目標とする。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス・法学の基礎	講義の内容・評価方法の確認／六法の使い方／社会規範とは／法と道德の関係など。
2	日本国憲法（総論）	日本の法体系、日本国憲法の性格、基本原則など。
3	基本的人権（総論）	基本的人権とは。その性質、享有主体など。
4	自由権（1）	自由権総論、その分類、経済的自由権、身体の自由について。
5	自由権（2）	表現の自由、二重の基準について。
6	平等権・社会権	法の下での平等、生存権について。
7	参政権・請求権	それぞれの権利の意味、選挙権、裁判を受ける権利について。
8	新しい人権・小まとめ	新しい人権とは何か。人権が問題となった著名判例などを取りあげる。
9	統治機構	権力分立制、各国の政治制度などについて。
10	国会	両院制、衆議院の優越、国会議員の特権などについて。
11	内閣	内閣の権能、議院内閣制、内閣の構成などについて。
12	裁判所（1）	司法権とは何か。民事裁判と刑事裁判、三審制など。
13	裁判所（2）	違憲審査権、裁判員制度、司法権の限界について。
14	地方自治（1）	地方自治の意味、地方自治の仕組み、住民の権利などについて。
15	地方自治（2）・まとめ	地方自治の現代の課題・前期のまとめ。

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

原則として講義の形式で行う。法律は積み重ねの学問であり、毎回のテーマを次の授業までに理解するように復習に力を入れて欲しい。その一助とするために、原則として前回の講義についての理解度を確認するための小テストを毎回の授業のはじめに行い、その場で答え合わせをする。また、授業中にも、適宜発言を求める機会を設け、その場で考えることを実践していく。予習は、授業の終わりに告げる次の範囲について考えること、参考文献を読むことで足りる。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（80％）、② 授業内での活動（発言、小テスト、課題など）（20％）で、評価をする。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	憲法の時間 第二版	井上典之	有斐閣	2,090 円
参 考 書	ポケット六法 令和6年版	宇賀・佐伯 編集代表	有斐閣	2,420 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

法学B・民法Ⅰ・Ⅱ、家族と法などの法律系科目の基礎となる。

(9) オフィスアワー・その他

- ・授業後やオフィスアワーで質問などを受け付ける。
- ・授業は上記「授業計画」通りに進まない場合がある。
- ・公務員試験受験希望、法学系への進学希望の者は履修を薦める。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
法学B（法律を使う・なれる）	中路 喜之	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

法律はわれわれの身近に存在し、いろいろな働きをしている。どのような法律があるのかを知り、それらについての基礎知識を持つことは、自分の直面する紛争や問題の解決に役立つものである。また同時に、実際の事例の中でどのようなことを考えて解決策を導いているのかを学び、バランス感覚を養うことも目的としている。

法律が使われる場面に触れることを考え、本講義では、主に民事訴訟法と刑法とを取り上げることとする。前者は、社会の中の紛争の解決策の1つであり、換言すれば、自分の権利を護る方法の1つであるのが裁判（訴訟）であり、どのようにして訴訟が進められるかを学ぶことは意味がある。また、後者は、社会が「犯罪」に対してどう対処するかについて規定するものであり。刑法を考えることで、法（＝社会）どのようなことを護ろうと考えているのか（「法益」は何か）を考えてもらう目的を持つ。

(3) 到達目標

この講義では、われわれの身近な出来事の解決策とも言える、民事訴訟、刑法を概観して、①それぞれの内容を理解することを通して、②問題についての分析、それについて多様な利益のあること（多角的な見方）を身に付け、③それぞれの制度・法律がどのような働きをしているのかの説明ができるようになる。同時に、④対立する当事者の公平をどのように図っているのかを考え、自らも対立する利益の双方から考えられるようになることを目標とする。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の内容・進め方。評価について。
2	民事訴訟法の基礎知識	民事訴訟法とはどういう法律か。民事訴訟法の目的など。
3	民事訴訟法（1）	訴えの提起、訴えの種類などについて。
4	民事訴訟法（2）	民事訴訟に関する原則について。
5	民事訴訟法（3）	口頭弁論について。口頭弁論の諸原則。
6	民事訴訟法（4）	口頭弁論の中での当事者の役割について。
7	民事訴訟法（5）	証拠、証明について。証明責任、人証・物証について。
8	民事訴訟法（6）	判決について（判決の種類、効力など）。
9	刑法の基礎知識	刑法とはどういう法律か。刑法の目的・役割など。
10	刑法（1）	構成要件について（実行行為、結果、因果関係など）。
11	刑法（2）	違法性について（違法性阻却事由について）。
12	刑法（3）	責任について。
13	刑法（4）	個人法益に関する罪
14	刑法（5）	社会法益に関する罪
15	刑法（6）	国家法益に関する罪

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

原則として講義の形式で行う。法律は積み重ねの学問であり、毎回のテーマを次の授業までに理解するように復習に力を入れて欲しい。その一助とするために、原則として前回の講義についての理解度を確認するための小テストを毎回の授業のはじめに行い、その場で答え合わせをする。また、授業中にも、適宜発言を求める機会を設け、その場で考えることを実践していく。予習は、授業の終わりに告げる次の範囲について考えること、参考文献を読むことで足りる。

(6) 成績評価の方法と基準

① 定期試験（85%）、② 授業内での活動（発言、小テストなど）（15%）で、評価をする。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	ポケット六法 令和6年版	宇賀・佐伯 編集代表	有斐閣	2,420 円
参 考 書	授業内に指示する			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

法学A、民法Ⅰ・Ⅱなどの法律科目全般と関連する。

(9) オフィスアワー・その他

・授業後やオフィスアワーで質問などを受け付ける。・授業は上記「授業計画」通りに進まない場合がある。
公務員試験受験希望、法学系への進学希望の者は履修を薦める。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
文化人類学（世界の民族と異文化研究）	山内 健太郎	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

文化人類学の理論を紹介し、世界の民族と異文化について学習する。人類学理論の主な内容は、文化相対主義、機能主義、伝播論、構造主義などである。これらの理論と共に、文化における理解やその課題について講義する。また、講義内容に沿った映像を用いてより理解を深める。映像ではバブアニューギニア、南米アマゾン密林地帯の先住民族、中国ナシ族、日本などの生活を紹介する。文化人類学の理論と映像から「異文化とは何か」、「民族問題」、「多文化共生」などのテーマや、フィールドワークの事例をあげながら文化人類学からみた現代を学ぶ。

上記を通じて、文化人類学の基礎理論を学習し、文化人類学的な視座の獲得を目的とする。

（3）到達目標

- ①文化摩擦の課題を学び思考する方法を習得する。
- ②文化人類学の古典から現在までの理論を学び、異文化理解について論じることができる。
- ③文化人類学的な視座を習得する。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	「当たり前」ってなんだろう？の学問
2	文化とは何か	文化の定義と議論について
3	文化人類学理論①	フィールドワークとトロブリアント諸島
4	家族と親族	わたしたちの家族を結ぶものは何か
5	文化人類学理論②	トロブリアント諸島の芋と家族
6	文化人類学理論③	「未開社会」の幻想（機能主義Ⅰ）
7	文化人類学理論④	クラ交換（機能主義Ⅱ）
8	文化人類学理論⑤	贈与と互酬性
9	イゾラド	南米アマゾン密林地帯の先住民族
10	文化人類学理論⑥	文化はどのように伝わるのか（伝播論Ⅰ）
11	文化人類学理論⑦	芋はどこから伝わったのか（伝播論Ⅱ）
12	文化人類学理論⑧	日本の地域性
13	文化人類学理論⑨	構造主義について
14	儀礼について	通過儀礼とは何か
15	まとめ	講義まとめ

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式によって進めていく（パワーポイントの併用）。その際、受講生の理解度を高めるために、資料や視聴覚メディア等の各種教材を使用する。上記の配布資料以外に、コメントシートを配布し、回収後に解説やコメントをすることで受講生との双方向性を高める工夫を行っていく。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験またはそれに代わるレポート(70%)、②授業への意欲的参加（30%）の合計点数により評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	必要に応じて示す			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

（9）オフィスアワー・その他

質問や相談等は授業後や Teams にて受け付ける。また、本講義はコメントシートに寄せられた内容を可能な限り講義で紹介する。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
ジェンダー論（ジェンダーとセクシュアリティの理解を深める）	川島 洋	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

ジェンダーとは社会的に規定された性別や性に関する価値観や常識のことであり、多様性の尊重が求められる現代社会においてジェンダーを理解することはとても重要なことである。

ジェンダーは性別役割、男女の権力・賃金格差、子育て、教育、家族制度、セクシュアリティ、性的マイノリティ(LGBTQ)など、政治・経済・教育など様々な社会問題に関わっている。本講義では、ジェンダーの概念やセクシュアリティの多様性を理解し、ジェンダーを起因とする問題についてより多角的な分析と理解ができるようになることを目指す。また、あたりまえとされている性規範や性に関する「常識」をあえて問いなおすことで自己や他者への理解を深め、積極的に人や社会との関係を構築できるコミュニケーション能力を養っていくこともこの講義の目標である。

(3) 到達目標

- ①現代社会において「男性である」「女性である」といった性別は、どのように意味づけられ、それが家族制度、セクシュアリティ(LGBTQ)、性別役割、権力と資源の配置などの社会の様々な側面にどのように関わっているかについて理解できるようになる。
- ②現代社会の多様な事象をジェンダー的視点で読み解くことができるようになる。
- ③ジェンダーをめぐる諸問題を自分自身の問題として再認識し、他者への理解や共感を育む。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	講義内容、方針などの説明
2	現代のジェンダー観について考える	「もじりことわざ」創りで男女観を考える
3	ジェンダーに関する基礎知識	ジェンダーの内容について
4	LGBTQについて（1）	「性」の多層構造とセクシュアリティ①
5	LGBTQについて（2）	「性」の多層構造とセクシュアリティ②
6	LGBTQについて（3）	日本社会とLGBTQ
7	男女格差について	ジェンダーギャップ指数から日本社会における男女格差を考える
8	グループワーク（1）	創作「もじりことわざ」の分類・分析
9	フェミニズムとは	フェミニズムの歴史とその思想
10	近代社会とジェンダー（1）	近代社会における男女の地位のありかた
11	近代社会とジェンダー（2）	家父長制とジェンダー
12	学校教育とジェンダー（1）	ジェンダーステレオタイプとジェンダースキーマ
13	学校教育とジェンダー（2）	かくれたカリキュラム
14	グループワーク（2）	学校生活におけるジェンダー問題を考える
15	まとめ	物語を通してセクシュアル・マイノリティが抱える問題を考える

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

- ①現代社会において「男性である」「女性である」といった性別は、どのように意味づけられそれが家族制度、セクシュアリティ(LGBTQ)、性別役割、権力や賃金の分配など、社会の様々な側面にどのように関わっているかについて理解できるようになる。
- ②現代社会の多様な事象をジェンダー的視点で読み解くことができるようになる。
- ③ジェンダーをめぐる諸問題を自分自身の問題として再認識し、他者への理解や共感を育む。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期テスト（70%）、②授業貢献度／授業内の活動（20%）、③授業での課題（10%）の合計点数により評価をする。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。レジュメを配布する。			
参 考 書	必要に応じて紹介する。			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

男女の経済格差を理解する上で労働経済論、社会政策論を、ジェンダーに関する心の問題を理解する上で心理学系の科目(心理学 A、生涯発達論、心理学 B)の履修を勧める。

(9) オフィスアワー・その他

- ①質問や相談については、授業の前後、あるいは Teams のチャット、メールにて随時対応する。
- ②授業進度および内容については、ジェンダーに関する新たなトピックがあった場合や、学生の理解度により変更される場合がある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
情報化と社会 (ITを知るための基礎知識)	深澤 克朗	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

現代社会は、激しく情報化が進展している。インターネット技術や IOT と呼ばれる技術の進展により、企業や人々の生活が大きく変化してきている。本講座においては、コンピュータの歴史や基礎的な知識を学び、AI・ビッグデータ・DX などについてもその仕組みや問題点などについても紹介するものである。A. トフラー氏が予言した「第三の波」がこの情報化社会だと思われる。この著しい情報化は社会構造をも変えてきている。SNS を新しいコミュニケーションツールとして、人々や企業や政府も使っている。しかし、そこには大きな問題点も存在している。我々はその新しい情報化ツールを使いこなすばかりではなく、そこに潜む問題なども意識すべきである。本講座は、情報化の技術的な側面と社会への影響を理解し、現代社会を学ぶことを目的とする。

(3) 到達目標

- ①コンピュータの基本的な原理とその歴史を学ぶ。
- ②AI、ビッグデータ、DX などの先端技術の理解を深める。
- ③情報化社会についてどのような変革がもたらされるのかを、各自考えることを目的とする。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ビッグデータとデータサイエンス	ビッグデータとは、ビッグデータの利用例や分析方法を紹介。
2	コンピュータの歴史	コンピュータの開発の歴史を紹介。半導体について。
3	コンピュータの基本原理	コンピュータのハードウェアについて説明。
4	OS・ソフトウェア・アプリ	OS の役割、ソフトウェア・アプリの原理。
5	プログラミング	プログラミング言語の紹介、プログラミングの方法についてデモを行う。
6	2進数、16進数	2進数、16進数とは。その計算方法。
7	ネットワーク	コンピュータネットワークについて。プロトコルについて。
8	インターネットの仕組み	インターネットの原理や仕組み。IP アドレスなど。
9	セキュリティ	マルウェア（ウイルス）、ランサムウェアやその対策。
10	暗号化	セキュリティ対策のための暗号化手法とその原理。
11	人工知能（AI）、生成 AI、DX	人工知能手法の、ディープラーニング（NN）、生成 AI および DX について紹介。
12	データベース	データベースとは、データベースシステムについて説明。
13	SNS	様々な SNS、GAFA の戦略、監視社会、マイクロ・ターゲティングなどについて。
14	知的財産権	情報化社会での著作権や特許権などについて
15	ブロックチェーン	暗号資産などの仕組み、通貨とは。

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式で行う。パワーポイントなどによる資料説明や資料配布は行う予定であるが、各自ノートもとることを勧める。質問などは講義内でも受け付ける。質問などは、回答などにより皆の理解が深まるので 15 回の講義内で各自最低 1 回はするように。最終レポートは各自が興味を持った分野の内容を深く掘り下げて、現代社会との関連について考えを述べてもらいたい。推薦図書は講義内で何冊か紹介する。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①課題レポート（30%）
- ②最終レポート（70%）

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	オリジナル資料配布			
参考書	特になし			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

情報リテラシー

(9) オフィスアワー・その他

質問等は、授業の前後や Teams にて対応します。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
多文化共生論（多様な文化を持つ「他者」と共に生きるために）	佐藤 いづみ	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（１）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（２）授業概要と目的

社会は「私・私たち」と、その外側に存在する「他者」によって成り立っています。男と女、健常者と障害者、日本人と外国人・・・、様々な「違い・差異」が両者を「区別・分類」しています。そして、これらの違いが、マジョリティ（多数者）とマイノリティ（少数者）を形成するだけでなく、上下関係、異常者のレッテル、いじめ、そして「奴ら」を嫌う phobia（憎悪）を生むことがあるのです。この授業では、「お互いの差異を認め合いながら、社会の構成員として対等な関係を築く＝共生論」を学びます。

以下の問題を取り上げます。①近々の話題・・・温泉のタトゥー問題、捕鯨問題、ナショナルチームの国籍問題、宗教と忌避食品
②宗教が絡む文化摩擦・・・ユダヤ人差別の歴史、③ヨーロッパにおけるイスラムフォビア・・・独仏における“ヴェール論争”④現代日本における外国人労働者問題

（３）到達目標

- ①「私の異文化体験・異文化交流」を書き交流する中で、外国人との交流に積極的な姿勢を身につける。
- ②様々な「差異」と「共生理論」を整理して理解する。
- ③現代世界の文化的差異、特に宗教について、ユダヤ教、キリスト教、イスラムに関する基礎的な知識を身につける。

（４）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	初めに・・・「共生社会論」とは	「私・私たち」と「他者」・・・様々な「差異」
2	身近な文化摩擦・・・タトゥー	温泉旅館はタトゥーを禁止できるか。
3	食文化における文化摩擦	鯨を食べるのは野蛮か。イルカショーは残酷か。
4	動物愛護から動物福祉へ	動物園は動物虐待か。
5	スポーツの世界から国籍を考える	ナショナルチームの国籍。近代国民国家の形成と国籍。
6	人種差別を考える。	社会進化論。優生思想。今日のオーストラリアやカナダにおける先住民族の復権。
7	世界宗教の発生	宗教の発生と紀元前5～6世紀に起こった「世界宗教と自然哲学の共時性」
8	ユダヤ人問題 その1	シオニズムとパレスティナ問題 ユダヤ教について
9	ユダヤ人問題 その2	ヨーロッパ中世におけるユダヤ人迫害 ユダヤ人融資本の形成
10	ヨーロッパの移民問題 その1	ドイツにおける移民問題 キリスト教と国家の関係
11	ヨーロッパの移民問題 その2	フランスにおける移民問題 「ライシテ」とヴェール論争
12	ヨーロッパの移民問題 その3	フランスの移民2世・3世の声（ラップ）を聴く
13	現代日本の出入国管理	人々の移動の増加と人権問題を考える。
14	日本における外国人労働者導入政策	技能実習制度の問題点と新しい「特定技能在留資格」
15	後期講義のまとめ	「私の異文化体験」や講義の中で特に関心が集まった問題について討論する。

（５）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業開始後20分間を使って、各自に書いてもらった「私の異文化体験」を発表・交流し、異文化と積極的にかかわる事の楽しさをまなぶ。授業は、毎回用意するプリントで行う。プリントには、下線部だけのところを設け、受講生が記入して完成させる。このプリントを読んで、理解できないところは積極的に質問することを奨励する。

（６）成績評価の方法と基準

学期末にレポートを提出する。レポートには次の3点を記入する。①配ったプリントのテーマから1つを選んで、講義内容をまとめる。②選んだテーマに関係することがらを、本、新聞記事、マンガ等から付け加える。③自分の意見を述べる。枚数制限なし。

（７）使用書

区分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	プリント配布			

（８）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

（９）オフィスアワー・その他

授業の後、教室または講師控室で質問を受け付ける。また、出席カードの裏に質問内容を書いて提出してもよい。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
キャリアデザイン論A ◆	佐藤 茂幸	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

本授業の目的は、学生自らの将来にわたる「学ぶ・働く」を思考し、本学での学習スタイルを主体的にデザインすることにある。したがって、本学授業の全般に通じる「導入科目」の位置づけとなる。授業の内容は、教育学の範ちゅうとなるキャリア理論と、本学の教育システムの理解をベースに展開する。ここに演習的なワークショップを取り入れ、学生同士や先輩2年生との交流、教員とのコミュニケーション機会を作っていく。これらによって、入学間もない新入生の居場所づくりを行い、他者との良好な関係性や協働する姿勢を獲得することによって学生の自信をつけ、主体的に学ぶ基礎を構築する。

(3) 到達目標

- ① 本学の教育システムを理解し、大学生としての「主体的な学びの構え」を獲得する。
- ② 基礎的なキャリア理論を学び、それをもって「将来を展望する学力」を習得する。
- ③ 他者と「協働する基礎力」を獲得する。
- ④ 「コース選択・専門ゼミ」や「編入学・就職」に関わる「進路選択力」を獲得する。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	科目ガイダンス、高校までと大学の学びの違いは？
2	働くことの意義 ①	寓話「3人のレンガ職人」、地域貢献力、業種と職種、職業選択の要因
3	働くことの意義 ②	ジョブ型雇用、T字型人材、未来が描ける仕事や職種の研究、AI と仕事
4	働くことの意義 ③	六角形モデル、キャリアアンカー、計画された偶発性、幸福につながる適職とは
5	大学生の学びとは ①	本学が求める学力（教養力・自己教育力・問題解決力・地域貢献力）とは
6	大学生の学びとは ②	社会人基礎力と問題解決力、能動的学習、PBL
7	大学生の学びとは ③	キャリア教育とは、キャリアレインボー、外的・内的キャリア、役割実験
8	将来キャリアの思考演習 ①	キャリアゲーム（ライフイベント、資産、保健、リスク）から考える将来展望
9	将来キャリアの思考演習 ②	職業適性検査の実施、自己分析と職種研究、自己開示グループワーク
10	将来キャリアの思考演習 ③	幸せに働くペルソナ企画①（役割分担、基本設定、調査企画）
11	将来キャリアの思考演習 ④	幸せに働くペルソナ企画②（キャリア年表企画）
12	コース選択の学びのデザイン ①	コース選択制とキャリアの関係、18の専門演習とその特徴
13	コース選択の学びのデザイン ②	ゼミ調査とオフィスアワーの活用、教員や先輩学生との交流
14	進路のキャリアデザイン ①	新しい職種や成長分野の卒業レポートによる研究のすすめ
15	進路のキャリアデザイン ②	就職活動の基礎、編入学の学習計画のすすめ、地域インターンシップの紹介

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業の方法は、遠隔（オンディマンド授業中心）と対面（グループワーク中心）の両立で進める。遠隔授業では、キャリア理論等の知識習得を目的に、主に非同期にてテキスト用動画を視聴する。その理解度確認や深い学びになるための、毎回のミニ課題を課す。対面授業では、主に6～7名からのグループワークの演習形式とし、最終課題「キャリア年表」作成につながる内容とする。また、1年後期から開始するコースを選択するための専門ゼミの紹介や担当教員へのアプローチも企画する。これらにより、学生同士・教員間の交流機会を増やし、大学で学ぶことと社会に出て働くことのモチベーション向上を図る。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 最終課題レポート（60%）
- ② 授業貢献度、課題授業に関わるレポート（40%）

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	大学生のための実践的キャリア&就活講座	伊藤宏・高橋修・松坂暢浩	中央経済社	1,760 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

キャリアデザイン論B、インターンシップ実習A

(9) オフィスアワー・その他

本授業は全員履修科目となる。また、対面実習のグループワークは、80～100名規模で実施する予定。その詳細は第1回目のオリエンテーション時に解説する。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
キャリアデザイン論B C1・C2 ◆	キャリアラボ担当教員	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

キャリアデザインとは何か？それは、学歴・職歴を積み重ねていく過去に残る行為と、学業・仕事・生活を計画し開発していく未来を展望する行為から成り立つ。この過去と未来のデザインによって、今を精一杯、学び・生きるモチベーションが醸成されるものである。本授業では、これを目的にキャリア理論の理解を進め、本学でのすべての学びにおける学習意欲を向上させていく。

そして、卒業後の進路をにらんだ、編入学受験や就職活動につながる、きわめて実践的なキャリア行動も習得する。これらを通じて、コース選択制に基づく本学での授業カリキュラムと、各学生自身の進路活動を効果的・直接的に連動させる。

(3) 到達目標

- ① 自身の研究・職業・生活に関わる生涯キャリアを思考することで、持続的な「学習意欲」を確保する。
- ② 実践的なキャリア理論を学び、変化し続ける仕事環境においても満足のいく人生を創り出していける「学習スタイル」を築く。
- ③ 就職希望学生（C1）は、就活で求められる活動内容を理解し、自身が志向する仕事の「職種分析力」を習得する。
- ④ 編入学希望学生（C2）は、将来のキャリアを見据えた受験予定大学を選択し、その「研究企画力」を獲得する。

(4) 授業計画

	テーマ（C1・C2 合同）	授 業 内 容
1	オリエンテーション	未来の働き方は？ 短大卒ロールモデルの紹介（就職と進学） 短大卒の優位性
2	キャリア年表の再考（演習）	人生100年時代のキャリア戦略（パラレルキャリア、リカレント）
3	卒業生キャリアフォーラム	先輩卒業生（2名／卒業後“就職”と“進学”のキャリア）の講演
／	【 就職希望クラス／C1 】	
4	就職活動の手引き	就活のアウトラインとキャリア年表
5		エントリーシートと履歴書の作成
6		職種・業界・企業分析
7		自己分析、筆記試験と面接試験
8	職種研究セミナー （外部講師）	税理士・会計士の仕事（税理士会）
9		自治体・公務員の仕事（山梨県庁）
10	就活実践セミナー （外部講師）	仕事研究のための経営者講話
11		就活スタートアップ（ハローワーク）
12		自己表現／着こなし、身だしなみ
13	就活総仕上げ	採用の現状と実践的な就活
14		先輩内定者からの体験談
15		就活の直前の総括点検、職種分析
		【 編入学希望クラス／C2 】
	編入学の意義と 4年制大学の理解	4年制大学での学びとその意義
		編入学制度の概要
		一般入試、推薦入試の内容
		志望校選定と4年制大学リサーチのすすめ
		編入学受験の短大学習の活かし方
	受験科目と 自己教育力	小論文問題の対策
		英語問題の対策
		志望理由書の書き方、研究企画力
		前年度の受験実績の検証
		先輩合格者からの体験談
	2年次への計画	学習計画、合格に必要なこと
		2年後の就職活動のアウトライン

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

第1回～3回までは、クラス共通の内容をもって、キャリア教育の基礎から応用へと展開していく。これを踏まえ、第4回以降は、Class1を就職希望クラス（C1）、Class2を編入学希望クラス（C2）として、学生の希望を聞いたうえで、2クラスに分けて運営する。卒業後の進路活動をより確かなものにするため、ロールプレイング形式による演習や、外部講師によるセミナー、実務家・先輩・卒業生からの体験談など多彩な講師陣をもって授業運営がなされる。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 最終課題レポート（60%） ② 授業貢献度、毎回授業に関わるコメントペーパーやミニ課題（40%）

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

キャリアデザイン論A、インターンシップ実習A

(9) オフィスアワー・その他

本授業は全員履修科目となる。就職（C1）と編入学（C2）のクラス分けは、第1回目の授業で確定する。また、途中からのクラス変更は、原則、認めないので留意する。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
インターンシップ実習A・B ◆	佐藤 茂幸／キャリアラボ担当教員	1・2	集中	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

インターンシップとは、学生が企業等で自分の専攻している専門分野での学習やキャリアに関連した就業体験を行うことである。これにより、学生は、将来のキャリア形成に向けた短大での学びの強化や見直しの機会を得ることができる。インターンシップの形態は様々であるが、単位取得を前提として、「企業における就業体験を通して学習の必要性を認識し、学習意欲を高める契機とする」、「社会人としてのマナーを育成する」、「職業選択の材料にする」といったことを目的としている。

(3) 到達目標

インターンシップを実施することで、就業経験を積み将来の進路決定に役立てるとともに、社会人としてのモラルや自己啓発による人格形成の確立を目指す。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	事前学習	・受入企業の公開に合わせて希望企業を選択する ・インターンシップ前のマナー講座
2		
3	実習	・1日8時間×5日＝40時間以上の実習（夏季休業中のみ） ・実習日誌（実習日数分） ※インターンシップ実習の形態として、①地域インターンシップ、②自主的インターンシップがある（下記参照）。
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14	事後学習	・実施報告提出 ・成果報告会にて成果報告
15		

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

当実習は、下記2つの形態がある。ともに、1年次か2年次の夏季休業期間中における集中講義として行うものである。

- ① 地域インターンシップ：担当教員やコーディネーター教員が指定する市内・県内の事業所職業体験を行う。地域企業との協働のプロジェクト（例：プロモーション動画の制作）も併せて実施することで、地域貢献力も養う。
- ② 自主的インターンシップ：各自が受け入れしてくれる企業を選びキャリアラボに申請をする。受け入れ条件等が確認できたところで許可となる。実習中は、会社の規則等に従い、かつ、社員の指揮及び監督に従うこと。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 原則として1日8時間×連続5日＝40時間以上の実習、② 実習先は各自で探し申請を行い受け入れ先企業と覚書を交わす。
- ③ 実習先の評価、④ 実習日誌、⑤ 報告書、⑥ 事前・事後指導等を総合して評価認定をする。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	特になし			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

キャリアデザイン論A・B

(9) オフィスアワー・その他

- 2年次生が1年次に「インターンシップ実習A」を修得しており、別の事業所等の職業体験をしたい場合は、「インターンシップ実習B」の履修になる。
- 実習に当たり知り得た秘密を、研修期間中のみならず、その終了後も第三者に漏らさないことを厳守する。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
キャリアデザイン演習 ◆	佐藤 茂幸	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

本授業の目的は、経済産業省が提唱する、「社会人基礎力」の向上に力点をおく。社会人基礎力とは、第1に「考え抜く力（シンキング）」、第2に「前に踏み出す力（アクション）」、第3に「チームで働く力（チームワーク）」の3つの学力で構成され、キャリアを持続的に形成する基礎能力でもある。授業概要は、これを獲得するために、後輩1年生との協働的演習に基づく「ペルソナ・キャリア年表」の作成と、卒業生キャリア調査に基づく「短大生ロールモデル（大月短大卒の優位性）」の企画をもって運営する。こうした演習を通じて、学生諸君は、長い職業人生に求められるキャリアデザイン力を磨くことになる。

(3) 到達目標

- ① キャリア理論を学び、その応用をもって、大学生としての「主体的な学びの構え」を形成する（＝シンキング）。
- ② 調査・交流・発表を通じて、他人を巻き込む「実行力」を身に付ける（＝アクション）。
- ③ チームワークによる協働力とリーダーシップ力を養う（＝チームワーク）。
- ④ 未来のキャリアを展望し切り拓いていく「想像力と意欲」を獲得する。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	科目ガイダンス、授業ゴールの点検
2	将来キャリアの思考演習 ①	グループワークの進め方、1年生との交流、社会人基礎力
3	学ぶ・働くの思考演習 ②	サーバントリーダーシップとグループ運営
4	学ぶ・働くの思考演習 ③	幸せに働くペルソナ企画①：役割分担、基本設定
5	学ぶ・働くの思考演習 ④	幸せに働くペルソナ企画②：職種・業界研究
6	学ぶ・働くの思考演習 ⑤	幸せに働くペルソナ企画③：10年キャリアの企画
7	学ぶ・働くの思考演習 ⑥	プレゼンテーション、意見交換、演習省察
8	ロールモデルの調査演習 ①	キャリア理論の再入門（キャリアレインボー、外的・内的キャリア、役割実験）
9	ロールモデルの調査演習 ②	対象の卒業生の選定と事前の調査（10年キャリアの調査、職種・企業調査）
10	ロールモデルの調査演習 ③	卒業生へのグループヒアリング（2名、就職・編入学キャリア）、卒業生との交流
11	ロールモデルの調査演習 ④	大月短大卒業キャリアの優位性の分析、グループ活動による報告書へのまとめ
12	ロールモデルの調査演習 ⑤	調査報告に基づく発表会、幸せなキャリアのため意見交換
13	職種研究とキャリア年表の作成 ①	1年次キャリア年表の振り返り
14	職種研究とキャリア年表の作成 ②	業界研究・職種研究・自己分析
15	職種研究とキャリア年表の作成 ③	バックキャストによるキャリア年表作成

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業の方法は、1年生との「協働演習」と、卒業生に関わる「調査演習」の両立てで進める。協働演習では、1年次キャリアデザイン論Aに合流し、先輩2年生としてグループワークを主導する。調査演習では、教員が指定した本学卒業生の実際のキャリアを調べるなどし、短大生卒学歴の職種研究を行う。これら演習をもって、キャリア年表とロールモデルを最終課題レポートとして、作成することになる。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 最終課題レポート（60%）
- ② 演習に関わる授業貢献度（40%）

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

キャリアデザイン論A・B、インターンシップ実習A

(9) オフィスアワー・その他

本授業は演習を中心に授業運営がなされる。履修に際しての詳細の留意事項は、期初の履修ガイダンスをもって行う。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
大月学入門（地域社会の歴史と現状を知り、将来を考える）◆	山口 隆太郎	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

本授業は、短大が立地する大月市及び周辺地域について、歴史・文化、地理、産業・経済構造、福祉、企業活動、観光、市民活動等のテーマ別に、毎回学外からゲスト講師を招いてレクチャーして頂き、地域経済・社会の現状と課題を学ぶとともに、これからの展望を考える「地元学」に関する科目である。

大月市は約2万2千人の人口を擁し、県内でもとくに東京都市圏に近接する地方都市であるとともに、JR中央線や富士急行線、中央自動車道等が行き交う交通の要衝でもある。富士登山の入り口でもあり、猿橋などの観光資源にも恵まれている。地域活性化のためにはその地域の実情を包括的に理解することが不可欠であり、大月市を知ることを通じて地域課題を認識し理解する力を身につける。

（3）到達目標

- ・地域社会や経済を包括的に理解することを通じて、地域の抱える諸課題の原因を自ら考え理解した上で、文章で表現することができるようになる。
- ・1年後期からの「地域実習」の選択や、「専門基礎演習」等で学ぶテーマ発見につながる基礎的知識を習得する。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ガイダンス
2	大月市（その1）市勢	市勢の現状と将来ビジョン
3	大月市（その2）歴史文化	大月市の歴史と文化
4	大月市（その3）活性化	大月市の魅力発見と発信・地域づくりと課題
5	大月市（その4）福祉	大月市の地域福祉と今後の課題
6	大月市の地域経済（その1）	市の産業構造、観光の現状と課題
7	大月市の地域経済（その2）	大月市の中小企業の現状と課題
8	大月市の地域経済（その3）	周辺自治体との比較から大月市を知る
9	大月市の地域経済（その4）	中小企業の経営戦略と雇用・人材育成の課題
10	大月市の地域経済（その5）	大月市をめぐる、不動産と生活の状況
11	市民活動とコミュニティ（その1）	地域コミュニティの活動内容
12	市民活動とコミュニティ（その2）	NPO法人「大月エコの里」と地域農業振興
13	市民活動とコミュニティ（その3）	地域の魅力を発信する活動
14	市民活動とコミュニティ（その4）	大月における高齢者介護と地域福祉
15	まとめ	大月の地域課題をふりかえる

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

多彩なゲストスピーカーからのレクチャーを聴き、様々な問いかけに答える形式で進める。授業の最後に、感想やゲストへの提案などをまとめたレポートを執筆する時間を取り、毎回提出してもらう。適宜授業の最初に、前回のゲストの話の振り返りや質問への回答を紹介し、フィードバックと自身の考えの整理に役立てる。

（6）成績評価の方法と基準

- ①毎回の授業後のレポートによる講演内容の理解（80%）、②ゲスト講師への質問・アイディア提言力（20%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特に定めない			
参 考 書	特に定めない			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「公共政策入門」、「経営学入門」等の入門科目、「公共政策コース」の諸科目

（9）オフィスアワー・その他

自身が所属する短大が立地する地域に関する内容が主であるため、優先順位を高くして履修することを薦める。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
地域実習（体験）◆	佐藤 茂幸・榎平 龍宏・山口 隆太郎・ 佐藤 克春・山岸 絵美理	1	後期	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（１）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

- 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
- 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる。

（２）授業概要と目的

本科目は、１年次前期の「大月学入門」で学んだ地域理解を、実習を通じて体得していく科目である。具体的には、学生自らが地域コミュニティの現場に入って大月市等における地域活性化をテーマとして地域の人々との協働作業や体験学習等を行う。その目的は、実社会での様々な実情や課題を自ら体験し、地域社会に対する問題意識を醸成させることに置く。

履修学生は、大月市の地域課題に即した以下の５つのテーマグループから一つ選択し実習を行う。

- 農業グループ …NPO 法人おおつきエコの里との連携による農業体験
- 地域防災グループ …地域を防災の視点で考え、防災の観点から課題を探る
- 観光グループ …観光ビジネスの企画と体験
- 再生可能エネルギーグループ …大月各所で再生可能エネルギーの実現性を検討する
- 地域の情報発信 …大月の面白いところに実際訪問して、その魅力についてレポートを作成する

（３）到達目標

- 地域で行われている活動に触れ、地域が抱える問題や地域再生の活動の意義を語れることができる。
- 地域の現場から自らの思考で問題を発見し、その解決策の具体的なアイデアを提示することができる。
- 異なる世代・異なる地域の人と交流し、多様な価値観のなかでコミュニケーションをとることができる。

（４）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	実習の進め方、グループ分け
2	実習（学外活動）①	・農業：おおつきエコビレッジで棚田米や小麦、野菜等の農業体験 ・地域防災：地域を防災の視点で考え、防災の観点から課題を探る ・観光：観光ビジネスの企画と体験 ・再生可能エネルギー：大月各所で再生可能エネルギーの実現性を検討する ・地域の情報発信：大月の面白いところに実際訪問して、その魅力についてレポートを作成する ※各グループの日程・場所など詳細は履修時「ガイダンス」で案内し、そのうえでグループの所属を確定する。
3	実習（学外活動）②	
4	実習（学外活動）③	
5	実習（学外活動）④	
6	実習（学外活動）⑤	
7	座学等 ①	実習の準備と振り返り、成果発表等を実施
8	座学等 ②	

（５）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業の進め方の基本は、学外における体験学習である。具体的な方法として、フィールドでの調査や討議、発表、実演などを取り入れる。したがって、履修学生は活動に対する自主的・積極的な参加が求められることになる。また、座学においては、学外活動の事前準備を行うとともに振り返りを行い、体験学習の到達目標の定着を図る。

（６）成績評価の方法と基準

実習等の参加状況と活動姿勢（１００％）。

（７）使用書

区分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書	特になし。			
参考書	授業内指示			

（８）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

公共政策入門、経営学入門、大月学入門

（９）オフィスアワー・その他

実習の日程は各テーマグループで異なる。詳細は「ガイダンス」で案内する。一度確定したグループは異動ができないので留意する。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
地域実習（応用）◆	佐藤 茂幸・山口 隆太郎・榎平 龍宏	2	前期	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる。

(2) 授業概要と目的

本科目は、1年次後期の「地域実習（体験）」で得た地域理解を応用し、学生の主体的な実習活動が求められる科目である。一連の地域実習に共通することとして、学生自らが地域コミュニティの現場に入って大月市等における地域活性化をテーマとして地域の人々との協働作業や体験学習等を行いながら実社会の課題等を整理し、その課題の背景や要因等についてヒアリング調査等を行って課題解決に向けて分析を行うことを目的とする。地域実習（応用）においては、履修生は以下の3グループから1つ選択し、実習を進めていく予定である。

- ① 農業グループ …NPO 法人おおつきエコの里との連携による農業体験
- ② 観光グループ …観光ビジネスの企画と体験
- ③ 地域の情報発信グループ …大月の面白いところに実際訪問してその魅力についてレポートを作成

(3) 到達目標

- ① 地域で行われている活動に触れ、地域が抱える問題や地域再生の活動の意義を説明することができる。
- ② 地域の問題構造を明らかにし、その解決策として具体的なアイデアを提示することができる。
- ③ 異なる世代・異なる地域の人と交流し、多様な価値観のなかで主体的なコミュニケーションを発揮することができる。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	実習の進め方、グループ分け
2	実習（学外活動）①	・農業：おおつきエコビレッジで棚田米や小麦、野菜等の農業体験 ・観光：観光ビジネスの企画と体験 ・地域の情報発信：大月の魅力を実際に取材して情報発信 ※各グループの日程・場所など詳細は履修時「ガイダンス」で案内し、そのうえでグループの所属を確定する。
3	実習（学外活動）②	
4	実習（学外活動）③	
5	実習（学外活動）④	
6	実習（学外活動）⑤	
7	座学等 ①	実習の準備と振り返り、成果発表等を実施
8	座学等 ②	

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業の進め方の基本は、学外における体験学習である。具体的な方法として、フィールドでの調査や討議、発表、実演などを取り入れる。したがって、履修学生は活動に対する自主的・積極的な参加が求められることになる。また、座学においては、学外活動の事前準備を行うとともに振り返りを行い、体験学習の到達目標の定着を図る。

(6) 成績評価の方法と基準

実習等の参加状況と活動姿勢（100%）。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。			
参 考 書	授業内指示。			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

公共政策入門、経営学入門、大月学入門

(9) オフィスアワー・その他

実習の日程は各グループで異なる。詳細は「ガイダンス」で案内する。一度確定したグループは異動ができないので留意する。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
地域実習（提言）◆	佐藤 茂幸・榎平 龍宏・山岸 絵美理	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（１）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

- 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
- 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる。

（２）授業概要と目的

本科目は、学生自らが地域コミュニティの現場に入って、大月市等における地域活性化をテーマとして地域の人々との協働作業や体験学習を行うものである。その目的は、実社会での様々な課題を解決するための具体的なアイデアや政策を構想し、それを「提言する」ことに置く。具体的には、大月市の地域課題に即した以下の５つのグループから一つ選択し、実習を進めていく。

- 農業グループ …NPO 法人おおつきエコの里との連携による農業体験
- 地域防災グループ …地域を防災の視点で考え、防災の観点から課題を探る
- 観光グループ …観光ビジネスの企画と体験

（３）到達目標

- 地域で行われている活動に触れ、地域が抱える問題や地域再生の活動の意義を語ることができる。
- 地域の現場から自らの思考で問題を発見し、その解決策の具体的なアイデアを提示することができる。
- 異なる世代・異なる地域の人と交流し、多様な価値観のなかでコミュニケーションをとることができる。

（４）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	実習の進め方、グループ分け
2	実習（学外活動）①	・農業：おおつきエコビレッジで棚田米や小麦、野菜等の農業体験 ・地域防災：地域を防災の視点で考え、防災の観点から課題を探る ・観光：観光ビジネスの企画と体験 ※各グループの日程・場所など詳細は履修時「ガイダンス」で案内し、そのうえでグループの所属を確定する。
3	実習（学外活動）②	
4	実習（学外活動）③	
5	実習（学外活動）④	
6	実習（学外活動）⑤	
7	座学等 ①	実習の準備と振り返り、成果発表等を実施
8	座学等 ②	

（５）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業の進め方の基本は、学外における体験学習である。具体的な方法として、フィールドでの調査や討議、発表、実演などを取り入れる。したがって、履修学生は活動に対する自主的・積極的な参加が求められることになる。また、座学においては、学外活動の事前準備を行うとともに振り返りを行い、体験学習の到達目標の定着を図る。

（６）成績評価の方法と基準

- 実習等の参加状況と活動姿勢（６０％）、② 提言に関わる課題・レポート等（４０％）。

（７）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書	特になし。			
参考書	授業内指示			

（８）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

公共政策入門、経営学入門、大月学入門

（９）オフィスアワー・その他

- 実習の日程は各テーマグループで異なる。詳細は各学期初頭の「ガイダンス」で案内する。一度確定したグループは異動ができないので留意する。
- 当科目は、他の地域実習が１単位に対して、特別に２単位を配している。その理由として、地域提言のレポート等を課しているからであり、履修学生はこのことに留意すること。

科目名	旧科目名	教員名	年次	授業期間	単位
地域データ分析論（データサイエンス入門）◆	経営情報論	佐藤 茂幸	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

地域の多くが人口減少を伴って、持続可能性が危ぶまれている。これに対処すべく、地域にある自治体・企業・社会はさまざまな政策や戦略、活動を展開している。しかしながら、その効果が十分に発揮されているとはいえず、現状、その衰退に歯止めがかかっているとは言えない。そこで求められるのが地域データの分析と活用である。つまり、地域問題をデータに基づいて客観的・具体的に把握し、そしてその打ち手となる地域政策等の効果を定量的に計測するのである。

本講義は、こうした地域データの利活用の基礎を、地域教養プログラムの一環として多面的に学んでいく。そして、得た知識を卒業レポート等で行う調査・研究に生かすことを狙いとしている。また、データサイエンスに必要な理論も網羅的・体系的に紹介し、各自が進学後や就職時に修得すべき専門的デジタルスキルのテーマを見極めることも本授業の目的とする。

(3) 到達目標

- ① 自身の社会的な問題意識において、さまざまな実際の統計データから、地域課題を定量的に把握することが出来る。
- ② 選択したコース分野において、データ分析の意義を第三者に語れることができる。
- ③ データ分析の基礎を修得し、これを卒業レポートにおける自身の研究に応用するといった、モチベーションを獲得している。
- ④ 地域データの活用に基づくデジタル化の本質を捉え、自分自身のキャリア設計や働き方が展望できている。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	データからみる地域状況：人口	地方人口の動態、人口ピラミッド、人口の自然増減・社会増減
2	データからみる地域状況：地域	労働力人口、事例に基づく人口分析（山梨県、大月市を事例に）、地元分析
3	データ分析の意義：経済①	県民経済、自治体の財政力、産業構造、地域間比較による地域経済の分析
4	データ分析の意義：経済②	「漏れバケツ」モデル、地域経済循環分析（生産・所得・分配）
5	データ分析の意義：政策①	EBPM（Evidence Based Policy Making）、アウトカム、インパクト
6	データ分析の意義：政策②	ロジックモデル、KPI、総合計画（事例：大月市の政策分析）、地元分析
7	データ分析の意義：経営①	労働生産性、DX、SCM、IoT、デジタルツイン
8	データ分析の意義：経営②	デジタルマーケティング、D2C、WEB3、ブロックチェーン、データ駆動型経営
9	分析の実際①：統計データ	オープンデータの活用、政府統計（e-Stat）、RESAS
10	分析の実際②：データの収集	統計学の初歩、アンケート分析、分散・標準偏差、散布図、相関関係
11	分析の実際③：現状把握	標本調査、信頼区間の推定、回帰分析、SWOT分析
12	分析の実際④：効果測定	仮説検定、経済波及効果、プログラミング思考、データサイエンスの必要性
13	地域産業と情報技術：農業 DX	FssS、スマート農業、WAGRI
14	地域産業と情報技術：観光 DX	観光プラットフォーム、DMO。ネットワーク効果、地域ブランド
15	地域産業と情報技術：地域社会 DX	スマートシティ、デジタル田園都市、データ連携基盤、ファレンスアーキテクチャー

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本授業は、概ね60分間の講義と、30分間の演習で構成する。講義では、教員の解説に加えて、動画視聴、関連WEBや実データの参照などを多用する。一方、演習は、大月市や学生が居住する地域データを調べながら比較考察する時間を設定する。したがって、課題の発表や教員と学生の双方向の質疑応答によって授業を運営していく。そして、講義中において実際の地域データを検索するなどの機会があるため、PC・タブレット・スマホ等の電子媒体の持ち込みを推奨する。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 期末テスト（60％）、② 毎回授業のミニ課題や質疑応答に関わる授業貢献度（40％）。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	授業のなかでテキスト資料を配布する			
参 考 書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

大月学入門、地域実習、統計学Ⅰ・Ⅱ、地域経済論、地方自治論、観光ビジネス論、農業経済学、地域福祉論

(9) オフィスアワー・その他

なお、2022年度以前入学の学生は、専門科目としての「経営情報論」としての履修となるので留意する。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
地域文化遺産論（地域と文化遺産）◆	稲垣 自由	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（１）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（２）授業概要と目的

文化遺産とは、地域の歴史や文化の中でつくられ、地域住民によって現在まで保存・継承されてきたものである。これらを法や条例によって保護していくのが文化財の指定・登録制度であるが、近年では文化遺産を保存するだけでなく、観光やまちづくりの資源として活用することも求められている。また、文化財として固定した学術的・芸術的な価値基準のみならず、地域住民がどのような点に価値を見出して文化遺産を捉えているのか把握することも保存・活用を図るうえで重要な視点となる。

本講義では、講義形式の授業で文化遺産について学習することに加え、大月短大周辺の文化遺産の見学を行うことを通して、文化遺産の保護に関する政策と文化遺産のもつ多様な価値について理解することを目的とする。

（３）到達目標

- ①文化遺産について知り、その保護制度について説明することができる。
- ②文化遺産の多様な価値を理解し、自身の身の回りのものに置き換えて考察することができる。
- ③文化遺産を活用するための視座を修得し、他分野にも応用することができる。

（４）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	文化遺産とは	文化遺産とは何か
2	文化遺産を保護する制度①	文化財保護法について
3	文化遺産を保護する制度②	ユネスコ世界遺産と日本遺産について
4	大月市の文化財	大月市に所在する文化財
5	埋蔵文化財と発掘調査	埋蔵文化財、発掘調査、史跡整備について
6	文化遺産の多様な価値①	文化財活用事例の紹介
7	文化遺産の多様な価値②	規定された「本質的価値」から離れた価値について
8	文化遺産の多様な価値③	虚構と伝説について
9	大月短大周辺の文化遺産①	大月短大周辺の文化遺産見学①
10	見学後の感想発表	感想発表およびディスカッション
11	大月短大周辺の文化遺産②	大月短大周辺の文化遺産見学②
12	見学後の感想発表	感想発表およびディスカッション
13	文化遺産の保存・継承における課題①	人口減少と活動の縮小、担い手の不足
14	文化遺産の保存・継承における課題②	文化財保護法改正と博物館法改正
15	まとめ	これまでの総括と今日的な論点

（５）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には講義形式で授業を進めていくが２回程度学外でのフィールドワークを行う。毎回レジュメや資料を配付し、パワーポイントを使って授業を進めていくが、各自が個々の考えを表現する機会（終了後のコメントカード提出とそれに対するリアクションを授業の初めに行う）をもつようにする。また、画像・動画等の資料を積極的に用いて文化遺産について具体的なイメージを持てるようにする。

（６）成績評価の方法と基準

①学期末にレポートを提出する（70%）、②コメントカードへの感想・疑問について記入や授業貢献度（30%）の合計点数によって評価する。

（７）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。プリント配布。			
参 考 書	授業内指示。			

（８）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

大月学入門、社会文化入門

（９）オフィスアワー・その他

特になし。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
経済学入門C1（経済学の基本的問題）	范立君	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

本講義は経済学の歴史を重視しながら、経済学がどのような問題を取り上げ、どのようにその問題の解決に取り組んでいるのかを説明する。さらに、そのような問題への扱い方や解決の仕方によっては、に経済学のいくつかの主要な分類を入門レベル的に紹介する。本講義は主に以下の3つの内容から成る。

- 第1、経済学は主にどのような問題を取り上げるか
- 第2、マクロ経済学、ミクロ経済学の基礎知識
- 第3、社会経済学（マルクス経済学）の基礎知識

（3）到達目標

- ① 将来、経済系大学に進学するための基礎学力をつける。
- ② 立派な社会人として、多くの分野に応用できる物事の見方や考え方を知ること。
- ③ 経済関連のニュースを読んで、聞いて、ある程度関心を持つこと。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	経済学入門C1で何を学ぶか
2	学問と人類の歴史	すべての学問は人類の歴史の中で創出されている
3	経済と社会	『ロビンソン・クルーソー』と経済の意味、社会のとらえ方
4	経済学の歴史①	古典派経済学（重商主義と重農主義）
5	経済学の歴史②	新古典派経済学、ケインズ経済学、政治経済学（マルクス経済学）
6	経済学の歴史③	発展段階論
7	交換と市場の問題①	市場とはなにか？（動画資料視聴）
8	交換と市場の問題②	市場の力と政府の役割
9	需要と供給の問題①	価格と価値、付加価値の高い商品とはなにか？
10	需要と供給の問題②	需要曲線と供給曲線（動画資料視聴）
11	資本の問題①	資本とはなにか？原始共同社会から資本主義社会まで、社会主義社会は？
12	資本の問題②	資本のグローバル的な展開
13	労働の問題	労働と労働力の違い、労働の疎外問題
14	国民所得とその分配の問題①	GDPとGNPの違い
15	国民所得とその分配の問題②	所得分配とは、幸福の源泉

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本授業は授業シラバスを見て、予習できる部分を事前に予習することを望ましい。授業内では、講義をするとともに、関連の視聴覚メディアと新聞記事などの印刷物をも利用する。また、学生の集中力と思考力、そして理解力を高めるため、必要な時に、学生に質問を投げたりもしている。

（6）成績評価の方法と基準

- ① 期末定期試験（70%）、② ひと言カードへの感想・疑問への記入（30%）の合計点数により評価をする。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	図解 社会経済学 入門経済学 第4版	大谷禎之介 伊藤元重	櫻井書店 日本評論社	3,300 円 3,300 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

社会経済学、マクロ経済学、ミクロ経済学、基礎経済学など、「経済コースの主要科目」の履修を勧める。

（9）オフィスアワー・その他

水曜日（11：30～12：30） ※諸般の事情により、講義内容を多少変更することがある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
経済学入門C2（経済学は役に立つのか？）	伊藤 誠一郎	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。

（2）授業概要と目的

18世紀末にアダム・スミスによって作り出された経済学も、20世紀末あたりになると、マルクスやケインズがつくった経済図式もゆきづまりをみせ、経済学そのものへの信頼が失われてきた。ソビエト型社会主義が崩壊したあと、一見信頼を取り戻したかのように見えた徹底した自由主義経済も、2008年の世界金融危機や2011年のユーロ危機によって行き詰まりを露呈してしまった。本当の八方ふさがりである。しかし、こうした事態を逆から見ると、いまこそ経済に、そしてそれを理解する方法である経済学に、どのような問題があったのか考える絶好の機会ともいえる。実際、さまざまな問題に突き当たって、政策的にも、理論的にもさまざまな解決策が次々と示されてきている。本講義では、もはや経済学は役に立たない、とは考えず、いまこそ経済学の視点から、どのような解決策が見出せるのか、探っていきたい。

（3）到達目標

- ① 経済学的な思考方法を身につける。
- ② 経済学の基本用語や基本的な知識を身につける。
- ③ 経済学の前提となる、社会全体に対する視点についても考える。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	生きるとは	働くこと、遊ぶこと
2	働きすぎ(1)	労働は楽になっているのか
3	働きすぎ(2)	働いているのか、働かされているのか
4	資本主義のはじまり	資本主義の歴史はたかだか200年
5	資本主義のメリット	自由競争のメリット
6	資本主義のメカニズム	需要と供給
7	労働(1)	労働という商品
8	労働(2)	失業
9	雇用政策とケインズ	ケインズ政策
10	貨幣市場	カジノ資本主義
11	豊かさとはなにか	バブル経済の中身
12	豊かさをもとめて	住みやすい社会
13	環境と経済	環境問題は環境だけの問題ではない
14	生活と経済	新しいライフ・スタイルを求めて
15	経済と歴史	歴史から見た経済、経済学の歴史

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式。板書と口頭での説明をノートに取ってもらうが、学生の知識量、理解度を確認するために、適宜、挙手を求めたり、個別に指名して質問に答えてもらうことがある。また、毎回の授業内課題（質問に対する答え、自由コメントなど）への回答を通じて、理解を深める。

（6）成績評価の方法と基準

- ① 授業内課題（100%）。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。			
参 考 書	授業内指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

（9）オフィスアワー・その他

質問等は授業の前後、オフィスアワーでも答えます。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
経済学入門C3（経済及び経済学への導入）	内藤 敦之	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。

（2）授業概要と目的

経済というのはどういう現象であるのか。この講義では経済学への導入を目的とするが、まず、最も基本的な点に重点を置いて展開していく。経済現象は、必ずしも、あまり意識されることはないが、日常生活において重要な役割を果たしている。例えば、景気や物価であるとか、失業や給料の水準といった労働の問題等々がある。こういった問題を簡潔に説明するだけでなく、関連する理論も紹介しながら、経済現象及び経済学がどのようなものであるかを学ぶことを目標としたい。このため、様々な経済トピックを紹介しつつ、経済理論および、他の講義での内容への導入となるように構成していく。

（3）到達目標

- ① 経済現象及び、経済学への関心を高めること。
- ② 初歩的な経済理論を学んだ上で、簡潔な分析ができること。
- ③ 経済において、特に日本経済における重要なトピックを知った上で、簡潔な分析ができること。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	講義内容の説明
2	日本経済の概観	日本経済における重要なトピック
3	所得①	GDP とは何か、国民所得
4	所得②	三面等価の原則、GDP の意味
5	様々な経済学①	経済学の歴史と様々な経済学
6	様々な経済学②	古典派、新古典派、ケインズ
7	マクロ経済学①	有効需要の原理
8	マクロ経済学②	マクロ経済政策
9	ミクロ経済学①	需要と供給
10	ミクロ経済学②	需要曲線と供給曲線による分析
11	政府と財政	政府の役割と財政の問題
12	金融	貨幣とは何か、銀行の役割
13	労働と社会保障	失業、賃金、年金
14	グローバルな経済	貿易と国際金融、グローバリゼーション
15	日本経済の課題	長期不況、少子高齢化

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式でプレゼンテーションソフト使用、Microsoft Teams により、毎回、課題を課す。講義資料は Teams 上で事前配布する。毎回、コメントペーパーを配布し、次の講義における前回の復習等の時間において適宜、疑問点や質問などに対するフィードバックを行う予定。毎回の講義は事前に配付した講義資料を予習してくることを前提として行う。また、復習は内容上、必須である。

（6）成績評価の方法と基準

- ① 定期試験(60%)、② 課題(40%)、③ 授業貢献度(10%以内、ただし課題に含める)。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	特になし			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済データの読み方、基礎経済学。
その他、経済系科目とは内容上の関連があるため、積極的な履修が望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

オフィスアワー以外でも講義に関する質問は Teams のチャット等でも受け付ける。

科目名	旧科目名	教員名	年次	授業期間	単位
公共政策入門C1（現代日本における公共政策）	地域政策入門C1	澁谷 朋樹	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。

(2) 授業概要と目的

本講義は、公共政策の意義や政策づくりの視点・方法を中心に学ぶものである。社会で対応していかなければならない問題の解決が公共政策である。現代日本では、財政赤字への対応や社会保障制度の持続可能性、地域間の経済格差など、社会で解決しなければならない多くの問題がある。また、少子高齢化が進んでいる状況の中で、どのように現状を把握していくのか、課題を検討していくのかを考えることは重要である。公共政策学は、こうした諸問題を解決するための方策や方向性を提示するのに必要な学問であるといえる。そこで、現代日本の政策問題を発見・分析するために必要な視点を、国や地域の具体的な事例を交えながら学んでいく。

本講義を通じて、現代日本が抱える諸問題を明らかにし、政策問題を解決するための提言を行うことができる基礎的な力を身につけることが目標となる。また、構想した政策の妥当性を検討するための各種データの基本的な活用方法の習得も目指す。

(3) 到達目標

- ①公共政策の実態について基礎的な知識を理解することができる。
- ②政策づくりの視点を理解した上で、政策問題を発見することができる。
- ③収集した各種データを利活用し、持続可能な社会づくりのための政策提言を行うことができる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義の計画と各テーマについて
2	公共政策とは何か①	福祉国家と公共政策の発展、公共政策学の誕生とその特徴
3	公共政策とは何か②	政策づくりの視点、政策サイクル・PDCAサイクル
4	国と地方自治体①	「中央集権」と「地方分権」、日本における政府間関係
5	国と地方自治体②	日本の予算・決算制度、政府間財政関係
6	国と地方自治体③	地方自治体の役割、地方財政の現状
7	現代日本と政策問題①	少子高齢化の進展と人口減少社会
8	現代日本と政策問題②	社会保障をめぐる諸問題
9	現代日本と政策問題③	社会資本整備と公共投資のあり方
10	現代日本と政策問題④	地域間格差と過疎地域
11	公共政策と地域①	富山県富山市の事例
12	公共政策と地域②	岩手県紫波町の事例
13	公共政策と地域③	長崎県大村市の事例
14	持続可能な社会と公共政策	持続可能な地域の発展と公共政策のあり方
15	まとめ	講義のまとめ

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には、講義形式によって進めていく（板書とパワーポイントの併用）。その際、受講生の理解度を高めるために、資料や視聴覚メディア等の各種教材を使用する。また、コメントペーパー等を活用して、受講生との双方向性を高める工夫を行っていく。なお、講義内で時事的な問題を積極的に取り上げていく予定である。そのため、受講生は日頃から各種メディアの報道を通じて、現代の政策課題に関する情報をフォローしておくことが望ましい。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①期末レポート（70%）、②コメントペーパー（30%）の合計点数により評価をする。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし。資料を配付する。			
参考書	必要に応じて紹介する。			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

大月学入門、地域経済論、現代経済論、財政学、地方財政論の履修をお勧めする。

(9) オフィスアワー・その他

担当科目に関連する質問や相談は、基本的に講義の前後に受け付けます。また、本講義は上記の内容で進めていく予定ですが、コメントペーパーに寄せられた意見を可能なかぎり講義に反映させていただきます。

科目名	旧科目名	教員名	年次	授業期間	単位
公共政策入門C2（公害問題から考える）	地域政策入門C2	佐藤 克春	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。

（2）授業概要と目的

環境問題は、その地域のあり方と結びついて発生している。戦後の高度成長期には、経済成長を優先するあまり、人々の健康を蝕む深刻な公害が発生してきた。四大公害はその典型である。本講義では、環境問題がもたらす地域へのインパクトと、それらを改善するための政策について、公害他、公共事業による環境破壊、まちづくりなどの具体的なケース・場を通じて論じる。

（3）到達目標

- ① 環境問題の幅広いアプローチについて具体的問題を通じて学ぶ
- ② 環境問題の発生要因を構造的に学ぶ
- ③ そのうえで解決のための主体的姿勢を身に着けることです。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	ガイダンス。講義の進め方。評価方法について。
2	環境問題の諸領域	汚染・自然保護・アメニティ
3	水俣病①	健康被害と被害構造
4	水俣病②	なぜ被害は拡大したのか？企業責任と行政責任
5	水俣病③	被害の救済、未認定患者問題
6	水俣病④	環境再生
7	イタイイタイ病①	鉱業による公害
8	イタイイタイ病②	公害発生企業から環境配慮企業へ
9	四日市ぜんそく①	工場由来の大気汚染
10	四日市ぜんそく②	課徴金による汚染抑制
11	公共事業による環境破壊①	川辺川ダムにみる環境破壊と治水論争
12	公共事業による環境破壊②	環境アセスメントの検討
13	まちづくり	景観紛争
14	ナショナル・トラスト	自発的取り組みによる自然保護・アメニティ保全
15	本講義のまとめ	

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義内では、関連書籍を紹介する。興味のあるものを選び、各自読み込むこと。日々、環境問題のニュースを収集すること。

（6）成績評価の方法と基準

- ① レポート（80％）、② 授業内コメント（20％）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	講義内で指示する			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学入門・公共政策入門・環境経済学

（9）オフィスアワー・その他

オフィスアワーは講義前後と木曜日昼とする。

科 目 名	旧 科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
公共政策入門C3（公共空間における諸問題と政策課題）◆	地域政策入門C3	榎平 龍宏	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。

（2）授業概要と目的

本講義では、公共政策の重要な概念である「社会的共通資本」に注目しながら、地域経済問題ならびに環境問題や少子・高齢化問題などのさまざまな社会的課題と公共政策との関わりについての基礎的な知識を習得することを目的とする。持続可能な地域社会の構築に適合的な公共政策や地域政策のあり方についても考えてみたい。

本講義は、主に公共政策の企画立案に必要な能力を養うための基盤づくりをするものである。地方自治の重要性に注目が集まっている中で、地方自治体にも政策形成能力が求められている。どのように地域の現状を把握するのか、政策的課題を検討するかを考えることは重要である。そこで、地域を観察・分析するために必要な視点を、具体的な事例を学ぶことにより身につけていく。

（3）到達目標

- ①地域社会を「公（政府）」・「共（コミュニティ）」・「私（市場）」という3つの側面から捉え、そのバランスある発展を進めるためにはいかなる政策が必要か、ということ、地域の抱える課題に即して考え、自分の意見を述べるができるようになる。
- ②政策づくりの視点を理解した上で、その地域の課題を明らかにすることができる。
- ③収集した各種データを利活用できる。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	本講義の内容と目的
2	グローバル化と地域経済①	グローバル化する社会と地域コミュニティ
3	グローバル化と地域経済②	経済社会システムの進化プロセスと定常化社会への展望
4	我が国の地域政策の歴史①	「全国総合開発計画」の展開と地域経済の変貌
5	我が国の地域政策の歴史②	「外来型地域開発政策」の功罪
6	地域経済再生の新戦略①	「内発的発展」に基づく人間と地域の再生
7	地域経済再生の新戦略②	国内・海外における持続可能な発展に向けた地域戦略の事例
8	持続可能な地域社会へ向けた政策課題	持続可能な経済・社会へ向けた地域政策の課題と展望
9	政策とは何か	「政策」と「政策科学」、政策づくりの視点
10	地域政策と公共	政策サイクル、政策評価・行政評価
11	地域を捉える視点	過疎地域の諸問題、「関係人口」とは何か
12	まちづくり事例①	富山県富山市の事例
13	まちづくり事例②	北海道猿払村の事例
14	まちづくり事例③	岩手県紫波町の事例
15	まちづくり事例④	島根県海士町の事例

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式によって進めていく（板書とパワーポイントの併用）。その際、受講生の理解度を高めるために、資料や視聴覚メディア等の各種教材を使用する。また、コメントペーパー等を活用して、受講生との双方向性を高める工夫を行っていく。

毎回配布するプリント資料は穴埋め形式とし、重要な語句や解法などを自ら記入することにより、知識の定着と自ら考える力を養う。

（6）成績評価の方法と基準

- ①定期試験またはそれに代わるレポート（70%）、②授業で提示する課題（30%）の合計点数により評価をする。定期試験の回答例は、補講等を通じて解説する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。レジュメを配布する。			
参 考 書	必要に応じて紹介する。			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済政策、地方自治論、地方財政論、農業経済学、環境経済学など「公共政策コース主要科目」の履修を勧める。

（9）オフィスアワー・その他

原則として上記のスケジュールに従い講義を行うが、進捗状況や時事的な問題を取り扱うことによるスケジュールの前後や変更がありうる。

科目名	旧科目名	教員名	年次	授業期間	単位
公共政策入門C4（地域での暮らしと政策）	地域政策入門C4	唐澤 克樹	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。

（2）授業概要と目的

私たちが暮らす社会は、生活、産業、労働、環境、地域などに関わるさまざまな諸問題を抱えている。公共政策は、このような個人では解決することのできない社会全体に関わる諸問題に対する解決策である。公共政策が扱う領域は、社会政策や経済政策など幅広く、経済学や社会学などの多様な学問分野とも深く関連する。

本講義では、私たちの暮らしに最も身近で生活の基盤でもある地域に焦点をあて、公共政策の基礎的な理論や考え方を踏まえながら、地域を取り巻く諸問題を客観的に把握し、その解決策を考えることが目的である。地域に焦点をあてることで、地域の生活、雇用・労働、産業、商業、中小企業などに関わる諸問題を多角的に考察する。基礎的な理論や考え方に加えて、まちづくりの事例を用いることで考察を深める。

（3）到達目標

- ①公共政策の基本的な理論や考え方を説明することができる。
- ②地域の住民・住民団体、自治体、中小企業などのそれぞれが果たす役割と課題について説明することができる。
- ③地域を取り巻く諸問題を客観的に捉え、自分なりの解決策を提言することができる。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	公共政策を学ぶ意義、授業の進め方、関連科目へのアプローチ
2	公共と公共政策	公共と公共政策、公共政策の概念
3	公共政策の歴史と理論（1）	公共政策の起源、資本主義の発達
4	公共政策の歴史と理論（2）	福祉国家、新自由主義
5	公共政策の立案と参加者	政策の立案、住民と住民運動、自治体、議会
6	公共政策の実施と評価	政策の実施過程、政策評価
7	公共政策と地方自治体	国と地方自治体、地方自治体の役割と課題、自治体職員と公務労働、住民と地方自治体
8	地方自治の課題（1）	市町村合併と自治体再編、公共施設の老朽化と再編、民間委託、指定管理者、PFI
9	地方自治の課題（2）	自治体戦略2040構想、デジタルDX、デジタル田園都市構想
10	地域で暮らす	地域とは、生活の場としての地域社会、経済活動の場としての地域経済
11	地域で働く	就職、起業、ローカルベンチャー、働き方、雇用・労働政策
12	地域のまちづくり（1）	国土の開発と保全、豪雨、地震・津波、防災・減災
13	地域のまちづくり（2）	コンビナート開発と公害問題、環境再生、環境学習、環境政策
14	地域のまちづくり（3）	地域産業の概念と政策、中小企業の概念と政策
15	講義のまとめ	持続可能な地域、地域内経済循環

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

板書、スライド、配付資料を併用しながら授業を展開する。必要に応じて、動画、写真、マップやストリートビューを用いる。受講生自身が文献調査をしたり、ディスカッションをしたりする場を設けるなどして、アクティブラーニングを積極的に取り入れる。毎回の授業で、授業に対する意見、感想、質問等をまとめたリアクション・ペーパーの提出を求める。その内容は、次回以降の授業を通じてフィードバックする。受講生は、授業で聞き取ったことを基にノートを作成し、自分なりの意見をもつことが望まれる。

（6）成績評価の方法と基準

- ①授業内課題（40%）、②期末レポート（60%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	使用しない。			
参 考 書	授業内で紹介する。			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済政策、社会政策、日本経済論、地域経済論、日本企業論、地方自治論、地方財政論、農業経済学、地域金融論、環境経済学などを履修することを勧める

（9）オフィスアワー・その他

社会や経済の情勢に注視し、それに対する自分なりの考えをもつこと。講義内容は、社会情勢の変化や受講生の興味関心によって若干変更する場合がある。質問等は、毎回の授業終了後や授業コメントで受け付ける。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
経営学入門 ◆	C1: 佐藤 茂幸、C2: 上笹 恵、C3: 大橋 松貴	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。

(2) 授業概要と目的

本授業は、経営学としての「企業組織を運営する」ための理論を学ぶ入門科目である。そもそも、企業は利益を上げ存続していくことが、経済社会における基本的な使命となる。その企業が利益を獲得し生き残るためには、未来を展望する戦略を立案し、計画的で柔軟な組織づくりを行い、そして従業員の育成・管理するなど、多様な要素を考慮する必要がある。

経営学は、企業がそうした事業活動を継続する際により多くの成果が獲得できるような道筋を示す学問である。科学としての経営学を最大限に活用すれば、事業の成功の確率を高めることが可能になるのである。そこで、本授業の目的は、一連の経営学講義の出発点として、この分野を網羅的・体系的に理解することにおく。初歩的理論を学習しながら、時事ニュース等で具体的な理論の定着も図る。

(3) 到達目標

- ① 経営学の基礎を体系的・理論的に学習しながら、経営に興味を持ち、TVニュースや新聞から企業行動の目的や意図が理解できるようになる。
- ② 企業や経営の仕組みを理解することで、将来の「働き方の構え」を培うことができる。
- ③ 経営コースを選択する場合、卒業レポートのテーマ案や問題意識を設定することができる。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	はじめに	経営学の定義と対象、授業の全体像の把握
2	経営の基本要素をおさえる	経営資源、経営機能、マネジメント、PDCA サイクル
3	経営組織をつくる	組織とは何か、組織形態（機能別組織、事業部制組織、プロジェクト組織など）
4	従業員を管理する①	雇用管理（採用、異動、退職）、人事評価、賃金管理、能力開発、働き方改革
5	従業員を管理する②	リーダーシップ、モチベーション、職場の人間関係
6	経営戦略を立てる	経営理念、経営環境分析、成長の戦略、競争の戦略
7	マーケティングを考える	セグメント、ターゲット顧客、マーケティング・ミックス（4つのP）
8	企業の力を測る（会計）	財務諸表（貸借対照表、損益計算書等）の読み方、経営指標の算出と評価
9	資金を管理する（財務）	会計と財務の違い、資金調達（間接金融、直接金融等）、投資評価
10	情報を管理する（経営情報）	情報システム、デジタル経営、セキュリティ、イノベーション
11	企業システムを統治する①	会社法と株式会社、株主総会・取締役・監査役
12	企業システムを統治する②	株式公開制度、コーポレートガバナンス、法令順守
13	事例研究①	企業経営の成功要因（組織、人的資源、リーダーシップ）
14	事例研究②	企業経営の成功要因（戦略、マーケティング、デジタル、企業統治）
15	経営学の課題	卒業レポート制作にみる経営学、経営学の今日的な論点

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

C1: 学生と教員、学生同士の双方向的授業の形式をとる。つまり、講義授業やビデオ学習を行ったうえで、質疑応答・ミニ課題・事例考察による意見交換などの対話をもって知識の定着を図る。／C2: 重要な項目はすべて板書する。授業内容を復習する際には、理解した内容を文章で表現する訓練を継続すること。／C3: 配布するプリントに書き込んだり、説明内容をノートに板書したりするスタイル。必要に応じてプリントやノートを読み返し、授業内容の整理につとめること。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 期末テスト（80%）
- ② コメントペーパーの内容や質疑応答に関わる等の授業貢献度（20%）

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	ビジネス新・教養講座 企業経営の教科書	遠藤 功	日本経済新聞出版	1,100 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「経営学」の基礎となる。履修・単位修得後は、人的資源管理論や経営組織論、経営戦略論、マーケティング論などの科目履修を薦める。

(9) オフィスアワー・その他

経営コースの選択を予定する学生は必ず履修すること。また、「マネジメント検定Ⅲ級」の受験を考えている学生も、履修を強く勧める。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
社会文化入門C 1 (文化と差異)	渡邊 浩史	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。

(2) 授業概要と目的

大学生活のなかで必要となる能力について考えていく。人間は成長過程において、様々な人間関係や日々変化する社会、文化の在り方に影響を受けている。このような時代状況を生き抜いていくには、自分の個性を磨き、様々な〈知〉を身につけねばならない。

本講義では人間、社会、文化に関する諸問題に多角的・分析的なアプローチを試み、主体的に取り組んでいく。その結果、目の前にある〈現実〉を違う価値観で捉えている様々な人間と共に生きていく態度を身につけてもらう。違う価値観、つまり〈差異〉を認めることで、多様性を守っていく。そのなかで、自分の将来の生き方について深く学んでもらうことを最終的な到達目標とした。

(3) 到達目標

- ① 自分自身が他者（人間）、社会、文化とどのような関係性にあるのか、それらを多角的に考える力を身につける。
- ② 文化と差異について考える。
- ③ 自分の将来の生き方について学んでいく。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	講義内容の説明
2	私の生き方について	大学での〈学び〉の仕組みについて考える①
3	私と他者との関係性	大学での〈学び〉の仕組みについて考える②
4	私と他者と社会、文化との関係性	大学での〈学び〉の仕組みについて考える③
5	社会と文化①	ハイカルチャー／サブカルチャーについて考える
6	社会と文化②	ジェンダー① 女性学について考える
7	社会と文化③	ジェンダー② 男性学について考える
8	社会と文化④	オタクについて考える
9	社会と文化⑤	不良少年について考える
10	社会と文化⑥	恋愛について考える
11	社会と文化⑦	生きにくさについて考える
12	社会と文化⑧	道徳・倫理を超えた人間の本質について考える①
13	社会と文化⑨	道徳・倫理を超えた人間の本質について考える②
14	社会と文化⑩	何が正しいのか？ 究極の選択について考える
15	総括	全体のまとめ

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には講義形式で授業を進めていく。ただし、学生の知識量・理解度を確認するために、グループワークを活用したり、個別に指名して質問に答えてもらったりすることがある。また、毎回の授業内課題（リアクションペーパーなど）への回答を通じて、理解を深める。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験またはそれに代わるレポート（50%）、② 授業内課題(50%)の合計点により評価する。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

後期の日本文学概説（文学）など。その他「社会文化コース」に關係する講義の積極的な履修が望ましい。

(9) オフィスアワー・その他

講義に関する質問はオフィスアワーや Teams のチャット等でも受け付ける。授業の進度・内容は、授業の状況により若干の変更の可能性がある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
社会文化入門C2（社会文化学への招待）	松岡 昌和	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。

(2) 授業概要と目的

社会文化学は、社会を文化という視点で読み解いていく、学際的な領域である。この講義では、文化研究をベースに、本コースで提供する歴史研究、社会学、国際関係論など、他の領域へとつなげていく。文化研究は、広く文化についての考察を行うものだが、それは歴史の教科書の「文化」の欄で扱われるような高級文化のみならず、大衆文化やサブカルチャーあるいは社会や集団で共有された行動様式や思考様式も含めた広い意味での「文化」までを扱う点が特徴的である。そして、人びとの日常に入り込んだ文化が人種、ジェンダー、階級、植民地主義、国際関係とどのように関係しているのかを問い、わたしたちの生活や行動の意味を探究していくものである。本講義は社会文化学の入り口として、いくつかのトピックを概観していきたい。

(3) 到達目標

- ① 社会文化学の基本的な論点について理解する。
- ② わたしたちの日常の思考や行動について、理論的に考察することができる。
- ③ 自身の問題関心を言語化して説明することができる。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	文化とはなにか	生活文化、大衆文化、サブカルチャー
2	文化研究の方法	社会と文化へのアプローチの方法
3	大衆社会とメディア 1	大衆メディアとファシズム
4	大衆社会とメディア 2	メディアとサブカルチャー
5	歴史と国際関係 1	近代世界システムとグローバルな経済格差
6	歴史と国際関係 2	国民国家とナショナリズム
7	歴史と国際関係 3	語られない歴史を語る
8	歴史と国際関係 4	歴史修正主義と陰謀論
9	表象文化 1	オリエンタリズムと芸術
10	表象文化 2	オリエンタリズムと日本
11	表象文化 3	戦争と大衆文化
12	ジェンダー1	ジェンダーの歴史
13	ジェンダー2	フェミニズム
14	ジェンダー3	多様なジェンダー
15	まとめ	

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式で行う。必要に応じて文献や資料の講読を行う。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験 100%

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	なし（資料を配布）			
参 考 書	『ゆさぶるカルチュラル・スタディーズ』	稲垣健志編	北樹出版	2,530 円
	『カルチュラル・スタディーズ入門』	毛利嘉孝、上野俊哉	筑摩書房	902 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

社会文化コース各科目

(9) オフィスアワー・その他

原則として、毎週月曜日昼休みをオフィスアワーとして設定する。その他の曜日・時間については要連絡。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
経済データの読み方（経済データからの経済入門）	内藤 敦之	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
 4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

経済データは、経済理論や経済政策において、基礎となっている。すなわち、経済データを元に理論や政策は成り立っている。そこで、この講義では、基本的な経済データの内容と読み方を学習する。さらに、経済データから現実の経済の動きを読み取り、関連する理論に関しても簡潔に学んでいく。講義ではトピック毎に、日本経済の現状を簡潔に説明した上で、関連する理論を紹介し、講義の後半では、実際の経済データを取り上げ、その読み方とデータについて検討していく。経済および経済学に関する多少の知識があることを前提として講義を行い、また、経済学の様々な分野への入門という点を重視したい。

（3）到達目標

- ① 日本経済に関する経済データを通じて、経済的な現象への関心を持つこと。
 ② 様々なトピック毎に基本的な知識を身につけて、トピックへの関心を高めること。
 ③ 経済データの読み方を学習した上で、自分で経済データに基づいて簡潔な分析を行うことができること。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	講義内容の説明
2	所得1	GDP とは何か、国民所得
3	所得2	国民経済計算の概要、GDP の意味
4	景気	景気循環、景気動向指数、景気の分析
5	財政	政府の予算、国債、地方財政
6	金融1	金利、金融政策
7	金融2	マネーサプライ、資金循環統計、株価
8	消費と貯蓄	個人消費、貯蓄、消費動向
9	生産と産業構造1	産業構造、鉱工業生産
10	生産と産業構造2	法人企業統計、設備投資、中小企業
11	雇用、人口、社会保障	失業率、賃金、労働時間、年金、人口の推移
12	物価	物価指数、インフレーションとデフレーション、地価
13	貿易と国際金融	国際収支、貿易収支、外国為替、外貨準備
14	食料、農業、環境	食糧自給率、環境統計
15	経済データの探し方	統計サイトの見方、データの取り扱い、表・グラフの作成方法

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式でプレゼンテーションソフト使用、Microsoft Teams により、毎回、課題を課す。講義資料は Teams 上で事前配布する。毎回の講義の後半においては配布した実際の統計資料の解説を行う。毎回、コメントペーパーを配布し、次回の講義における前回の復習等の時間において適宜、疑問点や質問などに対するフィードバックを行う予定。毎回の講義は事前に配付した講義資料を予習してくることを前提として行う。また、復習は内容上、必須である。

（6）成績評価の方法と基準

- ①レポート(60%)、②課題(40%)、③授業貢献度(10%以内、ただし課題に含める)。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
参 考 書	『経済データの読み方 新版』	鈴木正俊	岩波書店	902 円
参 考 書	『経済指標はこう読む』	永濱利廣著	平凡社	902 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学入門

その他、多くの経済系科目とは内容上の関連があるため、積極的な履修が望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

オフィスアワー以外でも講義に関する質問は Teams のチャット等でも受け付ける。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
基礎経済学（経済理論入門）	内藤 敦之	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

経済学は、様々な分野から構成されているが、最も基本的な部分は経済理論である。この講義では、基本的な経済理論を学習する。具体的には、ある国全体の経済のあり方を分析するマクロ経済学と、個人の立場から経済の具体的な仕組みを考察していくミクロ経済学の二つに分けて、学習する。ミクロ経済学では、最も重要な需要と供給の概念を中心に価格が市場においてどのように決まるのかを検討する。マクロ経済学では、一国の経済の規模を表す GDP がどのように決定されるかを示す国民所得の決定理論を中心に講義を行う。経済学には、数式は欠かせないものであるが、この講義では、むしろ、数式だけではなく、理論の基本的な考え方を必ずしも、数式に頼らず、説明する。

（3）到達目標

- ① 基本的な経済理論の習得、特にその基本的な考え方を学ぶこと。
- ② 基本的な経済理論によって、現実の経済を理解した上で、簡潔な分析ができること。
- ③ マクロ経済政策の基本を理解した上で、簡潔な分析が出来ること。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	講義内容の説明
2	ミクロ経済学とは何か	ミクロ経済学の概要、基本的な概念、需要と供給による分析
3	需要曲線	需要曲線とは何か、弾力性分析、需要曲線のシフト
4	消費者の行動	需要と効用、需要曲線の傾き、需要と収入
5	供給曲線	供給曲線とは何か、生産と費用、供給曲線のシフト
6	余剰	余剰とは何か、余剰分析
7	市場の均衡	市場における均衡、均衡とは何か、完全競争の意味
8	マクロ経済学とは何か	マクロ経済学の概要、基本的な概念、マクロ的な経済循環
9	国民経済計算	国民経済計算、フローとストック、三面等価の原則
10	国民所得	GDP と GNP、GDP の意味、IS バランス
11	基礎的な分析	総需要と総供給、有効需要の原理とセイ法則
12	消費と投資	消費性向、消費関数、資本の限界効率、投資関数
13	国民所得の決定理論	45 度線分析、国民所得の決定、乗数分析
14	計算問題の演習 1	ミクロ経済学の計算問題
15	計算問題の演習 2	マクロ経済学の計算問題

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式でプレゼンテーションソフト使用、Microsoft Teams により、毎回、課題を課す。講義資料は Teams 上で事前配布する。毎回、コメントペーパーを配布し、次の講義における前回の復習等の時間において適宜、疑問点や質問などに対するフィードバックを行う予定。毎回の講義は事前に配付した講義資料を予習してくることを前提として行う。また、復習は内容上、必須である。

（6）成績評価の方法と基準

- ①定期試験(60%)、②課題(40%)、③授業貢献度(10%以内、ただし課題に含める)。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	『入門経済学 第4版』	伊藤元重	日本評論社	3,300 円
参 考 書	『入門マクロ経済学 第6版』	中谷巖	日本評論社	3,080 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学入門、経済データの読み方、マクロ経済学A・B、ミクロ経済学A・B。
その他経済系科目の基礎となるので積極的な履修が望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

オフィスアワー以外でも講義に関する質問は Teams のチャット等でも受け付ける。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
マクロ経済学A C1（国民所得の決定理論とIS/LM分析）	内藤 敦之	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
 4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

この講義では、マクロ経済学の基礎概念と標準的な理論の学習を目的とする。マクロ経済学は、ある国全体の経済のあり方を分析するものである。この講義では、特に国民所得の決定理論としてのマクロ経済学を中心に扱う。第一に、マクロ経済学の基礎的な概念を重視する。第二に、基本的なマクロ経済学を学習する。第三に、国民所得分析において無視されがちな貨幣及び金融的側面を重視する。第四に、実際の経済現象との関わりを重視する。内容は基礎的な概念から、IS/LM分析までを学ぶ。また、理論だけでなく、実際の経済現象との関係についても、特に政策面を重視したい。さらに高度な内容は後期に開講されるマクロ経済学Bで取り扱う。なお、基礎経済学をすでに履修していることが望ましいが、未履修者にも配慮してマクロ経済学の基本的な概念から説明を行う。

(3) 到達目標

- ① マクロ経済学の標準的な理論を習得すること。
 ② 日本経済をはじめとするマクロ経済の概要を理解した上で、簡潔な分析ができること。
 ③ マクロ経済政策の概要について理解した上で、簡潔な分析が出来ること。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	講義内容の説明
2	基礎的な概念	マクロ的な経済循環、マクロとミクロ、フローとストック
3	国民経済計算	GDPとGNP、国民経済計算とは何か、三面等価の原則
4	国民所得	ISバランス、GDPの意味
5	基礎的な分析	総需要曲線と総供給曲線、有効需要の原理とセイ法則
6	消費と投資	消費性向、消費関数、資本の限界効率、投資関数
7	国民所得の決定理論	45度線分析、乗数分析、ビルトインスタビライザー
8	貨幣とは何か	貨幣の機能、ストック市場のワルラス法則、貨幣需要
9	貨幣供給	貨幣の定義、金融政策、貨幣乗数
10	IS/LMモデル	IS曲線、LM曲線、同時均衡
11	政策の効果	財政金融政策の効果、クラウディングアウト、流動性の罫
12	国際収支と為替相場制度	国際収支、為替相場制度
13	国際マクロモデル	マンデル＝フレミングモデル
14	国際マクロにおける政策	金融財政政策の効果と為替相場制度
15	計算問題の演習	マクロ経済学の計算問題の演習

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式でプレゼンテーションソフト使用、Microsoft Teamsにより、毎回、課題を課す。講義資料はTeams上で事前配布する。毎回、コメントペーパーを配布し、次の講義における前回の復習等の時間において適宜、疑問点や質問などに対するフィードバックを行う予定。毎回の講義は事前に配付した講義資料を予習してくることを前提として行う。また、復習は内容上、必須である。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験(60%)、② 課題(40%)、③ 授業貢献度(10%以内、ただし課題に含める)。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	『入門マクロ経済学 第6版』	中谷 巖	日本評論社	3,080 円
参 考 書	特になし			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学入門、経済データの読み方、基礎経済学、マクロ経済学B、ミクロ経済学A・B
 その他経済系科目の基礎となるので積極的な履修が望ましい

(9) オフィスアワー・その他

オフィスアワー以外でも講義に関する質問はTeamsのチャット等でも受け付ける。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
マクロ経済学A C2（国民経済計算と貨幣供給）	范立君	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

マクロ経済学は一国全体の経済のあり方を分析するものである。今日のグローバル経済において、一国の経済政策や経済成長は世界経済の動きと相互に緊密に関連している。本講義では、われわれのいま生きているこうした現実の経済社会を理解するためのマクロ経済学の基礎知識と原理について考察する。講義では、主に以下の3つの内容を中心に学ぶ。第1は、DVD映像資料を使いながら、国民経済計算や貨幣の機能、国民所得の決定理論といった基礎知識を概念の説明から始まり、現実の事例に対する応用まで学ぶ。第2は、それらのマクロ的基礎知識を理解するとともに、一国の経済成長の要因分析について、学習する。第3は、グローバル経済との相互関連の中、一国の国際収支と為替制度について、考える。

(3) 到達目標

- ① マクロ経済学の基礎的知識と原理を習得すること。
- ② 経済学に興味をもつようになること。
- ③ 現実の社会での経済成長や経済低迷に関わる諸問題を自分の頭で冷静に考え、理解できる力を身につけること。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	講義の進め方、アンケート調査など
2	経済をマクロからとらえる	具体的な事例を挙げながら、マクロ経済学の見方を説明する
3	国民経済計算とGDP①	国民経済計算に関わる諸概念の説明
4	国民経済計算とGDP②	GDPを構成する諸項目、三面等価に関する説明
5	国民経済計算とGDP③	DVD映像資料—マクロとGDP、需要と供給、どちらが重要？
6	国民所得	ISバランス、投資と貯蓄の関係、45度線分析、乗数分析
7	消費と投資	消費性向、消費関数、資本の限界効率、投資関数
8	理解度チェック	授業内小テスト①
9	貨幣の機能	貨幣とは何か、貨幣の需要
10	貨幣の供給	信用乗数、金融政策
11	金融の仕組み	DVD映像資料—お金は経済の潤滑油
12	IS/LMモデル	IS曲線、LM曲線、同時均衡
13	国際収支と為替制度	国際収支の構造、為替相場制度
14	国際マクロ	マンデル＝フレミングモデル、金融財政政策
15	理解度チェック	授業内小テスト②

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本授業は授業シラバスを見て、事前に予習することが望ましい。授業内では、講義をするとともに、関連の視聴覚メディアと新聞記事などの印刷物も利用する。また、学生の集中力と思考力、そして理解力を高めるため、必要な時に、学生に質問を投げたりもしている。理解力をチェックするため、授業内で練習問題をやらせよう。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 期末定期試験(70%)
- ② ひと言カードへの感想・疑問への記入(30%)の合計点数により評価をする。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	入門経済学 第4版	伊藤元重	日本評論社	3,300 円
参 考 書	入門マクロ経済学 第6版	中谷巖	日本評論社	3,080 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

基礎経済学、経済学入門、マクロ経済学Bなど、「経済コースの主要科目」の履修を勧める。

(9) オフィスアワー・その他

水曜日（11：30～12：30）

※諸般の事情により、講義内容を多少変更することがある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
マクロ経済学B（総需要・総供給分析と経済の動態）	内藤 敦之	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

この講義では、マクロ経済学Aに引き続いて、マクロ経済学の基礎概念と標準的な理論の学習を目的とする。特に、国民所得の決定理論としてのマクロ経済学を中心に扱う。第一に、マクロ経済学の基礎的な概念を重視する。第二に、基本的なマクロ経済学を学習する。第三に、国民所得分析において無視されがちな貨幣及び金融的側面を重視する。第四に、実際の経済現象との関わりを重視する。内容は総需要・総供給分析だけでなく、経済の動態、すなわち、物価変動の分析や経済成長論までを学ぶ。理論だけでなく、実際の経済現象との関係についても、特に政策面を重視したい。また、マクロ経済学Aを履修していることを前提として、講義を行うため、未履修者はその範囲を独習することが望ましい。

(3) 到達目標

- ① 標準的なマクロ経済学を習得すること。
- ② マクロ経済のあり方について理解を深め、現実のマクロ経済政策等において、何が問題であるかを分析しうる知識及び能力を習得すること。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	講義内容の説明
2	長期モデル	長期均衡モデル、労働市場、長期の意味
3	貨幣数量説と利率	貨幣数量説、古典派の二分法、名目利率と実質利率
4	総供給曲線	総供給曲線、労働者錯覚モデル、硬直的価格モデル
5	AD/AS 分析	物価水準の決定、政策の効果、実質残高効果
6	インフレーション1	フィリップス曲線、オークンの法則
7	インフレーション2	インフレーションの動学、物価水準の調整、均衡への調整過程
8	インフレーション3	インフレーションと期待、スタグフレーション、合理的期待形成
9	インフレーション4	インフレーションとデフレーションの社会的費用
10	消費の理論	短期と長期の消費関数、ライフサイクル仮説、恒常所得仮説
11	投資の決定	加速度原理、ストック調整モデル、トービンのq
12	経済成長1	ハロッド・ドーマー・モデル、新古典派成長理論
13	経済成長2	成長会計、内生的成長理論
14	日本経済とマクロ経済政策	戦後の経済政策の歴史、最近のトピック
15	マクロ経済政策と国家	グローバル化、マクロ経済学と国家、ソブリン問題

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式でプレゼンテーションソフト使用、Microsoft Teams により、毎回、課題を課す。講義資料は Teams 上で事前配布する。毎回、コメントペーパーを配布し、次の講義における前回の復習等の時間において適宜、疑問点や質問などに対するフィードバックを行う予定。毎回の講義は事前に配付した講義資料を予習してくることを前提として行う。また、復習は内容上、必須である。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① レポート(60%)、② 課題(40%)、③ 授業貢献度(10%以内、ただし課題に含める)。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	『入門マクロ経済学 第6版』	中谷 巖	日本評論社	3,080 円
参 考 書	特になし			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学入門、経済データの読み方、基礎経済学、マクロ経済学A、ミクロ経済学A・B。
その他経済系科目の基礎となるので積極的な履修が望ましい。

(9) オフィスアワー・その他

オフィスアワー以外でも講義に関する質問は Teams のチャット等でも受け付ける。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
ミクロ経済学AC1（市場メカニズムの基本的理解）	佐藤 克春	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（地域貢献力）の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得。

（2）授業概要と目的

本講義では、ミクロ経済学の基礎について勉強する。ミクロ経済学の多くは数式や図を多用することから、一見難しいように思えるが、日ごろ私たちが暮らしている世界を理解するのに役立つ、身近な分野である。私たちは、自分の物と相手の物を交換することによって成り立つ市場経済に暮らしている。ミクロ経済学AC1では、この市場の基本的な仕組みやメリットについて学んでいく。

本講義では、なるべく数学を使わず、ミクロ経済学の考え方について勉強していく。回によって、受講者の理解度を測るための小テストを行う場合がある。尚、市場はメリットばかりではない。後期に開講するミクロ経済学Bでは、市場が持つ限界などを含め、より幅広くミクロ経済学について学ぶ。併せての履修を勧める。

（3）到達目標

- ① ミクロ経済学の基本的な考え方を習得する
- ② 市場メカニズムの基本的な仕組みを理解する

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	講義の進め方について、評価方法などについて説明
2	ミクロ経済学とは？	交換の利益の最大化を目指す考え方
3	個人の選択を考える①	効用の最大化・インセンティブとは何か
4	個人の選択を考える②	トレードオフ・機会費用とは何か
5	個人の選択を考える③	限界利とは？際（キワ）・端（ハシ）という考え
6	需要曲線と供給曲線①	完全競争市場とは？財・サービスと市場とは何か
7	需要曲線と供給曲線②	弾力性とは何か？価格に需要量・供給量がどのように反応するか
8	需要曲線と供給曲線③	需要曲線・供給曲線 ミクロ経済学の基本図式
9	市場均衡と効率性①	消費者余剰と生産者余剰 消費者・生産者にとってよりハッピーとなるもの
10	市場均衡と効率性②	完全競争市場の効率性、市場均衡点の変化
11	政府介入①	完全競争市場への政府介入 政府介入がもたらす厚生への変化
12	政府介入②	価格規制・参入規制 政府介入がもたらす厚生への変化
13	政府介入③	税金と補助金 政府介入がもたらす厚生への変化
14	消費者選択の理論	消費者の満足のメカニズム 何をどのくらい選んで消費するか
課題授業（1回分）		市場メカニズムと完全競争市場の効率性に関する練習課題

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義の進め方は、パワーポイントによる解説となる。本講義はいわゆる暗記科目ではなく、ミクロ経済学の考え方を論理的に習熟するものである。配布レジメの復習を勧める。また、講義内で指示する参考書を読み進めることも併せて勧める。

（6）成績評価の方法と基準

評価は期末テストが100%である。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	プリント配布			
参 考 書	マンキュー経済学I ミクロ編第3版	N・グレゴリー・マンキュー（足立英之ほか訳）	東洋経済新報社	4,400 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

ミクロ経済学B

（9）オフィスアワー・その他

オフィスアワーは講義前後と木曜日に設定する。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
ミクロ経済学A C2（消費者行動と生産者行動）	范立君	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

ミクロ経済学は家計や企業などの、個別の経済主体の経済活動の動きに着目し、個々の市場—労働市場、為替市場、米市場など—の需要と供給について、分析する学問である。これに対して、景気の動き、マクロ経済政策、経済成長など、経済全体の大きな動きについて分析するのがマクロ経済学である。本講義では、ミクロ経済学を取り上げ、以下の3点を中心に講義する。第1に、市場において、需要と供給から価格がどう決まるか、第2に、そうした価格形成に伴って企業の生産活動や消費者の消費行動はどのように影響を受けるか、第3に、経済資源の最適分配のメカニズムについてしっかり理解する。

（3）到達目標

- ① ミクロ経済学の目的を理解する。
- ② 身近な家計や企業の経済活動をミクロ経済学の考え方で理解する。
- ③ 関連するテレビニュースや新聞記事を理解する。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	講義の進め方、ルール、アンケート調査、ミクロ経済学の特徴
2	価格はどう決まる	動画教材—市場は人類の大発明：価格はどう決まる
3	家計の行動と需要曲線①	需要と供給の分析
4	家計の行動と需要曲線②	需要曲線のシフト、消費者余剰
5	家計の行動と需要曲線③	DVD 教材—家計は効用を最大化する、予算制約線と無差別曲線
6	家計の行動と需要曲線④	価格弾力性の応用
7	家計の行動と需要曲線⑤	計算問題の演習、およびその説明
8	小テスト①	家計の行動と需要曲線
9	企業の行動と供給曲線①	供給曲線とは、供給曲線のシフト
10	企業の行動と供給曲線②	費用の構造と供給行動、限界的とは、完全競争
11	企業の行動と供給曲線③	DVD 教材—企業は利益を最大化する
12	企業の行動と供給曲線④	計算問題の演習、およびその説明
13	企業の行動と供給曲線⑤	企業費用の練習問題とその回答
14	小テスト②	企業の行動と供給曲線
15	まとめ	市場取引と資源配分

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本授業は授業シラバスを見て、事前に予習することを望ましい。授業内では、講義をするとともに、関連の視聴覚メディアと新聞記事などの印刷物も利用する。また、学生の集中力と思考力、そして理解力を高めるため、必要な時に、学生に質問を投げたりもしている。理解力をチェックするため、授業内で練習問題をやらせよう。

（6）成績評価の方法と基準

- ① 期末定期試験(70%) ② ひと言カードへの感想・疑問への記入(30%)の合計点数により評価をする。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	入門経済学 第4版	伊藤元重	日本評論社	3,300 円
参 考 書				

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

基礎経済学、経済学入門、ミクロ経済学Bなど、「経済コースの主要科目」の履修を勧める。

（9）オフィスアワー・その他

水曜日（11：30～12：30）

※諸般の事情により、講義内容を多少変更することがある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
ミクロ経済学B（市場の失敗）	佐藤 克春	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（地域貢献力）の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得。

(2) 授業概要と目的

前期のミクロ経済学AC1・AC2では、市場のメカニズム・メリットについて主に学んできた。しかし、市場は万能ではない。現実社会において、政府は様々な形で市場経済に介入している。

ミクロ経済学Bでは、ミクロ経済学AC1・AC2をふまえ、市場の限界と政府の役割について学んでいく。より現実社会・経済に一步近づいた分析を行う。本講義では、なるべく数学を使わず、ミクロ経済学の考え方について勉強していく。回によって、受講者の理解度を測るための小テストを行う場合がある。

(3) 到達目標

- ① 市場メカニズムの基本的な仕組みを理解する。
- ② 市場の失敗の基本的な考え方を理解する。
- ③ 市場の失敗への政府介入の基本的な考え方を理解する。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	講義の進め方、評価方法のレクチャー
2	ミクロ経済学とは？	ミクロ経済学AC1のおさらい 総余剰の最大化を目指して。
3	市場の失敗と政府①	市場の失敗とは？・政府介入の例を考える。
4	市場の失敗と政府②	政府の失敗とは何か？
5	外部性①	外部性とは？正の外部性・負の外部性を考える。
6	外部性②	外部性を解決・軽減する取り組み ピグー税の適用可能性を考える。
7	公共財①	公共財とは何か？ 非競争性・非排除性を考える。
8	公共財②	準公共財とは？公共財の供給とフリーライダー問題を考える。
9	取引費用①	コースの定理とは何か？ 権利設定の政策利用を考える。
10	取引費用②	法と経済学のエッセンス。取引費用の経済学を考える。
11	情報の非対称性	情報の非対称性とは何か。レモンの原理を考える。
12	独占	独占がもたらす非効率性とその対策。独占禁止法を考える。
13	交易の利益	各国が得意分野に特化するメリット。リカードの比較優位費説の適用を考える。
14	ゲーム理論	競争と協調のメカニズム。囚人のジレンマを考える。
15	講義のまとめ	本講義のまとめ、期末テスト説明。

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義の進め方は、パワーポイントによる解説となる。本講義はいわゆる暗記科目ではなく、ミクロ経済学の考え方を論理的に習熟するものである。配布レジメの復習を勧める。また、講義内で指示する参考書を読み進めることも併せて勧める。

(6) 成績評価の方法と基準

評価は期末テストが100%である。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	プリント配布			
参考書	マンキュー経済学I ミクロ編第3版	N・グレゴリー・マンキュー（足立英之ほか訳）	東洋経済新報社	4,400円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

ミクロ経済学A

(9) オフィスアワー・その他

オフィスアワーは講義前後と木曜日昼に設定する。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
経済学説史A（経済学の生誕）	伊藤 誠一郎	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

アダム・スミスが経済学を作ったということ、彼の描いた自由主義経済の理想は今日なお理想として追い求められていることは、21世紀になった今になってすら実感できることである。しかし、実際の経済・社会の歴史のプロセスは直線的なその理想の追求とはほど遠いこと、そしてなによりもスミス自身がどのような「現実」のなかで彼の理想を語っていたのかにはあまり注意が払われていないのも事実である。アダム・スミスがいた社会はすでに今日と同じように、貨幣・金融、貿易、貧困などの経済問題や政治についての諸問題が激しく議論されていた社会であり、スミスの『国富論』はそれに対するひとつの解答でもあった。本講では、こうした視点から、まずスミスが登場するまでのイギリス、そしてヨーロッパにおいて、なにが問題とされどのように議論されていたのかを示し、それに対してスミスが与えた新しい経済・社会像はどのようなものであったのかをみていく。

(3) 到達目標

- ① 思想史の学び方について考える。
- ② 17・18世紀のヨーロッパ社会がどのような問題を抱えていたのかを知る。
- ③ アダム・スミスにおける経済学の創造に至るプロセスおよび、その特徴を学ぶ。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	経済思想の過去と現在(1)	「経済学の生誕」、スミスの理想＝新しい社会像
2	経済思想の過去と現在(2)	スミスの幻想、スミスの前提としてのホッブズの政治哲学
3	スミス以前の現実(1)	ホッブズと恐怖に満ちた社会
4	スミス以前の現実(2)	国際社会と経済
5	スミス以前の現実(3)	オランダとの競争
6	スミス以前の現実(4)	国際競争の中の貿易、利子、金融制度
7	スミス以前の現実(5)	フランスとの競争
8	富と徳(1)	古典共和主義
9	富と徳(2)	新しい富の台頭と徳の腐敗
10	為政者と経済学(1)	有能な為政者・徳による統治
11	為政者と経済学(2)	ジェームス・ステュアート、為政者の経済学
12	スミスと経済学の成立(1)	仁愛か正義か
13	スミスと経済学の成立(2)	自然法学と経済学
14	スミスと経済学の成立(3)	重商主義批判
15	スミスと経済学の成立(4)	スミスの経済学、自由主義の理想と現実

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式。板書と口頭での説明をノートに取ってもらうが、学生の知識量、理解度を確認するために、適宜、挙手を求めたり、個別に指名して質問に答えてもらうことがある。また、授業内課題（質問に対する答え、自由コメントなど）への回答を通じて、理解を深める。適宜、とくに定期試験前には、ノートの通読を各自おこなうことを求める。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（50％）、② 授業内課題（50％）。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
参 考 書	『徳・商業・文明社会』	坂本・長尾編	京都大学学術出版会	6,600 円
参 考 書	『経済学史』	水田他編	ミネルヴァ書房	3,520 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学説史B

(9) オフィスアワー・その他

質問等は授業の前後、オフィスアワーでも答えます。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
経済学説史B（経済学の限界とマルクス）	伊藤 誠一郎	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

18世紀末アダム・スミスによって「経済学の生誕」が告げられてまもない19世紀初頭、その経済学を数学的に体系化しようとしたリカードは、そしてそれを批判的に継承したJ.S. ミルは、すでに資本主義経済に限界が来ることを予見していた。実際19世紀から、今日の21世紀に至るまでの経済学の歴史は、絶望と試行錯誤の連続であった。1980年代サッチャー首相やレーガン大統領による新自由主義によって新古典派経済学がその普遍性を獲得したかのような幻想があくまでも幻想だったことは、2008年の世界金融恐慌をはじめ今日の経済が抱えている諸問題をみればすぐわかる。本講では、その時々の「流行」の経済学に振り回されず、われわれ自身の未来をわれわれ自身で築いていくための確かな知識をうるために、経済学の確立以降のこの学問の格闘の姿を見ていきたい。

(3) 到達目標

- ① スミスの『国富論』の主張がどういう点にあったのかをみる。
- ② スミスの『国富論』からどのようにその後のマルクス経済学、新古典派経済学、ケインズ経済学が発展していったかを学ぶ。
- ③ 経済思想の展開と非経済学(政治、社会など)との関係について考える。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	資本主義の限界	利潤率通減
2	未来像(1)	改良、ミルと社会主義
3	未来像(2)	革命、マルクスと共産主義
4	『資本論』(1)	マルクスの価値論
5	『資本論』(2)	マルクスの労働、再生産の理論
6	価値と価格(1)	労働ではかるか、効用ではかるか
7	価値と価格(2)	ワルラスの一般均衡理論
8	帝国主義(1)	ヒルファディング、金融独占、組織資本主義論、経済の社会化
9	帝国主義(2)	レーニン、産業独占、革命へ
10	自由か介入か(1)	市場の不完全性とケインズの時代
11	自由か介入か(2)	ハーヴェイ・ロードの前提
12	自由か介入か(3)	市場経済と福祉、ケインズ、ベヴァレッジ
13	ケインズ後	分配がさきか、価格がさきか
14	新自由主義	スミスの再登場、もしくは曲解?
15	第三の道	マルクスは死んだのか? - 新しい経済学の可能性へむけて

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式。板書と口頭での説明をノートに取ってもらうが、学生の知識量、理解度を確認するために、適宜、挙手を求めたり、個別に指名して質問に答えてもらうことがある。また、授業内課題(質問に対する答え、自由コメントなど)への回答を通じて、理解を深める。適宜、とくに定期試験前には、ノートの通読を各自おこなうことを求める。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（50％）、② 授業内課題（50％）。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。			
参 考 書	『経済学史』	水田他編	ミネルヴァ書房	3,520 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学説史A

(9) オフィスアワー・その他

質問等は授業の前後、オフィスアワーでも答えます。

科目名	旧科目名	教員名	年次	授業期間	単位
経済統計学（経済指標と統計的分析）	経済統計学A	上西 雄太	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

経済学の指標や指数を把握することは、経済・社会の現状や問題を把握する上で重要である。また一方で、データの収集や統計学的な分析手法を理解することも、経済分析のレポートや論文を読み解く上で不可欠と言える。本講義は、経済分析の基本となる指標・指数について複数解説する。また、データ収集や統計データの基本的な読み方、回帰分析や因果推論などの統計的手法の考え方・概略について説明する。講義内で練習問題を複数解くことで、統計の基本や指標についての理解を深めてもらう予定である。なお、「統計学Ⅰ/Ⅱ」を履修していなくても理解できる内容になっているので、1年次の「統計学Ⅰ/Ⅱ」未履修者も安心して本講義に参加して欲しい。

（3）到達目標

- ① 経済統計学における基本的な指標・指数を説明できる。
- ② 基本的な統計学の考え方を習得し、回帰分析と因果推論の概略を説明できる。
- ③ 経済データをもとに、分析し説明する力を高める。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	講義内容・進め方・評価などの説明
2	データの収集（1）	社会調査の基本、母集団と標本抽出
3	データの収集（2）	統計データの収集・種類について
4	記述統計（1）	平均、中位数、最頻値、分散、標準偏差
5	記述統計（2）	度数分布とヒストグラム
6	記述統計（3）	度数分布表からの統計量、平均の種類
7	経済格差の指標	ローレンツ曲線とジニ係数
8	貧困の指標	貧困線、貧困率、貧困ギャップ率
9	演習	これまでの内容に関する総合演習1
10	経済指数の理論（1）	個別指数と総合指数、金額指数、物価指数と数量指数
11	経済指数の理論（2）	パーシェ指数とラスパイレス指数
12	回帰分析	回帰分析の概念、分析例
13	因果推論（1）	相関関係と因果関係、社会科学における実験
14	因果推論（2）	因果推論の手法
15	まとめ	内容の復習と整理、定期試験について

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式で進めていく。教科書は無く、独自の講義用レジュメを配布しそれに従い解説・補足を行う。また、必要に応じて講義の最後に練習問題を解く。この積み重ねにより、理解が深まることを期待する。予習については基本的に不要である。むしろ、授業内容をよく復習し理解する作業に時間を費やして欲しい。より意欲のある学生は、講義内で紹介する参考文献を読むと良い。

（6）成績評価の方法と基準

- ① 定期試験 80%
 - ② 授業内での課題 20%
- 詳細については、初回講義時に説明する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。レジュメを配布する。			
参 考 書	種類が多いので、適宜講義内で紹介する。			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「統計学Ⅰ/Ⅱ」と関連する内容、それを補足する内容を多く含んでいる。また、本講義で学ぶ指標・指数を理解すると「マクロ経済学」の理解が深まる。様々な種類のデータに関心がある学生は、「経済データの読み方」を履修するのも良い。

（9）オフィスアワー・その他

分からなくなったら、是非とも講義中に質問して欲しい。分からないことはその場で解決するのがベストであるし、1人が疑問に思ったことは大抵複数人が疑問に思っていることなのだから。

科目名	旧科目名	教員名	年次	授業期間	単位
計量経済学（回帰分析の概念と手法）	経済統計学B	上西 雄太	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

計量経済学は、経済理論が現実の経済に当てはまっているのかをチェックしたり、表面的には把握しにくい経済的な法則性・関連性を発見したりするために、統計学から発展した学問分野である。また近年の情報処理技術の発達に伴い、Excel や R などの統計ソフトを用いることで容易にそのような分析ができるようになった。本講義は、計量経済学のコアともいえる回帰分析の概念を学び、Excel や R を用い回帰分析の手法による現実経済の分析ができるようになることを目的としている。講義の最初は統計学のおさらいから始め、単回帰分析・重回帰分析とその周辺を学んでいく。「統計学Ⅰ/Ⅱ」をセットで履修しマスターできたら、各々の関心ある分野で専門的なデータ分析ができるようになるであろう。

（3）到達目標

- ① 計量経済学の基礎である、回帰分析に関する基本的な概念と手法を理解する。
- ② 演習問題をこなすことで、各々が問題関心のある分野について回帰分析の手法を用い分析できるようにする。
- ③ 計量経済学の考え方・プロセスを学ぶことで、論理的思考力や説明力高める。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	講義内容・進め方・評価などの説明
2	確率と統計のおさらい（1）	データの扱い方、確率と確率変数、統計学における重要な確率分布
3	確率と統計のおさらい（2）	大数の法則と中心極限定理
4	確率と統計のおさらい（3）	信頼区間の推定、仮説検定
5	関連の分析（1）	散布図と共分散
6	関連の分析（2）	相関係数、具体的な相関係数の分析
7	回帰分析（1）	回帰分析の導入、単回帰分析
8	回帰分析（2）	最小2乗法
9	回帰分析（3）	Excel の分析ツールを用いた単回帰分析の方法
10	回帰分析（4）	誤差分散、決定係数
11	回帰分析（5）	傾きの回帰係数の信頼区間の推定
12	回帰分析（6）	傾きの回帰分析に関する仮説検定
13	回帰分析（7）	重回帰分析、Excel の分析ツールを用いた重回帰分析の方法
14	回帰分析（8）	重回帰分析における回帰係数の仮説検定、回帰式の説明力
15	回帰分析（9）、まとめ	重回帰分析の注意点、内容の復習と整理、レポートについて

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式で進めていく。教科書は無く、独自の講義用レジュメを配布しそれに従い解説・補足を行う。必要に応じて講義の最後に演習問題を解く予定である。また、Excel または R を用いて実際に分析する過程を見せる予定である。各々ノート PC を持ち込んで、模倣して分析の練習をしても良い。予習については基本的に不要である。しかし、復習と講義外課題には十分な時間を取って欲しい。

（6）成績評価の方法と基準

- ① レポート 80%
 - ② 授業内/外での課題 20%
- 詳細については、初回講義時に説明する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。レジュメを配布する。			
参 考 書	『統計学基礎講義 第3版』	秋山裕 著	慶應義塾大学出版会	3,960 円
参 考 書	『Rによる計量経済学 第2版』	秋山裕 著	オーム社	3,080 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「統計学Ⅰ/Ⅱ」の内容の続きを講義する関係上、「統計学Ⅰ/Ⅱ」を履修することを強く勧める。なお、本講義で身につく回帰分析の手法は、経済学の広い分野で応用が効く。

（9）オフィスアワー・その他

分からなくなったら、是非とも講義中に質問して欲しい。分からないことはその場で解決するのがベストであるし、1人が疑問に思ったことは大抵複数人が疑問に思っていることなのだから。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
現代経済論（オムニバス講義）	佐藤（克）・伊藤・宮崎・内藤・榎平・范・山口	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（地域貢献力）の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

現代の経済は、過去20年ほどを振り返っても、バブル崩壊、金融危機、長期不況、グローバル化、リーマンショック、世界的な景気後退、為替レートの大変動（円高と円安）等々、大きな事象によって激しい影響を受けてきている。このように、経済に関するテーマは非常に幅広く、必ずしも、講義では扱えないものも存在する。この講義では、主に経済系の教員がそれぞれの視点からどのようなテーマを扱っているのかを時事的なトピックなども含めて、紹介していく。講義はオムニバス形式で行い、経済系の教員6名が2回ずつ担当する。内容は、担当教員の専門領域であるマクロ経済、経済思想、環境、金融、農業、福祉国家といった視点に基づいたものとなる。途中、ゲストによる講義を挟み、最終回は担当教員によるパネル・ディスカッションを行い、現代経済の課題や受講者の関心のあるテーマについて検討する予定である。また、詳細な講義計画は、初回ガイダンス時にアナウンスする。

（3）到達目標

- ① 通常の講義では扱えない時事的な問題を通じて、経済現象への関心を高めること。
- ② 様々な角度からの議論を聞くことにより、経済現象への多角的な理解、認識を身に付けること。
- ③ コース、ゼミ選択のために必要な情報を提供すること。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	講義内容の説明
2	戦後日本の経済思想1（伊藤）	戦後啓蒙とマルクス主義、冷戦終結と経済・社会の思想の転換
3	ケインズとマクロ経済学1（内藤）	ケインズとは誰か、ケインズの生涯と業績
4	ケインズとマクロ経済学2（内藤）	マクロ経済学の誕生とケインズ、マクロ経済政策とは何か
5	福祉国家の誕生と発展（宮崎）	福祉国家はいつ、いかに誕生したのか？
6	福祉国家の誕生と発展（宮崎）	福祉国家の限界と将来
7	現代日本の財政と少子高齢化（山口）	日本財政の現状と課題
8	現代日本の財政と少子高齢化（山口）	少子高齢化時代を生き抜く知恵とは？
9	地球温暖化問題と日本（佐藤克）	日本のエネルギー構造と原発
10	地球温暖化問題と日本（佐藤克）	福島第1原発事故以降の環境政策
11	農業・食料問題と暮らし（榎平）	農業・食料問題とは何か
12	農業・食料問題と暮らし（榎平）	農業・食料に関する政策的課題
13	現代中国経済の基本構造（范）	改革開放（1978年）以降の中国経済の概観
14	現代中国経済の基本構造（范）	金融システムの日中比較
課題授業（1回分）		各テーマから選択式のレポート提出

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義はオムニバス形式で行い、経済系の教員7名が1～2回ずつ担当する。各教員が現代経済の最先端に関わるトピックを扱うので、日頃のニュースに気を配ること。また講義前後での積極的な発言や、リアクションペーパーでのコメントを求める。

（6）成績評価の方法と基準

- ① 10回以上の出席と、期末レポート（100%）で評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	講義内で指示する			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学入門・公共政策入門

（9）オフィスアワー・その他

オフィスアワーは講義前後とする。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
社会経済学（資本主義体制の仕組み）	范立君	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

本講義は現代社会の経済（資本主義生産体制）の仕組みについて、説明する。講義内容は主に以下の3つの内容からなる。

第1、経済学は「何を」明らかにする学問であろうかについて、考察する。

第2、（社会）経済学の土台＝労働を基礎とする社会把握について、勉強する。

第3、資本主義的生産様式はどのようなものであり、どのような仕組みをもち、どのようにして再生産されているのか、を勉強した上、さらに、資本主義の経済的運動法則、すなわちその発生・発展・消滅の法則をも考える。

（3）到達目標

- ① 将来、経済系大学に進学するための基礎学力をつけること。
- ② 立派な社会人として、多くの分野に応用できる物事の見方や一定の問題の解決方法を知ること。
- ③ 自分のキャリア計画を含め、人類、そのものの行方について、視野に入れることができること。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	社会経済学で何を学ぶか
2	現代社会と社会経済学	現代社会の特質は資本主義という社会形態にある、経済学の対象と方法
3	労働と生産	労働と労働力の違い、生産力と生産関係
4	生産様式とその交替	生産力の発展と社会発展の一般的法則
5	資本の生産過程①	商品と貨幣、貨幣の機能、資本とはなにか
6	資本の生産過程②	付加価値とは何か、資本と利潤
7	資本の生産過程③	利潤率の傾向的低下法則
8	生産力発展のための諸方法①	協業、分業とマニファクチュア
9	生産力発展のための諸方法②	機械と大工業
10	授業内小テスト	上記今までの内容の考察
11	資本主義的生産関係と労賃①	資本主義的に生産関係＝資本・賃労働関係の具体的内容
12	資本主義的生産関係と労賃②	労賃とはなにか、その本質と現象形態
13	資本の再生産①	単純再生産
14	資本の再生産②	資本の蓄積と拡大再生産
15	資本の再生産③	資本主義的生産の歴史的位

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本授業は授業シラバスを見て、予習できる部分を事前に予習することを望ましい。授業内では、講義をするとともに、関連の視聴覚メディアと新聞記事などの印刷物をも利用する。また、学生の集中力と思考力、そして理解力を高めるため、必要な時に、学生に質問を投げたりもしている。

（6）成績評価の方法と基準

- ① 期末レポート（70%）、② ひと言カードへの感想・疑問への記入（30%）の合計点数により評価をする。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	図解 社会経済学	大谷慎之介	桜井書店	3,300 円
参 考 書	特になし			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学入門、マクロ経済学など「経済コースの主要科目」の履修を勧める。

（9）オフィスアワー・その他

水曜日（11：30～12：30）

※諸般の事情により、講義内容を多少変更することがある。

科目名	旧科目名	教員名	年次	授業期間	単位
日本経済史A（戦前期）◆	経済史B	福地 幸文	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の習得）。

（2）授業概要と目的

この授業では、主に幕末期から第二次世界大戦期までの日本の経済史について学ぶ。
最初に日本の近代経済史の起点となる江戸時代の経済的到達点を確認する。
幕藩体制から明治維新、そして大正・昭和と、日本は激動の時代の中にあつて、大きくその姿を変えてきた。
この授業では「経済史」という物差しをつかって、日本という急激に成長した国家の姿を捉え、現代の我々の生活にどのようなつながってきたのかを学習する。

（3）到達目標

- ① 明治維新から第二次世界大戦期までの日本の経済・社会の発展過程を理解している。
- ② 日本という後発資本主義国家の成長モデルについて理解している。
- ③ 現在の私たちの生活がどのような経緯に規定されているのかを考察できる。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	授業内容の説明など
2	江戸時代の経済的達成状況	人口・教育・生活、農業と工業、経済政策とインフレーション
3	明治維新1	地租改正・秩禄処分など、維新の制度改革の内容と社会への影響
4	明治維新2	日本における近代的貨幣制度の確立過程
5	明治維新3	新産業と会社制度、ならびに殖産興業政策
6	産業化1	技術導入とその変容、在来産業の展開、産業化の担い手たち
7	産業化2	明治期の情報革命
8	日清戦後経営	日清戦争と戦後経営（社会政策）
9	日露戦後経営	日露戦争と戦後経営（社会政策）
10	戦間期1	第一次世界大戦、重化学工業と都市化、戦後デフレーションと恐慌
11	戦間期2	1920年代の経済構造、関東大震災と金融恐慌
12	戦間期3	昭和恐慌
13	戦間期4	1930年代の経済成長と高橋財政、1930年代の経済機構
14	戦時経済	戦時直接統制、太平洋戦争、被害と戦後への「遺産」
15	まとめ	授業の総括、定期試験について

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

- ① 基本的に講義形式で行う（パワーポイントを投影する）。授業の配布資料を事前に Teams にアップロードする。
- ② Teams を使って課題を提示する（10回を予定）。
- ③ 毎回、出席の確認をする。必要に応じて理解度の確認を行う。

（6）成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（50%）、② 授業の課題（40%）、③ 授業貢献度（10%）の合計点数により評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特に指定しない			
参 考 書	日本経済—その成長と構造 [第3版]	中村隆英	東京大学出版会	3,800 円＋税
	明治大正期の経済	中村隆英	東京大学出版会	3,600 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

日本経済史B、西洋経済史

（9）オフィスアワー・その他

授業後に受け付けます（要予約）。

科目名	旧科目名	教員名	年次	授業期間	単位
日本経済史B（戦後期）◆	戦後日本経済の歩み	福地 幸文	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の習得）。

（2）授業概要と目的

この授業では、主に敗戦直後から現在までの日本の経済史について学ぶ。
戦後の改革を通して日本がどのように生まれ変わったのかを理解する。
加えて、戦前からどのような要素が引き継がれたのかを見ながら、戦後復興期、高度成長期、バブル期を経て、現代へとつながる日本経済の姿を追う。
また、経済政策が日本経済の在り様にいかなる影響をもたらしているのかを考える。

（3）到達目標

- ① 戦後における日本経済発展の仕組みを理解している。
- ② 現代の日本経済の問題点がどこにあるのかを歴史的に考察できる。
- ③ 経済と政治の関係を踏まえた上で、経済政策の効果を考察できる。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	授業内容の説明など
2	敗戦直後の日本経済と民主化政策	敗戦直後の日本経済、戦後の民主化政策
3	経済の復興 1	初期の占領政策と日本の対応、アメリカの政策転換
4	経済の復興 2	ドッジライン、労働政策の変化、朝鮮戦争、サンフランシスコ講和条約
5	高度成長期 1	高度成長の 20 年、国際環境、成長と循環
6	高度成長期 2	政策と社会
7	高度成長期 3	まとめ（高度成長期の政策、事業および社会問題の主要な側面）
8	1970 年代の日本経済 1	ニクソン・ショックの背景、2つのショックと高度成長の終焉
9	1970 年代の日本経済 2	成長率低下への調整、減量経営と戦後社会の転換
10	1980 年代の日本経済 1	国際経済・通貨の激動、新自由主義改革の始まり
11	1980 年代の日本経済 2	バブル経済
12	バブル崩壊以後の日本経済 1	バブル反動不況、不況の二番底
13	バブル崩壊以後の日本経済 2	長期不況からの脱出、小泉内閣の構造改革
14	世界金融危機前後の日本経済	平成不況からの脱出と世界金融危機、東日本大震災前後の日本経済
15	まとめ	新型コロナウイルス（COVID-19）と社会・経済、定期試験について

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

- ① 基本的に講義形式で行う（パワーポイントを投影する）。授業の配布資料を事前に Teams にアップロードする。
- ② Teams を使って課題を提示する（10 回を予定）。
- ③ 毎回、出席の確認をする。必要に応じて理解度の確認を行う。

（6）成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（50%）、② 授業の課題（40%）、③ 授業貢献度（10%）の合計点数により評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特に指定しない。			
参 考 書	日本の経済 ―歴史・現状・論点	伊藤 修	中央公論新社	990 円
	日本経済―その成長と構造〔第3版〕	中村隆英	東京大学出版会	3,800 円＋税

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

日本経済史A、西洋経済史

（9）オフィスアワー・その他

授業後に受け付けます（要予約）。

科目名	旧科目名	教員名	年次	授業期間	単位
西洋経済史（西洋経済の近現代史）◆	経済史A	福地 幸文	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の習得）。

（2）授業概要と目的

この授業では、私たちが生活する資本主義世界に対する分析や理解を深めるために、近代以降において西洋（主にヨーロッパと北米）の経済活動や人々の生活から資本主義がどのように発展、変容してきたのかを学ぶ。
西洋経済における近代化の歴史的起点を確認した上で、商業革命、市民革命、そして産業革命へと展開する西洋の経済発展の過程を考察する。また、二度にわたる世界大戦の西洋経済に与えた影響、並びに第二次世界大戦後の西洋経済の発展過程を概観する。そして最後に、これからのグローバル経済について検討する。

（3）到達目標

- ① 近代西洋経済の発展過程を理解している。
- ② パクス・ブリタニカ、パクス・アメリカナなど覇権国家の形成・移行過程を理解している。
- ③ これからのグローバル経済について考察できる。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	授業内容の説明、世界の GDP の推移、グローバル経済の形成
2	商業革命と「中世の世界経済」の解体	中世貿易の枠組みの解体、地理上の発見と商業革命、アジア域内貿易
3	16～17 世紀の経済発展	価格革命、農工業の変容
4	絶対王政と市民革命	絶対王政、イギリス革命、フランス革命、フランス革命の波及
5	イギリスの重商主義	イギリス重商主義、産業革命前夜のイギリス経済
6	イギリスの産業革命	イギリスの産業革命
7	技術進歩と工業化	ヨーロッパ大陸諸国の産業革命、技術進歩と工業化
8	世界市場とアメリカ経済の発展	世界市場の成立と構造、アメリカ経済の発展 1
9	アメリカ経済の発展と大不況の到来	アメリカ経済の発展 2、19 世紀末の大不況と資本主義の構造転換
10	第一次大戦前の世界経済	第一次大戦前の世界経済
11	世界大戦とヨーロッパ経済 1	第 1 次世界大戦の経済史的意味、1920 年代の繁栄から世界恐慌
12	世界大戦とヨーロッパ経済 2	世界恐慌とヨーロッパ経済、第二次世界大戦
13	第二次世界大戦後のヨーロッパ経済 1	戦後国際経済の枠組みと冷戦、
14	第二次世界大戦後のヨーロッパ経済 2	経済成長の時代、危機とグローバル経済
15	EU への道	石炭鉄鋼共同体から EU へ、統合の拡大と深化・変質

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

- ① 基本的に講義形式で行う（パワーポイントを投影する）。授業の配布資料を事前に Teams にアップロードする。
- ② Teams を使って課題を提示する（10 回を予定）。
- ③ 毎回、出席の確認をする。必要に応じて理解度の確認を行う。

（6）成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（50%）、② 授業の課題（40%）、③ 授業貢献度（10%）の合計点数により評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	新版 西洋経済史	石坂昭雄・船山榮一・宮野啓二・諸田 實	有斐閣	1,980 円
参 考 書	グローバル経済史入門	杉山伸也	岩波書店	946 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

日本経済史B、西洋経済史

（9）オフィスアワー・その他

授業後に受け付けます（要予約）。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
日本経済論	山口 隆太郎	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。

(2) 授業概要と目的

本講義では、現代の日本経済とその特徴を学び、また現在抱えている課題を把握していく。そしてなぜ、そのような現状になっているのか、戦後からの経済発展の軌跡をてがかりに考察していく。現代の日本の経済構造は、GHQによる戦後改革のあった戦後復興期、高度経済成長期、オイルショック後の安定成長期、バブル経済とその崩壊後、といった各時期の社会・経済状況に影響された結果として、今日の姿になっている。この講義を通して各時期に日本が直面していた問題と、どのようにその解決を図ろうとしていたのかを学ぶことで、少子高齢化を迎えたこれからの日本経済のあり方を考えるための、知識を身につける。

(3) 到達目標

- ①日本経済・社会の構造とその形成過程を理解する。
- ②日本経済・社会が現在抱えている課題についての知識を身につける。
- ③日本社会を数値で把握する

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	日本社会のこれから	少子高齢化のもとでの、日本経済・社会の現状と課題
3	戦後改革と経済復興	連合国・GHQ下における戦後の政治・経済改革 ―もはや戦後ではない―
4	成長のメカニズム	経済成長に必要な投資を支えたメカニズムとは
5	日本特有のメインバンクシステム	戦後の経済構造の基礎をなしたメインバンクシステム
6	土建国家と公共事業①	均衡ある国土の発展を目指した土建国家
7	土建国家と公共事業②	財政投融资は都市と地方の所得保障にどうかかわったのか
8	日本型福祉社会論と企業①	人々の暮らしを守る福祉のあり方と企業
9	日本型福祉社会論と企業②	家族（女性）が福祉を提供する体制を支えた住宅政策
10	貿易立国①	Made In Japan はいつから信用を得たのか？
11	貿易立国②	日米自動車摩擦、牛肉とオレンジ
12	円は強い？	ブラザ合意と輸出産業
13	バブル崩壊と失われた20年	バブル崩壊後の経済の苦境
14	アベノミクスとコロナ後の経済	現在の日本は豊かなのか、それとも貧しくなったのか
15	まとめ	日本経済のこれから

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には講義形式で授業を進めていく（レジュメと資料を適宜配布する）。各授業の開始時に、前回授業で質問・感想についてコメントをしていく。テキストを使用しないので、予習の必要はないが、授業を受けた日のうちにレジュメを見かえし、議論の内容を復習すること。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験（70%）と平常点（30%）により評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	なし			
参考書	なし			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

日本経済史など

(9) オフィスアワー・その他

授業前後以外での質問方法などは、授業にて指示を出す。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
日本企業論（企業と雇用）	橋本 美由紀	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

日本企業論は、日本企業がどのような特徴を有しているのかを学ぶ科目である。その企業がどのような特徴を有しているのかを知ること、就職活動をする上でも、就職後に自分の仕事の意義を理解する上でも有効である。また企業は社会的な存在であり、企業を取り巻く経済・社会の現実と切り離して考えることはできない。したがって社会における諸問題を考える上でも日本企業の特徴をつかむことは重要である。

本講義では、日本企業に関する理論、研究を分かりやすく解説すると同時に、就職活動、インターンシップなどの学生にとって身近な事例を交えて考察を深めていく。また日本企業に関する理論、研究が実際の社会においてどのように用いられるのか、具体的なケーススタディを通して学んでいく。

(3) 到達目標

- ①日本企業の特徴と問題点を理解できるようになる。
- ②講義で得られた知識と理論を用いて、実際の日本企業を取り巻く諸問題を解決するための方策を考えることができる。
- ③日本企業が直面する課題を批判的および客観的にとらえ、自分の考えを主張できる。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	現代企業形態の展開	企業形態の展開、完全失業者数・完全失業率の動向
2	中小企業、ベンチャー企業	中小企業の多様性、ベンチャービジネス
3	日本企業とその特徴	日本の長寿企業とその永続性、日本的労使関係
4	企業と賃金	日本の賃金の歩みと現状、賃金闘争
5	企業と労働時間	生活時間と労働時間、労働時間制度の歴史、日本の労働時間制度
6	企業とキャリア形成	非正規労働者のキャリア形成と政策対応
7	20世紀後半の企業と労働市場政策	20世紀後半の企業と労働市場政策の展開
8	企業と高齢者雇用政策	高齢者雇用政策の現状と対策、海外の高齢者雇用
9	企業と若年者雇用政策	若年労働者の就労状況と対策、インターンシップの現状と課題
10	企業と外国人雇用政策	外国人雇用の現状、外国人看護師・介護福祉士、外国人技能実習生
11	企業と障害者雇用政策	障害者雇用状況、障害者雇用促進法、海外の障害者雇用政策
12	企業とWLB政策	企業によるワーク・ライフ・バランスの取組、中小企業の対応
13	公企業と公益企業	公企業の定義・役割と経営形態、改革と課題
14	中小企業とIT	中小企業にとってITとは何か、ビッグデータとその活用
15	NPO経営	NPOとは何か、NPOの類型、資金調達戦略

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

パワーポイントと配布資料を使って授業を進める。授業内容は授業計画に沿って進めるが、適宜変更することもありうる。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①レポート（90%）②リアクションペーパー（10%）

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	配布資料			
参 考 書	プリント配布			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

(9) オフィスアワー・その他

質問等は授業後に受け付ける。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
金融論 A（銀行の歴史と制度）	伊藤 誠一郎	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

資本主義という経済システムは、その始まりの時点においてすでに金融、とくに銀行の存在なしにはありえなかった。そして同時に、それはつねに銀行みずからがつくりだした金融システムの不安定性と脆弱性のなかで生き続けてきた。最近のユーロ圏の一連の騒動をみるまでもなく、とくに日本のバブル崩壊以降立て続けに起きてきた数々の金融危機が示すように、そもそも今日われわれが生きている貨幣社会の存立根拠は、人間が作り出した空想のなかにしかない非常に危ういものである。そして資本主義社会がその危うい貨幣制度なしでは発展できないのも事実である。本講では、そうした視点を持ちながら、そもそも銀行が、銀行券がどのようにつくられてきたのか、そしてそれがどうして中央銀行というものをつくりだす必要があったのか、歴史の現実を参照しつつみていきたい。

(3) 到達目標

- ① 金融制度の生成と歴史についての知識を習得すること。
- ② とくに銀行制度の仕組みを学ぶ。
- ③ 中央銀行というものがどのような経緯で必要となってきたかを知る。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	金融とはなにか	さまざまなかたちの金融
2	金融システムと銀行	金融システムにおける銀行の位置付け
3	貨幣について（1）	銀行券と貨幣
4	貨幣について（2）	貨幣の起源
5	銀行券の誕生（1）	アムステルダム銀行、金匠銀行
6	銀行券の誕生（2）	商業手形の流通とその限界
7	銀行券の誕生（3）	手形割引と信用創造
8	銀行券の誕生（4）	戦争と銀行券
9	銀行制度の展開（1）	イングランド銀行と兌換停止
10	銀行制度の展開（2）	地金論争、通貨論争
11	銀行制度の展開（3）	ピール条例と発券の集中
12	中央銀行の成立（1）	中央銀行と準備金
13	中央銀行の成立（2）	中央銀行の金融政策
14	中央銀行のあり方（1）	中央銀行の独立性
15	中央銀行のあり方（2）	各国の中央銀行、およびその政策（EU、アメリカ、日本）

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式。板書と口頭での説明をノートに取ってもらうが、学生の知識量、理解度を確認するために、適宜、挙手を求めたり、個別に指名して質問に答えてもらうことがある。また、授業内課題（質問に対する答え、自由コメントなど）への回答を通じて、理解を深める。定期試験前には、ノートの通読を各自おこなうことを求める。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（50％）、② 授業内課題（50％）。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。			
参 考 書	授業内指示。			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

マクロ経済学 A・B

(9) オフィスアワー・その他

本講義では補いきれない理論的な部分は、上記関連科目で行なうのでできるだけ履修すること。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
金融論B（金融の理論と現状）	伊藤 誠一郎	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

金融システムの安定性、健全性が経済全体の行方にとっていかに重要なものであるか、そしてそれが国家の政策といかに深くかかわっているかは2008年の世界金融危機、2011年のユーロ危機の経緯を見ればよくわかる。金融システムは政治が、人間がつくりだしたものであり、その設計の仕方によっては、金融のみならず経済全体に破滅的なダメージを与えることになる。しかし、いつもそうした危機がおきるまで正しい設計がなにか分からないままである。なぜなのだろうか。本講ではこうした疑問への解答を探るために、金融システムのあり方を、日本の金融制度を具体例としてあげ、それを理論的に分析し、その上で現状がなぜそのようなになってしまうのかを明らかにしていきたい。

(3) 到達目標

- ① 今日の金融システム、現状、理論についての知識を習得する。
- ② 貨幣数量説など、金融の基本的な分析手法を学ぶ。
- ③ 今日の日本の銀行システムや証券市場についての仕組み、基本的な知識を学ぶ。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	金融とは何か	間接金融と直接金融
2	貨幣と物価（1）	貨幣数量説
3	貨幣と物価（2）	貨幣数量説をめぐる諸説
4	わが国の貨幣（1）	さまざまなかたちの貨幣
5	わが国の貨幣（2）	日本銀行券、その他
6	金融政策（1）	決済システムと中央銀行
7	金融政策（2）	準備預金制度
8	金融政策（3）	公定歩合操作と公開市場政策
9	ケインズ政策（1）	ケインズの貨幣理論
10	ケインズ政策（2）	長期不況と金融政策、財政政策
11	国際通貨の興亡	IMF体制とその崩壊、金廃貨
12	バブルと日本経済（1）	高度成長期の日本の金融
13	バブルと日本経済（2）	低成長と資産インフレ
14	バブルと日本経済（3）	バブル崩壊と平成不況
15	新しい金融のあり方	不良債権処理とその後

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式。板書と口頭での説明をノートに取ってもらうが、学生の知識量、理解度を確認するために、適宜、挙手を求めたり、個別に指名して質問に答えてもらうことがある。また、授業内課題（質問に対する答え、自由コメントなど）への回答を通じて、理解を深める。適宜、とくに定期試験前には、ノートの通読を各自おこなうことを求める。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（50％）、② 授業内課題（50％）。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。			
参 考 書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

マクロ経済学A・B

(9) オフィスアワー・その他

本講義では補いきれない理論的な部分は上記関連科目で行なうのでできるだけ履修すること。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
国際経済学（国際貿易の基礎理論の考察）	千原 則和	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる。

（2）授業概要と目的

「国際経済学」は、財やサービスの国境を越えた取引を分析する「国際貿易論」と、カネの国境を越えた取引を分析する「国際金融論」の2つの柱で構成されている。本講義では、前者の「国際貿易論」に焦点を絞って、国際貿易の基礎理論および貿易政策の基礎を学習する。後者の領域は、2年次から履修可能な「国際金融論（国際的な金融取引の仕組みと歴史）」で学ぶことができる。

本講義の目的は、「①貿易によって利益がもたらされるメカニズム」・「②政府が貿易に介入するメカニズム」を理解することにある。具体的には、貿易パターンの決定とその利益を理解するための基本概念（交換・特化・分業・比較優位など）、開発途上国が先進国と貿易をしても双方に利益がもたらされるメカニズム、小国と大国で異なる貿易制限措置の影響（効果）について考察する。

（3）到達目標

- ①国際貿易論・貿易政策の基礎を習得し、編入試験・大学院入試・資格試験等に必要な知識を積み上げることができる。
- ②基礎的な貿易理論を自力で説明することができる。
- ③経済学のテキストに示されている図表が、何を意図し何を伝えようとしているのかを汲み取ることができる。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	国際経済学とは（「国際貿易論」・「国際金融論」の概要を紹介する）
2	比較優位と分業の利益①	国際貿易の基本概念を理解する：①交換・特化・分業・絶対優位
3	比較優位と分業の利益②	国際貿易の基本概念を理解する：②機会費用・比較優位
4	比較優位と国際貿易①	リカード・モデル（＝比較生産費説）の仕組みを把握する
5	比較優位と国際貿易②	閉鎖経済（不完全特化）から自由貿易（完全特化）に移行した際の変化を理解する
6	比較優位と国際貿易③	自由貿易によって先進国・開発途上国双方に利益が生じるメカニズムを検討する
7	部分均衡分析の基礎	「余剰分析（消費者余剰・生産者余剰・総余剰）」、「小国・大国のケース」を理解する
8	小国の部分均衡分析：貿易利益	余剰分析を用いて、貿易による経済厚生（＝貿易利益）の増加（＝貿易利益）を「見える化」する
9	大国の部分均衡分析：2国モデル	余剰分析を用いて、大国の行動が国際価格や経済厚生に及ぼす影響を検討する
10	比較優位の決定要因	供給面で比較優位性を決定づける5つの要因を考察する
11	貿易政策①	小国の貿易政策の効果を検討する：①輸入関税・輸入割当
12	貿易政策②	小国の貿易政策の効果を検討する：②生産補助金・消費税
13	貿易政策③	大国の貿易政策の効果を検討する：最適関税①（輸入関税の効果）
14	貿易政策④	大国の貿易政策の効果を検討する：最適関税②（輸入関税の厚生効果）
15	貿易政策⑤	保護貿易を擁護する主張（市場の失敗、雇用の確保）を反証する

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

参考書『国際経済学をつかむ』（第2版）の内容に沿って、プリント資料とパワーポイントを併用して講義形式で進める。講義開始時に、参考書の各単元の概要をまとめたプリント資料を配布する。講義で使用したプリント資料やパワーポイントは、終了後にMicrosoft Teams「国際経済学」にアップロードする。「国際経済学」の内容に関係する時事問題については、随時、講義で紹介する（主に報道・ドキュメンタリー番組）。各単元終了時に、簡単な「理解度チェックテスト」を実施する。

（6）成績評価の方法と基準

- ①定期試験（80％）と②授業内課題（20％）の合計点数により評価する。
- 定期試験は「Microsoft Teams」を介して実施する。試験問題は「多肢選択式（マークシート方式）」を採用する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
参 考 書	国際経済学をつかむ（第2版）	石川 城太 他	有斐閣アルマ	2,420 円
参 考 書	はじめて学ぶ国際経済（新版）	浦田 秀次郎 他	有斐閣アルマ	2,200 円
参 考 書	国際経済学	阿部 顕三・遠藤 正寛	有斐閣アルマ	2,640 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「経済学入門」・「基礎経済学」などの基礎的な経済学の科目を復習しておくことが望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

上記のスケジュールに従い講義を行うが、進捗状況や時事的な問題を取り扱うことによるスケジュールの調整や変更がありうる。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
アジア経済論（中国の躍起）	范立君	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

第2次世界大戦後、貧困と停滞の地として語られていたアジアは、1970年代以降、地域として工業化と対外開放を進め、「東アジアの奇跡」と呼ばれた急速な経済成長を遂げた。アジア経済と関連して、人々の暮らしは急激に変化してきた。私たちの住むアジアの変化の特徴とその背景を理解することは、私たちの今と将来を考えるうえで、ことのほか重要である。本講義は、以下の3つの側面から、アジア経済について、基本的な知識を中心に学ぶ。

第1：第2次世界大戦後におけるアジア経済の歩み

第2：第2次世界大戦以降の中国経済の歩み

第3：中国、日本、韓国とASEANを中心とする経済統合

（3）到達目標

- ① アジア地域の経済に関して、関心・興味を深める。
- ② 第2次世界大戦後、中国経済の展開、躍起とその問題点について考える。
- ③ アジアの経済統合の仕組みについて、把握してもらう

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	アジア経済論で何を学ぶか
2	アジアの概況とアジア経済の現状	本講義で扱うアジアの範囲、およびその経済の現状など
3	「日本一極」の20世紀①	日本の戦後復興と高度成長
4	「日本一極」の20世紀②	雁行形態型発展モデル、キャッチアップ型工業化論など
5	「日本一極」の20世紀③	NIEsの躍進、中国の「復帰」
6	アジアの経済統合①	デファクトの経済統合とグローバル・バリューチェーン
7	アジアの経済統合②	デジュールの経済統合と今後の課題
8	「世界の工場」から「世界の市場」へ	アジア生産ネットワークの組み立て現場としての中国、消費大国化しつつある中国
9	中国の台頭と新興アジア経済へ①	鄧小平と改革問題の提起
10	中国の台頭と新興アジア経済へ②	労働市場と農村からの出稼ぎ労働者
11	中国の台頭と新興アジア経済へ③	中国の出稼ぎ少女たち（動画資料視聴）
12	中国の台頭と新興アジア経済へ④	人口ボーナスと経済発展
13	中国の台頭と新興アジア経済へ⑤	金融改革、国有企業改革など、中国の超高速成長の原因について考える
14	中国の台頭と新興アジア経済へ⑥	低所得国の成長率が高い理由、中所得国の罠
15	アジアの時代を生き抜くために	日本衰退論を超えて、アジアとともに未来を築く

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本授業は授業シラバスを見て、予習できる部分を事前に予習することを望ましい。授業内では、講義をするとともに、関連の視聴覚メディアと新聞記事などの印刷物をも利用する。また、学生の集中力と思考力、そして理解力を高めるため、必要な時に、学生に質問を投げたりもしている。

（6）成績評価の方法と基準

- ① 期末定期試験（70%）、② ひと言カードへの感想・疑問への記入（30%）の合計点数により評価をする。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	現代中国の中小企業金融（増補版） アジア経済とは何か	范立君（2021） 後藤健太（2019）	時潮社 中公新書	3,520 円 902 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

（9）オフィスアワー・その他

水曜日（11：30～12：30）

※諸般の事情により、講義内容を多少変更することがある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
財政学	山口 隆太郎	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。

(2) 授業概要と目的

財政学の基本的な考え方を、理論と実際の両面から学ぶ。人々が求める公共サービスには、租税の徴収、公債の発行、補助金などすべてのサービスには財源が伴っている。周知のように日本は巨額の財政赤字を抱えており、将来の社会保障や公共サービスの提供が財政破綻によりなくなるのではないかという不安を多くの国民が抱えている。すなわちこれは公債の発行に依存しすぎた結果なのだが、なぜこのような財政問題が日本では生じているのか。そしてどのようにすれば解決できるのだろうか。授業ではこれらを考えるのに必要な知識・物事の見方を学ぶ。（2年前期科目の地方財政論の履修を考えている学生は、この授業を履修することを強く薦める）

(3) 到達目標

- ①財政理論の基本を学び、財政学的視点から社会問題の背後にある問題の背景を理解する。
- ②日本の税制など、財源の仕組みについて理解し、説明できる。
- ③政府の役割と市場の役割の違いを理解し、公共サービスの意義と課題を説明できる。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	財政とは何か	財政の役割とは何か ―なぜ政府がサービスを提供するのか―
3	財政理論の歴史的展開①	王様の財布から公共のお金へ ―近代財政のおこり―
4	財政理論の歴史的展開②	政府の役割の変化 ―アダム・スミスからケインズへ―
5	予算論①	予算原則 ―民主主義を機能させるしくみ―
6	予算論②	日本における予算編成の実態と財政民主主義
7	租税論①	租税原則 ―わかりやすく、無駄がなく、公平な税制とは―
8	租税論②	租税理論とその歴史的展開
9	租税論③	主要税目について（所得税・消費税）
10	租税論④	所得税の計算をしてみよう（労働者O月A子さんを例に）
11	公債論①	政府が借金をすることの意味と、そのルール
12	公債論②	日本における財政赤字と財政健全化への取り組み
13	政府間財政関係①	中央政府と地方自治体の仕事にはどのような違いがあるのか
14	政府間財政関係②	事務配分と財源の関係 ―補助金とは―
15	現代日本財政の課題	少子高齢化時代における財政運営のあり方

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には講義形式で授業を進めていく（レジュメと資料を適宜配布する）。各授業の開始時に、前回授業で質問・感想についてコメントをしていく。テキストを使用しないので、予習の必要はないが、授業を受けた日のうちにレジュメを見かえし、議論の内容を復習すること。時間外学習としては財政に関する新聞記事を読むなど、つねに社会・経済の問題に関心を持つことが必要。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験（70%）、②平常点（30%）により評価する。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書	なし			
参考書	なし			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

地方財政論

(9) オフィスアワー・その他

2年次科目の「地方財政論」は本授業の内容から発展した学修をする科目になっているので、「地方財政論」履修予定の学生は本授業を履修しておくこと。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
国際金融論（国際的な金融取引の仕組みと歴史）	千原 則和	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる。

（2）授業概要と目的

「国際金融論」は、「国際経済学」の学問領域に属し、「カネ」の国境を越えた取引を分析する学問である（「財・サービス」の国境を越えた取引を分析するのは「国際貿易論」で、1年次後期より履修可能）。本講義では、新聞やテレビ等で毎日のように取り上げられる国際的な金融取引に関するトピック（為替相場・国際収支・金融のグローバル化・金融危機など）に焦点を絞り、国際金融の基礎的な知識・制度・歴史を学習する。

本講義の目的は、「①外国為替市場や外国為替取引はどのような仕組みになっているのか」、「②国際通貨制度はどのような変遷をたどり、ドル・ユーロ・円は今どうなっているのか」、「③金融のグローバル化は世界経済にどのような影響をもたらしたのか」を理解することにある。金融理論の習得よりも、まさに今起こっている問題をより深く理解することの方に重点を置いて、講義を進める。

（3）到達目標

- ①国際金融の基礎的な知識・制度・歴史を習得し、編入試験・大学院入試・資格試験等に必要知識を積み上げることができる。
- ②国際的な金融取引に関する主要なトピックを、自力で説明することができる。
- ③国際金融に関する報道をより深く理解することができる。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	国際金融論の分析対象の紹介と概要説明
2	外国為替のしくみ①	外国為替の仕組みとリスク
3	外国為替のしくみ②	貿易取引と外国為替
4	外国為替相場	外国為替の見方、直物相場と先物相場、銀行間相場と対顧客相場
5	外国為替市場①	外国為替市場の構成、取引形態と種類
6	外国為替市場②	世界の外国為替市場、国際金融市場
7	為替リスクとヘッジ手段	個別取引にかかわる為替リスクヘッジ、為替リスク対策
8	国際収支	国際収支の概念と仕組み
9	国際通貨制度の変遷①	国際通貨制度の役割と性格、国際金本位制、国際金為替本位制
10	国際通貨制度の変遷②	ブレトンウッズ体制の誕生・動揺・崩壊、変動相場制への移行と国際的な政策協調
11	欧州通貨統合①	通貨統合への歩みと欧州通貨危機
12	欧州通貨統合②	ユーロ誕生とユーロ圏危機
13	国際資本移動の功罪①	金融のグローバル化と国際収支危機
14	国際資本移動の功罪②	世界金融危機（リーマン・ショック）
15	国際通貨の興亡	基軸通貨ドルの現状、国際通貨ユーロの動向、日本円の台頭と後退、人民元の国際化

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

参考書『新・国際金融のしくみ』の内容に沿って、プリント資料とパワーポイントを併用して講義形式で進める。講義開始時に、参考書の各単元の概要をまとめたプリント資料を配布する。講義で使ったプリント資料やパワーポイントは、終了後にMicrosoft Teams「国際金融論」にアップロードする。「国際金融論」の内容に関係する時事問題については、随時、講義で紹介する（主に報道・ドキュメンタリー番組）。各単元終了時に、簡単な「理解度チェックテスト」を実施する。

（6）成績評価の方法と基準

- ①定期試験（80％）と②授業内課題（20％）の合計点数により評価する。
- 定期試験は「Microsoft Teams」を介して実施する。試験問題は「多肢選択式（マークシート方式）」を採用する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
参 考 書	新・国際金融のしくみ	西村 陽造・佐久間 浩司	有斐閣アルマ	2,530 円
参 考 書	はじめて学ぶ国際経済（新版）	浦田 秀次郎 他	有斐閣アルマ	2,200 円
参 考 書	国際金融論のエッセンス	高浜 光信・高屋 定美 編著	文真堂	2,970 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「国際経済学（国際貿易の基礎理論の考察）」の履修を勧める。
「経済学入門」・「基礎経済学」などの基礎的な経済学の科目を復習しておくことが望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

上記のスケジュールに従い講義を行うが、進捗状況や時事的な問題を取り扱うことによるスケジュールの調整や変更がありうる。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
地方財政論	山口 隆太郎	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

家を出て大学に着くまでに目にするもの、あるいは使うものにはどのようなものがあるだろうか。蛇口をひねって顔を洗うところから一日は始まり、道路を歩いて駅に向かい、そして電車に乗る。あるいは大学までバスかもしれない。またその道すがら、保育園や小・中学校のにぎわい、あるいは街を巡回する消防車・パトカーを目にする。そして大学に着き、教室で講義に臨む。

これらのことに財政は関っている。とりわけ地方財政は私たちの生活に密接に関わっており、道路や上下水道などのインフラストラクチャー、様々な教育制度、社会福祉制度など人々の生活を支える多くの公共サービスは、地方自治体によって提供されている。

地方財政論の基本となる理論・知識を習得し、地方自治体における諸課題を理解し、それらを説明できる素養を身につける授業となっている。

(3) 到達目標

- ①地方財政論の基本を学び、身近な社会問題を地方財政の観点から理解する。
- ②社会の変化と人々の新たなニーズを理解し、これを充足するための公共サービスの意義と問題点を理解する。
- ③地域住民が主体的に地域の自治に関わることの重要性を説明できるようにする。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	地方財政とは	地方財政とは何か ―地域のことを地域で決める、自治とは―
3	政府間財政関係①	国と地方の役割分担 ―補完性の原理とは―
4	政府間財政関係②	日本における政府間財政関係の実態 ―地方交付税制度①―
5	政府間財政関係③	日本における政府間財政関係の実態 ―地方交付税制度②―
6	地方の税と予算、公債	地方自治体の税と予算、公債の特徴
7	行政サービスのあり方①	変わっていくサービスのかたち ―現金給付・現物給付、普遍主義・選別主義―
8	行政サービスのあり方②	最低限度の生活を守る保障のあり方 ―生活保護制度―
9	行政サービスのあり方③	少子高齢化の進行と人口減少社会における地方自治体のあり方
10	変化する社会と地方財政①	女性の社会進出と子育て保育の実態
11	変化する社会と地方財政②	高齢者介護のありかた ―人々を包摂する―
12	変化する社会と地方財政③	これからの公共事業 ―作る、から維持へ―
13	持続可能な社会をつくる①	医療サービス ―国民皆保険制度現状と課題―
14	持続可能な社会をつくる②	高齢者の生活を支える ―年金制度のしくみ―
15	まとめ	地方自治体が抱える課題と展望

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には講義形式で授業を進めていく（レジュメと資料を適宜配布する）。各授業の開始時に、前回授業でた質問・感想についてコメントをしていく。テキストを使用しないので、予習の必要はないが、授業を受けた日のうちにレジュメを見かえし、議論の内容を復習すること。新聞を読むなど、つねに社会・経済の問題に関心を持つこと。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験（70%）、②平常点（30%）により評価する。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書	なし			
参考書	なし			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

財政学

(9) オフィスアワー・その他

授業前後以外での質問方法などは、授業にて指示を出す。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
地域経済論（地域経済における理論的・実証的諸課題と展望）◆	槇平 龍宏	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる。

（2）授業概要と目的

グローバル化とローカル化の同時進行の下で、また資源・環境問題が重視される中で、地域的生産システムのあり方が問われている。本講義では、地域的生産システムに関する既存の議論（需要主導型／供給主導型）に加えて、産業立地論や集積論、都市経済論の成果を導入するかたちで、グローバル経済下における地域経済の実態と問題、今後のあり方に関する理解を深めて行きたい。前半では、講義の前提として、国家の枠組みを超えて進む地域主義とグローバリズムの実態について概観し、併せて地域経済の成長に関する理論、不均等発展に関する理論、累積的成長理論、産業立地の理論、新しい空間経済理論等について理解を深める。後半では、我が国の地域経済と地域問題を学習し、地域開発政策の歴史的検討、さらには「地域経済活性化」を含む「地域づくり」をどのように進めていくかという政策的課題について考察を進めたい。

（3）到達目標

- ①グローバル経済下における地域経済の問題点を経済学的に説明し、評価できるようになる。
- ②今後の地域経済と国民生活との関係性について自らの問題意識から仮説を立て、自ら調べ、考えをまとめ、意見を述べるができるようになる。
- ③身近な地域の経済的課題についての考察結果を自らの言葉でレポートできるようになる。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	はじめに	新しい地域主義とグローバリズムの並進
2	地域経済論の理論（1）	地域経済の成長と交易に関する理論
3	地域経済論の理論（2）	地域間格差と人口移動に関する理論
4	地域経済論の理論（3）	産業立地と集積の理論
5	地域経済論の理論（4）	都市システムと土地利用に関する理論
6	地域経済と地域問題（1）	地域経済の多様性の形成プロセス
7	地域経済と地域問題（2）	東京一極集中と都市問題
8	地域経済と地域問題（3）	産業構造の転換と地域経済構造
9	地域開発政策の展開（1）	高度経済成長期～低経済成長期
10	地域開発政策の展開（2）	低経済成長期～現代
11	地方財政と地方分権（1）	地域経済のマクロ・バランスとは何か？
12	地方財政と地方分権（2）	地域経済の循環とは何か？
13	地域づくりと課題（1）	内発的発展論を中心に
14	地域づくりと課題（2）	「産業の地域化」と「地域の産業化」
15	おわりに	地域経済活性化へ向けた政策的課題

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

パワーポイントとプリント資料を併用して講義形式で進める。講義の終了時に感想や疑問を「ひとことカード」に記入してもらい、次の授業の始まりの際に主だった感想や質問に対してコメントを行うことにより、要点の振り返りと疑問を解消し、講義内容の定着を図る。毎回配布するプリント資料は穴埋め形式とし、重要な語句や解法などを記入することにより、知識の定着と自ら考える力を養う。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験またはそれに変わるレポート（70%）、②「ひとことカード」への感想・疑問等の記入（30%）の合計点数により評価をする。定期試験やレポートの回答例は、補講等を通じて解説する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。レジュメを配布する。			
参 考 書	必要に応じて紹介する。			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済政策、地方自治論、地方財政論、農業経済学、環境経済学

（9）オフィスアワー・その他

上記のスケジュールに従い講義を行うが、進捗状況や時事的な問題を取り扱うことによるスケジュールの前後や変更がありうる。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
経済政策（実践的に学ぶ経済政策）	佐藤 克春	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（地域貢献力）の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得。

(2) 授業概要と目的

長期不況、格差、貧困、社会保障、財政赤字、そして経済のグローバル化、これらはどれも経済政策と深く関わるテーマである。経済政策は私たちの生活に直接かわる実践的な分野である。本講義は、経済政策について理論と現実のズレを意識しながら、その基本的な考え方と、仕組みについて学ぶ。

本講義では、経済政策の手段についての基礎的な知識の習得を前半に行う。後半においては、近年特に日本、そして世界で問題となっている格差問題の是正に向けた再分配政策について学ぶ。

尚、本講義は毎年受講者が少ないため、受講者と相談のうえで講義内容・進め方を変更する場合がある。そのため初回講義は必ず出席すること。

(3) 到達目標

- ① 経済政策の基本的な考え方と仕組みについて理解する。
- ② 経済学的な考え方を応用して、自分なりの主張ができるようにする。
- ③ 現代日本の格差問題について理解し、自分なりの解決策を提示する。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	講義の進め方と評価方法についてのレクチャー。
2	経済政策とは	歴史的になぜ経済政策が求められてきたかを考える。
3	成長と安定の経済政策	長期・短期の経済政策を考える。
4	財政政策の考え方	GDP とは何か。付加価値を増やすという経済政策。
5	財政政策の手段	歳入・歳出政策、財政投融资について考える。
6	金融政策の考え方	物価と貨幣供給量。お金の出し引きによる景気のコントロール。
7	金融政策の手段	金融政策の諸手段。上記の具体的手段を考える。
8	再分配政策①	現代日本の格差構造。「一億総中流」から格差社会へ。
9	再分配政策②	所得再分配に関する考え方。功利主義・格差原理・リバタリアニズム。
10	再分配政策③	労働政策、非正規雇用の現状。労働条件がどのように悪化したのか。
11	再分配政策④	所得再分配の諸手段。累進課税・公的扶助について考える。
12	再分配政策⑤	最低賃金。日本の最低賃金の現状と、先進諸国の潮流。
13	再分配政策⑥	ベーシック・インカム。所得再分配の一つの考え方。
14	格差社会出現の構造	グローバル化と新自由主義。世界的な格差構造。
15	本講義のまとめ	本講義のまとめ

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

パワーポイントによる解説と、受講者による文献輪読と報告・議論からなる。また日々の経済政策のニュースを収集すること。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 期末レポート（50%）、② 文献報告（50%）

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	講義内で指示する			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学入門・公共政策入門

(9) オフィスアワー・その他

オフィスアワーは講義前後と木曜日昼に設定する。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
環境経済学（気候変動問題から考える）	佐藤 克春	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（地域貢献力）の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得。

(2) 授業概要と目的

環境経済学では、地球温暖化問題を通じて、環境と経済の関係、そして環境経済学の諸理論を学ぶ。現在、地球温暖化問題にかんする自然科学研究の権威である IPCC（気候変動に関する政府間パネル）によると、産業革命以後の気温上昇を少なくとも 1.5℃以内に抑えないと、目を覆いたくなるような結果が私たちに襲うと予測されている。2030 年までに世界の温室効果ガス排出量を約半分に、2050 年までにゼロにしなければならない。目標達成には、現在の私たちのエネルギー構造・産業・ライフスタイル・そして社会構造の根本的な見直しが不可欠である。21 世紀最大の環境問題と言える地球温暖化問題を通じて、環境と経済の関係を考える。また、地球温暖化問題への政策アプローチを考える際に、環境経済学の諸理論・考え方が実際に使われている。外部性・環境税・排出権取引などの政策理論を学んでいく。

(3) 到達目標

- ① 環境と経済の係わりについて理解する。
- ② 環境経済学の基礎理論を理解する。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	講義の進め方と評価方法についてのレクチャー。
2	温暖化による被害予測①	IPCC1.5℃特別報告書を読む
3	温暖化による被害予測②	外部性の概念・世代間の責任論
4	温暖化による被害予測③	共通だが差異ある責任
5	温暖化対策の国際的枠組み①	気候変動枠組条約
6	温暖化対策の国際的枠組み②	京都メカニズム
7	温暖化対策の国際的枠組み③	排出権取引
8	日本のエネルギー政策①	日本の温暖化対策はなぜ失敗してきたのか？
9	日本のエネルギー政策②	誰がどれだけ排出しているのか？
10	日本のエネルギー政策③	国内排出権取引市場と環境税
11	原発偏重の温暖化対策①	原発とは何か？
12	原発偏重の温暖化対策②	原発のコストとは？社会的費用論アプローチ
13	再生可能エネルギーの普及に向けて①	再生可能エネルギーと地域内経済循環
14	再生可能エネルギーの普及に向けて②	公共財の理論と発送電分離
15	本講義のまとめ	

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義の進め方は、パワーポイントによる解説となる。また、講義内で指示する参考書を読み進めることも併せて勧める。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①レポート（80%）、②リアクションペーパー（20%）で評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	プリント配布			
参考書	講義内で指示する			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

地方財政論・公共政策入門科目・地域経済論

(9) オフィスアワー・その他

オフィスアワーは講義前後と木曜日に設定する。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
社会政策（仕事とケアの両立政策を中心に）	宮崎 理枝	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

社会政策は、人々がよりよく生きること、すなわち「福祉（ウェルビーイング）」が損なわれることを予防したり、あるいは救済したりする政策である。もう少し具体的にいえば、いわゆる社会保障や福祉のほか、住宅や教育、雇用等の分野に関わる政策が含まれる。

上記の分野のほとんどは、他の科目（⑥関連科目を参照）でとりあげている。従ってこの社会政策の講義では、今日、その中心的議論となっているケア、そして仕事と家庭(ケア)の両立、ワークライフバランス（WLB）を取り上げる。具体的に、当該領域に關しての現状と社会政策に関わる先端的な政策的議論や研究状況を紹介する。グループワークも適宜行う。

（3）到達目標

- ① 社会政策に関する基本理解ができるようになる。
- ② 毎回の講義内容の要点を的確に把握し、それに対する自分なりの考え方を養える。
- ③ ケアと仕事と家庭(ケア)の両立に関わる研究や時事問題のトレンドを把握できる。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	社会政策とは	授業の目的・概要、進め方とレポート作成に関するガイダンス
2	社会政策の歴史的展開	欧米の社会政策の成立と展開の概要
3	社会政策の歴史的展開	わが国の社会政策の成立と展開の概要
4	社会政策におけるケア	社会政策におけるケアの位置づけと歴史的展開
5	社会政策とケア(1)	今日のわが国の社会政策におけるケア政策 保育
6	社会政策とケア(2)	今日のわが国の社会政策におけるケア政策 介護
7	社会政策とケア(3)	今日の諸外国の社会政策におけるケア政策のあり方
8	社会政策とケア(4)	今日の諸外国のケアモデル
9	社会政策と WLB 理論(1)	社会政策における中心的課題となったワークライフバランス
10	社会政策と WLB 理論(2)	諸外国のワークライフバランス政策
11	社会政策と WLB 理論(3)	ワークライフバランスを社会政策の中心的課題とする理論的根拠
12	WLB 研究の先端-実証(1)	ワークライフバランスに関する実証研究の動向
13	WLB 研究の先端-実証(2)	ワークライフバランス研究の実証研究の動向
14	WLB 研究の先端-実証(3)	ワークライフバランス研究の実証研究の動向
15	総括	総括とレポートの書き方指導

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には講義形式で授業を進めていく。教科書等の教材は特に使用せず、資料等は、適宜配布したり指示したりする。また視聴覚資料を使用する。

適宜授業内容に関するコメントシートの提出を義務とする。また授業中にこちらから発言を求める場合がある。

授業内容はケアを中心とした専門的なものとする。

（6）成績評価の方法と基準

- ① レポート（70%）、②授業時に提出する課題（30%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。			
参 考 書	特になし。			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

社会保障論A、社会保障論B、労働経済論、社会政策論

（9）オフィスアワー・その他

授業の進め方、内容は第1回目の授業で説明するので、必ず出席すること。オフィスアワーは掲示の通り。授業の進度・内容は、受講生の構成により若干の変更の可能性はある。教科書と資料による制度説明が主となっており、難易度は高い。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
労働経済論（労働市場の現在）	宮崎 理枝	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる。

（2）授業概要と目的

現在の我が国は、景気回復傾向が見られるとはいえ、雇用情勢は依然厳しいといえる。労働市場のグローバル化や少子高齢化、女性の社会進出に伴い、働き方の多様化が進んでおり、そうしたなかではまず、これから社会に出る皆さんが、今日の我が国の労働市場においていかなるポジションに置かれているのかを理解することが重要だ。

上記の点を踏まえ、この「労働経済論」では、現在の労働市場におけるトレンドや問題点に重点を置き、皆さんに直接関連する事例、具体的には現在の労働市場の概観、若年層と女性をめぐる労働市場のあり方を中心にとりあげる。

（3）到達目標

- ① 現代日本の労働市場に関する一般的理解すること。
- ② 毎回の講義内容の要点を的確に把握し、それに対する自分なりの考え方を養うこと。
- ③ 自分の望む「働き方」に関して、現実的な展望を描けること。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	労働経済論について	授業の目的・概要、進め方の説明 労働経済論を学ぶことの意義
2	人口と労働力、産業構造	少子高齢社会における労働力と人口、産業別就業者の推移
3	労働時間と働き方	労働時間の規定と現状、推移と背景、正規労働と非正規労働
4	転職と失業	転職、失業、無業の定義
5	転職と失業	失業と無業の状況の推移
6	若年層と労働市場	学歴と雇用、賃金格差
7	若年層と労働市場	若年雇用悪化と各国の政策的対応
8	若年層と労働市場	若年層の非正規雇用（フリーター）をめぐる
9	ジェンダーと労働市場	女性と労働問題の概観－女性の就業実態、女性差別、男女共同参画
10	ジェンダーと労働市場	性別分業をめぐる意識、実態、政策の国際比較（1）
11	ジェンダーと労働市場	性別分業をめぐる意識、実態、政策の国際比較（2）
12	高齢者と労働市場	高齢者の雇用問題の概観
13	グローバル化と労働市場	外国人労働者と社会的包摂
14	グローバル化と労働市場	外国人と労働市場参入
15	まとめ	まとめ

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には講義形式で授業を進めていく。使用する教材は、労働経済白書の予定で、授業初回等で指示するので、入手しておくこと（厚生労働省HPからダウンロード可）。パワーポイントとレジュメを併用する。

適宜授業内容に関するコメントシートの提出を義務とする。また授業中に受講者による小グループのディスカッションやフリートークの時間を設け、講義内容に関する受講者間での知見や意見の共有を行うことがある。また、発言を求める場合がある。

（6）成績評価の方法と基準

- ① レポート（70%）、② 授業時の提出課題（30%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書	適宜指示する			
参考書	適宜指示する			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

社会保障論A、社会保障論B、労働経済論、社会政策、ジェンダー論

（9）オフィスアワー・その他

オフィスアワーは、掲示の通り。授業の進捗・内容は、受講生の構成により若干の変更の可能性がある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
社会保障論A（総論と現金給付主流の制度）	宮崎 理枝	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

社会保障とは、「社会の各員が人間らしい生存を全うする権利」の確保を目的とする国家保障である。これは、各種の保険、福祉サービス、公的扶助などの制度から構成される。

こうした制度は、失業、怪我や病気、介護や子育てというような、私たちの生活の安定が損なわれるような事態について、これを救済、援助するための仕組みといえ、今日の私たちの生活になくってはならないものとなっている。しかし近年先進諸国では、労働市場のグローバル化や少子高齢化に伴い、これらの制度の現状維持が大いに危ぶまれるとともに、諸改革が進められている。

「社会保障論A」では、総論と現金給付主流の制度について論じる。

(3) 到達目標

- ① 社会保障制度について具体的に理解すること。
- ② 毎回の講義内容の要点を的確に理解し、社会保障制度に対する自分なりの考え方を養うこと。
- ③ 社会保障制度に関連する多面的な思考を養うこと。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	社会保障論について	授業の目的・概要、進め方の説明 社会保障制度の理念
2	社会保障とは何か	社会保障定義、体系、類型化（租税・社会保険方式、現金・現物給付）
3	公的扶助制度（1）	生活保護制度の原則
4	公的扶助制度（2）	生活保護制度の保護基準
5	公的扶助制度（3）	生活保護制度の現状と改革の経緯
6	社会保険の理論	諸原則、被保険者、保険者保険料、保険給付のあり方
7	年金制度（1）	原則と制度概要
8	年金制度（2）	財政方式
9	年金制度（3）	保険料設定
10	年金制度（4）	給付水準
11	年金制度（5）	制度改革
12	失業保険制度	原則と特徴、日本の当該制度の仕組み
13	労働災害保険制度	原則と特徴、日本の当該制度の仕組み
14	新しい現金給付の可能性	社会手当、給付付き税額控除、BI 等
15	まとめ	全体の総括

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には講義形式で授業を進めていく。使用する教材は、下記の教科書で、授業初回等で指示するので、入手しておくこと。加えてパワーポイントとレジュメ資料を併用する。

適宜授業内容に関するコメントシートの提出を義務とする。また授業中にこちらから指名して発言を求める場合がある。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① レポート（70%）、② 授業時の提出課題（30%）

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	『はじめての社会保障（有斐閣アルマ）』 4月初版時点での最新版が望ましい	棕野美智子・田中耕太郎	有斐閣	1,980 円
参 考 書	適宜指示する			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

社会保障論B

(9) オフィスアワー・その他

授業の進め方、内容は第1回目の授業で説明するので、必ず出席すること。オフィスアワーは掲示の通り。授業の進度・内容は、受講生の構成により若干の変更の可能性がある。教科書と資料による制度説明が主となっており、難易度は高い。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
社会保障論B（現物給付主流の制度）	宮崎 理枝	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

社会保障とは、「社会の各員が人間らしい生存を全うする権利」の確保を目的とする国家保障である。これは、各種の保険、福祉サービス、公的扶助などの制度から構成される。

こうした制度は、失業、怪我や病気、介護や子育てというような、私たちの生活の安定が損なわれるような事態について、これを救済、援助するための仕組みといえ、今日の私たちの生活になくてはならないものとなっている。しかし近年先進諸国では、労働市場のグローバル化や少子高齢化に伴い、これらの制度の現状維持が大いに危ぶまれるとともに、諸改革が進められている。

「社会保障論B」では、現物給付主流の制度について論じる。

（3）到達目標

- ① 社会保障制度のうち現物給付主流の制度について具体的に理解すること。
- ② 毎回の講義内容の要点を的確に理解し、社会保障制度に対する自分なりの考え方を養うこと。
- ③ 社会保障制度に関連する多面的な思考を養うこと。

（4）授業計画

	テーマ	授業内容
1	社会保障制度のしくみ	社会保障の法体系、および給付と負担のあり方
2	医療制度（1）	医療保険制度の原則
3	医療制度（2）	医療保険制度の体系
4	医療制度（3）	保険者と被保険者
5	医療制度（4）	後期高齢者医療
6	医療制度（5）	その他医療保険制度の概要と施行状況
7	介護制度（1）	介護保険制度の原則
8	介護制度（2）	介護保険制度の体系
9	介護制度（3）	保険者と被保険者
10	介護制度（4）	介護保険制度の手続き
11	介護制度（5）	その他介護保険制度の概要と施行状況
12	社会福祉制度（1）	社会福祉（児童、障害者、高齢者）制度の概要と施行状況
13	社会福祉制度（2）	社会福祉（児童、障害者、高齢者）制度の概要と施行状況
14	社会保障史	社会保障の歴史
15	まとめ	まとめ

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には講義形式で授業を進めていく。使用する教材は、下記の教科書で、授業初回等で指示するので、入手しておくこと。加えてパワーポイントとレジュメ資料を併用する。

適宜授業内容に関するコメントシートの提出を義務とする。また授業中にこちらから指名して発言を求める場合がある。

（6）成績評価の方法と基準

- ① レポート（70%）、② 授業時の課題提出（30%）

（7）使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	『はじめての社会保障（有斐閣アルマ）』 4月初頭時点での最新版	棕野美智子・田中耕太郎	有斐閣	1,980円
参考書	適宜指示する			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

社会保障論A

（9）オフィスアワー・その他

授業の進め方、内容は第1回目の授業で説明するので、必ず出席すること。難易度は高い。オフィスアワーは、掲示の通り。授業の進捗・内容は、受講生の構成により若干の変更の可能性がある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
地方自治論（住民主体のまちづくり）	山岸 絵美理	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
 4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

「地方自治」とは、それぞれの地域とそこに住む住民自らが地域の課題や地域のあり方について、自ら考え、決定することである。つまり、地方自治とは日本のいずれかの地域に必ず住む私たち全てに関わるものといえよう。以上のことを前提に、地方自治の意義や目的について、共有することから始めていく。地方自治の問題はいたるところに存在しているものであり、他人事ではなく、主体的に考える意識をもって臨むこと。地域に存在する具体的な課題を具体的に上げながら、地方自治の仕組みを理解し、これからの地域のあり方について考えていく講義となる。一人の地域住民として、地域から日本の社会全体を考えていくことにつながることを意識することが重要である。

(3) 到達目標

- ① 地方自治の意義と理論について習得する。
 ② 地域の一員として、地方自治の観点から身近な地域の課題について考え、説明することができる。
 ③ 講義の内容をもとに、地域の課題の解決の方法について、論じることができる。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	講義の進め方	ガイダンス ― 自治体は誰のものか ―
2	「地方自治」の意義と役割	地方自治の意義を考える
3	日本の自治体の仕組み	自治体の役割 ― 市町村と都道府県の違いから ―
4	自治体議会の仕組み	自治体議会制度の仕組みと課題 ― 地域の政治決定の仕組み ―
5	自治体行政の仕組み	自治体行政の仕組みと課題 ― 地域の行政の仕組み ―
6	日本の地方自治の歴史①	戦前の地方行政の歴史 ― 戦前と戦後の違いについて―
7	日本の地方自治の歴史②	戦後の地方自治改革と高度経済成長 ― 民主化改革とその後 ―
8	地方分権改革の推進①	地方分権改革の経過とその意義 ― 地方分権改革の背景について ―
9	地方分権改革の推進②	地方分権改革の成果と課題 ― 今後の地域のあり方とは ―
10	自治体合併について①	市町村合併の課題 ― 日本の自治体合併について ―
11	自治体合併について②	市町村合併の課題 ― デモクラシーと行政サービスの観点から ―
12	コミュニティの現状と課題	コミュニティの役割と課題
13	NPO・市民参加	地域を支える多様な主体の役割とその課題について
14	条例と政策	条例や政策の意義について
15	住民主体のまちづくり	住民参加について

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には講義形式で授業を進めていき（パワーポイントやレジュメを併用）、具体的事例を示した資料として新聞記事等を配布する。また講義内容を踏まえた理解度確認のためのコメントシートを記入してもらい、コメントシート回収後は、解答の解説等行う。予習は必要ないが、適宜、新聞や雑誌などを使用し、地域に関する具体的事柄や課題について紹介していくので、積極的に地域のあり方についての理解に努めること。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期テスト（60％）、② 授業での課題（30％）、③ 授業貢献度（10％）

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	『これからの地方自治の教科書』	第一法規	大森彌、大杉寛	2,750 円
	配布プリント			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

1年時に政治学、行政学、公共政策系科目群を取得していることを勧める。

(9) オフィスアワー・その他

オフィスアワー：原則として毎週火曜 13：00～14：00。公務員試験受験希望者はもちろんのこと地域に関心がある幅広い学生を求める。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
農業経済学（農業・食料・農村の諸課題と展望）◆	槇平 龍宏	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる。

(2) 授業概要と目的

授業の内容として、特に理解を深めることを重視したい項目は以下のとおりである。①農業及び農業関連産業の特徴②わが国・特定地域の農業・農政を理解する上での国際比較の重要性③農業生産システムの特徴と農村地域社会の実態④農産物流通及びフードシステムの仕組みとアグリビジネスの展開⑤食料消費構造の特徴と新展開⑥世界の農業と食料需給⑦農産物貿易の経済理論と農業保護⑧食をめぐる豊かさとは何か⑨高齢化・少子化社会における食生活の特徴⑩現代社会と食文化―その接点と意義―⑪食をめぐる国際化の進展⑫現代社会における「食」をめぐる関心と利害関係、その関係の多様化と安定性の確保⑬食生活の広がり―需要者（消費者）と供給者（生産者）の接点と動機⑭農の現場と食の現場の距離の拡大と縮小という二極化の進展⑮農産物供給の安全性と持続性の確保⑯食をめぐるリスク管理を可能にするシステムの確立。

(3) 到達目標

- ①農業や農業関連産業の存立構造を規定する食料の需給問題と、それを反映した農業政策や農産物市場の特質、農産物貿易のあり方について、また農業に特徴的な生産要素である土地と労働について、さらに食品関連産業の発展と食品安全をめぐる諸課題について理解を深める。食料需給構造やフードシステムから農業及び農業関連産業の課題を見通せるようになる。
- ②農村地域社会の諸問題を知り、課題解決のための諸施策について理解を深める。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本講義の概要と目的
2	農業経済学の領域と課題	農業・農業関連産業とは何か、「農業・食料・農業問題」とは何か
3	国際的に見た農業の多様性	農業や食料需給の多様性理解、比較農業・政策論の重要性
4	農産物貿易の理論と実態	国際マクロ経済・貿易理論と農産物貿易の実態
5	各国の農業・食料政策（1）	先進国農業・食料政策、フードシステムと食品安全問題
6	各国の農業・食料政策（2）	新興国、発展途上国の農業・食料政策
7	食料の需要と供給（1）	食料需要の所得弾力性・価格弾力性
8	食料の需要と供給（2）	食料供給・農産物市場の不安定性
9	経済発展と農業・農村（1）	農業史分野の研究成果から
10	経済発展と農業・農村（2）	戦後の農業経済分析の研究成果から
11	農業・食料技術の新展開	農業・食料をめぐる技術進歩と今後のイノベーションの方向性
12	農業・農村組織の展開	「組織間関係」に着目して農業・農村の組織をみる
13	農業経営多角化の論理	「経営戦略」に着目して農業・農村をみる
14	アグリビジネスの展開	アグリビジネスの経営戦略とフードシステムの変貌
15	おわりに	持続可能な農業・農村へ向けた政策的課題

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

パワーポイントとプリント資料を併用して講義形式で進めていく。講義の終了時に感想や疑問を「ひとことカード」に記入してもらい、次の授業の始まりの際に主だった感想や質問に対してコメントを行うことにより、要点の振り返りと疑問を解消し、講義内容の定着を図る。毎回配布するプリント資料は穴埋め形式とし、重要な語句や解法などを記入することにより、知識の定着と自ら考える力を養う。

(6) 成績評価の方法と基準

①定期試験またはそれに変わるレポート（70%）、②ひとことカードへの感想・疑問等の記入（30%）の合計点数により評価をする。定期試験やレポートの回答例は、補講等を通じて解説する。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。レジュメを配布する。			
参 考 書	必要に応じて紹介する。			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済政策、地方自治論、地方財政論、地域経済論、環境経済学

(9) オフィスアワー・その他

上記のスケジュールに従い講義を行うが、進捗状況や時事的な問題を取り扱うことによるスケジュールの前後や変更がありうる。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
地域福祉論	中畑 充弘	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

地域福祉は、社会福祉における新しい考え方であり新しい福祉サービスシステムである。2000年に社会福祉法が制定された以降、社会福祉のメインストリームとして着目されている。本講義ではソーシャルワーク実践にかかわる社会福祉援助の理念・方法と地域自立生活を支援する基盤となるシステムや条件整備について視聴覚教材なども援用しながら学習する。ソーシャルサポートの機能とは、個人を孤立・疎外させることなく、信頼・愛情・見守りなどの情緒的サポートや、具体的な手段的サポートである社会資源の提供、情報の交換により人を支えるものである。生活上のニーズ（苦悩・困難）、人生の見通し・希望などの個人因子と、それを取りまく環境因子のどこに問題があるのかを究明しよりよい地域福祉を醸成・推進していく様々な取り組みを学んでいく。社会的孤立をなくし自己肯定感をもちながら誰かのために役立つことのできる社会、豊かな人間関係に囲まれた「しあわせ」を希求する学問である。

(3) 到達目標

- ①あくまで主体的な住民参加が原則であり、地域住民ができないことを公的サービスで支えていくという協業であることを理解する。
- ②地域内の声かけ・思い遣り・配慮・助け合いなどの交流を通じて豊かな人間関係を広げ醸成していく実践が身につくようになる。
- ③学生諸君も主体性ある一市民として、地域の担い手である自覚をもって欲しい。地域住民自身が地域の問題に対応できる力を養う。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	地域福祉の歴史的展開	戦前/後 復興期から、現在の「システム」としての地域福祉を考える
2	生活困窮者自立支援	生活困窮の状況と生活困窮者支援における地域福祉の役割を学ぶ
3	地域福祉の理念と考え方	社会福祉の目的である自立生活・地域自立生活支援のあり方を知る
4	地域福祉の主体と福祉教育	社会福祉協議会・学校教育・福祉政策の「協同実践」と地域の支え
5	行政組織と民間組織の役割	行政・社会福祉法人に加え登場する多様な組織を学ぶ cf. NPO 法人
6	コミュニティソーシャルワーク	コミュニティソーシャルワークの考え方と特徴、専門職の役割を学習する
7	住民参加の方法と意義	住民が主体的に地域社会や福祉行政に「参加」することの意義を学ぶ
8	ソーシャルサポートネットワーク	左記 ネットワークの概要とエコロジカルアプローチについて学ぶ
9	社会資源の活用と開発	社会資源（ハード/ソフト）の内容と福祉サービスの開発について知る
10	福祉ニーズの多様化と把握	福祉ニーズの把握方法、アウトリーチ(出向き)・インタビュー方法を学ぶ
11	地域トータルケアシステム	左記 システムと保健・医療・福祉・介護との連携ネットワークを知る
12	福祉サービスの評価方法	多様な評価の仕組みとシステム、「プログラム評価」について学ぶ
13	災害支援と地域福祉	対人援助・ソーシャルワーク・生活再建・地域復興との関係を学ぶ
14	地域福祉の欧米比較・影響	イギリスの公私関係やアメリカのソーシャルワークについて学ぶ
15	介護予防・生活支援事業	介護制度の概要と支え合い体制づくり、介護予防・自立支援を学ぶ

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には、講義形式で授業を展開していく。配布したレジュメプリントをベースとして適宜、板書・パワーポイントと視聴覚資料を図示、併用しながら授業を進めていく。本講義は、自身を取り巻く家族や地域または共同体に密接した事象、身近な環境における諸問題を扱うので随時、身近な事例や意見、建設的かつ双方向的な議論を求めることもある（全くもって難解なものではない）。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期テスト 50%
- ②授業中での課題 20%
- ③小レポート 20%
- ④授業への意欲的参加および平常点 10%

(7) 使用書

区分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書	特になし。レジュメを配布する。			
参考書	『地域福祉の理論と方法 第3版』	福祉臨床シリーズ編集委員会 編	弘文堂	2,700 円
	『よくわかる地域福祉 第5版』	上野谷、山縣、松端 編	ミネルヴァ書房	2,376 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「地域」という連合符、例えば「一政策入門」「一経済論」「一金融論」「一実習」は勿論であるが、とりわけ「生涯発達論」「キャリアデザイン論」「人間関係論」「大月学入門」「社会保障論」「行政学」「社会学」「健康論」「スポーツレクリエーション実習」は効果的。

(9) オフィスアワー・その他

日頃から、新聞（一般紙）の社会面、とりわけ「地方版」の記事を読み、福祉・保健・介護・医療などの諸問題について考えを巡らせておくとよい。授業の進度・内容は、受講生の構成（特別聴講生・市民の皆様の多少）により、若干の変更の可能性はある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
民法Ⅰ（もっとも身近にある法律Ⅰ）	中路 喜之	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

われわれの生活の中には種々の法律が存在し、われわれは知らないうちに法律を使っている（守っている）。その法律の中で、人と人とを結びつけ、その関係を定めた法律を私法というが、その私法の中で、もっとも一般的な、身近なものが民法である。すなわち、民法はわれわれの毎日の生活に直接に関わる法律なのである。生活を営む上で、民法についての知識を持つことが重要となってくる。この講義では、まず民法全体を、次に民法総則と物権について概観し、これらの基礎知識を身につける。それらの知識は、これからの社会生活の中でいろいろな問題にぶつかったときの「解決のヒント」となっていくはずである。こういうときに、自分には何ができるのか、を知っておくことは、社会に出て「一人前」として動く自分の武器となるはずである。

(3) 到達目標

- ① 民法全体の構成を知る。
 - ② 第1編総則、第2編物権についての基本的な知識を理解する。
- その知識を基に、③バランス感覚を養い、具体的な事例問題での利益較量ができるようになることを目標とする。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業内容、授業の進め方、評価方法について。
2	民法の概観	民法の構成、公法と私法、民法の基本原則など。
3	能力（1）	権利能力とは何か。権利能力の始期・終期、例外、意思能力について。
4	能力（2）	行為能力とは、制限行為能力者、その種類、内容について。
5	意思表示（1）	意思表示概論、意思と表示の不一致の場合について。
6	意思表示（2）	瑕疵ある意思表示について など。
7	代理（1）	代理制度概観、代理の目的、その種類、要件などについて。
8	代理（2）	無権代理、表見代理について。
9	時効（1）	時効の意義、時効制度の存在理由について。
10	時効（2）	取得時効について。
11	時効（3）	消滅時効について。
12	時効（4）	時効の効果、時効の中断と停止について。
13	条件・期間など	条件の種類、期限の利益などについて。
14	物権（1）	物権とは何か。その特徴・性質、種類などについて。
15	物権（2）	各種物権の概説・物権変動について。

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

原則として講義の形式で行う。法律は積み重ねの学問であり、毎回のテーマを次の授業までに理解するように復習に力を入れて欲しい。その一助とするために、原則として前回の講義についての理解度を確認するための小テストを毎回の授業のはじめに行い、その場で答え合わせをする。また、授業中にも、適宜発言を求める機会を設け、その場で考えることを実践していく。予習は、授業の終わりに告げる次の範囲について考えること、参考文献を読むことで足りる。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（80％）、② 授業内での活動（レポート、発言、小テスト、課題など）（20％）で、評価をする。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	民法入門 第8版	野村 豊弘	有斐閣	1,980 円
参 考 書	ポケット六法 令和6年版	宇賀・佐伯 編集代表	有斐閣	2,420 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

- ・法学A・法学B、その他法律科目全般に関連する。
- ・民法Ⅱを引きつづき後期に履修することが望ましい。

(9) オフィスアワー・その他

- ・授業後やオフィスアワーで質問などを受け付ける。 ・授業は上記「授業計画」通りに進まない場合がある。
- ・公務員試験受験希望、法学系への進学希望の者は履修を薦める。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
民法Ⅱ（もっとも身近にある法律Ⅱ）	中路 喜之	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

われわれの生活の中には種々の法律が存在し、われわれは知らないうちに法律を使っている（守っている）。その法律の中で、人と人とを結びつけ、その関係を定めた法律を私法というが、その私法の中で、もっとも一般的な、身近な法律が民法である。すなわち、民法はわれわれの毎日の生活に直接に関わる法律なのである。生活を営む上で、民法についての知識を持つことが重要となってくる。本講義では、民法Ⅰに引きつづき、民法の物権（担保物権）、そして債権について取り上げ、これらの基礎知識を身につける。それらの知識は、これからの社会生活の中でいろいろな問題にぶつかったときの「解決のヒント」となっていくはずである。

(3) 到達目標

- ① 民法Ⅰから引きつづき、第2編物権、第3編債権についての基礎的な知識を習得する。
- ② 特に債権分野では、社会の中で多用される「契約」についての基礎的な知識である、債権・債務の種類や債務不履行についての知識を理解する。
- ③ その知識を基にバランス感覚を養い、具体的な事例問題での利益較量ができるようになることを目標とする。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業内容、授業の進め方、評価方法について。前期の確認も含む。
2	物権（1）	物権変動（不動産・動産）、即時取得について。
3	物権（2）	所有権、占有権
4	物権（3）	担保物権総説、通有性、留置権とは。
5	物権（4）	先取特権、質権、抵当権について。
6	債権総論（1）	債権の意義、物権との相違、債権の種類などについて。
7	債権総論（2）	受領遅滞、履行の強制について。
8	債権総論（3）	債務不履行総論
9	債権総論（4）	債務不履行各論（責任、損害賠償の範囲など）
10	債権総論（5）	債権の対外的効力、多数当事者の債権関係（1）
11	債権総論（6）	多数当事者の債権関係（2）、債権譲渡について。
12	債権各論（1）	契約とはなにか。契約自由の原則、債権の目的について。
13	債権各論（2）	契約の種類～典型契約、非典型契約について。
14	債権各論（3）	売買、贈与、請負契約について。
15	債権各論（4）	不法行為について。

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

原則として講義の形式で行う。法律は積み重ねの学問であり、毎回のテーマを次の授業までに理解するように復習に力を入れて欲しい。その一助とするために、原則として前回の講義についての理解度を確認するための小テストを毎回の授業のはじめに行い、その場で答え合わせをする。また、授業中にも、適宜発言を求める機会を設け、その場で考えることを実践していく。予習は、授業の終わりに告げる次の範囲について考えること、参考文献を読むことで足りる。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（85%）、② 授業内での活動（発言、小テストなど）（15%）で、評価をする。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	民法入門 第8版	野村 豊弘	有斐閣	1,980 円
参 考 書	ポケット六法 令和6年版	宇賀・佐伯 編集代表	有斐閣	2,420 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

- ・法学A・法学B、その他法律科目全般に関連する。
- ・民法Ⅰに引きつづき、履修することが望ましい。

(9) オフィスアワー・その他

- ・授業後やオフィスアワーで質問などを受け付ける。
- ・前期開講の民法Ⅰに引き続くテーマから開始し、適宜事例などを取り入れて講義をしていくため、そして履修学生の理解を優先するために、授業は上記「授業計画」通りに進まない場合がある。・公務員試験受験希望、法学系への進学希望の者は履修を薦める。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
家族と法（家族にまつわる法律）	中路 喜之	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

われわれの社会生活のもっとも身近な単位である「家族」は、どうやって構成されるのか。たとえば、自分の親族という場合、誰を想起するだろうか？血のつながり（血族）や結婚による関係（姻族）をその根拠と考えると、それは無限に広がるのか。本授業では、家族に関して法はどのような制度を設けているのか、その目的は何か、など基本的な仕組みを学んでいく。

具体的には、家族に関する、民法第4編・親族と第5編・相続（この部分を一般に「家族法」と呼ぶ）を取り扱う。その中の、①夫婦関係と法、②親子関係と法、③相続と法の3つの大きなテーマについて学び、これからの自分に関わる法律についての基礎的な知識を身につける。

（3）到達目標

- ① 日本の家族法の歴史、特色、問題点を踏まえながら、② 婚姻と離婚、親子（関係）、相続などの家族に関する法の基礎的な理解を得ることを目標とし、同時に、それらを通して③法的な考え方に親しみ、具体的な問題について自らの考えを説明できるようにすることを目標とする。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の内容、授業の進め方、評価方法などについて。
2	親族とは	親族の範囲、親等、家系図
3	夫婦関係と法（1）	婚姻の成立とその要件について。
4	夫婦関係と法（2）	婚姻の身分上の効果と財産上の効果について。
5	夫婦関係と法（3）	離婚について、その成立・種類・効果について。
6	親子関係と法（1）	嫡出子とは。
7	親子関係と法（2）	非嫡出子、準正、認知について。
8	親子関係と法（3）	養子について、その要件、縁組の効果について。
9	親子関係と法（4）	特別養子について、普通養子との違いなどについて。
10	相続と法（1）	相続についての概論
11	相続と法（2）	法定相続とは、法定相続分について。
12	相続と法（3）	遺言、その種類、それぞれの方式について。
13	相続と法（4）	遺留分などについて。
14	家族法に関する判例	最高裁判所で争われた事例の紹介
15	まとめ	全体の総復習

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

原則として講義の形式で行う。法律は積み重ねの学問であり、毎回のテーマを次の授業までに理解するように復習に力を入れて欲しい。その一助とするために、原則として前回の講義についての理解度を確認するための小テストを毎回の授業のはじめに行い、その場で答え合わせをする。また、授業中にも、適宜発言を求める機会を設け、その場で考えることを実践していく。予習は、授業の終わりに告げる次の範囲について考えること、参考文献を読むことで足りる。

（6）成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（85%）、② 授業内での活動（発言、小テストなど）（15%）で、評価をする。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	民事法入門 第8版	野村 豊弘	有斐閣	1,980 円
参 考 書	ポケット六法 令和65年版	宇賀・佐伯 編集代表	有斐閣	2,420 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

民法Ⅰ・民法Ⅱや法学Aと関連する。

（9）オフィスアワー・その他

- ・授業後やオフィスアワーで質問などを受け付ける。
- ・授業は、上記「授業計画」通りに進まない場合がある。
- ・公務員試験受験希望、法学系への進学希望の者は履修を薦める。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
労働と法（働く前に知っておきたい労働のルール）◆	中野 宏典	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

法は、社会生活を営む上で不可欠のツールであり、法的な思考（いわゆるリーガルマインド）に親しんでおくことは、法律を直接扱う職に就く場合は無論のこと、そうでない場合にも、さまざまな課題解決という場面で大いに有用である。本講義は、社会人として特に関係が深い労働法の基本的な知識を学ぶとともに、労働法を題材として、リーガルマインドの基本を育み、今後社会に出たときに少しでも役立つような内容とする。

パワーポイント資料を用いた解説と学生からの発言・意見交換に重点を置く。特別な準備・予習を求めるものではないので、気軽に参加し、意見を交わして、自分の世界を広げていただきたい。授業の後半では、模擬労働審判なども行いたい。

（3）到達目標

- ①労働三法（労働基準法、労働契約法及び労働組合法）を中心とした労働関係法規に関する基本的な知識・考え方を説明できる。
- ②実際の事例を題材に、現実の社会問題について、リーガルマインドの基本を意識しながら積極的に議論し、課題を解決できる。
- ③答えの分からない問題に対しても自分なりの筋道を立てて説明できる。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	法とは何か	労働法関係の前提となる法や契約に関する基礎知識
2	憲法と労働関係	憲法における労働権の位置付けと労働条件の基本原則
3	就職活動と労働法	採用、内定、試用期間を中心とした労働契約開始の場面
4	就業規則	就業規則の意義・効力と、作成や変更に関する規制
5	賃金	賃金支払いの諸原則と最低賃金制度
6	労働時間・休暇	労働時間の原則と例外、休暇に関する諸規制
7	安全衛生と労働災害	労災保険法を中心に労働災害に対する補償制度を概観
8	職場内トラブル	セクハラ、パワハラなど、職場内で生じるトラブル
9	企業秩序と懲戒	懲戒に関する基本事項、人事にも若干触れる
10	労働契約の終了	解雇に関する基本事項と解雇権濫用法理
11	アルバイトと労働法	期間雇用、パートタイム労働及び労働者派遣の概観
12	労働紛争解決	労働委員会による紛争調整と司法的解決手続、とりわけ労働審判
13	模擬労働審判	模擬労働審判の実施
14	労働組合と不当労働行為	労働三権の意義と労働組合、不当労働行為
15	団体交渉と団体行動	団体交渉の意義と具体的内容

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

毎回、テーマに沿ったレジュメを配布し、パワーポイント資料を用いて基本的知識の説明を行う。裁判例や実務上の具体例を挙げて、問題の所在や解決の方法をイメージしやすいようにする。できる限り毎回「今日の設例」を設定し、基本的知識を踏まえつつ双方向型で討議を行う。授業の最後に、出欠確認も兼ねて、簡単な感想を提出してもらう。

（6）成績評価の方法と基準

- ①授業における積極性及び感想（40%）、②定期試験に代わる期末レポート（60%）の合計点により評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	労働法（Next 教科書シリーズ）第2版	新谷真人（編）	弘文堂	2,200 円
参 考 書	有斐閣アルマ『ベーシック労働法』第9版	浜村彰弘ほか（著）	有斐閣	2,090 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

法学A・B、民法I・II

（9）オフィスアワー・その他

決まったオフィスアワーは設けませんが、必要があれば時間を設けます（要事前予約）。遠慮なくご相談ください。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
政治学（民主主義と私たち）	山岸 絵美理	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
 4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

本講義は、政治学の基礎的な理論を学び、現代の社会に存在する様々な現象を政治学的な観点でとらえる力を習得することを目的とする。現代の日本は国民民主権のもと民主主義による政治が行われている。つまり、私たち国民が日本という国について考え、決定するという仕組みのもと政治が行われている。このような民主主義の観点を基本とし、政治学を学ぶ意味から考えることから出発し、それを応用し、政治についての理解を深化させる能力を身につけ、政治を身近なものとして捉えるようになってほしい。さらに、日本や世界において、日々移り変わる政治的な出来事の仕組みを理解し、今後の日本社会について批判的に捉え、自ら判断する力を養うことが目的である。

(3) 到達目標

- ① 政治学の基礎的な知識を習得する。
 ② ニュースや新聞の内容を政治学的観点から関連付けることができる。
 ③ それらを習得した政治学の理論や知識によって、政治的事象を論じることができる。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	講義の進め方	ガイダンス
2	政治学を学ぶ意義	政治を学ぶために必要な基本的な認識
3	権力とは何か	権力をめぐる考え方
4	政治体制について①	自由主義と民主主義について
5	政治体制について②	現在の自由民主主義体制の課題について
6	国家と政府	福祉国家の成立について
7	国家と政府	福祉国家の課題について
8	代表制と議会①	議会の仕組みと役割、議会制民主主義についての基本的な認識
9	代表制と議会②	代表制の課題について
10	政治過程について	選挙制度、利益集団について
11	公共性について	公共圏とデモクラシーについて
12	政治の参加	直接参加制度と意義について
13	集権と分権について	連邦制と単一国家、地方自治の意義について
14	ガバナンスについて	グローバルガバナンス、SDGsについて
15	現代日本政治について	現代日本政治の課題について

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には講義形式で授業を進めていき（パワーポイントやレジュメを併用）、具体的事例を示した資料として新聞記事等を配布する。また講義内容を踏まえた理解度確認のためのコメントシートを記入してもらい、コメントシート回収後は、解答の解説等行う。予習は必要ないが、適宜、新聞や雑誌などを使用し、政治、行政に関する具体的事柄や課題について紹介していくので、積極的にその意味や内容を理解することに努めること。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期テスト（60%）、② 授業での課題（20%）、③ 授業外課題（20%）

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	『政治学』	川出良枝・谷口将紀（編）	東京大学出版会	2,420 円
	その他講義内での配布プリントなど			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

行政学、地方自治論の履修を考えるものは、履修が望ましい。

(9) オフィスアワー・その他

オフィスアワー：原則として毎週火曜日 13：00－14：00。編入志望者、公務員試験受験希望者は履修を勧める。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
行政学（行政の仕組みを理解する）	山岸 絵美理	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
 4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

本講義では、現代における行政の役割やその意義について学んでいく。「行政」とは、私たちの生活にとっても身近でありながら、日常的に意識する機会が少ないのが実情である。しかし、今日の社会の多様化・複雑化といった変化は、行政機能を左右するだけでなく、人々の生活に大きな影響を与えている。そこで本講義では、身近な行政活動を取り上げながら行政の機能や役割について解説することから始め、行政学の基本的な考え方、枠組みを学ぶ。それらをふまえ、具体的な政府の動態や行政の課題について検討し、理解を深める。行政活動を決定する統治の方法としてガバメントに着目し、地方自治や行政の統制、協働による行政マネジメントのあり方についても講義を展開していく。

(3) 到達目標

- ① 現代の統治の仕組み（三権分立）から行政の役割について述べることができる。
 ② 行政学の基礎的な理論を述べることができる。
 ③ 行政学の理論を現実の問題に応用することができる。
 ④ 今後の行政と国民・住民の関係をふまえ、これからの行政経営のあり方を論じることができる。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	行政とは何か	行政学で学ぶ行政の内容や特徴について
2	行政サービスの歴史①	行政サービスの歴史的展開とその内容の変化
3	行政サービスの歴史②	行政機能の肥大化と福祉国家
4	アメリカ行政学の展開①	アメリカ行政学理論（行政理論の流れ①）
5	アメリカ行政学の展開②	アメリカ行政学理論（行政理論の流れ②）
6	アメリカ行政学の展開③	アメリカ行政学理論（組織理論の流れ）
7	官僚制をめぐる論点	官僚制の基本的構造や学説について
8	日本の議院内閣制について①	議院内閣制の仕組みと日本の議院内閣制
9	日本の議院内閣制について②	日本の議院内閣制の課題
10	日本の行政組織について①	中央省庁の仕組みやその特徴
11	日本の行政組織について②	中央省庁等の改革の意義と課題について
12	日本の公務員制度①	公務員制度の仕組みについて
13	日本の公務員制度②	現代公務員制度の課題について
14	財政の役割について	予算制度の仕組みと現在の予算の分析について
15	地方行政の仕組みについて	地域の行政の役割について

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には講義形式で授業を進めていき（パワーポイントやレジュメを併用）、具体的事例を示した資料として新聞記事等を配布する。また講義内容を踏まえた理解度確認のためのコメントシートを記入してもらい、コメントシート回収後は、解答の解説等行う。予習は必要ないが、適宜、新聞や雑誌などを使用し、政治、行政に関する具体的事柄や課題について紹介していくので、積極的に行政活動の意味や内容を理解するよう努めること。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期テスト（70％）、② 授業での課題（20％）、③授業貢献度（10％）

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	『はじめての行政学』	伊藤正次、出雲明子、手塚洋輔	有斐閣	2,090 円
	配布プリント			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

1年生は「政治学」を履修することを勧める。地方自治論。

(9) オフィスアワー・その他

オフィスアワー：原則として毎週火曜日 14：00－15：00。編入志望者、公務員試験受験希望者は履修を勧める。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
人的資源管理論（企業の競争力を強化する従業員の管理）◆	上笹 恵	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

企業が保有する経営資源のなかでも、組織の競争力の向上や維持にもっとも強い影響を与えるのが人的資源である。たとえば、世の中を大きく変えるほどの革新的な製品を開発し、自社製品への市場からの支持を高めるのは、優れた研究開発スタッフなどの存在による。また、長期にわたって顧客との良好な関係づくりを行うには、市場との接点で高い水準の対応ができる人材が必要となる。このような優れた人材は計画的に採用し、管理・育成していくことが重要である。

講義では好ましい人材を確保し、企業の長期的な発展を可能にするための人的資源管理の技術や視点について検討する。組織と個人との関係、採用、人員配置、訓練、業績管理や報酬体系などを網羅的に学び、真の意味で組織を強くする人的資源管理の方策を考える。企業の事例なども取り上げながら普遍性の高い理論を習得し、常に企業経営の現場に役立つ知見を持てるよう配慮する。

（3）到達目標

- ① 人的資源を強化するための理論や手法を習得し、それらが現場でどう活用されているのか説明できる。
- ② 自分が働く場を想像しながら学び、学んだ内容を将来設計に活用する視点を確立する。
- ③ 就職活動において企業に評価される要素がわかり、それに向けた準備につなげることができる。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	はじめに	講義の進め方と全体像の紹介
2	人的資源管理の役割	経営資源と人、人的資源管理論の歴史、日本の人的資源管理の特徴
3	採用管理	採用計画、採用プロセス、採用に伴う不確実性への対策
4	配置・異動・昇進	初任配属、人事異動、自己申告制度、複線型人事制度
5	人的資源の訓練と開発①	OJT、Off-JT、ジョブ・ローテーション、自己啓発
6	人的資源の訓練と開発②	キャリア開発計画、選択型研修、選抜型研修
7	人的資源の訓練と開発③	OJT改革、次世代リーダーの育成、イノベーターの育成
8	評価体系	人事考課の枠組み、評価基準の考え方、目標管理による評価
9	給与と福利厚生	報酬のタイプ、賃金構造、変動賃金
10	従業員関係	安全管理、従業員の健康、職場のセキュリティ
11	組織と個人の関係①	心理的契約、職務満足と忠誠心、組織コミットメント
12	組織と個人の関係②	従業員の欠勤、離職の種類、人的資源の退職防止策
13	多様性管理	ダイバーシティ・マネジメント
14	人的資源管理の事例	老舗企業に見る人的資源管理の手法
15	これからの人的資源管理	人的資源管理の新しい動き、資源の枯渇や消耗を避ける方策

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業は重要度の高い理論を中心に、板書を基本として進める。教員の企業での実務経験から得た情報を一般化して随時提示し、理論が経営の実際にどう反映されるのかを常に感じながら学ぶ。また、毎回の授業の始めに前回の質問や要望に回答し、双方向的なやり取りを行いながら受講生の理解度を確認する。

（6）成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（90%）、② 授業への貢献度（10%）。

（7）使用書

区分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書	使用せず			
参考書	授業内指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経営学入門、経営組織論などの科目を履修し、人的資源管理の本質をより深く理解することを勧める。

（9）オフィスアワー・その他

授業時間外の質問にはオフィスアワー等で応じる。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
経営戦略論（未来のシナリオをつくる）◆	大橋 松貴	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

本講義では、経営戦略の主要トピックを取り上げ、体系的にそれらの内容を理解することを目指している。経営戦略とは、企業などの組織が現状を把握し、将来のあるべき姿（理想）を描き、その格差を埋めていくためのシナリオをつくり、実践していく一連のプロセスである。経営戦略は、大きく3つの階層に分類されている。それらは、企業活動全体に関わる「全社戦略」、事業分野ごとの戦略である「事業戦略」、そして各事業にある生産や研究、人事、マーケティングなどの諸機能ごとに策定される「機能別戦略」である。講義では、主に経営戦略の基礎的な用語や理論（主にこれら3つの戦略）について事例を通して学んでいく。

これらの内容を踏まえ、講義では経営戦略に関する基礎的な用語や理論を習得し、企業活動を経営戦略という「学術的なメガネ」を通してとらえ、分析できる能力を身につけることを目指す。

（3）到達目標

- ①経営戦略の基礎的な用語や理論などを体系的に理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
- ②日常的にさまざまな企業に関心を持ち、企業活動について能動的に調べることができるようになる。
- ③実際の企業活動について自分なりの考えを抱き、整理し、他者に説明することができるようになる。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	はじめに	講義の進め方の説明、授業の全体像の把握
2	経営戦略の基礎 ①	経営戦略とは、戦略とは、経営戦略の役割
3	経営戦略の基礎 ②	経営戦略の階層、戦略を決定する要因、競争戦略論と資源ベース型戦略論
4	経営戦略の基礎 ③	3C分析、SWOT分析、バリューチェーン分析
5	全社戦略 ①	全社戦略、ドメイン、コア・コンピタンス
6	全社戦略 ②	ナレッジ・マネジメント、多角化
7	全社戦略 ③	経営資源とは、商品－市場マトリックス、アンゾフの成長ベクトル
8	全社戦略 ④	シナジー、PPM
9	事業戦略 ①	事業戦略（競争戦略）、ポーターのファイブフォース分析
10	事業戦略 ②	ポーターの3つの基本戦略：コストリーダーシップ、差別化、集中化
11	事業戦略 ③	コトラーの戦略展開：リーダー、チャレンジャー、ニッチャー、フォロワー
12	事業戦略 ④	資源ベース型戦略論とVRIOフレームワーク
13	機能別戦略 ①	機能別戦略とは、マーケティング戦略
14	機能別戦略 ②	製品ライフサイクル（PLC）
15	機能別戦略 ③	イノベーションとは、イノベーションのライフサイクル

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的にはプリントを配布し、講義形式で進める。講義では重要事項や理論などの概念図を板書するので、受講生はそれらの内容を配布されたプリントに書き込み、自分でプリントを完成させていく。日ごろから、講義で学んだ内容とのつながりを意識しながら企業活動に関する情報に触れることで、経営戦略の知識やものの見方を身につけていってもらいたい。

（6）成績評価の方法と基準

- ①期末テストもしくは期末レポート（70%）、②授業内の課題・レポート（30%）の合計により、総合的に評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	なし			
参 考 書	授業内指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

- ・「経営学入門」で、経営学の基礎的な知識やものの見方を習得しておくことが望ましい。
- ・そのほかにも経営学関連の科目を履修しておくことが望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

- ・授業時間外の質疑はオフィスアワーで対応する。
- ・授業の進捗・内容は、受講生の構成などにより若干の変更がありうる。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
人間関係論（企業内で形成される多様な人間関係）◆	上 笹 恵	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

企業などの組織内で形成される、多様で複雑な人間関係や仕事の進め方についてみていく。最初に、経営学の原点である科学的管理法が確立するなかで発生した労働疎外の問題を取り上げる。そして、労働疎外を緩和、解消するための新しい枠組みとして登場した、人間関係論の理論の全体像を理解する。それらをふまえ、組織内で形成される非公式組織や同調と逸脱、集団の凝集性を高める手法などを検討する。また、従業員の動機付けに関するモデルを取り上げ、彼らの有効な管理の方向性を見出す。

講義では抽象度の高い理論を紹介するだけでなく、可能な限り多くの事例を取り上げ、職場で役立つ物の見方を提示する。全体の調和を保って組織を運営するために、私たち一人ひとりに何ができるのか、受講生とともに考えたい。

（3）到達目標

- ① 標準化や機械化が過度に進んだ職場で発生する労働疎外の現状について説明できる。
- ② 企業が従業員の意欲を高め、まとまりの良い組織をつくるための方法論を修得する。
- ③ 組織内で発生しがちな対立や葛藤について、建設的な緩和・解消の方法を提案できる。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	はじめに	講義の進め方と全体像の紹介
2	科学的管理論の展開①	経営管理の科学化、テーラーの科学的管理法、課業管理
3	科学的管理法の展開②	フォードの総合同時的管理論、科学的管理の功罪
4	人間関係論の芽生え	ホーソン工場実験、社会的欲求の充足
5	集団力学①	公式組織と非公式組織、集団の形成過程、集団凝集性
6	集団力学②	同調と逸脱、小集団の活用、プロジェクトチーム、会議と委員会
7	モチベーション①	満足と組織の成果、ハーズバーグの2要因説、公平説
8	モチベーション②	強化（学習）説、ポーターらの期待説、内発的動機づけ
9	組織ストレス①	組織ストレスのモデル、ストレスの諸相、バーンアウト
10	組織ストレス②	モデレーター要因の効用、対処行動、社会的支持
11	ジョブ・デザイン①	労働疎外と労働の人間化、職務充実・職務拡大、ハックマンモデル
12	ジョブ・デザイン②	ジョブ・デザインと組織との適合性、情報化とジョブ・デザイン
13	対人葛藤①	職場における人間関係、葛藤関係の効用、対人葛藤の動態
14	対人葛藤②	官僚制化と葛藤の関係、葛藤管理の実践、シュミットモデル
15	組織で働くために	組織における自由と規律

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

伝統的な理論を中心に、黒板を使って授業を進める。また、新しい理論や研究の成果も紹介する。さらに、組織内で構成員同士の協力によって生じる成果や問題に関して、受講生からは経験したことなどを念頭に自発的に情報提供してもらう時間をつくる。それを材料に全員で組織活動の本質を探る。理論だけでは把握できない、多様な人間関係について自分なりの哲学を持てるように導いていく。

（6）成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（90%）、② 授業への貢献度（10%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	使用せず			
参 考 書	授業内指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経営組織論、人的資源管理論と関連付けて学ぶと理解が深まる。

（9）オフィスアワー・その他

授業時間外の質問にはオフィスアワー等で応じる。

科目名	旧科目名	教員名	年次	授業期間	単位
消費者行動論（消費行動の説明と予測）◆	マーケティング論C1	上 笹 恵	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

現代の市場においては、企業や個人が手がけるマーケティングの手法が高度化するのに伴って、品質の良い商品やサービスが市場空間を埋め尽くしている。その市場のなかで、消費者は無数といえる商品群のなかから購買を含めた何らかの意思決定を行っている。消費者の意思決定のあり方は多様性を帯びており、その実像を解明することが本講義の目的である。

複雑で多様な消費者の行動を理解するには伝統的な理論を知り、緻密な考え方に基いて人々の行動を観察する必要がある。それと同時に、最新の研究成果を把握しておくことが不可欠である。講義では消費行動の根底にある重要な理論と新しい研究の動きを紹介し、消費行動の分析を通じて自分や世の中への理解を深める点に主眼を置く。

（3）到達目標

- ① 伝統的な消費者行動の理論を正確に理解している。
- ② 学んだ理論をもとに、多様化する消費者行動を一定水準まで解き明かすことができる。
- ③ 消費者行動の理解をふまえた企業の適切なマーケティング戦略について提案できる。
- ④ 自らの消費行動の水準を引き上げ、消費を通じた心理的な豊さを実感できる。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	はじめに	講義の進め方と全体像の紹介
2	消費者行動とは何か	消費者行動の定義、消費者行動とマーケティング活動との関連性
3	消費者の購買意思決定プロセス	情報検索、代替案の評価、購買と購買後の評価、消費者行動の類型化
4	伝統的選択行動アプローチ	ハワード・シエスモデル、ベットマンの意思決定モデル
5	知覚と学習	露出、注意、組織化、解釈、古典的条件付け、道具的条件付け、観察学習
6	記憶と態度	記憶のメカニズム、短期記憶、長期記憶、製品関与、多属性態度モデル
7	ブランド選択の心理	合理的な選択、認知的不協和、ブランドロイヤルティ
8	セグメンテーション	人口統計的変数、地理的変数、心理的変数、VALS、AIO アプローチ
9	説得的コミュニケーション	発信源効果、メッセージ効果、精緻化見込みモデル
10	店頭マーケティング	状況、インスタ・マーチャンダイジング、非計画購買
11	集団	準拠集団、オピニオン・リーダー、ロコミ
12	集団内での消費行動	顕示的消費、ティードロ効果、トリクルダウン理論
13	特別な消費行動	贈り物と消費行動、贅沢な消費行動、神聖な消費行動
14	消費者間の相互作用	情報処理と多重ネットワーク、ソーシャルメディアと消費行動
15	最近の消費者行動研究	新聞記事や経営、マーケティングの専門誌から新しい研究成果を紹介

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

重要な事例はすべて板書する。理論への理解を深めるために新しい事例をできる限り多く紹介する。また、消費者行動の点で注目すべき商品やサービスに関して、受講生が自発的に報告する時間を設ける。それとあわせて、理論では完全にとらえきれない消費者心理のあり方についても議論する。

（6）成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（90％）、② 授業への貢献度（10％）。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	使用せず			
参 考 書	授業内指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経営学入門でマーケティングの基礎理論を学んでおくとう理解が深まる。

（9）オフィスアワー・その他

授業時間外の質問にはオフィスアワー等で応じる。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
マーケティング論（ものを売るしくみ）◆	大橋 松貴	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（１）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（２）授業概要と目的

マーケティングとは「製品を消費者に売り込む」ものではなく「製品が売れるようにする仕組みを作る」ためのものである。変化が激しい現代社会において、企業はさまざまな商品やサービスを開発し、消費者に受け入れられるような努力を続けている。過去から現在にいたるまで、企業は生き残りをかけてさまざまなマーケティング活動を展開している。この活動いかんで、企業の業績は大きく変化するのが現代社会の特徴であるといえよう。しかしながら、時代が変化してもマーケティングの基本的な要素は変わらないのも事実である。そのため、本講義ではマーケティングの基本的な理論や知識を習得し、企業活動をマーケティングの視点から分析できる能力を養うことを目指す。

（３）到達目標

- ①マーケティングの基本的な考えや理論について理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
- ②企業のマーケティング活動について興味・関心をもつことができるようになる。
- ③企業活動をマーケティングの諸理論にもとづいて説明、分析できるようになる。

（４）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	はじめに	講義の進め方の説明、授業の全体像の把握
2	マーケティングの基礎 ①	マーケティングとは、マーケティングと「営利・非営利」、セリングとマーケティング
3	マーケティングの基礎 ②	マーケティング・ミックス、デ・マーケティング、プッシュ戦略とプル戦略
4	マーケティングの基礎概念	セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング
5	環境分析の基礎 ①	PEST 分析、3C 分析、ファイブフォース分析
6	環境分析の基礎 ②	バリューチェーン分析、SWOT 分析
7	人間の購買行動	人間の購買理由、マズローの欲求階層論、人間の欲求、ベネフィット
8	製品のマネジメント ①	製品マネジメントの5つのレベル、購買行動による分類、新製品の普及プロセス
9	製品のマネジメント ②	パッケージングとラベリング、製品ライフサイクル（PLC）、パブリシティ
10	価格のマネジメント ①	価格設定の考え方と方法、心理価格戦略
11	価格のマネジメント ②	ポーターの3つの基本戦略、規模の経済性、経験効果
12	流通のマネジメント	流通チャネルとは、流通チャネルの3つの戦略、サプライチェーンマネジメント
13	プロモーションのマネジメント	プロモーションからコミュニケーションへ、コミュニケーション・ミックス
14	マーケティングとデジタル	e マーケティング、ロングテール
15	その他のマーケティング	消費者の価格に対する感じ方、ブランド戦略、スマートフォン・マーケティング

（５）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的にはプリントを配布し、講義形式で進める。講義では重要事項や理論などの概念図を板書するので、受講生はそれらの内容を配布されたプリントに書き込み、自分でプリントを完成させていく。予習は必要としないが、配布されたプリントや資料を読み、理解を深めてほしい。また、日常的に企業のマーケティング活動に興味を抱き、さまざまな記事に目を通してマーケティングに対する感性を養っていただきたい。

（６）成績評価の方法と基準

- ①期末テストもしくは期末レポート（70％）、②授業内の課題・レポート（30％）の合計により、総合的に評価する。

（７）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	なし			
参 考 書	授業内指示			

（８）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経営学入門

（９）オフィスアワー・その他

- ・授業時間外の質疑はオフィスアワーで対応する。
- ・授業の進度・内容は、受講生の構成などにより若干の変更がありうる。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
経営組織論（組織の構造づくりと従業員の動機づけ）◆	上 笹 恵	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（１）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（２）授業概要と目的

企業にとっては、合理的で高い生産性を実現できる組織を作って運営し、外部環境への適応力を高め、売上や利益などの面で好ましい成果を獲得することが重要な経営課題である。そのためにはどのような組織にも適用できる原理を丁寧に学び、その考え方を柔軟に取り入れた組織づくりを進める必要がある。

講義では組織運営の伝統的な理論とともに最近の研究における特徴を紹介し、会社組織の全体を把握できるようにする。主に大企業が採用する組織戦略を取り上げ、その有効性や課題を探っていく。また、組織の形式面からのアプローチに加え、組織構成員の心理的な側面からのアプローチについても学ぶ。それは、多様な価値観を持つ従業員の動機づけをどう行うかという問題である。これら二つの観点から、厳しい外部環境に適応できる組織運営のあり方を検討する。

（３）到達目標

- ① 組織設計および運営の基本理論を身に付け、組織の発展を可能にする物の見方ができる。
- ② 組織構成員の動機づけの方策を学び、活力のある組織づくりを行うための視点を提示できる。
- ③ 組織内で発生しがちな問題とその建設的な対処方法について、理論をふまえた提案ができる。

（４）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	はじめに	講義の進め方と全体像の紹介
2	経営組織の意義	組織とは何か、経営戦略と組織、経営組織論の生成・発展
3	経営組織の基本概念	ラインとスタッフ、集権と分権、ライン組織、職能別組織
4	経営組織の設計①	事業部制組織の特性と問題点、プロジェクト組織
5	経営組織の設計②	プロジェクトチーム、マトリックス組織、カンパニー制
6	組織設計の原理	組織デザインの手順、有機的組織と機械的組織
7	従業員の心理と行動①	モチベーションの概念、コミュニケーションの類型
8	従業員の心理と行動②	リーダーシップの概念と型、変革型リーダーシップ
9	組織文化	組織文化の形成過程、組織文化の機能
10	組織間関係	組織間関係論の発展、組織間関係と経営戦略
11	経営組織と倫理	組織の犯罪、反社会的行動、内部告発、組織と市民道徳
12	経営組織の今日的課題	企業統治、M&A、多国籍企業の組織構造
13	組織の変革①	組織変革の意義、近視眼的変革、組織学習、知識創造
14	組織の変革②	組織変革の阻害要因、組織開発の概念と手法
15	組織デザインのあり方	構造アプローチとモチベーションアプローチの統合

（５）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

健全な組織の運営に不可欠な事項を修得するため、毎回ノートに組織図や理論の概念図などを書きながら学ぶ。受講生は各自工夫して自分のノートをつくり、それを文章で表現する訓練を継続すること。質問や要望などがある場合には紙に書いてもらい、次の授業の最初にそれらを紹介してコメントする。

（６）成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（90％）、② 授業への貢献度（10％）

（７）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	使用せず			
参 考 書	授業内指示			

（８）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経営学入門、人的資源管理論を学び、組織運営の基本的な概念を理解しておくことが良い。

（９）オフィスアワー・その他

授業時間外の質問にはオフィスアワー等で応じる。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
経営イノベーション論（新たな価値を創造する）◆	大橋 松貴	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

現代社会において、イノベーションは企業活動の重要な位置を占めるようになってきている。イノベーションといえば、新技術や新商品の開発といった活動を思い浮かべる人が多いであろう。確かに、かつてイノベーションは「技術革新」と訳され、画期的な技術や商品を意味する用語であった。しかし、現代においては「新たな技術やアイデアを活用することで、それまでにない価値を生み出し、社会に大きな変化をもたらすこと」という本来の意味が浸透してきている。本講義では、イノベーションに関する考え方やさまざまな理論を取り上げ、主に企業活動の側面からイノベーションの基本的な役割について学ぶことで、イノベーションの視点からものごとをとらえることができるようになることを目指す。

（3）到達目標

- ①企業経営に関わるイノベーションの諸理論について理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
- ②日常的に、さまざまな企業のイノベーション活動に興味・関心をもつことができるようになる。
- ③企業のイノベーション活動を学問的な側面からとらえ、分析できるようになる。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	はじめに	講義の進め方の説明、授業の全体像の把握
2	これからの経営	変化する時代と仕事、イノベーションという視点
3	イノベーションの基礎	イノベーションの定義、イノベーションの起源、イノベーションの種類
4	イノベーションの諸理論 ①	シュンペーターの「新結合」、創造的破壊、企業家の群生プロセス
5	イノベーションの諸理論 ②	ドラッカーの7つの機会、SECI モデル、形式知・暗黙知
6	イノベーションの諸理論 ③	パーカーのパラダイムシフト、モジュール化
7	イノベーションの諸理論 ④	破壊的イノベーション・持続的イノベーション、オープンイノベーション
8	イノベーションの諸理論 ⑤	経営管理イノベーション、リバーズ・イノベーション
9	イノベーションと事業システム	フリーミアム、プラットフォーム戦略、アウトソーシング
10	イノベーションと経営戦略	経営戦略とゲーム理論、国際戦略の基本パターン
11	イノベーションと組織 ①	組織行動論、キャリアアンカー、3種の資本
12	イノベーションと組織 ②	組織均衡、グループシンク、マネジメント・コントロール
13	イノベーションとマーケティング	価格の心理学、マーケティングと営業、エシカル消費
14	イノベーションと中小企業	中小企業の経営戦略、中小企業とイノベーションとの適合性
15	イノベーションと製品開発戦略	プロトタイピング、掛け算思考、ブルー・オーシャン戦略

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的にはプリントを配布し、講義形式で進める。講義では重要事項や理論などの概念図を板書するので、受講生はそれらの内容を配布されたプリントに書き込み、自分でプリントを完成させていく。また、講義では必要に応じて新聞や雑誌などの参考資料を配布するので、受講生にはそれらをよく読み、講義内容を整理していつもらいたい。

（6）成績評価の方法と基準

- ①期末テストもしくは期末レポート（70%）、②授業内の課題・レポート（30%）の合計により、総合的に評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	なし			
参 考 書	授業内指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

人的資源管理論、経営戦略論、経営組織論、マーケティング論、経営情報論

（9）オフィスアワー・その他

- ・授業時間外の質疑はオフィスアワーで対応する。
- ・授業の進度・内容は、受講生の構成などにより若干の変更がありうる。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
観光ビジネス論（観光ビジネスの理論と創造）◆	安藤 勝洋	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる。

（2）授業概要と目的

日本の観光政策は、2003年の観光立国宣言以降、インバウンド誘致等による経済再生の施策として、また地方創生の切り札として期待されている。観光ビジネスの範囲は幅広く、旅行業、宿泊産業、交通産業、まちづくりなど多様である。一方、現在の観光ビジネスは、従来型の旅行形態から、旅のパーソナル化や通信技術の革新によるマーケティングの変化等により、大きく変化している。また、新型コロナウイルス（COVID-19）の影響を観光産業は大きく受け、既存のビジネスモデルにとらわれない、地域資源の活用や技術革新に伴う新たな観光ビジネスの創造が求められている。そこで本科目では、観光ビジネスのこれまでの歴史や発展の経緯と、現代的な意味を理解し、様々な状況下で役立つ、柔軟な観光ビジネスの発想や視野を養うことを目的とする。また、身近な地域（大月市）の観光に目を向け、地域資源を活用した観光人材の育成、ビジネスの創造について学ぶ。

（3）到達目標

- ①観光ビジネスの動向を理解し、今日的な意味を説明できるようになる。
- ②観光ビジネスの現状や問題点を分析し、ビジョンや望ましいビジネスモデルについて、自身の見解を説明できるようになる。
- ③身近な地域（大月）の観光について、地域資源の魅力を発見し、伝えられるようになる。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	観光ビジネスの総論、講義の目的、概要
2	ポストコロナと観光	新型コロナウイルス（COVID-19）と観光の変容
3	旅行業界の動向	日本のインバウンドとアウトバウンドの軌跡、旅行業界のビジネスモデルの変化
4	宿泊産業①	宿泊業界の構図（ホテル、旅館、ゲストハウス等）
5	宿泊産業②	課題解決型の宿泊産業、民泊ビジネスの動向と展望
6	交通と観光ビジネス	移動と交通の価値創造（電車、バス、車、航空、スモールモビリティ、MaaS等）
7	まちづくりと観光ビジネス①	地域資源（歴史、文化、自然等）とまちづくり
8	まちづくりと観光ビジネス②	海外の観光まちづくりの事例
9	DMOと地域経営	観光地ライフサイクル、日本型DMO（制度、地域戦略、財源、人材等）、海外のDMO
10	エコツーリズムとレジャー産業	エコツーリズム、グリーンツーリズム、地域資源の保全と活用・ビジネス創造
11	サステナビリティと観光	サステナビリティ、SDGs
12	多様化するツーリズムの傾向	アウトドア、ワーケーション、オーバーツーリズム等
13	大月の観光①	大月の観光資源、観光と地域
14	大月の観光②	桃太郎伝説とまちづくり
15	まとめ	全体のまとめ

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業は、①講義形式（スライド形式）と、②グループまたは個人のプレゼンテーションにより進める。受講生は、授業時間外の学習として、観光ビジネスの創造について、グループワークにより資料作成等の準備を進め、授業時にプレゼンテーションおよび質疑応答等を行う。

（6）成績評価の方法と基準

- ①期末レポート（40%）、②グループプレゼン（30%）、③授業後の感想や課題への記入（30%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。			
参 考 書	必要に応じて紹介する。			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

大月学入門、地域実習などを履修することを勧める。

（9）オフィスアワー・その他

上記のスケジュールに従い講義を行うが、進捗状況や時事的な問題を取り扱うことによるスケジュールの前後や変更がありうる。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
企業システム論（時代に適合した組織づくり）◆	大橋 松貴	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

時代の変化とともに、企業はその形を変化させることで、環境に適応している。言い換えれば、企業が生き残るためには、時代に合わせて企業システムを変化させていくことが求められているといえよう。と同時に、伝統的な企業システムの特徴や課題についてとらえ、学ぶことも重要である。企業システムの範囲は広く、多岐に渡るが、本講義では企業の特徴や役割について確認したうえで、日本独自のシステムともいえる「日本的経営」についてみていく。その後、企業の組織形態や組織システムなどに関連する諸理論、コーチング・コミュニケーションについて学ぶ。最後に、ものづくりを得意とする日本企業の生産システムについて検討する。

このように、本講義では企業システムを多角的な視点からとらえ、関連する諸理論を交えながら進めていく。この講義により、企業システムを多角的にとらえ、分析できる能力を身につけてほしい。

（3）到達目標

- ①企業システムに関するものの見方や理論について理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
- ②日本の経営に興味・関心をもち、自分なりの意見をもつことができるようになる。
- ③さまざまな企業活動について、企業システムの視点から分析し、他者に説明できるようになる。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	はじめに	講義の進め方の説明、授業の全体像の把握
2	企業とは何か	株式会社と持分会社、所有と経営の分離、コーポレートガバナンスとコンプライアンス
3	日本的経営 ①	日本的経営と労使関係、稟議制度、日本人による日本的経営、日本的経営のブーム
4	日本的経営 ②	成果主義、人事管理と労務管理、人事制度、人材マネジメント
5	日本的経営 ③	雇用形態とマネジメント、働き方改革、労働時間、労働環境、ダイバーシティ
6	組織としての企業 ①	組織とは、職能別組織、ライン組織、ラインアンドスタッフ組織、事業部制組織
7	組織としての企業 ②	マトリックス組織、カンパニー制、経営者と共感力、その他の重要項目
8	組織システムに関する理論 ①	科学的管理法、フォード・システム、ホーソン実験、
9	組織システムに関する理論 ②	マズローの欲求階層論、マグリガーのX理論・Y理論、動機づけ—衛生要因
10	組織システムに関する理論 ③	サイモンの意思決定論、コンティンジェンシー理論、レビンのリーダーシップ論
11	コーチング・コミュニケーション ①	コーチング、コーチングとティーチング、カウンセリングメソッド
12	コーチング・コミュニケーション ②	7つのコーチングスキル①～③（環境、聴く、問いかけ）
13	コーチング・コミュニケーション ③	7つのコーチングスキル④～⑦（ほめる、叱る、励ます、感謝）、ブリーフセラピー
14	企業の生産システム ①	生産計画、生産形態、ISO
15	企業の生産システム ②	作業管理、研究開発とイノベーション、総合的品質管理（TQC）、発注方式

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的にはプリントを配布し、講義形式で進める。講義では重要事項や理論などの概念図を板書するので、受講生はそれらの内容を配布されたプリントに書き込み、自分でプリントを完成させていく。単に講義内容を暗記するのではなく、企業システムに対する学問的なものの見方やしくみなどについて理解を深め、自分の言葉で説明できるようになってほしい。

（6）成績評価の方法と基準

- ①期末テストもしくは期末レポート（70%）、②授業内の課題・レポート（30%）の合計により、総合的に評価する。

（7）使用書

区分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書	なし			
参考書	授業内指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

- ・「経営学入門」をはじめとして、経営学関連の科目を履修しておくことが望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

- ・授業時間外の質疑はオフィスアワーで対応する。
- ・授業の進捗・内容は、受講生の構成などにより若干の変更がありうる。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
商法（会社）	山崎 恭代	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

日本経済の担い手である企業の中で、特に株式会社の企業活動は、株主（投資家）、企業、労働者をはじめ、国民生活全般に影響を及ぼす重要なものである。本講義では、会社法の基礎的な知識を修得することを目標とし、株式会社の基本構造、社員の意義、株式の意義、株式制度、会社の機関（株主総会、取締役会）などを学ぶ。

株式会社制度の基本を理解したうえで、格差拡大、雇用不安、企業の倫理意識の低下などの、会社法の基本理念と密接に関連する現代的課題に対する問題意識を身につける。

授業内容の理解を深めるために、授業のテーマと関連する時事問題があれば、適宜紹介する。

（3）到達目標

- ①会社企業の基本的な仕組みと運営について説明できる。
- ②起業や株式投資に必要な株式制度について説明できる。
- ③会社企業の法的仕組みを把握することによって、経済、経営、会計学に応用できる。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	講義の進め方、評価方法の説明等
2	会社の意義	会社とは何か、会社の法的意義を学ぶ
3	会社の種類	合名・合資・合同・株式会社という4種類の会社の意義と特色を把握する
4	社員の意義	社員とは何か、有限責任、無限責任とは何かについて学ぶ
5	会社の設立方法	株式会社の設立方法を修得する
6	株式の意義	株式の意義・内容、株券電子化の意義を考察する
7	株主の権利と義務	株主平等原則、株主の諸権利と義務について考察する
8	会社の機関①	株主総会の意義、権限、決議方法を学ぶ
9	会社の機関②	取締役会の意義、権限、決議方法を学ぶ
10	会社の機関③	監査役、会計参与の意義、権限について学ぶ
11	取締役の義務と責任	取締役の責任と、社外取締役、株主代表訴訟制度を学ぶ
12	株式会社の資金調達手段①	新株発行の意義、形態について学ぶ
13	株式会社の資金調達手段②	自己株式の取得とストックオプションについて学ぶ
14	企業の再編成（M&A）①	合併、親子会社について学ぶ
15	企業の再編成（M&A）②	株式交換・株式移転制度について学ぶ

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には、講義形式で授業を進めていく。配付した印刷物の空欄に用語を記入しながら、学習を進める。毎回、授業時間の数分を利用して、理解度を確認するための復習問題を2～3問程度出題する（授業内課題）。フィードバックとして、次回の授業で問題の解説を行うか、または、チームで解説を送信する。特殊な用語や言い回しが多いため、事前の予習よりも、授業後の復習に重点をおいた学習をすること。授業で解説した教科書の該当箇所、板書をまとめたノート、配布資料を読んで、復習を行うこと。

（6）成績評価の方法と基準

- ①定期試験（65%）、②授業内課題（35%）の合計点数により評価を行う。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	現代商法入門〔第11版〕	近藤光男〔編〕	有斐閣	2,200円
参 考 書				

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

履修後は「企業法務論」を履修することを勧める。

（9）オフィスアワー・その他

授業後、教室で質問を受け付ける。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
企業法務論（商法一般、消費者取引）	山崎 恭代	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

今日の日本経済の発展が、企業活動によってもたらされていることは、疑う余地がない。そして、その企業活動から生ずる生活関係を規制対象とする法律が商法である。商法には、「商法」以外にも、会社法、手形・小切手法、特定商取引法、消費者契約法など、広く、ビジネスに関するルールを含む。

本講義では、企業取引の決済、資金借入、企業間信用などの手段として広く利用されている小切手・手形を学ぶとともに、旧統一教会の被害者救済のために成立した改正消費者契約法や、特定商取引法などで規定されている、悪質業者から消費者を保護するための各制度や、事業者が守るべき法的ルールについて、解説を行う。

(3) 到達目標

- ①小切手の基本的な仕組みについて説明できる。
- ②契約を締結する際の基本的なルールを身につける。
- ③悪質商法の被害にあった場合に、適切に対処できる知識を身につける。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	講義の進め方、評価方法の説明等
2	小切手の概要	小切手と手形の利用手続、小切手とはどういうものかについて学ぶ
3	有価証券	有価証券、手形・小切手行為の特性、性質を学ぶ
4	手形・小切手行為の成立	有効な署名方法、代理による契約方法を学ぶ
5	偽造	偽造の概念、線引小切手について学ぶ
6	裏書	裏書（手形・小切手債権の譲渡）、線引小切手の裏判について学ぶ
7	小切手・手形の支払	小切手・手形の支払を受ける方法、遡求、時効を学ぶ
8	除権決定	小切手・手形をなくした場合の対処方法、預金小切手を学ぶ
9	消費者取引①	事業者と消費者との取引の基本的な概要を学ぶ
10	消費者取引②	規制類型①（訪問販売）と規制の概要について学ぶ
11	消費者取引③	規制類型②（ネガティブオプション）と規制の概要について学ぶ
12	消費者取引④	規制類型③（訪問購入）と規制の概要について学ぶ
13	消費者取引⑤	規制類型④（通信販売）と規制の概要について学ぶ
14	消費者取引⑥	規制類型⑤（連鎖販売取引）と規制の概要について学ぶ
15	消費者取引⑦	消費者契約法の概要を学ぶ

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には、講義形式で授業を進めていく。配付した印刷物の空欄に用語を記入しながら、学習を進める。毎回、授業時間の数分を利用して、小切手の振出問題、理解度を確保するための復習問題を、2～3 問程度出題する（授業内課題）。フィードバックとして、次回の授業で問題の解説を行うか、または、チームズで解説を送信する。特殊な用語や言い回しが多いため、事前の予習よりも、授業後の復習に重点をおいた学習をすること。授業で解説した教科書の該当箇所、板書をまとめたノート、配布資料を読んで、復習を行うこと。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験（65%）、②授業内課題（35%）の合計点数により評価を行う。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	現代商法入門〔第11版〕	近藤光男〔編〕	有斐閣	2,200 円
参 考 書				

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

(9) オフィスアワー・その他

授業後、教室で質問を受け付ける。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
初級商業簿記及び演習（簿記の基礎を学ぶ）	永岩 尊暢	1	前期	3

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

企業で行われている様々な経済的諸活動を貨幣数値すなわち金額で表し、企業の業績の良し悪しを表わす財務諸表にまとめあげるのが簿記の役割であり、それを実行するのが経理業務と呼ばれる会社業務である。

本講義では企業の基本的な経理業務が一通りこなせる程度の簿記の知識と技術を習得し、6・11・2月に実施される日本商工会議所主催簿記検定3級に合格することを目標としている。なお、前期・後期とも同一の内容にて毎週2コマ実施される。

(3) 到達目標

- ① 計数感覚が身につく。
- ② 会社の経営状態が読める。
- ③ 会社の経営活動から生じた数値の意味が分かるようになる。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	はじめに	簿記とは何か
2	簿記の基礎①	企業会計の意義、貸借対照表
3	簿記の基礎②	損益計算書、取引と勘定
4	簿記の基礎③	仕訳、転記、試算表
5	簿記の基礎④	6桁精算表、決算
6	簿記の基礎⑤	演習①
7	期中取引の処理①	現金・小口現金、当座預金
8	期中取引の処理②	商品売買、売掛金・買掛金、その他の債券・債務
9	期中取引の処理③	手形、有価証券と有形固定資産
10	期中取引の処理④	演習②
11	決算整理と財務諸表①	売上原価の計算、貸倒引当金
12	決算整理と財務諸表②	有価証券の評価替えと減価償却、費用・収益の繰延と見越
13	伝票	入金伝票・出金伝票・振替伝票
14	確認テスト	小テスト
課題授業（1回分）		精算表の演習問題を課します。

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

- ① 教科書に沿って進める。
- ② 問題集を適宜活用する。
- ③ 電卓の持参は必須となる。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 期末試験（90％）、② 授業内課題（10％）

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	簿記講義 3級 商業簿記	渡部・片山・北村編著	中央経済社	880 円
問 題 集	簿記ワークブック 3級商業簿記	渡部・片山・北村編著	中央経済社	880 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

会計学

(9) オフィスアワー・その他

質問の際は、事前に学内メールにて連絡をすること。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
初級商業簿記及び演習（簿記の基礎を学ぶ）	永岩 尊暢	1	後期	3

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

企業で行われている様々な経済的諸活動を貨幣数値すなわち金額で表し、企業の業績の良し悪しを表わす財務諸表にまとめあげるのが簿記の役割であり、それを実行するのが経理業務と呼ばれる会社業務である。

本講義では企業の基本的な経理業務が一通りこなせる程度の簿記の知識と技術を習得し、6・11・2月に実施される日本商工会議所主催簿記検定3級に合格することを目標としている。なお、前期・後期とも同一の内容にて毎週2コマ実施される。

(3) 到達目標

- ① 計数感覚が身につく。
- ② 会社の経営状態が読める。
- ③ 会社の経営活動から生じた数値の意味が分かるようになる。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	はじめに	簿記とは何か
2	簿記の基礎①	企業会計の意義、貸借対照表
3	簿記の基礎②	損益計算書、取引と勘定
4	簿記の基礎③	仕訳、転記、試算表
5	簿記の基礎④	6桁精算表、決算
6	簿記の基礎⑤	演習①
7	期中取引の処理①	現金・小口現金、当座預金
8	期中取引の処理②	商品売買、売掛金・買掛金、その他の債券・債務
9	期中取引の処理③	手形、有価証券と有形固定資産
10	期中取引の処理④	演習②
11	決算整理と財務諸表①	売上原価の計算、貸倒引当金
12	決算整理と財務諸表②	有価証券の評価替えと減価償却、費用・収益の繰延と見越
13	伝票	入金伝票・出金伝票・振替伝票
14	確認テスト	小テスト
15	まとめ	質疑応答

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

- ① 教科書に沿って進める。
- ② 問題集を適宜活用する。
- ③ 電卓の持参は必須。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 期末試験（90％）、② 授業内課題（10％）

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	簿記講義 3級 商業簿記	渡部・片山・北村編著	中央経済社	880 円
問 題 集	簿記ワークブック 3級商業簿記	渡部・片山・北村編著	中央経済社	880 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

会計学

(9) オフィスアワー・その他

質問の際は、事前に学内メールにて連絡をすること。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
中級商業簿記（大・中規模企業の簿記・会計）◆	齋藤 幹朗	1	前期	4

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域公権力」の修得、卒業レポートの作成と問題解決力の修得）。

（2）授業概要と目的

この授業では、初級商業簿記で学習した内容を前提に、日商簿記検定2級に出題されている商業簿記の内容を学習する。近年グローバル化が進み、リース・税効果・為替といった企業の取引も多様になり、企業の合併・買収（M&A）も頻繁に行われ、企業形態も大きく変化している。本授業では、問題演習を通して多様な取引の仕訳を学習し、最終的には大・中規模企業で作成される貸借対照表及び損益計算書を作成し、内容を理解できるようにする。そして、会社法や税法及び有価証券取引法等会計諸法規も学習し、なぜそのような仕訳や会計処理を行うのかを考える力を養う。加えて、連結会計を論理的に学習し、複雑な計算や仕訳の知識をきちんと理解する。さらに、地方公会計が、財政の透明性を高め、住民に対する説明責任を果たすとともに、財政の効率化・透明性を図るため、発生主義・複式簿記による財務書類の開示が推進されている。本講義を履修し公会計を理解することを容易にする。

（3）到達目標

- ①多様な取引の仕訳をすることができる。
- ②リース会計、税効果会計及び為替換算会計等の高度な取引を会計処理することができる。
- ③連結財務諸表の作成や仕組みを理解し、大・中小企業の財務諸表を読み解くことができ、地方公会計も理解できる。
- ④日商簿記検定2級の商業簿記の問題を解くことができる。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	中級商業簿記について	本授業と日商簿記検定2級の範囲について
2	現金預金、手形、有価証券、債権・債務	銀行勘定調整表、手形・電子記録債権・債務、その他の債権の譲渡
3	商品売買、	商品売買の処理、契約資産・契約負債、有形固定資産の取得・減価償却
4	固定資産	リース取引について、無形固定資産の意義と償却について
5	引当金、	評価性引当金と負債性引当金
6	収益と費用	収益と費用の区分、営業費収益と営業費用、営業外収益と営業外費用
7	純資産	純資産の意義、株式会社の設立・開業、増資
8	配当、税金	剰余金の配当、合併、株式会社以外の純資産、課税所得の計算方法、法人税等
9	リース会計	リース会計の意義、ファイナンス・リース取引、オペレーティング・リース取引
10	外貨建て取引・税効果会計	外貨建て取引と決算、為替予約、外貨建金銭債権債務等の換算、税効果会計の意義
11	決算	決算整理、帳簿決算手続、
12	決算	財務諸表の作成、精算表、
13	本支店会計	本支店会計の意義・目的、本支店間取引の処理、本支店会計における決算手続き
14	連結会計①	連結会計の意義、資本連結、非支配株主持分、のれん
15	連結会計②	連結会社間取引の処理、未実現損益の消去、連結精算表の作成

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

会計の基本的な考え方、複式簿記の基本的なしくみを十分に理解するために例題を通して説明する。そのうえで、問題演習を行い、自ら問題を解けるようにする。問題を解いた後の解説で理解を深め、不明点や問題点を解消していく。基本的な内容を終えたら過去問題を取り組み、実際にどのような問題が検定試験に出題されているかを知り、解答力を身に付ける。授業時間外では、授業中に扱った問題や宿題を解き、知識を習得する。

（6）成績評価の方法と基準

- ①授業貢献度（15%）、②授業内での小テスト（35%）、③定期試験（50%）

（7）使用書

区分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	検定簿記講義2級 商業簿記	渡部裕亘・片山寛・北村敬子	中央経済社	935 円
参 考 書	詳説・簿記論	松原成美・齋藤幹朗	税務経理協会	3,520 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

工業簿記も日商簿記検定2級の範囲のため、同時に履修することを勧める。

（9）オフィスアワー・その他

簿記は、手で覚えることが肝心です。授業で解いた問題の解き直しや宿題をきちんと行って下さい。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
中級商業簿記（大・中規模企業の簿記・会計）◆	齋藤 幹朗	1	後期	4

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（１）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域公権力」の修得、卒業レポートの作成と問題解決力の修得）。

（２）授業概要と目的

この授業では、初級商業簿記で学習した内容を前提に、日商簿記検定2級に出題されている商業簿記の内容を学習する。近年グローバル化が進み、リース・税効果・為替といった企業の取引も多様になり、企業の合併・買収（M&A）も頻繁に行われ、企業形態も大きく変化している。本授業では、問題演習を通して多様な取引の仕訳を学習し、最終的には大・中規模企業で作成される貸借対照表及び損益計算書を作成し、内容を理解できるようにする。そして、会社法や税法及び有価証券取引法等会計諸法規も学習し、なぜそのような仕訳や会計処理を行うのかを考える力を養う。加えて、連結会計を論理的に学習し、複雑な計算や仕訳の知識をきちんと理解する。さらに、地方公会計が、財政の透明性を高め、住民に対する説明責任を果たすとともに、財政の効率化・透明性を図るため、発生主義・複式簿記による財務書類の開示が推進されている。本講義を履修し公会計を理解することを容易にする。

（３）到達目標

- ①多様な取引の仕訳をすることができる。
- ②リース会計、税効果会計及び為替換算会計等の高度な取引を会計処理することができる。
- ③連結財務諸表の作成や仕組みを理解し、大・中小企業の財務諸表を読み解くことができ、地方公会計も理解できる。
- ④日商簿記検定2級の商業簿記の問題を解くことができる。

（４）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	中級商業簿記について	本授業と日商簿記検定2級の範囲について
2	現金預金、手形、有価証券、債権・債務	銀行勘定調整表、手形・電子記録債権・債務、その他の債権の譲渡
3	商品売買、	商品売買の処理、契約資産・契約負債、有形固定資産の取得・減価償却
4	固定資産	リース取引について、無形固定資産の意義と償却について
5	引当金、	評価性引当金と負債性引当金
6	収益と費用	収益と費用の区分、営業費収益と営業費用、営業外収益と営業外費用
7	純資産	純資産の意義、株式会社の設立・開業、増資
8	配当、税金	剰余金の配当、合併、株式会社以外の純資産、課税所得の計算方法、法人税等
9	リース会計	リース会計の意義、ファイナンス・リース取引、オペレーティング・リース取引
10	外貨建て取引・税効果会計	外貨建て取引と決算、為替予約、外貨建金銭債権債務等の換算、税効果会計の意義
11	決算	決算整理、帳簿決算手続、
12	決算	財務諸表の作成、精算表、
13	本支店会計	本支店会計の意義・目的、本支店間取引の処理、本支店会計における決算手続き
14	連結会計①	連結会計の意義、資本連結、非支配株主持分、のれん
15	連結会計②	連結会社間取引の処理、未実現損益の消去、連結精算表の作成

（５）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

会計の基本的な考え方、複式簿記の基本的なしくみを十分に理解するために例題を通して説明する。そのうえで、問題演習を行い、自ら問題を解けるようにする。問題を解いた後の解説で理解を深め、不明点や問題点を解消していく。基本的な内容を終えたら過去問題を取り組み、実際にどのような問題が検定試験に出題されているかを知り、解答力を身に付ける。授業時間外では、授業中に扱った問題や宿題を解き、知識を習得する。

（６）成績評価の方法と基準

- ①授業貢献度（15%）、②授業内での小テスト（35%）、③定期試験（50%）

（７）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	検定簿記講義2級 商業簿記	渡部裕亘・片山寛・北村敬子	中央経済社	935 円
参 考 書	詳説・簿記論	松原成美・齋藤幹朗	税務経理協会	3,520 円

（８）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

工業簿記も日商簿記検定2級の範囲のため、同時に履修することを勧める。

（９）オフィスアワー・その他

簿記は、手で覚えることが肝心です。授業で解いた問題の解き直しや宿題をきちんと行って下さい。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
工業簿記（製造業の簿記と原価計算）◆	齋藤 幹朗	1	前期	4

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域公権力」の修得、卒業レポートの作成と問題解決力の修得）。

（2）授業概要と目的

本授業は、初級商業簿記で学習した内容を前提に、日商簿記検定2級に出題される工業簿記の内容を学習する。本工業簿記は、原材料を仕入れ、製品を製造し販売するまでの企業活動について貨幣数値を用いて記録・計算・整理することを学習する。すなわち、工業簿記は、製造業における製造活動を中心に記録・計算・整理する。また、製造業では、製造した製品1個当たりの製造原価を計算する原価計算も重要となる。本授業では、問題演習を通して、製造業の基本的な仕訳や財務諸表の仕組みをはじめ、受注生産に適した個別原価計算、大量生産に適した総合原価計算及び会計数値を原価のコントロールや利益計画を策定するために役立てる標準原価計算・直接原価計算といった分野へと知識を一つ一つ積み重ねながら学習していく。

（3）到達目標

- ①製造活動を貨幣的評価により記録・計算・報告する方法を理解し説明できる。
- ②業態に応じた原価計算の方法を学ぶ。
- ③原価差異の分析や損益分岐点分析等により会計数値を経営管理に役立てる手法を身に付ける。
- ④日商簿記2級の工業簿記の過去問題をきちんと解くことができる。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	工業簿記の基礎	工業簿記とは何か
2	工業簿記の仕組み	工業簿記の勘定科目、工業簿記の決算と財務諸表
3	材料費計算	材料の購入の計算と記帳、材料費の計算と記帳
4	労務費計算	支払賃金の計算、消費賃金の計算、労務費の記帳
5	経費計算	経費の分類、経費の計算と記帳
6	製造間接費計算	製造間接費の製品への配賦、配賦差異の原因分析と処理
7	部門費計算	原価部門の設定、部門費の集計、部門個別部門共通費、
8	個別原価計算	製造指図書と原価計算表、個別原価計算の方法、個別原価計算の記帳
9	総合原価計算	総合原価計算の特徴、月末仕掛品原価の計算、仕損品の処分価格、
10	総合原価計算・2	等級別総合原価計算、組別総合原価計算、工程別総合原価計算
11	標準原価計算	標準原価計算の手続、原価標準の設定と標準原価カード
12	標準原価計算・2	標準・実際原価の差異計算、標準原価の勘定記入、原価差異の会計処理
13	原価・営業量・利益関係の分析	CVP分析の基本公式、貢献利益概念、安全余裕率と損益分岐点分析
14	直接原価計算	直接原価計算の目的、直接原価計算の方法と記帳
15	工場会計の独立	本社元帳と工場元帳、合併財務諸表の作成

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

例題を通して、考え方、問題の解き方を説明する。その上で問題演習を行い、自分で問題を解けるようにする。問題を解いた後の解説で理解を深め、不明点・疑問点を解消していく。基本的な内容を終えたら過去問題に取り組み、どのような問題が検定試験に出題されるかを知り、解答力を身に付ける。授業時間外では、授業中に扱った問題の解き方や、宿題の問題を解き、知識を定着させる。

（6）成績評価の方法と基準

- ①授業貢献度（15%）、②授業内での小テスト（35%）、③定期試験（50%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	検定簿記講義2級工業簿記 2023年版	岡本清・廣本敏郎	中央経済社	935 円
参 考 書	検定簿記ワークブック2級工業簿記	岡本清・廣本達郎	中央経済社	935 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

中級商業簿記も日商簿記検定2級の範囲のため、同時に履修することを勧める。

（9）オフィスアワー・その他

簿記は、たくさんの問題を解き、手で覚えることが肝心です。授業で解いた問題の解き直しや、宿題や過去問題等を積極的に解くことが重要であります。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
工業簿記（製造業の簿記と原価計算）◆	齋藤 幹朗	1	後期	4

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域公権力」の修得、卒業レポートの作成と問題解決力の修得）。

（2）授業概要と目的

本授業は、初級商業簿記で学習した内容を前提に、日商簿記検定2級に出題される工業簿記の内容を学習する。本工業簿記は、原材料を仕入れ、製品を製造し販売するまでの企業活動について貨幣数値を用いて記録・計算・整理することを学習する。すなわち、工業簿記は、製造業における製造活動を中心に記録・計算・整理する。また、製造業では、製造した製品1個当たりの製造原価を計算する原価計算も重要となる。本授業では、問題演習を通して、製造業の基本的な仕訳や財務諸表の仕組みをはじめ、受注生産に適した個別原価計算、大量生産に適した総合原価計算及び会計数値を原価のコントロールや利益計画を策定するために役立てる標準原価計算・直接原価計算といった分野へと知識を一つ一つ積み重ねながら学習していく。

（3）到達目標

- ①製造活動を貨幣的評価により記録・計算・報告する方法を理解し説明できる。
- ②業態に応じた原価計算の方法を学ぶ。
- ③原価差異の分析や損益分岐点分析等により会計数値を経営管理に役立てる手法を身に付ける。
- ④日商簿記2級の工業簿記の過去問題をきちんと解くことができる。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	工業簿記の基礎	工業簿記とは何か
2	工業簿記の仕組み	工業簿記の勘定科目、工業簿記の決算と財務諸表
3	材料費計算	材料の購入の計算と記帳、材料費の計算と記帳
4	労務費計算	支払賃金の計算、消費賃金の計算、労務費の記帳
5	経費計算	経費の分類、経費の計算と記帳
6	製造間接費計算	製造間接費の製品への配賦、配賦差異の原因分析と処理
7	部門費計算	原価部門の設定、部門費の集計、部門個別部門共通費、
8	個別原価計算	製造指図書と原価計算表、個別原価計算の方法、個別原価計算の記帳
9	総合原価計算	総合原価計算の特徴、月末仕掛品原価の計算、仕損品の処分価格、
10	総合原価計算・2	等級別総合原価計算、組別総合原価計算、工程別総合原価計算
11	標準原価計算	標準原価計算の手続、原価標準の設定と標準原価カード
12	標準原価計算・2	標準・実際原価の差異計算、標準原価の勘定記入、原価差異の会計処理
13	原価・営業量・利益関係の分析	CVP分析の基本公式、貢献利益概念、安全余裕率と損益分岐点分析
14	直接原価計算	直接原価計算の目的、直接原価計算の方法と記帳
15	工場会計の独立	本社元帳と工場元帳、合併財務諸表の作成

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

例題を通して、考え方、問題の解き方を説明する。その上で問題演習を行い、自分で問題を解けるようにする。問題を解いた後の解説で理解を深め、不明点・疑問点を解消していく。基本的な内容を終えたら過去問題に取り組み、どのような問題が検定試験に出題されるかを知り、解答力を身に付ける。授業時間外では、授業中に扱った問題の解き方や、宿題の問題を解き、知識を定着させる。

（6）成績評価の方法と基準

- ①授業貢献度（15%）、②授業内での小テスト（35%）、③定期試験（50%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	検定簿記講義 2級工業簿記 2023年版	岡本清・廣本敏郎	中央経済社	935 円
参 考 書	検定簿記ワークブック 2級工業簿記	岡本清・廣本達郎	中央経済社	935 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

中級商業簿記も日商簿記検定2級の範囲のため、同時に履修することを勧める。

（9）オフィスアワー・その他

簿記は、たくさん問題を解き、手で覚えることが肝心です。授業で解いた問題の解き直しや、宿題や過去問題等を積極的に解くことが重要であります。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
会計学A（ビジネスの言語を学ぶ）	永岩 尊暢	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

財務会計の基本原則を学び、財務会計の果たしている役割や機能について検討し、経済社会の仕組みを理解する糸口にしたいと考えている。

将来において、経営、管理、経理事務などの職種を目指す学生や、編入学をし、さらに会計学領域の科目を学ぼうと考えている学生にも役立つ講義となるよう心がけていきたい。今日、会計ビッグバンと言われるように、会計基準の新設や改定には目を見張るものがあるが、こうした新たな動きも取り上げていく。

財務会計は経済システムに組み込まれ、社会に及ぼす影響力が大きくなったことから、現代においては法律で規制されている。会計における法規制の内容を明確にするとともに、財務会計の様々なルールを学び、その社会的意義を理解してもらうことを目的としている。

(3) 到達目標

- ① 会計用語の習得
- ② 財務諸表の形式についての理解を深める
- ③ 会計記事を無理なく読める

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	会計とは何か①	会計情報とは
2	会計とは何か②	会計規制の役割
3	会計の仕組み①	複式簿記と会計
4	会計の仕組み②	会計の基本的な前提
5	財務諸表の作成原理①	財務諸表の体系
6	財務諸表の作成原理②	財務諸表作成のルール
7	棚卸資産の会計①	売上原価の計算
8	棚卸資産の会計②	棚卸資産の期末評価
9	固定資産の会計①	有形固定資産
10	固定資産の会計②	無形固定資産
11	固定資産の会計③	繰延資産
12	金融資産の会計①	有価証券、デリバティブ
13	金融資産の会計②	キャッシュ・フロー計算書
14	まとめ	質疑応答
課題授業（1回分）		有価証券及び棚卸資産会計を中心とした演習問題の課題を課す予定です。

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

- ① 配布資料に沿って進めていく。
- ② 簿記の勉強も進めておくこと。
- ③ 電卓を毎時間持参すること。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 前期試験（80％）、② 授業内課題（20％）

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書				
参 考 書	授業時に指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

簿記を併せて学ぶことが望ましい。

(9) オフィスアワー・その他

研究室での質問等は、事前にメール等で連絡すること。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
会計学B（ビジネスの言語を学ぶ）	永岩 尊暢	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

本講義では、「会計学A」に引き続いて、財務会計領域の中の負債の会計、純資産の会計を学ぶ予定である。負債の会計では、引当金や社債等について取り上げ、純資産の会計では株主資本と純資産の関係等について学んでいく。

現代の企業においては親会社とその支配下にある子会社という形態で企業集団を形成することによって日々の経済活動を営んでいるケースも少なくない。そこで、1つの企業集団に属する企業の個別財務諸表を総合して作成する連結財務諸表の作成についても取り上げる。

企業活動の国際化にともなう会計の諸問題について学び、とりわけ外貨建取引を学ぶことによって、受講者は、会計基準の国際的統合化の必要性を理解することができよう。

（3）到達目標

- ① 会計用語を学ぶことで、その専門用語の意味を理解することができる。
- ② 貸借対照表などの書式形式への理解を深め、経営分析の基礎知識を身に付けることができる。
- ③ 会計記事を読みこなすために必要となる会計知識を習得することができる。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	負債の会計	負債の範囲と区分
2	負債の会計	引当金の本質と設定要件
3	負債の会計	社債、長期借入金
4	純資産の会計	株主資本と純資産
5	純資産の会計	払込資本
6	純資産の会計	組織再編
7	収益の会計	収益の計上基準
8	費用の会計	費用の計上基準
9	税効果会計	繰延税金資産と繰延税金負債
10	連結財務諸表	連結財務諸表の必要性
11	連結財務諸表	連結財務諸表の範囲
12	外貨換算会計	換算における会計問題
13	総括	授業のまとめ
14	時事問題	日本経済新聞の記事を取り上げて
15	確認テスト	小テスト

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

- ① 配布資料に沿って進める。
- ② 簿記の勉強も進めておくこと。
- ③ 電卓を毎時間持参すること。

（6）成績評価の方法と基準

- ① 後期試験（80％）、② 授業態度（20％）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書				
参 考 書	授業時に指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

簿記を併せて学ぶことが望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

質問に際しては、事前に学内メールにて連絡すること。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
経営分析（企業価値評価）	永岩 尊暢	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

初めて企業評価を学ぶ学生の皆さんが、基本的な分析を行えるようになることを目的に、企業評価に必要なポイントを提示しつつ、実際の企業の財務データを用いながら企業評価手法を学んでいきます。

様々な企業を分析していく中で、色々な企業を分析できるようになります。そして、その過程でこの指標は絶対に確認しておこうとか、私はこういう企業を高く評価するといった自分なりの分析や評価の軸が備わってきます。財務分析や企業評価には、こうすればできるという定石のようなものはありませんが、本講義では、実際の企業の財務諸表を用いながら分析のポイントについてわかりやすく説明をしていきます。

（3）到達目標

分析のコツを習得することで、全く知らなかった企業について数字を見ただけで業績が好調か、今後の業績は伸びそうか、どこに課題があるのか、ということが見えてくるようになります。ここで大事なことは、ポイントを押さえて目的に沿った分析ができるかという点にあります。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の概要について
2	企業評価と財務諸表分析①	企業評価の概要
3	企業評価と財務諸表分析②	財務諸表分析の概要
4	貸借対照表の分析①	貸借対照表の分析に必要な知識
5	貸借対照表の分析②	貸借対照表の分析の方法
6	貸借対照表の分析③	貸借対照表の数字を用いた株式・企業価値評価
7	損益計算書の分析①	損益計算書の分析に必要な知識
8	損益計算書の分析②	損益計算書の分析の方法
9	損益計算書の分析③	損益計算書の分析を用いた株式・株式評価
10	キャッシュフロー計算書の分析①	キャッシュフロー計算書の分析に必要な知識
11	キャッシュフロー計算書の分析②	キャッシュフロー計算書の分析の手法
12	収益性分析	分液事例の研究
13	効率性分析	分液事例の研究
14	安全性分析	分液事例の研究
15	成長性の分析	分析事例の研究

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

企業の分析・評価に必要な財務諸表の基礎として、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書の基本と分析のポイントについて説明を行います。また、財務比率の分析を取り上げ、収益性、効率性、安全性、成長性の観点から企業の分析を行う手法について紹介していきます。

（6）成績評価の方法と基準

- ① 後期試験（80％）、② 授業内課題（20％）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書				
参 考 書	企業評価論入門	奈良沙織	中央経済社	2,970 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

初級商業簿記及び演習・会計学を履修することが望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

質問等は、事前に学内メールで連絡を取ること。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
保険論（はじめて学ぶ保険のしくみ）◆	福地 幸文	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の習得）。

（2）授業概要と目的

この授業では、はじめて保険について学ぶ人を対象にして、主に民間の保険の仕組みや制度の現状などを、理論と統計を中心に学ぶ。自動車保険や年金保険など保険加入は生活に密着した身近な問題で、保険産業は募集関係だけでも延べ数百万人を超える人々が関わる一大産業になっている。一方、保険は複雑な仕組みで、自分の加入している保険の保障（補償）内容がよく分からないという人が多くいるのも事実である。しかし、順序立てて学べば比較的スムーズに基本的な保険制度を理解できるようになる。特にこの授業では、生命保険の保険料計算演習を実施し、より実践的に金融リテラシーを習得できる授業となるように努める。

（3）到達目標

- ① 保険の原理や機能を理解できている。
- ② 保険契約の基礎知識を習得している。
- ③ 社会保険と民間保険の補完関係を考察できる。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	くらしの中の保険	授業内容の説明、不安を減らすための方法、保険と貯蓄の違い、リスクの概念
2	保険の原理	保険の基礎知識、保険の基本要素、保険のマクロ経済的役割、保険料の構造
3	保険の歴史	海上保険、火災保険、生命保険、日本の保険の歴史
4	現在の保険制度	保険を規制する必要性、保険規制の歴史と今後
5	保険契約者の保護	保険契約者の保護、保険会社の破綻とその対応
6	金融機関としての保険会社	保険会社の資産運用とポートフォリオ、予定利率と逆ざや問題
7	保険会社の経営課題	相互会社と株式会社、リスク細分化と新しい保険商品
8	生命保険商品	生命保険商品の種類、解約返戻金と契約内容を変更するための制度、保険料計算演習
9	火災保険	住宅火災保険、地震保険
10	自動車保険	自動車賠償責任保険（自賠責保険）、任意自動車保険
11	その他の保険	第三分野の保険、その他の保険
12	社会保険	公的医療保険、介護保険、雇用保険、労災保険
13	年金	長寿化と老後生活の保護、公的年金制度、企業年金
14	新しい保険の登場	天候保険と天候デリバティブ、CAT ボンド、代替的リスク移転
15	私たちの生活設計と保険	保険は必要か、保険の購入経路、保険選択の留意点

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

- ① 基本的に講義形式で行う（パワーポイントを投影する）。授業の配布資料を事前に Teams にアップロードする。
- ② Teams を使って課題を提示する（10回を予定）。
- ③ 毎回、出席の確認をする。必要に応じて理解度の確認を行う。

（6）成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（50%）、② 授業の課題（40%）、③ 授業貢献度（10%）の合計点数により評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	はじめて学ぶ保険のしくみ 第3版	家森信義編著	中央経済社	2,400 円＋税
参 考 書	はじめて学ぶリスクと保険 第4版	下和田功編	有斐閣	2,800 円＋税

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし。

（9）オフィスアワー・その他

授業後に受け付けます（要予約）。

科目名	旧科目名	教員名	年次	授業期間	単位
アジア文化講義A（アジアの言語と社会）	言語と文化	松岡 昌和	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

- 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。
- 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

本講義では、特に自他ともに認めるアジアの「多言語社会」であるシンガポール・マレーシア・台湾を取り上げ、その歴史から言語政策やマイノリティの運動など現代社会の状況までを言語という視点からとらえていく。言語は一般的にコミュニケーションの単なる道具で、中立的なものであるかのように見られているが、言語は地域文化や政治・経済と切り離して考えることはできない。言語教育・言語学習もまた、価値中立的な営みではなく、そこに文化・政治・経済の諸要因がはたらく。言語をとりまくこれらの要素は、特に「多言語社会」において顕著に見ることができる。言語と地域文化や政治・経済との関係を見ていくことを通じ、多様性に富むアジア文化について理解を深めていきたい。

（3）到達目標

- 言語を文化・政治・経済の観点からとらえ、多言語社会や異文化コミュニケーションへの理解を深めていく。
- 言語をとりまくさまざまな問題を認識することで、批判的思考を身に付けていく。
- 高等学校の世界史や公民科の知識を発展させ、アジア文化への理解を深めていく。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	言語とはなにか
2	言語と社会（1）	方言・国語・公用語
3	言語と社会（2）	多言語社会・ダイグロシア・言語政策・言語権・ビジン・クレオール
4	言語と社会（3）	言語帝国主義・World Englishes
5	シンガポールの言語と社会（1）	東南アジアの歴史と文化
6	シンガポールの言語と社会（2）	植民地統治・移民・「複合社会」
7	シンガポールの言語と社会（3）	英語国家としてのシンガポール
8	シンガポールの言語と社会（4）	華人社会としてのシンガポール
9	マレーシアの言語と社会（1）	多言語社会としてのマレーシアとマレー語世界としてのマレーシア
10	マレーシアの言語と社会（2）	英語化するマレーシア
11	台湾の言語と社会（1）	台湾の歴史と文化
12	台湾の言語と社会（2）	植民地統治・日本語教育
13	台湾の言語と社会（3）	戦後台湾の言語と社会
14	台湾の言語と社会（4）	民主化以降の多言語社会
15	まとめ	社会の多言語性を考える

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式で行う。毎回資料を配布し、スライドを使用して解説を行う。必要に応じて映像も用いる。中国語などアジア言語の学習は前提としないが、知識があると有用である。高等学校レベルの世界史や公民科の知識については、各自必要に応じて確認すること。試験では、知識の暗記ではなく、知識をどのように組み立てて議論を展開するかといった点を評価する。

（6）成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（100%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	なし。資料を配布する			
参 考 書	講義中に紹介する			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

中国語、韓国・朝鮮語、フランス語、ドイツ語、英語など外国語関連科目、海外語学研修 B、アジア文化講義 B／日本史 A、国際関係論（A・B）社会学（A・B）など

（9）オフィスアワー・その他

原則として、毎週月曜日昼休みをオフィスアワーとして設定する。その他の曜日・時間については要連絡。

科目名	旧科目名	教員名	年次	授業期間	単位
アジア文化講義B（海域アジアのなかの日本）	日本史A	松岡 昌和	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

現在とは過去の積み重ねの上にあり、歴史を知ることが現代の世界のなりたちを知る上で極めて重要である。一方で、歴史を見る際に現代の主権国家を過去に投影してしまう危険もある。本科目では、国民、国境、一元化された政府といった現代国家のかたちを前提とせず、広く海域アジアやグローバル世界のなかに日本列島を位置づけてその歴史について考えていきたい。それにより、「日本」の成り立ちの多様性を知り、歴史という営みを通じて批判的な思考を身につけることを目標とする。本科目では、主に古代から近世までの時代を扱い、一部近代についても触れる。

（3）到達目標

- ① 歴史を学ぶことで長期的で広い視野を身につける。
- ② 異なる世界を知ることによって異文化に対する理解を深めていく。
- ③ 歴史上の資料や記録を読み解いていくことで、情報に対するリテラシーを身につける。
- ④ さまざまな歴史観・世界観を知ることによって批判的な思考をできるようにする。

（4）授業計画

	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	
2	海域アジア概論 1	「日本」とは何か
3	海域アジア概論 2	海域世界から日本を見る
4	通史編 1（～9 世紀）	律令国家と東アジア
5	通史編 2（10～12 世紀）	国交なき通商の拡大
6	特別編 1	国風文化は「国風」か～唐物の歴史
7	通史編 3（13～14 世紀）	モンゴル帝国と日本
8	通史編 4（15～16 世紀）	倭寇の時代
9	通史編 5（17 世紀）	「鎖国」という外交
10	特別編 2	日本社会は「無宗教」か
11	通史編 6（18 世紀 I）	互市システムと鎖国
12	通史編 7（18 世紀 II）	東アジア・東南アジアの「伝統社会」
13	通史編 8（19 世紀）	近代世界と東アジア
14	特別編 3	近代化と「伝統の創造」
15	まとめ	

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式で行う。毎回資料を配布し、スライドを使用して解説を行う。必要に応じて映像も用いる。高等学校レベルの世界史・日本史の知識については、各自必要に応じて確認すること。試験では、知識の暗記ではなく、知識をどのように組み立てて議論を展開するかといった点を評価する。

（6）成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（100%）

（7）使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	なし。資料を配布する			
参考書	『東アジア海域のなかの日本 歴史・交易・文化』	山崎覚士	東方書店	1,980 円
	『中国の歴史』シリーズ		講談社（学術文庫）	

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

アジア文化講義 A／言語と文化、国際関係論 A／日本史 B、東洋史、世界史

（9）オフィスアワー・その他

原則として、毎週月曜日 12:50～13:50 をオフィスアワーとして設定する。その他の曜日・時間については要連絡。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
欧米文化講義B（アメリカジェンダー史・クィア史）	今井 麻美梨	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

＜ジェンダーとクィアの視点で考える「アメリカ」＞

本講義では、アメリカ合衆国の歴史をジェンダー史・クィア史（LGBTQ 史）の観点からとらえ直すことを目標とする。アメリカ合衆国は、人種・階級・ジェンダー・セクシュアリティをめぐる自他の境界線をそのつど引きなおすことによって、国家の形状や市民的地位を再定義しつつしてきた（不定形で流動的な）国である。本講義では特に、ジェンダー、セクシュアリティ、異性間・同性間の愛が、人種や階級や宗教などの諸カテゴリーと絡み合いながらいかに「アメリカ」をつくり直してきたのかを検討する。それと同時に、従来アメリカ史の周縁として描かれてきた先住民、黒人、労働者、女性、性的マイノリティたちの歴史を、アメリカ史の中心に位置付けなおす方法も模索する。

（3）到達目標

- ①アメリカ合衆国に関する基礎的な歴史・地理・政治・経済・社会・文化の特徴を説明することができる。
- ②アメリカ合衆国の歴史を、ジェンダー史・クィア史の観点から論じることができる。
- ③現代社会における人種やジェンダーやセクシュアリティをめぐる諸問題を、歴史的観点から論じることができる。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	ジェンダー史・クィア史の観点から紐解く「アメリカ」、資本主義社会とジェンダー
2	現代アメリカ	現代アメリカにみる人種、ジェンダー、セクシュアリティ、LGBTQ+、Z 世代
3	女性史・ジェンダー史・クィア史（1）	女性史の理論・方法・時代背景
4	女性史・ジェンダー史・クィア史（2）	ジェンダー史の理論・方法・時代背景
5	女性史・ジェンダー史・クィア史（3）	クィア史の理論・方法・時代背景（クィア映画の鑑賞）
6	先住民社会と白人入植者	植民地社会とジェンダー、クィアな植民地社会
7	大西洋奴隷貿易と奴隷制度（1）	奴隷制度とジェンダー・セクシュアリティ（奴隷制映画の考察）
8	ディスカッション	中間レポートの提出・ディスカッション
9	大西洋奴隷貿易と奴隷制度（2）	奴隷制度とジェンダー・セクシュアリティ（奴隷制マンガの考察）
10	アメリカの独立・新生国家の誕生	アメリカ革命とジェンダー、クィアな革命
11	アメリカ市民とは誰か？	こじれる白人男性、市民権と人種・階級・ジェンダー
12	南北戦争	南北戦争とジェンダー、クィアな南北戦争、愛の民主主義
13	南北戦争後の再建	人種・ジェンダー・セクシュアリティの再編（ドキュメンタリー映画の鑑賞）
14	アメリカ大衆文化	大衆文化にみる人種・ジェンダー・セクシュアリティ（クィア映画の鑑賞）
15	まとめ	最終レポート準備・ディスカッション

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

必要な知識は授業内で補うため、世界史やアメリカ史をはじめて学ぶ者も歓迎する。授業は日本語で行い、パワーポイントを用いて講義形式ですすめる（講義では映画・マンガ・アニメなどの視聴覚メディアも使用する予定である）。回によっては、事前に配布した資料を読んでいただき、ディスカッションをする機会も設ける。なお、中間レポートでは映画の批評を予定しているため、授業時間外に視聴できることが望ましい。

（6）成績評価の方法と基準

①最終レポート（40%）、②中間レポート（40%）、③コメントシートほか授業貢献（20%）の合計点数により評価をする。レポート課題・レポートの書き方については授業内で指示する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。			
参 考 書	必要に応じて紹介する。			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

ジェンダー論、世界史、美術史など

（9）オフィスアワー・その他

上記のスケジュールに従い講義を行うが、進捗状況や時事的な問題を取り扱うことによるスケジュールの前後や変更がありうる。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
国際関係論 A（異文化間衝突と紛争予防の学習）	荒 哲	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

この授業では、中学校や高校で十分教えられてこなかったと思われる日本近現代史を国際関係論的視点に基づきながら学習する。その中でも特に19世紀後半の江戸時代末期から現代までの日本史の学習を行う。日本が欧米文化を吸収しつつ、富国強兵に基づいた近代国家の基礎を築きながら、その後、全体主義体制へと国家全体が傾倒し、帝国主義の道を歩んでいった過程を学ぶ。その後、アジア太平洋戦争に敗北し、戦後の冷戦環境の国際関係の中で平和国家構築を目指しつつも、一方で外交、安全保障面において対米依存を深化させ、とりわけ対米政策において独自外交を発揮できない現在の矛盾に満ちた日本外交と日本国内政治の特色を理解していく。

（3）到達目標

現代の日本社会文化の本質的背景をこの授業を通して理解できるようにする。日本近代化の歴史が実のところ、アジア蔑視感に基づいた内政・外交によって形成されてきた事実を一つ一つの史実を掘り下げながら理解できるようにする。そして、現在の日本社会に未だに根付く反民主的かつ反動的な文化的ないし社会的背景を説明できるようにする。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	国際関係という言葉の意味について	オリエンテーションなど
2	江戸時代までのサムライ文化の背景	日本文化の根源と武士道について
3	幕末時代の国際環境	19世紀の日本を取り巻く国際関係
4	尊王攘夷について	江戸末期に見る「国粋主義運動」いわゆる尊王攘夷について
5	戊辰戦争とは何だったのか	統一国家日本を形成するまでの国内の葛藤
6	薩長政治に対する反発	太政官政治と西南戦争をめぐる浪人たちの戦い、そして征韓論
7	浪人たちの大陸への進出	浪人たちとアジアナショナリストたちとの交流
8	日清戦争と日露戦争	富国強兵と迅速な日本の近代化
9	日本に期待したアジア民族主義者	フィリピン革命家、リカルデ將軍について
10	5・15事件、2・26事件	全体主義国家への傾倒、治安維持法の制定
11	アジア太平洋戦争と大東亜共栄圏思想	戦争遂行のための資源の供給源としての東南アジアへの進出、日本占領下の東南アジア
12	戦争の終結と国体護持	東京裁判に見る国体護持の問題、戦争責任問題
13	戦後の沖縄について	アジアを取り巻く冷戦下の国際関係と日本
14	55年体制の確立と日本の保守政治	中選挙区制で支えられた自民党の派閥政治
15	現代日本社会の政治的諸問題	21世紀前後の日本政治の多様性。連続する保守主義と右傾化する日本社会の中の若者

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義では教師が作成したパワーポイントに沿った授業を展開する。授業終了直前の15分前に各回の授業内容についての振り返りシートを作成し提出する。時折、映像を鑑賞しながら講義内容を理解できるような工夫を施しながら授業を展開していく。授業展開によってはグループ学習を行い、学習した内容を他のクラスメートに報告する為のプレゼンテーションを行うことを計画している。

（6）成績評価の方法と基準

期末テスト70%、授業ごとに提出される振り返りシートの内容20%、授業貢献度10%とする。ただし、グループ学習によるプレゼンテーションが行われた場合は、授業貢献度の10%をプレゼンテーション評価に充当する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書				
参 考 書	日本政治史 ― 外交と権力 増補版	北岡伸一	有斐閣 2017年	2,200 円
	日本史は逆から学べ	河合 敦	光文社 2018年	1,452 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

アジア文化講義

（9）オフィスアワー・その他

月曜日 午後2時から午後3時までの間、第16研究室にて。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
国際関係論B（異文化間衝突と紛争予防の学習）	荒 哲	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

この授業では、16世紀の終わり頃から始まったヨーロッパの大航海時代により欧米諸国の植民地支配を受けたアジア諸国における植民地史の学習をする。その後、19世紀の後半から顕著となった日本帝国主義の歴史を主に学習する。同時に欧米諸国による植民地支配の歴史と比較検討しつつ、明治維新以降、日本がいかにして膨張主義あるいは領土拡張主義的外交を模索しながら、なぜ帝国主義の道を歩まざるを得なかったのか、その要因を探る。そして、最終的にアジア太平洋戦争という未曾有の惨禍を招いた要因を探りながら、複雑な国際関係の中で、今後日本がいかにして暴力の連鎖に依らない平和へのビジョンを構築していくかを考えていく。

(3) 到達目標

中学校の社会並びに高校の日本史や世界史の授業において深く学ぶ機会が少なかったと思われる19世紀以降のアジアにおける欧米諸国による植民地史並びに日本帝国主義の歴史について基礎的な知識を習得する。アジア太平洋戦争がもたらした暴力と惨禍についても詳細に認識できるようにする。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	国際関係という言葉の意味について	オリエンテーションなど
2	大航海時代の始まり	16世紀後半のヨーロッパの歴史と国際関係の発端について
3	「近代化」の名の下での支配	キリスト教の布教と植民地支配の始まり
4	織田信長とキリスト教	日本におけるキリスト教布教とその限界
5	イスラム教とキリスト教との相克	インドネシアにおけるイスラム教 フィリピンにおけるキリスト教
6	日本の近代化の開始	鎖国と開国をめぐる幕府の苦悩と外敵からの防衛
7	日本の浪人たちによる大陸進出	浪人たちとアジアナショナリストたちとの交流
8	日清戦争と日露戦争	日本の領土拡張と膨張主義の始まり並びに欧米帝国主義との相克
9	朝鮮併合と台湾の植民地化	朝鮮半島のナショナリズムと台湾との違い
10	日本の「南方」への進出	日清戦争以降の日本の南方への眼差し
11	満洲国の成立と日中戦争	全体主義のもとでの日本、中国への侵略
12	アジア太平洋戦争と大東亜共栄圏思想	戦争遂行のための資源の供給源としての東南アジアへの進出、日本占領下の東南アジア
13	冷戦の始まりと国際連合	冷戦の起源、冷戦下のアジアについて
14	冷戦後のアジアと欧米諸国	「ベルリンの壁」の崩壊後の世界について。アジアと欧米諸国の現状とを比較する
15	新しい国際秩序を求めて	ソビエト連邦崩壊後の社会主義体制のいく末と米中露を中心とする国際政治

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義では教師が作成したパワーポイントに沿った授業を展開する。授業終了直前の15分前に各回の授業内容についての振り返りシートを作成し提出する。時折、映像を鑑賞しながら講義内容を理解できるような工夫を施しながら授業を展開していく。授業展開によってはグループ学習を行い、学習した内容を他のクラスメートに報告する為のプレゼンテーションを行うことを計画している。

(6) 成績評価の方法と基準

期末テスト70%、授業ごとに提出される振り返りシートの内容20%、授業貢献度10%とする。ただし、グループ学習によるプレゼンテーションが行われた場合は、授業貢献度の10%をプレゼンテーション評価に充当する。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書				
参考書	国際政治史	小川浩之編著	有斐閣 2018年	2,530円
	危機の20年	EHカー（原 彬久 翻訳）	岩波文庫 2011年	1,452円
	想像の共同体	ベネディクト・アンダーソン	書籍工房早川2007年	2,200円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

アジア文化講義

9) オフィスアワー・その他

月曜日 午後2時から午後3時までの間、第16研究室にて。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
社会学A（社会と個人）	喜多下 悠貴	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

社会学は、家族、教育、組織、宗教、経済、政治、文化、環境など、社会に存在するあらゆる領域やそこで生じる現象、問題が対象となる実に幅広い学問領域である。これらの多様な領域に共通すること、すなわち社会学のエッセンスとも言えることは、個人と個人のあいだに結ばれる関係や、個人と社会とのあいだに結ばれる関係を考えることにある。本授業では主に日本社会における学生に身近なトピックを対象として、法や制度だけに還元されない「社会」の様々な構造、そこにおける個人の振るまいの実態や特徴について学ぶ。そこから、社会学的なものの見方、考え方について理解を深めるとともに、社会の中で個人が「自由に」振る舞うことや意思決定することの意味について検討を深めていきたい。

（3）到達目標

- ①これまで「当たり前」と思っていた自分に対する認識や自分の振る舞いを相対化することができる。
- ②自分の認識や振る舞いを、社会構造と関連付けて理解することができる。
- ③階層化された社会秩序という構造を理解し、日本社会の問題について考えることができる。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業計画の説明
2	社会学とは何か（1）	社会学における社会と個人の捉え方
3	社会学とは何か（2）	社会学的分析力を理解する
4	社会と個人をめぐる諸テーマ（1）	教育・進路選択（1）
5	社会と個人をめぐる諸テーマ（2）	教育・進路選択（2）
6	社会と個人をめぐる諸テーマ（3）	趣味・文化（1）
7	社会と個人をめぐる諸テーマ（4）	趣味・文化（2）
8	中間まとめ（1）	社会と個人の関係に関するディスカッション
9	中間まとめ（2）	社会と個人の関係に関するディスカッション
10	社会と個人をめぐる諸テーマ（5）	健康・貧困（1）
11	社会と個人をめぐる諸テーマ（6）	健康・貧困（2）
12	社会と個人をめぐる諸テーマ（7）	ジェンダー（1）
13	社会と個人をめぐる諸テーマ（8）	ジェンダー（2）
14	まとめ（1）	生活史の中の個人と社会
15	まとめ（2）	授業のまとめと振り返り

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業冒頭で前回授業に対する履修者からのコメントに対してフィードバックを行い、前回授業を復習する。その後、主にパワーポイント資料や映像資料などを用いた講義形式によって授業を進める。授業中は積極的に履修者へ意見を求めるほか、授業後半にはグループディスカッションを取り入れることもある。配布資料などを授業までに熟読することを授業の予習とし、授業後に課す感想や課題の提出を復習とする。

（6）成績評価の方法と基準

- ①定期試験に代わるレポート（80%）、②授業内の活動への取り組み状況（20%）の合計点数により評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税 込 価 格
教 科 書	特になし			
参 考 書	授業内指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

履修後は「社会学B」の履修を勧める。

（9）オフィスアワー・その他

授業の内容、進度は学生の人数や、学生からの要望等に応じて若干変更する可能性がある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
社会学B（社会学の方法論）	喜多下 悠貴	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

本授業では、社会学において用いられることの多いデータ分析の基本的な方法論を学ぶ。社会学には「価値自由」という概念があるが、自らが持っている価値観に自覚的になり、その価値観から距離をとったうえで事実を冷静に認識する態度が求められる。こうした態度を支えるのが社会について知るための様々な方法論である。事実を把握するための具体的方法を学ぶことは、実生活でもデータや統計に惑わされない力を育むほか、将来、仕事で様々なデータを扱い、分析を行う際の勘所をつかむことにも寄与するだろう。本授業では社会学で蓄積された様々な方法論を概説するとともに、体験的な活動を取り入れて理解を深めることを目的とする。

(3) 到達目標

- ①社会のなかでどのように社会学がいかされているのかを説明できる。
- ②先行研究の整理、問い・仮説の検討、データの収集・分析という社会調査の一連の流れを説明できる。
- ③質的調査・量的調査の具体的技法を習得できる。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業計画の説明
2	社会学と社会調査（1）	世の中のデータを疑ってみる
3	社会学と社会調査（2）	社会におけるデータの生産、流通、活用
4	社会学と社会調査（3）	質的調査と量的調査
5	質的調査法（1）	質的調査の特徴と様々な実例
6	質的調査法（2）	フィールドノーツの体験
7	質的調査法（3）	インタビュー調査の体験
8	質的調査法（4）	インタビュー調査の体験
9	中間まとめ	先行研究・問い（仮説）・データの関係、調査倫理について
10	量的調査法（1）	量的調査の特徴と様々な実例
11	量的調査法（2）	アンケート調査の作成
12	量的調査法（3）	アンケート調査の作成
13	量的調査法（4）	アンケート調査の分析
14	量的調査法（5）	アンケート調査の分析
15	まとめ	授業のまとめと振り返り

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業冒頭で前回授業に対する履修者からのコメントに対してフィードバックを行い、前回授業を復習する。その後、主にパワーポイント資料などを用いた講義形式によって授業を進める。また、実際に質的調査、量的調査それぞれの調査手法を体験する活動や、その一環としてグループワークを取り入れる。配布資料などを授業までに熟読することを授業の予習とし、授業後に課す感想や課題の提出を復習とする。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験に代わるレポート（70％）、②授業内の活動への取り組み状況（30％）の合計点数により評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「社会学A」の履修を勧める。

(9) オフィスアワー・その他

授業の内容、進度は学生の人数や、学生からの要望等に応じて若干変更する可能性がある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
教育学A（学校と社会）	喜多下 悠貴	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

現代日本では当たり前の光景となっている「学校に通い、学年、クラス単位で授業を受ける」という教育のスタイルは、実は明治期以降、近代社会の構築とともに定着を見せてきた教育形態の一種である。教育の内容や方法、制度などはこのように歴史や社会によって変化していくものであるという視点のもと、本授業では現代の学校教育を俯瞰的、多角的に捉える様々な学問的アプローチについて学ぶ。そしてこのことは、教育のあり方の理解を通じて、現代の社会について理解を深めていくことにもつながっている。本授業では、履修者それぞれが持っているであろう、これまでの学校経験から導かれた疑問（「なぜ学校に行かなくてはいけないのか」、「学歴は将来役に立つのか」、「テストの点数は自分の能力を表しているのか」等…）を出発点としながら、学校と社会、教育と社会との関係性について理解を深めることを目的とする。

(3) 到達目標

- ①学校教育という「当たり前」を問い直すことを通して、現代社会における教育を批判的に捉えられるようになる。
- ②現代における教育現象を多角的な視点から捉えることができるようになる。
- ③教育学の主要な考え方について説明することができる。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業計画の説明
2	教育とは何か（1）	近代学校教育のはじまり
3	教育とは何か（2）	様々な教育の形
4	教育とは何か（3）	学校教育の「当たり前」を疑う
5	教育に対するアプローチ（1）	規範的アプローチ／工学的アプローチ
6	教育に対するアプローチ（2）	実証的アプローチ
7	話題提供（1）	教育に関する時事的話題の提供・ディスカッション／解説
8	話題提供（2）	教育に関する時事的話題の提供・ディスカッション／解説
9	話題提供（3）	教育に関する時事的話題の提供・ディスカッション／解説
10	話題提供（4）	教育に関する時事的話題の提供・ディスカッション／解説
11	話題提供（5）	教育に関する時事的話題の提供・ディスカッション／解説
12	教育と社会を捉える理論（1）	社会化機関としての学校／隠れたカリキュラム
13	教育と社会を捉える理論（2）	選抜・配分装置としての学校／格差と教育
14	教育と社会を捉える理論（3）	学校化社会論／脱学校論
15	まとめ	授業のまとめと振り返り

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業の前半では講義形式により、教育問題を考える多角的な視野を養う。7回目以降は、履修者による「話題提供」とディスカッションを行う。「話題提供」とは学生が主体となり数名1組のグループで教育に関する時事的話題を発表し、その後ディスカッションを行う。最後に教員からの解説・フィードバックを行う。授業後半は再度、上記の計画に基づき講義形式の授業を行う。授業時間外の学習としては、「話題提供」のための情報収集や予習を求め、配布資料等において復習を求める。授業後に課す感想や課題の提出を復習とし、次回授業冒頭で、履修者からのコメントに対してフィードバックを行う。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験に代わるレポート（70％）、②授業内の活動への取り組み状況（30％）の合計点数により評価する。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税 込 価 格
教 科 書	特になし			
参 考 書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

(9) オフィスアワー・その他

授業の内容、進度は学生の人数や、学生からの要望等に応じて若干変更する可能性がある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
専門基礎演習第2（古典を読む）	伊藤 誠一郎	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

大学や短大などいわゆる高等教育機関で学ぶことの目的は、なによりも社会に出て有意義な社交ができるための教養を身につけることと、より広い視野からの観察力を養うことにある。こうした能力は、例えば、今から何十年も、何百年も前に書かれたが、なぜか今でも読まれ続けるような本、いわゆる古典を読み、著者の意図を理解しようと試み、そのためにみんなで議論するような作業によって、少しずつ、しかし、確実に鋼のようにしぶとく身につけられる。本演習では、古典といわれる著作から一冊選び、読書ノートを作り、発表し、それをめぐって議論をしていく。今年度はアダム・スミスが経済学の誕生の書と言われる『国富論』の前に書いた『道徳感情論』を輪読していく。この本は経済行為の基礎にある正義とはなにかを論じており、現代の経済社会がどのような姿であるべきかを考えるうえで今なお重要な文献の一つである。また、それと同時に、各自がそれぞれに興味を持つ文献を（できるだけ岩波文庫、岩波新書、中公新書、筑摩新書のなかから）選び、それについての読書レポートを作成し、報告・提出してもらう。

（3）到達目標

- ① 複数の人々との会話で自分の意見を、明確に伝え、会話が続けられるようにする。
- ② 読書ノートや輪読用のレジメをつくり、研究の仕方の基礎訓練をする。
- ③ より説得的な口頭の報告をし、適宜質疑応答ができるようにする。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	自己紹介	相互のインタビューにもとづく自己紹介、ゼミでの目標
2	輪読	スミス『道徳感情論』の内容理解とそのための議論
3	輪読	スミス『道徳感情論』の内容理解とそのための議論
4	輪読	スミス『道徳感情論』の内容理解とそのための議論
5	輪読	スミス『道徳感情論』の内容理解とそのための議論
6	輪読、個人報告	スミス『道徳感情論』の内容理解とそのための議論、個人の読書報告
7	輪読、個人報告	スミス『道徳感情論』の内容理解とそのための議論、個人の読書報告
8	輪読、個人報告	スミス『道徳感情論』の内容理解とそのための議論、個人の読書報告
9	輪読、個人報告	スミス『道徳感情論』の内容理解とそのための議論、個人の読書報告
10	輪読、個人報告	スミス『道徳感情論』の内容理解とそのための議論、個人の読書報告
11	輪読、個人報告	スミス『道徳感情論』の内容理解とそのための議論、個人の読書報告
12	個人報告	個人の読書報告
13	個人報告	個人の読書報告
14	輪読	スミス『道徳感情論』の内容理解とそのための議論
15	輪読	スミス『道徳感情論』の内容理解とそのための議論

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

毎回全員が、『道徳感情論』の15頁程度についての読書ノートを作成し、持参し、毎回1人が授業の最初に自らのノートを配布し読み上げ、それをきっかけに内容についての理解を深めるための質疑応答をする。その際、かならず毎回1人一回以上の発言を求める。司会役は学生がおこない、時間管理もおこなう。それとは別に、各人が、教員との個別面談に基づいて決めた一作の著作（岩波新書、岩波文庫等）を読み、ゼミ内で一回報告し、それについて質疑応答する。

（6）成績評価の方法と基準

- ① 読書ノート作成や議論への参加などゼミ活動への努力（80%）、② 各自選んだ著作の報告（20%）。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書	アダム・スミス	『道徳感情論 上』	岩波文庫	1,243 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし。

（9）オフィスアワー・その他

欠席をしないこと。議論に積極的に参加すること。履修を希望するものはできるだけ夏休み中に購入しておくことが望ましい。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
専門基礎演習第3（経済のマクロ的・政策的分析）	内藤 敦之	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

本演習では、最初に経済に関わる文献を読んだ上で、レポートを完成させることを目標とする。今年度は、前半で EU に関する文献を輪読し、後半では経済に関する各自のテーマによるレポート作成のための報告を行う。レジュメの作成方法、テーマの決定方法、文献の探し方等、必要な点も学習する。テーマは学生の希望によるが、基本的に経済に関わるものとする。参考までに、過去に受講者が選択したテーマは、バブル経済、高度成長、インフレーション、金融政策、仮想通貨、フィンテック、消費税、社会保障、年金、格差と貧困、人口移動、少子化、非正規雇用、過労死・過労自殺、労働組合、AI と雇用、ワークライフバランス、行動経済学、ゲーム理論、情報の不完全性、スポーツ経済学、地域格差、地方財政、地域ブランド、地域通貨、ふるさと納税、観光経済学、農業、地球温暖化問題、再生可能エネルギー、木質バイオマス、SDGs、エシカル消費、シェアリング・エコノミーなどである。

（3）到達目標

- ① 文章を読み、要約する能力を獲得すること。
- ② 自分で選択したテーマにふさわしい参考文献を探し、レポートにまとめる能力を獲得すること。
- ③ 経済に関する基本的な知識を理解した上で、討論に参加することができること。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	内容説明とスケジュール決定
2	レジュメの作成	レジュメとは何か、レジュメの作り方
3	テキストの輪読1	レジュメの報告とディスカッション
4	テキストの輪読2	レジュメの報告とディスカッション
5	テキストの輪読3	レジュメの報告とディスカッション
6	研究テーマについて	研究テーマの選び方、進め方
7	文献の探し方	文献の探し方、図書館の使い方
8	研究発表1	各自のテーマによる報告とディスカッション
9	研究発表2	各自のテーマによる報告とディスカッション
10	レポートの構成について	レポートの構成の仕方
11	研究発表3	各自のテーマによる報告とディスカッション
12	研究発表4	各自のテーマによる報告とディスカッション
13	研究発表5	各自のテーマによる報告とディスカッション
14	研究発表6	各自のテーマによる報告とディスカッション
15	研究発表7	各自のテーマによる報告とディスカッション

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

テキストの輪読を5週間後に行い、その後、各自のテーマでの報告を行う。一人、最低3回報告を行う。報告後は簡潔な討論を行う予定。最後に報告を元にしたレポートを提出する。また、関連するレジュメの作成方法、レポートの作成方法、文献の探し方等についても適宜、レクチャーする。輪読の際は、報告者以外にも Microsoft Teams より課題を課すため、予習が必要である。各自の報告の際は、報告者以外予習の必要はない。テーマ及び、レポートに関しても適宜、面談を行う予定。

（6）成績評価の方法と基準

- ① 報告内容（90%程度）、② 報告回数、課題の提出状況、討論への参加状況等の授業貢献度（10%以内）。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	『欧州複合危機』	遠藤 乾	中央公論新社	946 円
参 考 書	特になし。			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学入門、基礎経済学、マクロ経済学A・B、ミクロ経済学A・B、経済データの読み方
 その他経済系科目とは内容上の関連があるため、積極的な履修が望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

オフィスアワーは掲示の通り。ただし、それ以外の可能な時間に関しては別途知らせる。面談はオンラインでも可。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
専門基礎演習第4（国際社会福祉）	宮崎 理枝	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

急速なグローバル化と社会変化を伴う現代社会では、自分で自分の取り組むべき課題を的確に設定すること、そしてそれを解決すること、さらにこれらを他者にわかりやすく伝えられることが重要になる。しかしこれまでの皆さんの教育課程では、文献を熟読、理解し、相手にわかりやすいようにプレゼンテーションするトレーニングの機会は十分でなかったと思う。これを踏まえ本演習では、まず最も基本的かつ重要なアカデミックスキルである「きちんと読むこと」ができるようにトレーニングを行う。具体的には、「幸福な社会とは何か？」というテーマに即した初歩的かつ良質な専門文献を的確に読解し、それを他者に伝える能力を養う。加えて、それについて議論する能力を養成する。

好ましい個人発表のテーマ：国際社会(文化)、現代社会(文化)、福祉、介護、就労、家族、高齢者、ジェンダー、女性等の領域

（3）到達目標

初歩的かつ良質な専門文献の①熟読、②的確な読解、③②を他者に伝える能力をつける。またこの専門基礎演習は、上記の能力を専門的に養成する2年次の専門演習の準備段階としての位置付けにある。従って、文献テーマの選択は個人が行うが、日本と諸外国の社会問題と社会政策、その背景にある文化、思想、社会、歴史的事象に可能な限り限定し、これについて上記3点の達成を目的とする。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	本演習の目的、概要、進め方の説明
2	情報収集の仕方	情報収集の仕方を学ぶインターネットの利用方法を習得
3	読書ノートの作成法	読書ノート、レジュメの作成法を習得
4	レポートの作成法	基本的なレポートの概念と、形式
5	プレゼンテーションの方法他	プレゼンテーションの方法と各自の選んだ文献についての報告と吟味
6	個人発表と内容の議論	各自が読解した文献内容の発表と、他の履修者との質疑応答
7	個人発表と内容の議論	各自が読解した文献内容の発表と、他の履修者との質疑応答
8	中間考察・評価	バズセッション
9	個人発表と内容の議論	各自が読解した文献内容の発表と、他の履修者との質疑応答
10	個人発表と内容の議論	各自が読解した文献内容の発表と、他の履修者との質疑応答
11	個人発表と内容の議論	各自が読解した文献内容の発表と、他の履修者との質疑応答
12	個人発表と内容の議論	各自が読解した文献内容の発表と、他の履修者との質疑応答
13	個人発表と内容の議論	各自が読解した文献内容の発表と、他の履修者との質疑応答
14	個人発表と内容の議論	各自が読解した文献内容の発表と、他の履修者との質疑応答
15	まとめ	まとめ

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

- ・5回目までは、講義と文献検索等の演習を行う。以降は受講者による報告と質疑。
- ・授業以外多読に徹すること。
- ・報告者は報告準備を行う。

（6）成績評価の方法と基準

- ① 報告内容（70％）、② 授業貢献度（30％）。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	適宜指示する			
参 考 書	適宜指示する			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

社会保障論A、社会保障論B、労働経済論、社会政策

（9）オフィスアワー・その他

授業の進め方、内容は第1回目の授業で説明するので、必ず出席すること。オフィスアワーは、掲示の通り。授業の進捗・内容は、受講生の構成により若干の変更の可能性がある。積極的な演習参加と演習時間以外の多読ができる者が参加すること。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
専門基礎演習第5（論理的思考力を養う）	中路 喜之	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

このゼミでは、こちらが出題する課題に対して。まずは個人で調べたりして考えをまとめ、それをグループで話し合う。そして、各自が持ち寄った異なる意見をグループで一つの意見にまとめ上げ、それをグループの代表が、ゼミのメンバー全員に対して発表する。いくつかのグループで意見が異なる場合には、さらにそれをゼミ全体の意見として一つにまとめていく。同じ結論になった場合でも、そこまでの過程や考え方が異なる場合があるので、それについて全員で考える。この作業を毎回行う。その中で、ゼミのメンバーで相互につきあいながら、論理的思考（＝リーガルマインド）を学習・体験する。同時に、ゼミの後半に作成する「卒業準備レポート」への素材探しの一助としたい。ゼミのメンバー全員が主体となって、仲間とゼミを作りあげていくことを体感する。

後期中に1回、裁判傍聴・関係機関の見学をする学外授業を実施する。

（3）到達目標

- ① 法律的な論理的思考法を身につける。
- ② 身近な問題を通して、問題点の発見そして既存の知識の再確認。発展的に独自の考えの作成。
- ③ 自分とは違う意見にぶつかること、それとどう向き合うかをその場で考えられるようになる。
- ④ 卒業準備レポートの作成を通じ、卒業レポートの具体的検討をすること。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本ゼミの目的・概要・進め方、顔合わせ～自己紹介
2	班分け／課題（1）	課題（1）について検討・発表／課題（2）出題
3	課題（2）	課題（2）について検討・発表／課題（3）出題
4	課題（3）	課題（3）について検討・発表／課題（4）出題
5	課題（4）	課題（4）について検討・発表／課題（5）出題
6	課題（5）	課題（5）について検討・発表／課題（6）出題
7	課題（6）	課題（6）について検討・発表／課題（7）出題
8	課題（7）	課題（7）について検討・発表／課題（8）出題
9	課題（8）	課題（8）について検討・発表／課題（9）出題
10	課題（9）	課題（9）について検討・発表／課題（10）出題
11	課題（10）	課題（10）について検討・発表／課題（11）出題
12	課題（11）	課題（11）について検討・発表／課題（12）出題
13	課題（12）	課題（12）について検討・発表／課題（13）出題
14	課題（13）	課題（13）について検討・発表／課題（14）出題
15	振り返り	課題（14）について検討・発表／後期全体の振り返り～2年生に向かって。

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

原則として、ゼミのメンバーが中心となって、ゼミを進めていく（上記は一例である）。具体的には、グループ・ワーク、ディベート、グループごとのプレゼンテーション、レポートに関して個人によるプレゼンテーションなど。さらに、裁判書に行きつて刑事裁判傍聴、関連施設の訪問などの学外授業を1回行う（予定）。

ゼミを有意義なものにするために、メンバーがそれぞれの意見を出し合って、進めていくことが望ましい。

（6）成績評価の方法と基準

- ① ゼミへの貢献度（20％）、② ゼミ内での活動（ゼミ内で出した課題やレポートなどを含む）（80％）で評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	ポケット六法 令和6年版	宇賀・佐伯 編集代表	有斐閣	2,420 円
参 考 書	必要であれば、授業内に指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

幅広く、いろいろな方面から、考察することができるように、自らの興味に基づいて、それに関連するすべての科目。

（9）オフィスアワー・その他

- ① ゼミ後やオフィスアワーを問わず、随時、質問・相談を受け付ける。
- ② ゼミ（内容、進度）は、必ずしも上記の表通りではない場合がある。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
専門基礎演習第6 (地域・公共 財政研究)	山口 隆太郎	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

この基礎演習は、2年次「専門演習」につながる基礎演習科目である。新しく知る物事や考え方は、多くの場合書物を読むことから得られる。本基礎演習では、政府が社会・経済に関わる財政という問題を扱っていく。具体的には文献の内容を的確にまとめ、各人が持つ問題意識から内容に対して論点を設定し、これをもとに議論をしていく。また、自分で考えたことを他者に積極的に伝える、あるいは相手の議論に即して自身の考えをまとめるなど、これまでみなさんの教育課程では十分に行われてこなかったと考えられるトレーニングも行っていく。さらに、自身の興味のあるテーマをみつけ、文献を探して読み込むことで理解を深め、自身の意見をまとめていくことも行っていく。この演習を通して得られる能力は、2年次における専門科目や専門演習を履修するのに必要なものとなる。

(3) 到達目標

- ①初歩的かつ良質な文献を的確に読解できる。
- ②文献の内容をまとめ、それに対する自分の意見、考えをまとめる。
- ③自分の考えを他者に伝える能力の修得。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	本演習の目的、概要
2	情報収集の方法	本の探し方を学ぶ
3	輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
4	輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
5	輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
6	輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
7	輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
8	輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
9	輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
10	輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
11	課題に対する報告	ゼミで提示した課題について、調べて内容をまとめて報告する。
12	課題に対する報告	ゼミで提示した課題について、調べて内容をまとめて報告する。
13	課題に対する報告	ゼミで提示した課題について、調べて内容をまとめて報告する。
14	課題に対する報告	ゼミで提示した課題について、調べて内容をまとめて報告する。
15	まとめ	まとめ

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

輪読担当者は、文献を読みレジュメにまとめてくる。またそのときに論点をあげてくること。演習ではその論点を中心にディスカッションを行う。また、文献の探し方、調べ方なども適宜指導する。詳細については授業のなかで説明していく。

(6) 成績評価の方法と基準

課題や毎回の演習における受講態度や発言内容を総合的に評価（100%）

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	大人のための社会科	井手・宇野・坂井・松沢	有斐閣	1,650
参 考 書	なし			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

財政学、地方財政論

(9) オフィスアワー・その他

授業の進め方は第1回の授業で説明するので、必ず出席のこと。自分の学びたいことと本演習が関連するか迷う場合、事前に遠慮せず相談に来るようにすること。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
専門基礎演習第7（環境政策・環境経済論）	佐藤 克春	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（地域貢献力）の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得。

(2) 授業概要と目的

本ゼミは、環境経済論・政策論を扱う。ただ、ゼミの最初の4回は、森岡孝二『就職活動とは何か―まともな働き方の条件―』, 2011年、岩波新書を読む。短大の2年は短く、学生はあっという間に進路選択を迎える。本書は日本の「就職活動」というシステムの特殊性、そして日本の特に若年層をめぐる働き方についての解説書である。本ゼミでは環境経済・政策論を扱う前に、大学生としての教養を付けるために、本書の輪読を行う。その後、環境経済・政策論の文献を輪読してゆく。さしあたり、大島堅一著『原発はやっばり割に合わない―国民から見た本当のコスト―』(2012年、東洋経済新報社)を輪読する。2011年、福島第1原発事故という深刻な公害事件が発生した。被害者の救済・環境再生はもちろんの事、地球温暖化問題を含めた日本のエネルギー政策、再生エネルギーの普及を通じた農山村の振興といった地域開発のあり方までもが、改めて問われている。

また、参加者の関心に応じて、地球温暖化問題への国際的な取り組みや、脱炭素社会、再生可能エネルギーに関する論文・新書などを輪読する。幅広く環境問題に関心のある学生を歓迎する。また本ゼミでは環境問題の現場に触れ、現地の専門家に最新の動向を聞くフィールドワークも行う。参加は任意であるが、受講生の積極的な参加を望む。

(3) 到達目標

- ① 環境問題に対する幅広い知見を習得する。
- ② 演習が終わっても、「自分が知りたいことを知る」ことができるようになる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	自己紹介・ゼミの進め方・レジメの書き方のレクチャー
2	文献の輪読①	『就職活動とは何か』の輪読
3	文献の輪読①	『就職活動とは何か』の輪読
4	文献の輪読①	『就職活動とは何か』の輪読
5	文献の輪読①	『就職活動とは何か』の輪読
6	文献の輪読②	『原発はやっばり割に合わない』の輪読
7	文献の輪読②	『原発はやっばり割に合わない』の輪読
8	文献の輪読②	『原発はやっばり割に合わない』の輪読
9	文献の輪読②	『原発はやっばり割に合わない』の輪読
10	文献の輪読③	地球温暖化問題に関する文献の輪読
11	文献の輪読③	地球温暖化問題に関する文献の輪読
12	文献の輪読③	地球温暖化問題に関する文献の輪読
13	文献の輪読④	フィールドワークに関わる文献の輪読
14	文献の輪読④	フィールドワークに関わる文献の輪読
15	文献の輪読④	フィールドワークに関わる文献の輪読

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

ゼミでは毎回の発言を義務付ける。また、参加者個人がそれぞれ新聞記事を持ちより、時事問題について討議するアフターゼミを、ゼミ後に開催している。参加は任意であるが、環境問題だけでなく日頃から時事問題にアンテナを張る習慣を身に付け、自分なりの見解を説得的に他者に伝える訓練を行う。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 演習での個人報告（70%）、② 演習での発言（30%）

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	講義内で指示する			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学入門・公共政策入門・環境経済学

(9) オフィスアワー・その他

オフィスアワーは講義前後と木曜日昼とする。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
専門基礎演習第8（経営理論を学ぶ）	上 笹 恵	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

本演習では専門書や論文を丁寧に読み、議論を重ねることによって重要度の高い経営学の理論を学んでいく。経営戦略論や組織論、マーケティングなど企業経営全般への理解を深めるうえで不可欠と判断される理論やテーマを扱い、時間をかけて深く考える訓練を重ねる。事例研究は必要な部分に限定し、いつの時代にも古くならない理論の探求を第一に考える。

経営学は企業の売上や利益を最大化するための道具ではなく、経営や仕事の本質を考えるための学問である。そのような認識にしたがい、本演習では班単位での輪読や個人研究の報告などを行い、理論への理解を深め、それを経営の諸問題の検討や就職活動、将来の仕事に役立てられるような内容にする。

（3）到達目標

- ① 経営学の主要理論を学び、それによって思考の枠組みを強化して現実の問題を説明できる。
- ② 経営において何が大切なのか、その本質をある程度見極めることができる。
- ③ 学んだ内容を常に確認しながら、理論の現実問題への適用を考える姿勢を確立する。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	本演習の目的と進め方、自己紹介
2	企業経営で大切な要素	企業の使命について検討し、優良企業の定義づけを行う
3	経営学の基本	経営学入門、人的資源管理論の内容を振り返る
4	経営者とは	日本を代表する経営者の言動を知る
5	経営戦略	経営戦略の機能、多角化の進め方、シナジーの原理
6	経営組織	組織の概念、組織構造、分権管理組織
7	バーチャル工場見学	大企業の動画を使ってもものづくりの流れを体感する
8	レポートの中間報告①	個人研究の概要を報告する
9	レポートの中間報告②	個人研究の概要を報告する
10	優良企業研究	視聴覚教材を使った事例研究を行う
11	新聞記事の活用	日本経済新聞を使った事例研究を行う
12	マーケティング	マーケティング戦略の事例を取り上げて議論する
13	強い組織づくり	強い組織づくりとは何か検討する
14	経営学研究の視点	優れた経営学者の研究成果を味わう
15	まとめ	今後の学習と研究の進め方

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

はじめに企業経営でもっとも大切な点について全員で共有する。そのうえで経営学の入門書や論文を使い、班単位で報告して議論する。それとあわせて個人研究を進め、一人約15分間で成果を報告する。研究テーマは原則として経営学の分野から設定し、2年次の卒業レポート執筆の基礎となる内容であることが望ましい。授業で報告した個人研究の内容を最後にレポートにまとめて提出することを義務づける。

（6）成績評価の方法と基準

- ① 授業時の報告と態度（70%）、② レポート（30%）。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	授業内指示			
参 考 書	授業内指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経営学入門、人的資源管理論、経営組織論、経営戦略論など経営学関連科目を可能な限り多く履修し、企業経営の理論や知識を蓄えることを勧める。

（9）オフィスアワー・その他

原則として欠席しないこと。授業時間外の質問にはオフィスアワー等に応じる。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
専門基礎演習第9（企業分析と問題解決）	佐藤 茂幸	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

本演習は、経営学が内蔵する「問題解決力」を体験し習得することを第一義とする。そのために、具体的な事例企業の経営課題を前にし、学んだ経営知識を駆使し解決策を導き出す訓練が有効である（＝ケーススタディ）。ケーススタディで扱う業界・企業・経営課題は、教員が示す3～5の複数のテーマから学生が1つを選定するか、学生自らの問題意識からテーマを選ぶものでもよい。演習スタイルはグループ単位での意見交換や討議を行い、これを個人で企業分析レポートにまとめる。

分析レポートに必要な基礎力習得を目的に、前半部分においては、経営学専門書（入門書レベル）をテキストとして学習会を行う。また、中段部分では問題解決技法の基礎を学び、企業分析を行うことの意義を確かなものにする。

(3) 到達目標

- ① 経営学専門書の学習会を通じて、経営学理論の基礎を本格的に固める。
- ② 経営学講義で学んだ理論的知識を企業分析にて活用でき、この知識が実践的な問題解決力として身につけている。
- ③ 企業分析に関わるレポート作成を通じ、卒業レポートの具体的検討がスタートできている。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本演習の目的・概要・進め方、自己紹介
2	経営学理論の学習会 ①	「経営戦略」の基礎理論、応用問題、発表、質疑応答
3	経営学理論の学習会 ②	「マーケティング」の基礎理論、応用問題、発表、質疑応答
4	経営学理論の学習会 ③	「経営組織論」の基礎理論、応用問題、発表、質疑応答
5	経営学理論の学習会 ④	「人的資源管理論」の基礎理論、応用問題、発表、質疑応答
6	経営学理論の学習会 ⑤	「イノベーション」の基礎理論、応用問題、発表、質疑応答
7	問題解決技法 ①	論理的思考とは、経営学と問題解決の関係
8	問題解決技法 ②	因果関係、質問技法、討論の仕方、分析レポートの書き方
9	企業分析レポートの作成 ①	事例企業・対象業界の選定
10	企業分析レポートの作成 ②	経営理論の確定（戦略、マーケティング、人事、組織等）
11	企業分析レポートの作成 ③	参考文献の選定と読み込み、経営環境分析（業界動向等）
12	企業分析レポートの作成 ④	班内討議による事例企業の成功要因の分析
13	企業分析レポートの作成 ⑤	分析レポートの作成、企業分析のパワポまとめ
14	企業分析レポートの作成 ⑥	企業分析の発表、質疑応答
15	振り返り	企業分析レポートの自己評価、卒業レポートのテーマ選定

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本演習の進め方の基本は、5～6名によるグループ活動である。議論・協働作業・発表等のコミュニケーションにより、一人では難解な問題をチームで解決する方法を学ぶ。その一方で、授業時間外での課題を多分に課し、独学による事前学習も重視する。独学とチーム学習の連動により、主体的な学びの習慣を根付かせる。さらには、ゼミ生と教員との1対1の対話も重視し、深いレベルでの「問い」を立てる力も養う機会も設定する。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① レポート（60％）、② 演習に対する貢献度（40％）。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	授業内指示			
参 考 書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経営学入門、人的資源管理論、経営戦略論、経営組織論、地域データ分析論

(9) オフィスアワー・その他

履修学生は、「マネジメント検定（Ⅲ級）」の受験を勧める。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
専門基礎演習第10 (アカデミック・スキルズ入門)	槇平 龍宏	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。

(2) 授業概要と目的

文系でも理系でも、勉学は目的を持って行われるものである。その目的が研究であれ資格試験合格であれ自己啓発であれ、目的を明確に設定することが不可欠であるが、肝心の「目的の設定の仕方」を学ぶ機会は少なく、その学び方も必ずしも確立されていない。

本演習では「アカデミックな目的の設定と達成のプロセス」に焦点をあてて、どのように目的を設定すればよいのか、またその目的を達成するためにはどのようにしたら良いのか、という大学生にとって重要な課題について、先人の様々な知恵に学び、自らのこれからの学びに「目的達成」を据えて取り組むことの意義を見いだせるようにしたい。演習という集団学習の場ならではの意見交換や議論を通じて、「学び方の学び」を身につけたい。

(3) 到達目標

- ①テーマに関連した文献を自ら探し、内容を理解し、演習メンバーの前でプレゼンが出来るようになる。
- ②「目的の設定の仕方と達成する手法」について自らの考えをまとめ、レポートにすることができるようになる。
- ③グループワークを通じて履修生同士で議論し、得られた結論を教員やメンバーの前でプレゼン出来るようになる。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	はじめに	本演習の概要と目的
2	目的を明確化する①	自らの興味関心を拓く
3	目的を明確化する②	興味関心の解決を目的化する
4	仮説を立てる①	仮説とは何か
5	仮説を立てる②	理論仮説と作業仮説
6	仮説を検証する①	データの読み方
7	仮説を検証する②	データの集め方と加工の仕方、分析の仕方
8	課題解決を政策化する①	政策論の基礎を学ぶ
9	課題解決を政策化する②	政策の種類と目的を学ぶ
10	残された課題を明確化する①	学習成果のまとめ方を学ぶ
11	残された課題を明確化する②	課題と展望を明確化する
12	効果的な発表をするには①	レジュメの書き方を学ぶ
13	効果的な発表をするには②	プレゼン資料の作成を学ぶ
14	レポート作成の技法	引用の振り方、参考文献の記載の仕方
15	おわりに	アカデミック・スキルズ習得を通じて「主体的な学問」について考える

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

グループワークを主体とした学習を重視する。履修生同士が議論を通じて交流し、プレゼン資料を準備し、メンバーの前でプレゼン報告を行うことを一連のアカデミック・スキルズ手法を用いて実践する中で身につける。テーマ設定についても、教員が与えるのではなく、同様の関心を持ち合う学生同士での検討を踏まえて行う。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①集団学習への参加態度（50%）、②レポート（50%）の合計点数により評価する。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。			
参 考 書	必要に応じて紹介する。			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

- ・「公共政策コース」や「経済コース」を中心とする自らが興味を持っている諸科目
- ・「コミュニケーションB」など日本語読解・文書作成能力向上に資する科目はぜひ履修すること。

(9) オフィスアワー・その他

「公共政策コース」を選択希望の学生の履修を薦める。原則として上記のスケジュールに従い講義を行うが、進捗状況や時事的な問題を取り扱うことによるスケジュールの前後や変更がありうる。原則として特別な事情なく欠席しないこと。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
専門基礎演習第12 (中国経済論)	范立君	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

本演習は、中国の経済史を重視しながら、中国経済について学ぶ。演習形式は参加者の関心と人数に応じて、講義と文献の輪読・報告・討論がある。演習内容は主に以下の3つがある。

第1、文章を読んで、文章の要約の方法について、学習する。第2、共通の文献などを読んで、要約や読書ノートを作成し、グループごとに分けて、プレゼンテーションしたり、討論したりする。第3、上記の勉強と理解を踏まえ、経済的な基本知識を含め、グローバル経済における中国経済に関する基本的知識を中心に考察する。

(3) 到達目標

- ① 今後の中国経済関連の領域で勉学するための基礎学力をつける。
- ② 関連する新聞記事やニュースの内容を理解し、要約できるようにする。
- ③ 読書ノートの作成やゼミでの討論などを含め、基礎的プレゼンテーションができる。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	基礎演習の進め方・ルール、文献の紹介、スケジュール調整
2	動画資料	中国経済の動向関連の資料
3	要約の書き方	文献を読んで、要約の書き方を説明、練習する。
4	文献の輪読1	文献をゼミのメンバーとともに読み、理解を深める、そのたびに要約を書く。
5	文献の輪読2	文献をゼミのメンバーとともに読み、理解を深める、そのたびに要約を書く。
6	文献の輪読3	文献をゼミのメンバーとともに読み、理解を深める、そのたびに要約を書く。
7	レポートテーマの決定①	各自、レポートテーマと構想について、報告
8	レポートテーマの決定②	レポートに必要な参考文献について、報告
9	レジュメ・レポートの作成	レジュメ・レポートの作り方、報告の仕方
10	動画資料	鄧小平の一生と中国
11	議論1	担当者報告、議論、文献解説
12	議論2	担当者報告、議論、議論の仕方を身に着ける
13	レポート内容の確認	各自、レポートの簡単な要約を報告する
14	ケーススタディ	映像資料：中国の超高度成長関連
15	ケーススタディ	最新の時事問題を購読、議論

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本ゼミでは、新学期の最初の3回ぐらい、先生が時事問題やゼミ学習の関連内容を印刷物として配布し、ゼミ内の共通課題と輪読資料を提供する。4回目からメンバーが各自の興味テーマに基づいて、報告してもらう。ゼミの大体8回目の時期に卒業論文のテーマを決めてほしい。その後、卒論関連の報告をしてもよい。報告中に学生の集中力と思考力、そして理解力を高めるため、必要な時に、学生に質問を投げたりもしている。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 報告・議論 (80%)、② 授業貢献度 (20%)

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	現代中国の中小企業金融	范立君	時潮社	3,300 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

(9) オフィスアワー・その他

水曜日 (11:30~12:30)

※諸般の事情により、ゼミ内容を多少変更することがある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
専門基礎演習第13（経営学から社会をとらえる）	大橋 松貴	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

経営学は、企業だけでなく、学校などの教育機関、市役所などの公的機関、病院や福祉施設などの医療機関などさまざまなものを対象とすることができる学問である。そのため、本演習では経営学のものの方や諸理論などを通して、受講生がそれぞれ興味・関心のあるテーマを自由に選択し、2年次の卒業レポートにつながるような研究を進めることを目的とする。

本演習は、学生が教員から提示されるテーマにもとづいて発表をする前半と、学生自身で興味・関心のあるテーマを選択し、発表する後半に分けられる。受講生には、演習の前半でテーマをまとめ、発表する能力を、後半で自分の興味・関心のあるテーマを選択し、レポートにまとめる能力を養ってもらいたい。

（3）到達目標

- ①日常的に企業活動に興味・関心をもち、経営学の諸理論を用いて説明できるようになる。
- ②自分自身の興味ある研究テーマを選択し、他者にわかりやすく伝えることができるようになる。
- ③興味がある経営学関連の文献を能動的に読むことができるようになる。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	本演習の目的と進め方の説明、自己紹介
2	プレゼンテーション ①	特定テーマにもとづくグループ発表（グループワーク）
3	プレゼンテーション ②	特定テーマにもとづくグループ発表（グループワーク）
4	プレゼンテーション ③	特定テーマにもとづくグループ発表（グループワーク）
5	プレゼンテーション ④	特定テーマにもとづくグループ発表（グループワーク）
6	フリートーク ①	各自、興味・関心のあることをプレゼンする
7	フリートーク ②	各自、興味・関心のあることをプレゼンする
8	フリートーク ③	各自、興味・関心のあることをプレゼンする
9	フリートーク ④	各自、興味・関心のあることをプレゼンする
10	レポートの技法 ①	レポートの基本的な書き方、レポートの構成
11	レポートの技法 ②	レポートの基本的な書き方、レポートの構成
12	研究発表 ①	各自の研究報告とディスカッション
13	研究発表 ②	各自の研究報告とディスカッション
14	研究発表 ③	各自の研究報告とディスカッション
15	研究発表 ④	各自の研究報告とディスカッション

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本演習は大きく前半と後半に分けられる。前半は教員の側からテーマを提供し、学生に発表してもらう。後半は、受講生の側がそれぞれ自分の興味のあるテーマを選び、研究内容を発表する。できれば、卒業レポートに関する内容であることが望ましい。受講生には、最後に演習中に発表した内容をまとめ、レポートとして提出することを課す。

（6）成績評価の方法と基準

- ①授業時の報告および態度（60%）、②レポート（40%）。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	授業内指示			
参 考 書	授業内指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経営学関連の科目をなるべく多く履修することが望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

原則として、欠席しないことを求める。

なお、授業時間外の質疑はオフィスアワー等で対応する。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
専門基礎演習第14（研究とは何か）	山岸 絵美理	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

本演習は、主に政治学や地方自治の観点から、卒業レポート作成に向けた準備段階として、位置づけて講義を行っていく。方法としては、レポートや論文の意義や目的の理解からはじめる。こうした理解に基づき、大学における「研究とは何か」という意識を醸成したい。以上の過程を経て、①現実存在する問題課題を観察し、②問いを見つけ、③情報を収集し、④論理を組み立て、⑤文章化する、というプロセスを身につけることを目的とする。これらプロセスを経て、2年次以降のレポートの執筆という実践へ向かうものとする。しかし、あくまでこれらは自身の研究のためであるという主体性が要求されるのであり、指導としてはそのサポートという役割に徹したい。

（3）到達目標

- ① レポート執筆の意義や基本的なルールを理解することができる。
- ② 現代社会（政治学、地方自治の観点から）の問題点を挙げるができる。
- ③ ①②をふまえ、客観的な事実に基づいて、説明することができる。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	本演習の目的・概要・進め方について
2	レポートとは何か①	レポートの意義やルールについて - 作文と違い -
3	レポートとは何か②	レポートの意義やルールについて
4	レポートとは何か③	レポートの意義やルールについて
5	資料収集の方法 ①	資料の種類やその意義について
6	資料収集の方法 ②	資料の種類やその意義について
7	引用文献の方法	引用の方法について課題についての検討
8	レポートの実践（グループワーク） ①	テーマにもとづいた、グループワーク（ディスカッションなど）
9	レポートの実践（グループワーク） ②	テーマにもとづいた、グループワーク（ディスカッションなど）
10	レポートの実践（グループワーク） ③	グループ発表
11	レポートの実践（個人） ①	テーマ設定
12	レポートの実践（個人） ②	執筆作業など
13	テーマ発表①	発表の意義、論理的な伝え方とは
14	テーマ発表②	意見交換
15	まとめ	今後の研究に向けて、講義のふりかえり

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

- ・少人数のゼミ形式で行う。教員の指示を待つのではなく、主体的かつ自主的に学ぶ姿勢をもっていることが前提となる。
- ・講義形式だけでなく、グループワーク、ディスカッションなどアクティブラーニングの手法を積極的に扱いたい。
- ・講義の主なテーマは、政治学、地方自治を題材に進めていくので、それらに対する関心・興味があることが基本である。

（6）成績評価の方法と基準

- ①授業内での取り組み（70%）、② 授業での課題（30%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	講義内で指示する			
参 考 書	講義内で指示する			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

政治学、行政学、公共政策科目など

（9）オフィスアワー・その他

- ・特別な事情以外の欠席は認めない。
- ・演習内でのルール（無断欠席厳禁）を厳守すること。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
専門基礎演習第15（日本近現代文学研究）	渡邊 浩史	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

本演習は、日本近現代文学の観点から卒業レポート作成に向けた準備段階として講義を行っていく。本演習では「作家論／作品論／テキスト論」という日本文学研究の基本的な研究方法（方法論）を学んでもらい、2年次の卒業レポートにつながるような研究を進めることを目的とする。そこでは、各自で課題を設定し、内容を丁寧に分析し、他者にわかりやすく伝えることが重要になる。

本演習では、各自の問題意識に基づいた「発表」を行なうなかでこの方法論の強化に努めたい。具体的には、発表者が日本近現代文学作品の読解を行なっていくなかで頻出する様々な問題（思想・ジェンダー・社会等）についてゼミ生に提起し、ゼミのメンバーと議論し、その作品の新しい読み方について考察していくというものだ。ゼミでは、日本文学研究で最も基本作業となる作品読解に力点を置いてもらい、作品読解を通して見出される〈問題〉について考えていく能力を養ってもらいたい。

（3）到達目標

- ① 「作品論」という研究方法を学んでもらう。
- ② 「作品論」を用いて 文学作品を読解し、そこから魅力ある問題点を探り出す。
- ③ ①②をふまえ、他者に分かりやすく伝えることができるようになる。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	本演習の目的・概要・進め方・自己紹介
2	日本文学研究についての説明	日本文学研究の方法論——作家論・作品論・テキスト論についての説明——
3	方法論の実践	教員によるプレゼンテーション
4	自由討論①	対象とする日本文学作品や方法論について議論する
5	自由討論②	対象とする日本文学作品や方法論について議論する
6	研究発表①	資料の種類やその意義について
7	研究発表②	引用の方法について課題についての検討
8	研究発表③	テーマにもとづいた、グループワーク（ディスカッションなど）
9	研究発表④	テーマにもとづいた、グループワーク（ディスカッションなど）
10	研究発表⑤	グループ発表
11	研究発表⑥	テーマ設定
12	研究発表⑦	執筆作業など
13	研究発表⑧	発表の意義、論理的な伝え方とは
14	レポート作成法	レポートの基本的な書き方についての説明
15	まとめ	今後について

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

- ・日本近現代文学に対する興味・関心があることが前提条件。
- ・本演習は、講義、グループワーク、ディスカッションを用いた授業形式で行なう。
- ・各自の発表に入ったら、教員の指示を待ちではなく、主体的／自主的な学びの姿勢で行動すること。

（6）成績評価の方法と基準

- ① 報告内容（70％）、② 授業貢献度（30％）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	講義内で指示する			
参 考 書	講義内で指示する			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

日本文化講義A、日本文化講義B、日本文学概説。

（9）オフィスアワー・その他

- ・オフィスアワーは掲示の通り。
- ・積極的な演習参加を求める（授業の進度・内容は、受講生の構成により若干の変更の可能性はある。）。
- ・特別な事情以外の欠席は認めない。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
専門基礎演習第17（社会文化学入門）	松岡 昌和	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

本演習では、2年時での卒業レポート執筆をめざして、その基礎となる基本的知識の修得、各自の課題の発見、学問的洞察力の涵養を目的とする。演習では、まず教養演習で学んだアカデミック・スキルズについて改めて確認をし、課題文献を講読することで社会文化学の基本的な考え方を学び、各自の問題関心に応じた読書についての発表を行う。そして、学期末には卒業レポート執筆の基礎的作業となるブックレポートを作成する。演習では特定の課題文献をこちらで指定しており、また担当者の専門は狭義にはアジア史であるが、参加者の研究課題はこれに限定するわけではない。指導可能な主なトピックは以下の通り：近現代の世界史、東南アジア地域研究、20世紀日本の大衆文化、ジェンダー、植民地主義、メディア、多文化主義、歴史教育、言語と社会など。

（3）到達目標

- ① 文献を読み、適切に要約し、論点を整理するスキルを身につける。
- ② 自身のテーマを設定し、その問題意識を的確に他者に伝えるスキルを身につける。
- ③ 社会と文化について、批判的な視点で捉えることができるようになる。

（4）授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	内容説明、スケジュール調整
2	アカデミック・スキルズ1	レジュメの作成法、レポートの作成法
3	アカデミック・スキルズ2	調査の方法
4	文献講読1	報告と討論
5	文献講読2	報告と討論
6	文献講読3・個人報告1	報告と討論
7	文献講読4・個人報告2	報告と討論
8	文献講読5・個人報告3	報告と討論
9	文献講読6・個人報告4	報告と討論
10	文献講読7・個人報告5	報告と討論
11	文献講読8・個人報告6	報告と討論
12	文献講読9・個人報告7	報告と討論
13	文献講読10・個人報告8	報告と討論
14	文献講読11・個人報告9	報告と討論
15	まとめ	卒業レポート作成に向けての案内

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

文献講読および読書報告の担当者は、論点を整理して内容をレジュメにまとめておく。演習ではレジュメの内容をもとに担当者が口頭で報告を行い、参加者全員で討論を行う。報告者のみならず参加者全員が課題文献に予め目を通し、不明な用語については事前に調べ、理解できなかった箇所をきちんと特定しておくことが求められる。各自の読書についての報告の内容については、予め担当教員に相談の上決定することとする。

（6）成績評価の方法と基準

- ① 授業内報告と討論への参加（50%）
- ② レポート（50%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	ファッションで社会学する	藤田結子、成実弘至、辻泉編	有斐閣	2,530 円
参 考 書	授業内で紹介する			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

社会文化コース各科目

（9）オフィスアワー・その他

原則として、毎週月曜日昼休みをオフィスアワーとして設定する。その他の曜日・時間については要連絡。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
専門基礎演習第18 (国家間・民族間の諸問題に関する学習)	荒 哲	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

専門基礎演習では、1年生の前期で履修した「教養演習」に基づき、2年生の後期に作成される卒業レポートへ向けて、研究に従事するための基礎力を養う。担当教員の専攻に則した内容と連動したテーマをまず学習し、それに基づき国際関係論一般をテーマとする広い領域での学習も同時に行う。主に教員が指定した書籍ないし論文を要約する訓練を行い、それに基づいた要約報告を行う。学習内容についてのディスカッションをしながら、国際関係に関する基礎知識を習得し、批判的なものの見方に慣れていく。授業では、国際政治学、国際政治史関連の名著（例えば E H カー「危機の20年」）などを読みながら、国際関係論、国際政治学の基礎を学習していく。またグループ学習をしながら、関心領域に関するリサーチの基礎的訓練を行う。

(3) 到達目標

中学校の社会並びに高校の日本史や世界史の授業において深く学ぶ機会が少なかつたと思われる 19 世紀以降のアジアにおける欧米諸国による植民地史並びに日本帝国主義の歴史について基礎的な知識を習得する。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	専門基礎演習について	オリエンテーションなど
2	国際関係論研究の基礎	その学問的潮流や現在の傾向について
3	有賀貞「国際関係史」を読む1	国際政治学、国際政治史、国際関係論を学習する意味や意義について考える
4	有賀貞「国際関係史」を読む2	国際政治学、国際政治史、国際関係論を学習する意味や意義について考える
5	有賀貞「国際関係史」を読む3	国際政治学、国際政治史、国際関係論を学習する意味や意義について考える
6	EH カー「危機の20年」を読む 1	1918年から1939年までの欧州国際政治と第2次世界大戦を回避できなかった事情
7	EH カー「危機の20年」を読む 2	1918年から1939年までの欧州国際政治と第2次世界大戦を回避できなかった事情
8	EH カー「危機の20年」を読む 3	1918年から1939年までの欧州国際政治と第2次世界大戦を回避できなかった事情
9	アンダーソン「想像の共同体」について1	アジア植民地史を考える上での必読の文献を学習する。
10	アンダーソン「想像の共同体」について2	アジア植民地史を考える上での必読の文献を学習する。
11	アンダーソン「想像の共同体」について3	アジア植民地史を考える上での必読の文献を学習する。
12	各グループによる学習報告会 1	今まで学習した内容の中で特に関心を抱くに至ったテーマについての学習報告
13	各グループによる学習報告会 2	今まで学習した内容の中で特に関心を抱くに至ったテーマについての学習報告
14	各グループによる学習報告会 3	今まで学習した内容の中で特に関心を抱くに至ったテーマについての学習報告
15	各グループによる学習報告会 4	今まで学習した内容の中で特に関心を抱くに至ったテーマについての学習報告

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義では教師が指定した文献購読に沿った授業を展開する。授業終了直前の15分前に各回の授業内容についての振り返りシートを作成し提出する。時折、映像を鑑賞しながら講義内容を理解できるような工夫を施しながら授業を展開していく。授業展開によってはグループ学習を行い、学習した内容を他のクラスメートに報告する為のプレゼンテーションを行うことを計画している。

(6) 成績評価の方法と基準

期末テスト 70%、授業ごとに提出される振り返りシートの内容 20%、授業貢献度 10%とする。ただし、グループ学習によるプレゼンテーションが行われた場合は、授業貢献度の10%をプレゼンテーション評価に充当する。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書	国際関係史	有賀貞	東京大学出版会	4,180 円
参考書	想像の共同体	ベネディクト・アンダーソン	書籍工房早川	2,200 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

アジア文化講義

(9) オフィスアワー・その他

月曜日 午後2時から午後3時までの間、第16研究室にて。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
専門演習第1 (A・B) (資料分析・構想構築・執筆)	柳沢 幸治	2	前・後	各2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

本演習は、資料の読み込みと、その要旨の把握が第1の目的となる。資料を読み込むと言っても、1つの資料だけを意味しない。自らの仮説を説明しようとするならば、複数の使用の読み込みが必要となる。また要旨の把握と言っても、素早く文章化できるか否かが問題となる。まとめた要旨をつなげるにより、文章になる程度まで仕上げることを目指してもらう。第2の目的は、自らの仮説を説明するための段階、すなわち文章の構成を構想することにある。これは、想像力を養う力を育てることになる。第3の目的は、習得した知識をアウトプットする段階に相当する。しかし、ただ書けば良いというものではない。他者が、容易に理解できるような文章を書かなければならない。そのためには、自分の仮説＝問題点とその解決策を提示することができる必要がある。また、その提示された問題点と解決策にたどりつくように、文章を構成できる能力が必要である。月に1回は必ず個別面談を行う。

(3) 到達目標

- ① 資料・書籍を読み込み、その要点を把握することができる。把握した内容を表記し、発表・説明ができる。
- ② 興味ある事項の問題点と、その解決策を提示できる。
- ③ これまでに調査し、まとめた資料に基づき、解決策を提示する過程の構成を組み立てることができる。
- ④ 得た情報・知識を他人にわかるよう文書化できる。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	専門演習の進め方 必要事項の記入 必要書類の配布 その他
2	春休みの成果の発表①	対面指導
3	春休みの成果の発表②	対面指導
4	春休みの成果の発表③	対面指導
5	問題点の指摘と構成①	面接による指導
6	問題点の指摘と構成②	面接による指導
7	問題点の指摘と構成③	面接による指導
8	執筆の実施①	文章の提示と面接
9	執筆の実施②	文章の提示と面接
10	執筆の実施③	文章の提示と面接
11	執筆の実施④	文章の提示と面接
12	執筆の実施⑤	文章の提示と面接
13	執筆の実施⑥	文章の提示と面接
14	執筆の実施⑦	文章の提示と面接
15	前期（課題発表）	前期：レポートの課題を発表 後期：レポートの内容の概略を発表

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

このゼミの運営に関しては、個々の学生を対象とする。まず、読み込んだ資料を使用して、個別の面談を行っていく。この面談において、問題点や、より伸ばすべき良い点を指摘していく。このような形式で授業を進行するため、問題点の解決のための調査や、文章の書き直しなどを指示することが多くなると思われる。また、ある一定基準に到達していない場合、書き直しを命じる。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 授業貢献度（50％）、② 面接の内容（50％）。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	使用せず			
参 考 書	その都度指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学入門、経営入門、公共政策入門、日本経済史、西洋経済史

(9) オフィスアワー・その他

基本的には、月曜日の12:00～13:00です。しかし、用事がある方は、私が居る時間においで下さい。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
専門演習第2 (A・B) (古典を通じて思想を学ぶ)	伊藤 誠一郎	2	前・後	各2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

社会の現実と、それにたいする人々の分析、つまり思想とはどのように関係あるのだろうか。人間は言葉を持って以来、現実の中で日々生きることだけでなく、それに対するさまざまな思いを語り、語り継ぎ、文字として記録してきた。歴史、文学、哲学、そして経済学にいたるまで、語られるもの、書き記されるものには、何らかの形で人間の思い＝思想が表現されている。では、そうしてできた思想は、逆に現実に対して何の関係もないたんなる感想や推測なのだろうか。本年度の本演習では、昨年度の基礎演習に続きアリストテレスの『政治学』を取り上げ、これを輪読するなかで、こうした問題を考えたい。本演習では、この本を全員が毎回読書ノートを取り、それを元に議論していく。また、並行して、各自は卒業レポート作成をし、定期的に中間報告を行い、他のメンバーと議論を行う中で、レポートをさらに充実したものにしていく。

(3) 到達目標

- ① 自ら考え、それを自発的に表現できる能力を養う。
- ② そのための手段である作文や報告の技術を身につける。
- ③ 資料などを使い、客観的に思考する能力を身につける。
- ④ 輪読を通じて、古典を読む力を養う。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	輪読	『政治学』の内容理解とそのための輪読
2	輪読	『政治学』の内容理解とそのための輪読
3	輪読	『政治学』の内容理解とそのための輪読
4	輪読	『政治学』の内容理解とそのための輪読
5	輪読、個人報告	『政治学』の内容理解とそのための輪読、卒業レポートの中間発表
6	輪読、個人報告	『政治学』の内容理解とそのための輪読、卒業レポートの中間発表
7	輪読、個人報告	『政治学』の内容理解とそのための輪読、卒業レポートの中間発表
8	輪読、個人報告	『政治学』の内容理解とそのための輪読、卒業レポートの中間発表
9	輪読、個人報告	『政治学』の内容理解とそのための輪読、卒業レポートの中間発表
10	輪読、個人報告	『政治学』の内容理解とそのための輪読、卒業レポートの中間発表
11	個人報告	卒業レポートの中間発表
12	個人報告	卒業レポートの中間発表
13	個人報告	卒業レポートの中間発表
14	輪読	『政治学』の内容理解とそのための輪読
15	輪読(前期：課題授業)	前期：レポートの作成 後期：『政治学』の内容理解とそのための輪読

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

毎回全員が、アリストテレス『政治学』の15頁程度についての読書ノートを作成し、持参し、毎回1人が授業の最初に自らのノートのコピーを配布し読み上げ、それをきっかけに内容についての理解を深めるための質疑応答をする。その際、かならず毎回1人一回以上の発言を求める。司会は学生がおこない、時間管理もおこなう。それとは別に、各人が、教員との個別面談を経たあと、卒業レポートの中間発表をおこない、それについて質疑応答する。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 読書ノート作成や議論への参加などゼミ活動への努力（70％）、② 卒業レポートの報告（30％）。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	『政治学』	アリストテレス	京都大学学術出版会	4,620 円
参 考 書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学説史A・B

(9) オフィスアワー・その他

欠席をせず、議論に積極的に参加すること。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
専門演習第3 (A・B) (経済のマクロ的・政策的分析)	内藤 敦之	2	前・後	各2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

本演習では、主に経済に関わる分野を学習した上で、最終的に卒業レポートを完成させることを目標とする。今年度は、『説得論集』等のケインズの文書の輪読を前期に行い、後期は各自のテーマによる報告を行う予定である。また、プレゼンテーションソフトを用いた報告も行う。レポートの書き方、文献の調べ方等についても、学習する。レポートのテーマは、学生の希望により、決定するが、基本的に経済に関わるものとする。参考までに、過去に受講者が選択したテーマは、バブル経済、高度成長、インフレーション、金融政策、仮想通貨、フィンテック、消費税、社会保障、年金、格差と貧困、人口移動、少子化、非正規雇用、過労死・過労自殺、労働組合、AIと雇用、ワークライフバランス、教育経済学、行動経済学、ゲーム理論、情報の不完全性、スポーツ経済学、地域格差、地方財政、地域ブランド、地域通貨、ふるさと納税、観光経済学、農業、地球温暖化問題、再生可能エネルギー、木質バイオマス、SDGs、エシカル消費、サブスクリプション、シェアリング・エコノミーなどである。

(3) 到達目標

- ① 文章を読み、要約する能力を獲得すること。
- ② 自分で選択したテーマにふさわしい参考文献を探し、卒業レポートにまとめる能力を獲得すること。
- ③ 自分で選択したテーマなどについてプレゼンテーションを行う能力を獲得すること。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	内容説明とスケジュール決定
2	レジュメの作成	レジュメとは何か、レジュメの作り方
3	テキストの輪読1	レジュメの報告とディスカッション
4	テキストの輪読2	レジュメの報告とディスカッション
5	テキストの輪読3	レジュメの報告とディスカッション
6	研究テーマについて	研究テーマの選び方、進め方
7	文献の探し方	文献の探し方、図書館の使い方
8	中間発表	卒業レポートの構成と主要参考文献のプレゼンテーション
9	研究発表1	各自のテーマによる報告とディスカッション
10	レポートの構成について	レポートの構成を考える
11	研究発表2	各自のテーマによる報告とディスカッション
12	研究発表3	各自のテーマによる報告とディスカッション
13	研究発表4	各自のテーマによる報告とディスカッション
14	研究発表5	各自のテーマによる報告とディスカッション
15	プレゼンテーション	卒業レポートの概要のプレゼンテーション

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

前期はテキストの輪読と、卒業レポートの目次と主要参考文献のプレゼンテーションを行い、後期は、卒業レポートのテーマの報告と、執筆後に概要のプレゼンテーションを行う。報告後は簡潔な討論を行う。また、レジュメやレポートの作成方法、文献の探し方等についても適宜、レクチャーする。輪読の際は、報告者以外にもMicrosoft Teamsより課題を課すため、予習が必要である。各自の報告の際は、報告者以外予習の必要はない。テーマ及び、卒業レポートに関しても適宜、面談を行う予定。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 報告内容(90%程度)、② 報告回数、課題の提出状況等の授業貢献度(10%以内)。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	デフレ不況をいかに克服するか	J.M.ケインズ	文藝春秋	1,232 円
参 考 書	ケインズ全集第9巻 説得論集	J.M.ケインズ	東洋経済新報社	9,900 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学入門、基礎経済学、マクロ経済学A・B、ミクロ経済学A・B、経済データの読み方
 その他経済系科目とは内容上の関連があるため、積極的な履修が望ましい。

(9) オフィスアワー・その他

オフィスアワーは掲示の通り。ただし、それ以外の可能な時間に関しては別途知らせる。面談はオンラインでも可。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
専門演習第4 (A・B) (よく生きることとはどういうことか)	宮崎 理枝	2	前・後	各2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

この専門演習では福祉社会とは何かという点をテーマにこれを多角的に考えてみたい。これは極言すれば、我々が現代社会で「よく生きる（well-being）ということとはどういうことか」を考察するという事です。逆に、よく生きていない状態とはどういう状態を指すのかを考察するという事でもあります。

従って、本演習では、必ずしも社会保障制度、貧困や格差、移民問題、ワークライフバランスというようなテーマにとどまらず、上記下線部に関わる思想や哲学、歴史なども重要なテーマと位置付ける。具体的な演習方法は、専門的な資料の検索と入手、読書ノートの作成と当該資料の的確な読解、さらに読解した内容の発表と討議です。

◎担当可能なテーマ：介護、就労、家族、高齢者、社会保障、幸福、公正、女性、ワークライフバランス、子育て、貧困、移民、福祉国家、国際社会、現代社会

(3) 到達目標

- ① 専門書を読解できるようになる。
- ② 専門的な研究テーマを設定し、基礎情報の整理が行える。
- ③ ②の内容を適切に口頭報告ができ、質疑応答ができる。
- ④ ②の内容を卒業レポートにまとめられる。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	本演習の、目的、概要、進め方の説明
2	テーマ設定(1)	参加者の関心テーマと共有テーマを協議、各自の発表内容の検討
3	テーマ設定(2)	参加者の関心テーマと共有テーマを協議、各自の発表内容の検討
4	情報・資料収集(1)	各自が発表内容に関する英語資料・情報を収集、収集状況を報告1
5	情報・資料収集(2)	各自が発表内容に関する英語資料・情報を収集、収集状況を報告2
6	情報・資料収集(3)	各自が発表内容に関する英語資料・情報を収集、収集状況を報告3
7	各自の発表と討議(1)	各自が決めた文献の発表と参加者間での討議1
8	各自の発表と討議(2)	各自が決めた文献の発表と参加者間での討議2
9	各自の発表と討議(3)	各自が決めた文献の発表と参加者間での討議3
10	各自の発表と討議(4)	各自が決めた文献の発表と参加者間での討議4
11	各自の発表と討議(5)	各自が決めた文献の発表と参加者間での討議5
12	各自の発表と討議(6)	各自が決めた文献の発表と参加者間での討議6
13	各自の発表と討議(7-29)	各自が決めた文献の発表と参加者間での討議7-29
14	レポートの最終チェック	各自のレポートの最終チェックと修正
15	まとめ	総括と質疑

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

- ・4回目以降は受講者による主導、報告と質疑で構成される。
- ・授業以外多読に徹すること。
- ・報告者は報告準備を行う。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 報告内容（70％）、② 演習貢献度（30％）。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	適宜指示する			
参 考 書	適宜指示する			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

社会保障論A、社会保障論B、労働経済論、社会政策、ジェンダー論

(9) オフィスアワー・その他

授業の進め方、内容は第1回目の授業で説明するので、必ず出席すること。オフィスアワーは、掲示の通り。授業の進捗・内容は、受講生の構成により若干の変更の可能性がある。積極的な演習参加と演習時間以外の多読ができる者のみ参加すること。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
専門演習第5 (A・B) (現代社会と法)	中路 喜之	2	前・後	各2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

グループに分かれて、それぞれの身近な興味のあるテーマを選択し、それについて考察し、レジュメにまとめて、ゼミ内で報告をする。報告したグループは、他のメンバーからの質問を受け、それにその場で考えて答えていく。報告にあたり、自らが持った問題点を抽出・分析し、問題提起に合わせた答えを準備する。報告の場では、報告をする側、質問をする側の2つの立場から、その場で考える力を養い、自らの意見を相手にきちんと伝えることを練習していく。

そこでの報告テーマは、卒業レポートに関連するものでもよいし、まったく別のものでも構わない。また、ゼミで扱う法律は、憲法、民法、刑法がメインとなるが、自己の問題意識に応じてそれ以外でも構わない。

ゼミのメンバー全員と協力して、自分たちにふさわしいゼミを作りあげていくことを体感する。

(3) 到達目標

- ① 法的・論理的思考を身につけ、相手に自分の言いたいことを説明できるようにする。
 - ② 多様な意見の存在を認識、それらを総合して自分の意見が形成できる。
 - ③ 主体的・自主的なゼミへの参加を通して、主体性・自主性の育成。
- 自分の意見をきちんと相手に伝えられるようにすること、相手の意見に対応する力を身につけることを目的とする。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本ゼミの目的・概要、
2	報告会・ディベート（1）	各グループの興味のあるテーマにつき報告
3	報告会・ディベート（2）	・ 報告者は事前準備～報告内容の作成、報告手法の検討など
4	報告会・ディベート（3）	・ 報告を聞くメンバーは、その場で問題点を考え、疑問点を質問。
5	報告会・ディベート（4）	・ 報告者は、質問に答え、質問者が納得のいくような答えを提供。
6	報告会・ディベート（5）	・ 必要に応じて、関連する法律の知識を解説する。
7	報告会・ディベート（6）	・ あるいは、その問題を発展させたものを提起し、全員で考える。
8	報告会・ディベート（7）	・ 自説と反対の立場からの考察
9	中間発表会	個別に進めているレポートの進捗状況の報告。それに対するメンバーからの意見。
10	報告会・ディベート（8）	・ 問題意識の再確認、レポートの内容、参考文献などのイメージを決定。
11	報告会・ディベート（9）	・ 情報収集、相互に自己の問題に対する意見を求める。
12	報告会・ディベート（10）	・ 適宜、軌道修正をしながら、自分の意見をまとめ上げていく。
13	報告会・ディベート（11）	・ 新しい情報に対して、常にアンテナを張っておく。
14	報告会・ディベート（12）	夏休み明けくらいから、並行して、学祭の模擬裁判の台本作りを行っていく。
15	最終成果発表会（前期:課題授業）	前期：学外授業でのレポート作成（書式などはゼミ内で指示をする）。 後期：卒レポのゼミ内での最終プレゼンテーション。

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

原則として、ゼミのメンバーが中心となって、ゼミを進めていく。具体的には、グループ・ワーク、ディベート、グループごとのプレゼンテーション、レポートに関して個人によるプレゼンテーションなど。さらに、学外授業での裁判傍聴、関連施設の訪問、学祭での模擬裁判を行う。

ゼミを有意義なものにするために、毎回の指示された準備をきちんとしてゼミに臨むことが必須である。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① ゼミへの貢献度（20%）、② ゼミ内での活動（ゼミ内で出した課題やレポートなどを含む）（80%）で評価する。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	ポケット六法 令和6年版	宇賀・佐伯 編集代表	有斐閣	2,420 円
参 考 書	授業内に指示する			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

幅広く、いろいろな方面から、考察することができるように、自らの興味に基づいて、それに関連するすべての科目。

(9) オフィスアワー・その他

- ① ゼミ生に対しては、オフィスアワーなどを問わず、随時、質問・相談を受け付ける。
- ② ゼミ（内容、進度）は、必ずしも上記の表通りではない場合がある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
専門演習第6 (A・B) (地域・公共 財政研究)	山口 隆太郎	2	前・後	各2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

この専門演習では、政府が社会・経済に関わる財政というテーマに関わる問題を多角的なアプローチから扱っていく。具体的には各人が持つ問題意識にもとづきテーマを選択し、その内容についての情報を的確に整理し、そのうえで論点を設定してこれを議論していくことを財政学的観点から行っていくということである。自分で考えたことを他者に積極的に伝える、あるいは相手の議論に即しながら対話を行うなかで議論を深化させていくなど、これまでみなさんの教育課程では十分に行われてこなかったと考えられるトレーニングも行っていく。政府に関わる活動というのは実に幅広く、学生のテーマ選びにはかなり選択の幅がある。本演習においては、専門的な文献・資料の検索と入手、適切な資料の読解とメモの取り方を学び、卒業レポートの内容の発表と討議を行う。

(3) 到達目標

- ①専門書を的確に読解できる。
- ②文献の内容をまとめ、それに対する自分の意見、考えをまとめる。
- ③卒業レポートの作成。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	演習の概要の説明
2	テーマ設定①	各自の問題関心に即した、かつ作成可能なレポートテーマの設定の指導
3	テーマ設定②	各自の問題関心に即した、かつ作成可能なレポートテーマの設定の指導
4	情報収集・資料収集①	レポート作成に必要な文献・資料の収集及び、収集状況の報告
5	情報収集・資料収集②	レポート作成に必要な文献・資料の収集及び、収集状況の報告
6	情報収集・資料収集③	レポート作成に必要な文献・資料の収集及び、収集状況の報告
7	ゼミ生の報告とディスカッション①	各自の卒業レポートをレジュメで報告し、ディスカッションを行う
8	ゼミ生の報告とディスカッション②	各自の卒業レポートをレジュメで報告し、ディスカッションを行う
9	ゼミ生の報告とディスカッション③	各自の卒業レポートをレジュメで報告し、ディスカッションを行う
10	ゼミ生の報告とディスカッション④	各自の卒業レポートをレジュメで報告し、ディスカッションを行う
11	ゼミ生の報告とディスカッション⑤	各自の卒業レポートをレジュメで報告し、ディスカッションを行う
12	ゼミ生の報告とディスカッション⑥	各自の卒業レポートをレジュメで報告し、ディスカッションを行う
13	ゼミ生の報告とディスカッション⑦	各自の卒業レポートをレジュメで報告し、ディスカッションを行う
14	レポートのチェックと修正	レポートの内容と形式のチェックと修正
15	まとめ	前期：レポートへの教員の指摘について、リプライを提出する。 後期：専門演習の総括

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

輪読報告者は、文献を読みレジュメにまとめてくる。またそのときに論点をあげてくること。演習ではその論点を中心にディスカッションを行う。また卒業レポートに関しては、テーマ設定のしかた、レポートの書き方を指導する。詳細に関しては授業のなかで適宜説明していく。

(6) 成績評価の方法と基準

毎回の演習における報告内容や、ディスカッションにおける発言内容などを総合的に評価（100%）

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書	なし			
参考書	なし			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

財政学、地方財政論

(9) オフィスアワー・その他

授業の進め方は第1回の授業で説明するので、必ず出席のこと。授業進度等は受講生の構成により若干の変更をすることもある。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
専門演習第7 (A・B) (環境経済・環境政策論)	佐藤 克春	2	前・後	各2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（地域貢献力）の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得。

(2) 授業概要と目的

本演習は、環境政策・環境経済論を扱う。演習あるいはゼミほど、論理力と知的好奇心を鍛える場所はない。自身による報告や相互議論を通じて、研究の醍醐味を味わって欲しいと考えている。

ゼミの活動は、卒業レポート作成に向けての参加者による個人研究が主となる。参加者は最低限半期に2度の報告をすること。また参加者全てが、毎回のゼミで必ず1つは発言すること。

必要があれば、ゼミの時間を延長したりサブゼミをしたりする場合がある。履修面接時にも確認するが、こういったことに対応できる人を希望する。1年次に専門基礎演習第7を履修することを推奨する。また、参加者の希望に応じて、環境問題の現場での調査「フィールドワーク」を行う。

(3) 到達目標

- ① 環境問題に対する幅広い知見を習得する。
- ② 演習が終わっても、「自分が知りたいことを知る」ことができるようになる。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	自己紹介、ゼミの進め方のレクチャー。
2	スケジュールの確定	担当箇所の割り当て、報告日の確定。
3	研究テーマの選定	アウトラインの作成。各自、問題関心をパワーポイントで報告。
4	研究テーマの選定	アウトラインの作成。各自、問題関心をパワーポイントで報告。
5	文献の収集方法	文献の収集方法をレクチャー。自分の知りたい情報をどのように集めるか？
6	研究報告	各自、文献リストを作成。
7	研究報告	各自、文献収集・読み込み、パワーポイントで報告。
8	研究報告	各自、文献収集・読み込み、パワーポイントで報告。
9	研究報告	夏休みにすべきことの整理（現地調査・資料収集など）。
10	論文の書き方	レクチャー（勉強と研究との違い）。
11	研究報告	各自、文献収集・読み込み、論文報告。
12	研究報告	各自、文献収集・読み込み、論文報告。
13	研究報告	章立て構成の作成、論文報告。
14	卒業レポートの作成	章立て構成の作成、論文報告。
15	卒業レポートの作成（前期：課題授業）	前期：卒業レポートテーマの提出 後期：論文執筆

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

ゼミでは毎回の発言を義務付ける。また、参加者個人がそれぞれ新聞記事を持ちより、時事問題について討議するアフターゼミを、ゼミ後に開催している。参加は任意であるが、環境問題だけでなく日頃から時事問題にアンテナを張る習慣を身に付け、自分なりの見解を説得的に他者に伝える訓練を行う。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 演習での個人報告（70％）、② 演習での発言（30％）

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	講義内で指示する			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

専門基礎演習第7、経済学入門、公共政策入門、環境経済学

(9) オフィスアワー・その他

オフィスアワーは講義前後と木曜日昼とする。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
専門演習第8 (A・B) (経営戦略と組織づくり)	上笹 恵	2	前・後	各2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

本演習では、経営学の基礎的な理論を確認したうえで、やや発展的な理論の枠組みについて学ぶ。時にはかなり抽象度の高い理論を取り上げ、それを現実の問題にどう役立てるのかを考える時間を確保する。そのために経営学の専門書や論文を教材とし、班単位で報告して議論する形で授業を進める。また、理論を学ぶことに加え、可能であれば企業経営の現場を実際に知る時間を設ける。

上記の内容に加え、各自が決めたテーマに沿って個人研究を行い、卒業レポートを完成させる活動を進める。事例研究が中心となる場合であっても、必ず経営学の理論的な側面を取り入れる努力が求められる。授業ではお互いの研究内容やその進捗状況、研究の進め方などについて知るための時間を設定し、最後に卒業レポートの内容を報告して全員で成果を確認する。

(3) 到達目標

- ① 経営学の理論を学び、経営戦略や組織運営の領域で一定の提案ができる。
- ② レジューメの作成と報告の技法を身に付ける。
- ③ それぞれのメンバーが強みを発揮し、班全体で価値を創出する知的活動ができる。
- ④ 常に理論と現場との整合性を確認し、物事を分析的に考えながら卒業レポートを作成できる。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	はじめに	ゼミ活動1年間の流れの確認、自己紹介
2	経営学の基礎知識	経営学で習得すべき基礎理論の復習
3	経営学の学び方	専門書の選び方と読み方、卒業後に役立つ学習方法の紹介
4	個人研究の進め方	テーマの設定の仕方、文献調査や一次データの収集方法などを学ぶ
5	専門書の輪読：前期	企業の経営戦略や組織づくりに関する専門書や論文を使用する
6	企業経営の実践①	優れた実務家の視聴覚教材を通じて現場のことを知る
7	企業経営の実践②	大企業の事例研究を通じて理論との接点を考える
8	専門書の輪読：後期	前期と異なる分野の専門書や論文を班単位で読む
9	個人研究の報告①	テーマを決め、研究計画を作成、報告する
10	ビジネスゲーム	価格設定に関する簡単なビジネスゲームを実施する
11	新聞による事例研究	『日本経済新聞』の読み方と分析の視点を考える
12	最新の経営学に触れる	『ハーバード・ビジネス・レビュー』に挑戦する
13	優れた会社の研究	崇高な経営理念を持つ企業の実態を知る
14	経営哲学の探求	企業に求められる経営精神について考える
15	個人研究の報告②（前期：課題授業）	前期：個人研究の前期までの成果をレポートにまとめる 後期：最終レポートの作成と報告

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

経営学の基礎知識を確認し、応用的な学びへとつなげるための方法を提示する。専門書と論文の要点を各班から報告し、議論を深めることで経営学全般の知見を得る。また、大企業の経営の実態に触れる時間をもつ。個人研究の成果は前期・後期にそれぞれ1回ずつ報告する。なお、個人研究のテーマは経営学の分野から選定することが望ましい。その他ゼミ生からの要望を取り入れ、楽しみながら経営学を学ぶようなゼミ運営を図る。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 授業時の報告と態度（60％）、② 個人研究の成果等（40％）。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	授業内指示			
参 考 書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経営学入門、人的資源管理論、経営組織論、マーケティング論、人間関係論、経営戦略論、経営イノベーション論を履修し、企業経営を分析的にとらえる力を身につけたい。

(9) オフィスアワー・その他

原則として欠席しないことを求める。卒業レポート作成における個別指導は、オフィスアワーその他の時間を利用して随時行う。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
専門演習第9 (A・B) (経営学と創造性)	佐藤 茂幸	2	前・後	各2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

本専門演習では、「卒業レポート」作成のフォローアップと、経営学の実践的習得を目的とした「協働プロジェクト」の2つのことを並走して行う。第1の卒業レポートについては、ゼミ生同士の学習会、意見交換、討議、発表等を行い、各人が研究するテーマの思考を深める。そこに教員による経営学に基づく個別指導を組み入れながら、卒業レポートの完成へと導いていく。

第2の協働プロジェクトは、教員が設定した経営テーマについて、具体的な企画書や研究報告書を作成する。そのテーマは、「“つきたん苺” コンテナプロジェクトによる新事業企画」を想定している。このプロジェクト活動には、授業で習得した経営理論のみならず、コミュニケーションやリーダーシップが求められ、これら知識や能力を具体的な問題解決につなげる創造力を養う。

(3) 到達目標

- ① 複数の卒業レポートの作成プロセスを共有することで、経営学を基調にした「問題解決力」を修得する。
- ② 新事業をチームで企画することで、イノベーションや社会に新しい価値をもたらす「チーム創造力」の思考を養う。
- ③ 経営学的なアプローチをもって自分の進路や将来を展望し、自己の成長に対して「高いモチベーション」を保有する。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
【卒業レポート（研究）作成のフォローアップ】		
1	オリエンテーション	専門基礎演習の振り返り、研究計画書の発表、レポート作成要領の理解
2	研究テーマの設定	企業・業界研究の仕方、経営学のトレンドの確認、問いの立て方、研究テーマの発表
3	アウトラインの発表	論文構成の作り方、文献調査の進め方、発表と討議
4	研究方法等の検討	経営理論の学習会、問題解決技法の習得、事例研究と成功要因
5	中間報告会	プレゼンの仕方、質問テクニック
6	解決策の提示	経営理論の応用方法、学会論文の研究
7	最終報告会	卒業レポートの内容プレゼン、評価（自己、ゼミ内、教員）のフィードバック
【協働プロジェクトのグループワーク】		
8	プロジェクトテーマの確認	予定テーマ：“つきたん苺” コンテナプロジェクトによる新事業企画
9	協働のためのチーム作り	プロジェクトチームの編成、役割分担（リーダーの確定）
10	現状分析	企業分析、地域資源調査、事例研究、文献等の情報収集
11	フィールドワーク	調査活動、学外の協議会・勉強会の参加
12	戦略立案	課題解決ワークショップ、ビジネスモデルの研究
13	研究報告書のまとめ	理念、戦略、マーケティング、組織、収支・資金、シナリオ
14	プレゼン準備	プレゼンの予行演習、質疑応答の準備
15	成果発表会	前期：発表のための動画制作 後期：公開ゼミとしてのプレゼン、地域・行政・企業との交流

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

演習の進め方の基本は、5～6名によるグループ活動である。リーダーを中心にした議論・協働作業・発表等を通じて、チームとしての成果を重視する。また、地域の行政・企業等との連携を図り、開かれたゼミ運営や学外活動を積極的に取り入れる。さらには、ゼミ運営をサポートするツールとしてSNS、動画などを積極的に取り入れ、結果的にICTリテラシーを高める。その一方で、ゼミ生と教員との1対1の対話も重視し、深いレベルでの「問い」を立てる力も養う機会も設定する。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 卒業レポートの発表等（20%）、② 協働プロジェクトの成果物（50%）、③ 授業参加による貢献度（30%）。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。			
参 考 書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「経営コース」のゼミであるため、「経営学入門」、「人的資源管理論」、「経営戦略論」、「経営組織論」、「マーケティング論」、「経営イノベーション論」、「地域データ分析論」、「地域実習」の履修を強く薦める。

(9) オフィスアワー・その他

卒業レポート作成における個別指導は、オフィスアワー等の時間を利用して随時行う。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
専門演習第10 (A・B) (地域問題を経済学で考える)	槇平 龍宏	2	前・後	各2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

私たちが働き生活する地域は多種多様な問題を抱えている。高い相対的貧困率や地域間格差の問題、児童虐待や待機児童等の問題、大気・水質・騒音などの生活環境悪化の問題、地域産業の空洞化や農林業・地場産業の衰退による地域経済の疲弊、来るべき大災害への備えの不十分さと自治体財政ひっ迫、希薄化するコミュニティのつながり等々、数え上げればきりが無い。地域とは、私達の暮らし（生活）と仕事（産業）が出会う場であり、双方の歪みが関係しあって、社会的に良くない影響を及ぼすことが「地域問題」の基本的な理解である。本演習では、地域に生じている様々な課題（地域問題）の中から自分が興味のある分野を見つけ出し、それを社会科学的に掘り下げていく力を養う。そのために、課題設定の仕方とともに基礎的な調査分析手法を学習し、自分の選んだテーマをより深く知るためのスキルも身に付ける。

(3) 到達目標

- ① 新聞や文献等を用いて自分の関心のある地域問題を見つけることができるようになる。
- ② 基礎的な地域調査手法（データ収集・分析、フィールドワーク、レポート作成等）を身につける。
- ③ 文献や調査等で調べてきたことを効果的に発表できるようになる。
- ④ グループ学習を通じて、他人の意見を尊重しつつ課題を深めるスキルを身につける。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	はじめに	本演習の概要と目的
2	分析課題を明確化する①	地域に関する自らの興味関心を拓く
3	分析課題を明確化する②	「地域問題」の発見と解決を目的化する
4	仮説を立てる①	仮説とは何か
5	仮説を立てる②	理論仮説と作業仮説
6	仮説を検証する①	データの読み方
7	仮説を検証する②	データの集め方と加工の仕方、分析の仕方
8	課題解決を政策化する①	地域政策論の基礎を学ぶ
9	課題解決を政策化する②	地域政策の種類と目的を学ぶ
10	残された課題を明確化する①	学習成果のまとめ方を学ぶ
11	残された課題を明確化する②	課題と展望を明確化する
12	効果的な発表をするには①	レジュメの書き方を学ぶ
13	効果的な発表をするには②	プレゼン資料の作り方を学ぶ
14	レポート作成の技法	引用の振り方、参考文献の記載の仕方を学ぶ
15	おわりに	前期：自分で立てたテーマについてアカデミック・スキルズを用いてレポートにする 後期：振り返りとまとめ・卒業レポートの発表

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

グループワークを主体とした学習を重視する。履修生同士が議論を通じて交流し、プレゼン資料を準備し、メンバーの前でプレゼン報告を行うことを一連のアカデミック・スキルズ手法を用いて実践する中で身につける。テーマ設定についても、教員が与えるのではなく、同様の関心を持ち合う学生同士での検討を踏まえて行う。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①集団学習への参加態度（50%）、②レポート（50%）の合計点数により評価する。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書	特になし。			
参考書	必要に応じて紹介する。			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「公共政策コース」や「経済コース」を中心とする自らが興味を持っている諸科目

(9) オフィスアワー・その他

原則として特別な事情なく欠席しないこと。指導教員（槇平）が講義する科目を履修していることが望ましい。夏季休業中に宿泊を伴うゼミ合宿（フィールド・ワーク）を予定しているので、それへの参加を前提として履修を検討すること。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
専門演習第12 (A・B) (中国経済論)	范 立君	2	前・後	各2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

日中関係は、「政冷経熱」と言われている。政治では、微妙な局面に直面する場面が度々見られるが、経済面においては、経済のグローバル化の深化に伴い、日本と中国も相互補完的な関係をより一層深めている。そうした中、民間レベルでの様々な分野での日中交流が盛んに行われている。近年、大月市に訪ねてくる中国人観光客も年々が増えている様子である。こうした中、中国の経済事情を知ることが、経済的教養としてだけでなく、将来の進学や就職、地域貢献にも繋がる。本演習の前半では、卒論のテーマと形式を確認し、ゼミメンバーをいくつかのグループに分けて、中国の金融システムを中心に、中国経済の構造、最近の時事問題、そして中国と日本、中国と世界経済との関連について、検討する。後半では、卒業論文の作成と完成に向けて、各自報告させる。中国に興味を持ち、積極的な姿勢で演習に参加することを希望する。

(3) 到達目標

- ① 文書を読み、理解・要約する能力を身につけ、卒論を完成すること。
- ② 中国の経済を構造的、体制的諸側面から理解するための基礎知識を提供する。
- ③ 中国向けビジネスに興味を抱かせ、それを実行するための経済的・文化的基礎教養を身につけてもらう。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	専門基礎演習の振り返り、専門演習の進め方
2	卒論テーマの設定、確認	各自の卒論テーマと文献について報告し、確認する。
3	アウトラインの発表	論文構成の作り方、文献調査の進め方、発表
4	文献の紹介・内容説明	担当箇所割り当て、報告日の確定
5	文献の輪読（グループ1）	グループ担当者報告、内容解説、議論＋卒論発表
6	文献の輪読（グループ2）	グループ担当者報告、内容解説、議論＋卒論発表
7	文献の輪読（グループ3）	グループ担当者報告、内容解説、議論＋卒論発表
8	DVD映像資料鑑賞	日中国交回復40周年、解説
9	中間報告会1	各自の卒論作成の進捗について報告し、情報交換する。
10	中間報告会2	各自の卒論作成の進捗について報告し、情報交換する。
11	卒論報告1	担当者報告、内容解説、議論
12	卒論報告2	担当者報告、内容解説、議論
13	卒論報告3	担当者報告、内容解説、議論
14	卒論報告4	担当者報告、内容解説、議論
15	成果発表会	公開ゼミとしてのプレゼン

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本ゼミでは、新学期の最初の3回ぐらい、先生が時事問題やゼミ学習の関連内容を印刷物として配布し、ゼミ内の共通課題と輪読資料を提供する。4回目からメンバーが各自の卒業論文関連の報告をすることを進めている。各自が自分の意見を先生と交換しながら、先生の指導に基づいて、卒論の修正や作成を行う。報告中に学生の集中力と思考力、そして理解力を高めるため、必要な時に、学生に質問を投げたりもしている。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① ゼミでの報告・議論（80%）、② 授業貢献度（20%）

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	現代中国の中小企業金融	范 立君	時潮社	3,456 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

(9) オフィスアワー・その他

水曜日（11：30～12：30）

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
専門演習第13 (A・B) (経営学を探究する)	大橋 松貴	2	前・後	各2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

本演習では、1年次に得たさまざまな知識やものの見方を活用しながら、卒業レポートを完成させていくことが目的となる。そのため、「設定した研究テーマを深く掘り下げ、卒業レポートに耐えうるレベルにまで引き上げる」、「研究テーマを論理的に他者にわかりやすく説明できる」ことが必要になる。

前者では、自分の設定した研究テーマに関する資料や文献を収集し、筋の通った文章を書く能力を養ってもらう。その際、「論理的な文章とは何か」、「これまで書いてきた文章とはどう違うのか」ということを意識してほしい。

後者では、研究テーマをプレゼンする経験を重ねていくなかで、自分の考えを他者に伝える能力を養ってもらう。この経験を重ねることで、自分自身の研究テーマの良い点や改善点を発見し、卒業レポートの完成につなげていく。

(3) 到達目標

- ①各自の研究テーマにおいて、論理的で説得力のある文章を書けるようになる。
- ②人前においても自分の研究テーマを落ち着いて、わかりやすく他者に伝えることができるようになる。
- ③それぞれが自分の強みをいかした研究発表（プレゼンテーション）をできるようになる。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	本演習の目的と進め方の説明
2	研究報告 ①	各自が1年次に進めてきた研究成果を発表する
3	研究報告 ②	各自が1年次に進めてきた研究成果を発表する
4	研究報告 ③	各自が1年次に進めてきた研究成果を発表する
5	研究報告 ④	各自が1年次に進めてきた研究成果を発表する
6	フリートーク（応用）①	各自が提示したテーマをもとにプレゼンする
7	フリートーク（応用）②	各自が提示したテーマをもとにプレゼンする
8	フリートーク（応用）③	各自が提示したテーマをもとにプレゼンする
9	フリートーク（応用）④	各自が提示したテーマをもとにプレゼンする
10	フリートーク（応用）⑤	各自が提示したテーマをもとにプレゼンする
11	研究発表 ①	レポート概要の報告およびディスカッション
12	研究発表 ②	レポート概要の報告およびディスカッション
13	研究発表 ③	レポート概要の報告およびディスカッション
14	研究発表 ④	レポート概要の報告およびディスカッション
15	まとめ（前期：課題授業）	前期：卒業レポートの概要を発表 後期：卒業レポートの作成とゼミ内での報告

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本演習はこれまでの専門基礎演習で学んできたことをベースに構成されている。よって、演習の目的は「論理的に筋道の通った文章」、「他者にわかりやすく伝えるプレゼン技法」といったスキルを実践的なレベルで身につけてもらうことである。本演習では、各自がそれらのスキルを実践で試すことができるような場としたい。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①授業時の報告および態度（60%）、②レポート（40%）。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	授業内指示			
参 考 書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経営学関連の科目をなるべく多く履修することが望ましい。

(9) オフィスアワー・その他

原則として、欠席しないことを求める。

なお、授業時間外の質疑はオフィスアワー等で対応する。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
専門演習第14 (A・B) (住民主体のまちづくり)	山岸 絵美理	2	前・後	各2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

本演習は、主に政治学や地方自治の観点から、自らの問いを理論的に組み立て、文章化するための卒業レポート完成に向けたフォローアップとして、位置づけて講義を行っていく。しかし、これらの過程は、あくまで自身の研究のためであるという主体性が要求されるのであり、指導としてはそのサポートという役割に徹したい。しかし、本講義担当者の想いとしては、研究は決して効率性が求められるものではないと考えている。だからこそ、研究において何一つ無駄なことはないとも考える。じっくり考え、その先に導き出された個々のオリジナルの研究に到達する充実感を、本講義を通じて得てほしい。また、個々の研究といえども、研究はチームワークであるとも考える。お互いの研究を発表・課題を指摘し合うことで、互いの研究をブラッシュアップさせていくという過程に重点を置く。

(3) 到達目標

- ① 現代社会（政治学、地方自治の観点から）についてその問題点と自らの主張をあげることができる。
- ② ①について、客観的な資料を収集することができる。
- ③ ①②をふまえ、自らの主張を客観的根拠にもとづいて、理論的に文章にまとめることができる。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	本演習の目的・概要・進め方について
2	レポートのテーマ設定①	テーマを設定し、アウトラインを設定する
3	レポートのテーマ設定②	テーマを設定し、アウトラインを設定する
4	参考文献の収集	参考文献、資料を収集する
5	参考文献の整理	参考文献、資料を読み込む
6	テーマの発表と討議 ①	順番に、研究テーマについての発表し、問題を指摘し合う (1)
7	テーマの発表と討議 ②	順番に、研究テーマについての発表し、問題を指摘し合う (2)
8	テーマの発表と討議 ③	順番に、研究テーマについての発表し、問題を指摘し合う (3)
9	テーマの発表と討議 ④	順番に、研究テーマについての発表し、問題を指摘し合う (4)
10	テーマの発表と討議 ⑤	順番に、研究テーマについての発表し、問題を指摘し合う (5)
11	テーマの発表と討議 ⑥	順番に、研究テーマについての発表し、問題を指摘し合う (6)
12	個人指導	執筆指導など
13	発表会 ①	成果の発表 (1)
14	発表会 ②	成果の発表 (2)
15	まとめ（前期：課題授業）	前期：前期までの知識をもとにレポートを作成 後期：講義の振り返り（レポート発表）

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

少人数のゼミ形式で行う。教員の指示を待つのではなく、主体的かつ自主的に学ぶ姿勢をもっていることが前提となる。ゼミ内の討論を中心として行う。発表は一方通行ではなく、発表者は自らの主張を伝えるためのツールや資料作成を行うこと。一方、傍聴者は批判的に発表を聞き、疑問や問題を指摘するという互いの積極的な姿勢を求める。講義の主なテーマは、政治学、地方自治を題材に進めていくので、それらに対する関心・興味があることが基本である。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 授業内での取り組み（70％）、② 授業での課題（30％）。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	講義内で指示する			
参 考 書	講義内で指示する			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

受講に当たっては、政治学、行政学、地方自治論を受講していることが望ましい。
公共政策科目など。

(9) オフィスアワー・その他

- ・特別な事情以外の欠席は認めない。
- ・演習内でのルール（無断欠席厳禁）を厳守すること。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
専門演習第15 (A・B) (日本近現代文学研究の実践)	渡邊 浩史	2	前・後	各2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

本演習は、日本近現代文学の観点から卒業レポート作成に向けた準備段階として講義を行っていく。2年次の本演習では、1年次で学んだ近代文学研究の方法論を用いて卒業レポートを完成させていく。そこでは、①作品の選択、②テーマの設定、③アウトライン作成、④論文の作成という4つのプロセスを経て卒業論文の作成を行う。

上記のプロセスに関して、教員の指導はあくまでもサポートの役割に徹する。基本的にはゼミ生各自の研究であるという自覚を持つこと。演習では、卒業レポートの報告会を行い、ゼミ生全員で意見交換を行っていき、それぞれの卒業レポートを具体的な形にしていく。積極的な姿勢で演習に参加し、充実した卒業レポートの完成に繋げることを希望する。

(3) 到達目標

- ① 日本近現代文学作品から各自の研究テーマを設定すること。
- ② 設定した研究テーマを論理的・客観的に説明するための先行研究、参考文献の調査・整理を行うこと。
- ③ ①②をふまえ、他者に分かりやすく伝える卒業レポートを作成すること。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	本演習の目的・概要・進め方
2	論文研究	論文の構造を理解し、アウトラインの重要性を知る。
3	作品選択・テーマ設定①	各自が研究する作品を選択し、そこに頻出する問題に即したレポートテーマを設定する
4	作品選択・テーマ設定②	各自が研究する作品を選択し、そこに頻出する問題に即したレポートテーマを設定する
5	作品選択・テーマ設定③	各自が研究する作品を選択し、そこに頻出する問題に即したレポートテーマを設定する
6	先行研究・参考文献の整理①	資料の種類やその意義について
7	先行研究・参考文献の整理②	引用の方法について課題についての検討
8	研究発表①	執筆する卒業レポートをレジュメで報告／ディスカッション
9	研究発表②	執筆する卒業レポートをレジュメで報告／ディスカッション
10	研究発表③	執筆する卒業レポートをレジュメで報告／ディスカッション
11	研究発表④	執筆する卒業レポートをレジュメで報告／ディスカッション
12	研究発表⑤	執筆する卒業レポートをレジュメで報告／ディスカッション
13	個別指導①	レポートの書き方等についての指導
14	個別指導②	レポートの書き方等についての指導
15	まとめ（前期：課題授業）	前期：卒業レポート作成の準備・執筆 後期：卒業レポートの作成とその報告

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

専門基礎演習で学んだ実践を行う場。本演習では、論文の構造を知り、そこから各自の問題関心に即したテーマを設定し、卒業レポートの作成を行っていく。その報告の場としての研究発表では、他のゼミ生の研究発表にも関心を持ち、毎回の発言を義務付ける。詳細に関しては授業のなかで適宜説明を行う。

(6) 成績評価の方法と基準

演習で行われる研究発表やディスカッションにおいての質疑応答などを総合的に評価していく（100%）

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	講義内で指示する			
参考書	講義内で指示する			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

日本文学概説

(9) オフィスアワー・その他

- ・オフィスアワーは掲示の通り。
- ・積極的な演習参加を求める（授業の進捗・内容は、受講生の構成により若干の変更の可能性はある。）。
- ・特別な事情以外の欠席は認めない。

科 目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
専門演習第16 (A・B) (社会学的知識の応用)	中村 知世	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

1年生後期に身につけた①社会学的な見方をもって、現実社会で起こっている問題をとらえ、さらにそれを②自身の卒業レポート執筆につなげていける活動を進めていく。社会学的な見方とは、私たちの思考・行動には一定の様式があり、その様式が社会によって構成されている／社会を創り出すという相互作用に注目する視座のことを指す。1年生の後期では、そうした「見方」を教科書から理論として学んできたところであるが、2年生前期の演習では、そうした見方を、具体的で時事的な社会問題（いわゆるニュース）に当てはめながら考察・ディスカッションをする活動を行う（①の目的に対応する）。さらに卒業レポートのための情報収集・執筆方法なども具体的に解説し、卒業レポートの発表活動も定期的に行っていく（②の目的に対応する）。

(3) 到達目標

- ① メディアなどで流れる「社会問題」に対してどのような社会学的な概念や理論で考察可能かを考えることができる。
- ② 社会学的な概念や理論で実際に考察し、「社会問題」をより深く理解することができる。
- ③ 卒業レポートのテーマを確定し、問いを設定し、参考になる先行研究を見つけることができる。
- ④ 卒業レポートにかかわる先行研究をまとめ、新たな問いを見つけることができる。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業計画の説明
2	レポート制作の技法①	問いを見つける、先行研究を調べる
3	レポート制作の技法②	レポートの構成と執筆方法
4	発表の解説	発表資料の作り方、RQを見つける、社会構造をディスカッションする
5	時事問題の発表とディスカッション①	新聞・雑誌記事などの話題を持ち寄り発表・ディスカッション
6	時事問題の発表とディスカッション②	新聞・雑誌記事などの話題を持ち寄り発表・ディスカッション
7	時事問題の発表とディスカッション③	新聞・雑誌記事などの話題を持ち寄り発表・ディスカッション
8	時事問題の発表とディスカッション④	新聞・雑誌記事などの話題を持ち寄り発表・ディスカッション
9	時事問題の発表とディスカッション⑤	新聞・雑誌記事などの話題を持ち寄り発表・ディスカッション
10	時事問題の発表とディスカッション⑥	新聞・雑誌記事などの話題を持ち寄り発表・ディスカッション
11	時事問題の発表とディスカッション⑦	新聞・雑誌記事などの話題を持ち寄り発表・ディスカッション
12	時事問題の発表とディスカッション⑧	新聞・雑誌記事などの話題を持ち寄り発表・ディスカッション
13	研究関心の発表①	履修者個人の研究関心の発表
14	研究関心の発表②	履修者個人の研究関心の発表
15	研究関心の発表③	履修者個人の研究関心の発表

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

前期については、上記のスケジュールの通り、3回目まではレポートを執筆するための具体的な知識の解説を教員が行う。履修者は全員、授業までに資料を読みこんでおくことが必要となる。4回目以降は具体的な時事問題を取り上げ、発表・ディスカッションを行う。履修者それぞれが1回発表を行う。発表で扱うテーマは卒業レポートを意識したものを推奨する。終盤の授業回では全員に対して卒業レポートの中間発表を求める。後期については、研究発表を中心にゼミを進めていく。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 報告資料の作成と授業内での発表（60％）、② ディスカッションへの貢献状況や授業内課題への取り組み状況（20％）、③ 卒業レポートの作成状況（20％）の合計点数により評価する。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	『社会学 第5版』	アンソニー・ギデンズ	而立書房	3,960 円
参 考 書	『情報生産者になる』	上野千鶴子	ちくま書房	1,012 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「社会学A」「社会学B」「社会文化入門」の履修を勧める。

(9) オフィスアワー・その他

授業の内容、進度は学生の人数や、学生からの要望等に応じて若干変更する可能性がある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
専門演習第17 (A・B) (社会と文化の問題の探究)	松岡 昌和	2	前・後	各2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

本演習では、卒業レポート執筆をめざして、各自の課題を深めるとともに、社会や文化にかかわる問題を考察していく際の理論的枠組みを獲得することを目的とする。演習では、まずアカデミックな文献（論文あるいはそれに準じたもの）を講読することで社会や文化にかかわる問題の所在とそれを分析するための理論を学び、同時に各自の問題関心に応じた研究報告を行う。そして、前期末には卒業レポート執筆のアウトラインを作成し、後期末にはそれを卒業レポートとして完成させる。講読する文献は、参加者の関心をふまえて指定する。演習という科目は、参加者同士のコミュニケーションを通じて各自の知的な洞察力を高めていく場である。講義と異なり、受け身での受講は許されない。自らの課題のみならず、仲間の研究や報告にも関心を寄せ、全員必ず毎回意見表明を行うこと。また、そうした演習の性格ゆえ、特段の理由のない欠席も認めない。

(3) 到達目標

- ① アカデミックな文章を読み、論点を的確にとらえるスキルを身につける。
- ② 自身のテーマを設定し、その問題意識を的確に他者に伝えるスキルを身につける。
- ③ 社会と文化について、批判的な視点で捉えることができるようになる。
- ④ 自身の研究成果を言語化して、論理的な文章にすることができる。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	内容説明、スケジュール調整
2	論文作法	論文をどのようにして読むか
3	文献講読 1	報告と討論
4	文献講読 2	報告と討論
5	文献講読 3	報告と討論
6	文献講読 4	報告と討論
7	文献講読 5	報告と討論
8	文献講読 6	報告と討論
9	文献講読 7	報告と討論
10	文献講読 8	報告と討論
11	個人報告 1・個人報告 2	報告と討論
12	個人報告 3・個人報告 4	報告と討論
13	個人報告 5・個人報告 6	報告と討論
14	個人報告 7・個人報告 8	報告と討論
15	まとめ	（前期）論文をどのようにして書くか／（後期）成果発表

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

文献講読および個人報告の担当者は、論点を整理して内容をレジュメにまとめておく。演習ではレジュメの内容をもとに担当者が口頭で報告を行い、参加者全員で討論を行う。報告者のみならず参加者全員が課題文献に予め目を通し、不明な用語については事前に調べ、理解できなかった箇所をきちんと特定しておくことが求められる。授業外で個別に面談を行い、その際に作業の進捗状況などについて報告を求める。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 授業内報告と討論への参加（50%）
- ② レポート（50%）

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教科書	なし			
参考書	授業内で紹介する			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

社会文化コース各科目

(9) オフィスアワー・その他

原則として、毎週月曜日昼休みをオフィスアワーとして設定する。その他の曜日・時間については要連絡。

目 名	教 員 名	年次	授業期間	単位
専門演習第18 (A・B) (国際関係、紛争予防に関する学習)	荒 哲	2	前・後	各2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

専門基礎演習では、1年生の前期で履修した「教養演習」と「専門基礎演習」の学習内容に基づき、最終的に卒業レポートを作成させることを目標とする。各履修者の関心領域は多岐にわたるため、国際関係学において基礎的な知識を体得できる図書を選択してもらいながら、各自それぞれ「問い」を設定できるような議論の根幹を見極める学習方法を見出していく。その見出された「問い」にいかに向き合い、そしていかにその「問い」に対する回答を導き出すのかを、各履修者によるプレゼンテーションの中で学習していく。この演習では、現代国際関係に横たわる様々な諸問題を歴史的な視点で明確にする学習態度を体得する。それら諸問題のキーとなる概念として、異文化、異人種、先住民、大国政治、植民地主義、紛争、差別、暴力、ジェンダー、人口移動、移民、などなど、これら諸概念がまつわる錯綜した国際関係関連の諸問題を議論し、その中でその解決策を見出すための糸口となるような卒業レポート作成を目指していく。

(3) 到達目標

- ① 国際関係に対する幅広い知見を習得する。
- ② 国際関係の諸問題が私たちの生活と密着していることを認識できるようにする。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	専門演習について	オリエンテーションなど
2	スケジュールの確定	各履修者の関心領域の確定
3	研究テーマの確定	アウトラインの作成。各履修者の問題関心領域をパワポで説明
4	研究テーマの確定	アウトラインの作成。各履修者の問題関心領域をパワポで説明
5	文献の収集方法についての学習	文献をどのようにして収集するべきかを話し合う
6	研究報告	各履修者の研究報告に基づくディスカッション
7	研究報告	各履修者の研究報告に基づくディスカッション
8	研究報告	各履修者の研究報告に基づくディスカッション
9	研究報告	各履修者の研究報告に基づくディスカッション
10	卒業レポートの書き方についての学習	論文作成ことはじめ
11	研究報告	各履修者の研究報告に基づくディスカッション
12	研究報告	各履修者の研究報告に基づくディスカッション
13	研究報告	各履修者の研究報告に基づくディスカッション
14	研究報告	各履修者の研究報告に基づくディスカッション
15	前期：半期総括、後期：卒業レポート提出	前期：テーマの確定 後期：論文執筆

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

専門演習では、毎回の発言を義務とする。各履修者は、他のクラスメートや自分の関心領域に関して必ず発言すること。教師の方からテーマを与えてそれに関してのディスカッションを行う場合もある。

(6) 成績評価の方法と基準

演習での個人報告70%。演習での発言30%。

(7) 使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	国際関係史	有賀貞	東京大学出版会	4,180 円
参 考 書	想像の共同体	ベネディクト・アンダーソン	書籍工房早川	2,200 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

(9) オフィスアワー・その他

月曜日 午後2時から午後3時までの間、第16研究室にて。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
卒業レポート	専門演習担当教員	2	通年	4

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

- 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。
- 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

卒業レポートは、選択した専門コースにおける本学学業の集大成となるものであり、この完成が卒業の必須条件になる。つまり、本学で学んでいる知識と経験を結集して、すべての学生がレポートを作成することになる。卒業レポートの内容は、「研究論文」が基本であるが、事業や政策に関わる「企画書」、体験・実験に基づく「分析レポート」、特徴あるテーマにおける「活動報告書」等、その形式は問わない。

卒業レポートの作成にあたっては、特段の授業時間を設定するものではなく、「独学」が基本になる。ただし、履修している専門演習の担当教員（「指導教員」と呼ぶ）による個別指導を受けながら、通年のなかで計画的に完成させる。また、テーマによっては、課題研究科目の担当教員から指導を受けることがあってもよい。いずれにしても、学生自らがさまざまな教育機会を捉え、他学生との意見交換、討議、発表、共同研究等を行い、価値ある卒業レポートを仕上げていくことになる。

(3) 到達目標

- 指導教員のフォローや専門演習との連動のもと「独学」でレポートを完成させることで、本学が教育目標とする「自己教育力」を習得する。
- 自らが設定した社会や地域の課題と、それを解決するための具体的な見識を示すことで、本学が教育目標とする「問題解決力」の学業実績を作る。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	1 年次学習の振り返り	専門基礎演習の自己評価、コース理論の棚卸、論文書き方の点検
2	テーマ設定と研究計画書	研究計画書の再作成、研究テーマ等の指導教員の承諾
3	文献調査 ①	参考文献・調査報告書等の検索、必要理論の習得
4	「問い」の設定と仮説立案	テーマに関わる課題の具体化、問題構造の分析、解決策の仮設定
5	アウトラインの作成	論文構成の確定、執筆のスケジュール化、執筆方針の確定
6	個別指導 ①	指導教員による進捗の確認、論理構成や調査方法の妥当性の評価
7	中間発表	専門演習等の機会を利用した発表会、意見交換
8	中間提出とフィードバック	指導教員からの中間評価、改善点等の確認
9	文献調査 ②	参考文献・調査報告書等の検索、必要理論の補強
10	先行調査の執筆まとめ	現状分析、仮説の再検証
11	フィールドワーク	事例分析、取材・アンケート調査、データ分析
12	考察・結論の執筆まとめ	解決策の提示、効果・影響の分析、研究結果の評価
13	個別指導 ②	指導教員からの内容評価と個別指導
14	最終提出とフィードバック	改善点の修正、自己評価と振り返り
15	全体発表	プレゼン準備、発表の実施、外部評価

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

専門演習のゼミナールと並行しながら、指導教員のフォロー（面談、添削、発表など）をしながら卒業レポートを完成させる。卒業レポートの提出は12月中旬の予定（掲載版や指導教員からの案内を確認すること）。

(6) 成績評価の方法と基準

卒業レポートの評価は下記の評価基準をもって行われる。

- 形式基準（30%） …分量、体裁、図表の使い方、参考文献、引用方法
- 理論基準（30%） …理論の理解や応用、文献等の読み込み、学習度
- 質的基準（30%） …テーマ設定、論理構成、問題解決性、分析性、新規性・独創性
- 手続き基準（10%） …提出期限遵守（中間発表・提出等を含む）

卒業レポートは必修である。また本科目の単位認定は、専門演習A・Bの単位認定と連動しているので、専門演習の単位認定がされないと卒業レポートの単位は認定されないの注意（逆に卒業レポートが提出されない場合は専門演習の単位も認定されない）。

(7) 使用書

特になし。独学をもって必要とする図書等を自ら選定する。

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

教養演習、専門基礎演習、日本語B、専門演習などのゼミナール科目とその関連科目。また分野によっては課題研究の担当者のもとでの卒業レポート作成の必要もある。

(9) オフィスアワー・その他

卒業レポートに関わる作成形式、発表、提出（中間提出含む）は、指導教員の指示を仰ぐ。

4. 実務経験のある教員による授業科目一覧

科目名に◆印のある科目は、「実務経験のある教員による授業科目」です。この科目は、必ずしも実務経験のある教員が直接の担当でなくても、たとえばオムニバス形式で多様な企業から講師を招いて指導を行う授業や、学外でのインターシップや実習、研修等を中心に位置づけている授業など、主として実践的教育から構成されている授業科目も含まれます（専門基礎演習、専門演習は除く）。講義内容を参考にして、実務経験の内容を把握しながら、履修者自身の履修計画に役立ててください。

科目名	担当者名	単位	記載頁
コミュニケーションA	槇平 龍宏	2	32
コミュニケーションB	新城 宏治	2	33
教養演習C 9	山口 隆太郎	2	41
特別日本語演習（留学生）	槇平 龍宏	1	42
キャリアデザイン論A	佐藤 茂幸	2	66
キャリアデザイン論B	佐藤 茂幸 / キャリアラボ	2	67
インターシップ実習A・B	キャリアラボ	各 1	68
キャリアデザイン演習	佐藤 茂幸	2	69
大月学入門	山口 隆太郎	2	70
地域実習（体験）	槇平 龍宏、佐藤 茂幸、佐藤 克春、山口 隆太郎、山岸 絵美理	各 1	71
地域実習（応用）	槇平 龍宏、佐藤 茂幸、山口 隆太郎	各 1	72
地域実習（提言）	槇平 龍宏、佐藤 茂幸、山岸 絵美理	各 2	73
地域データ分析論	佐藤 茂幸	2	74
地域文化遺産論	稲垣 自由	2	75
公共政策入門C 3	槇平 龍宏	2	81
経営学入門	佐藤 茂幸、上笹 恵、大橋 松貴	各 2	83
日本経済史A	福地 幸文	2	100
日本経済史B	福地 幸文	2	101
西洋経済史	福地 幸文	2	102
地域経済論	槇平 龍宏	2	112
農業経済学	槇平 龍宏	2	120
労働と法	中野 宏典	2	125
人的資源管理論	上笹 恵	2	128
経営戦略論	大橋 松貴	2	129
人間関係論	上笹 恵	2	130
消費者行動論	上笹 恵	2	131
マーケティング論	大橋 松貴	2	132
経営組織論	上笹 恵	2	133
経営イノベーション論	大橋 松貴	2	134
観光ビジネス論	安藤 勝洋	2	135
企業システム論	大橋 松貴	2	136
保険論	福地 幸文	2	148
中級商業簿記（前期）（後期）	齋藤 幹朗	各 4	141, 142
工業簿記（前期）（後期）	齋藤 幹朗	各 4	143, 144
		計 91	